

Digital Motion Picture Camera BURANO

取扱説明書

MPC-2610

ファームウェアバージョン 2.1



目次

1章 概要

システム構成例	3
各部の名称と働き	4
タッチパネルの使いかた	10

2章 準備

ハンドルとビューファインダーの取り付け	11
電源の準備	14
時計を合わせる	15
レンズの取り付けとフランジバックの調整	16
CFexpress Type Bメモリーカードの取り扱い	19
Utility SDカードの取り扱い	21

3章 カメラ操作

LCDモニター画面構成	22
撮影画面・再生画面	23
ホーム画面	26
ステータス画面	29
フルメニューの構成と階層	32
フルメニューの操作方法	34
Userメニュー	36
Edit Userメニュー	37
Shootingメニュー	38
Projectメニュー	44
Paint/Lookメニュー	51
TC/Mediaメニュー	54

Monitoringメニュー

自然な色合いに調節する

(ホワイトバランス)

手ブレ補正を使用する

収録する音声を設定する

便利な機能

プロキシ記録をする

Audioメニュー

103

Clip Operationsメニュー

104

Technicalメニュー

105

Networkメニュー

107

Maintenanceメニュー

107

撮影モードごとの画質に関する

設定状態の保存について

72

設定データの保存と読み込み

73

クリップ操作

75

再生

78

4章 ネットワーク

デバイスとLAN接続する

79

インターネットに接続する

82

ファイルを転送する

84

Creators' App for enterpriseを使用する

86

5章 撮影

本機の基本動作を設定する

87

基本操作手順

89

ポストプロダクションでルックを調節する前提で撮影する

91

好みのルックで撮影する

93

ズームを調節する

94

フォーカスを調節する

95

明るさを調節する

101

6章 外部機器の接続

リモートコントロールパネルを接続する

113

外部モニターや記録装置を接続する

114

外部同期

115

コンピューターでクリップ管理・編集する

117

7章 付録

使用上のご注意

118

出力のフォーマットと制限

120

クリップ記録・再生時間

124

トラブル時の対処

127

エラー／警告表示

129

ファイルに保存される項目

131

ロックダイヤグラム

139

Eマウントレンズのソフトウェアをアップデートする

143

ライセンスについて

144

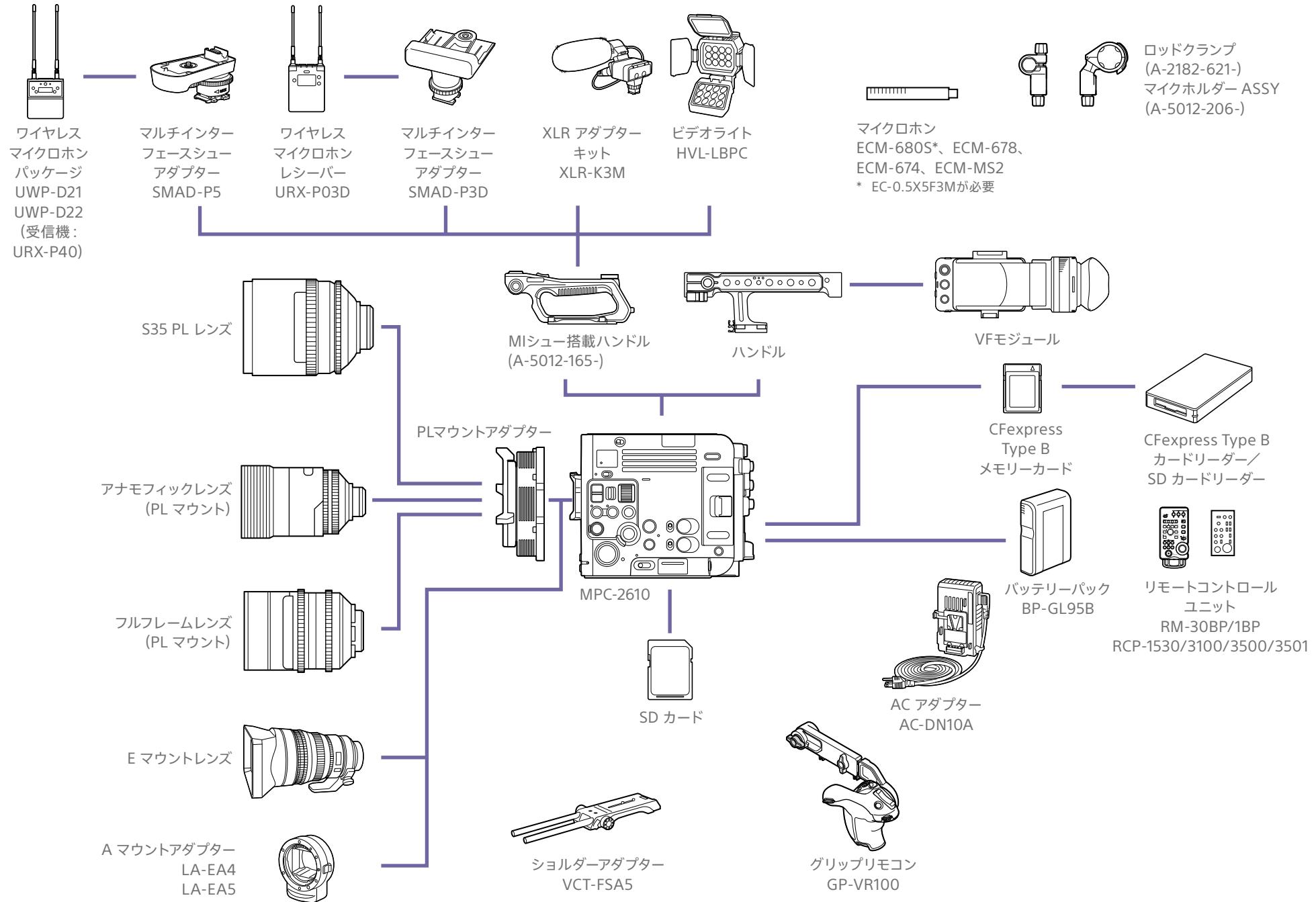
保証書とアフターサービス

145

仕様

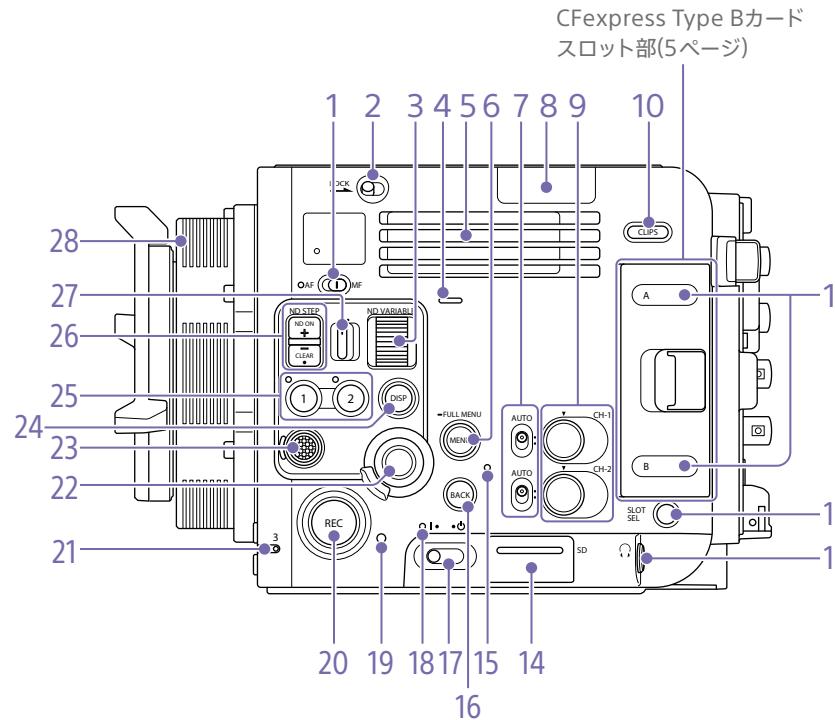
146

システム構成例



各部の名称と働き

操作スイッチ面



1. FOCUSスイッチ(95ページ)

2. LOCKスイッチ

ボタン操作をロックします。

ロックするとスイッチ背面のLEDがオレンジ色に点灯します。

3. ND VARIABLEダイヤル(102ページ)

4. 本体内蔵スピーカー (78ページ)

5. 吸気口

[ご注意]

吸気口をふさがないでください。

[ご注意]

この部分を手や金属などで覆うと、Wi-Fi通信が遮断されることがあります。

9. AUDIO LEVEL(CH1/CH2)ダイヤル(105ページ)

10. CLIPSボタン(75ページ)

押すと再生アクティブなメディアのクリップがクリップ一覧画面に表示され、再生操作を有効にします。クリップ一覧画面のときに押すと撮影画面に戻ります。

11. アクセスランプA/B(19ページ)

12. SLOT SELECT (CFexpress Type Bメモリーカード選択)ボタン(78ページ)

13. ヘッドホン端子(ステレオミニジャック)

音声モニター用のイヤホンを接続します。撮像、記録中は収録音を、再生中は再生音をモニターできます(78ページ)。

14. Utility SDカードスロット/アクセスランプ(21ページ)

15. 本体内蔵マイク(105ページ)

環境音収録用のナレーションマイクです。

16. BACKボタン

メニュー表示中は、メニューのキャンセルやメニュー階層を1つ上に戻します。実行中表示または実行指示待ち表示のときは、実行中または実行指示待ち表示中の処理をキャンセルします。

17. 電源スイッチ

電源を入れるときはI(ON)の位置にします。電源を切るときはU(Standby)の位置にします。

[ご注意]

- 本機は、電源を切った状態でも、わずかに待機電力を消費します。本機を長時間使用しないときは、バッテリーパックを取り外してください。

- バッテリーパックやDC IN電源は、電源スイッチをSTANDBYにして電源ランプが消えてから取り外してください。ONのまま取り外すと、本機やメモリーカードの故障の原因となることがあります。

18. 電源ランプ(89ページ)

19. REC ACTIVEランプ

RECボタンが有効な状態のときに緑色に点灯します。

20. REC(記録開始/記録停止)ボタン/ランプ

押すと記録が始まりRECランプが点灯します。もう一度押すと記録が停止し、RECランプが消灯します(89ページ)。

21. ASSIGN 3(アサインブル3)ランプ(107ページ)

割り当てられた機能がオン(有効)または起動している場合はオレンジ色に点灯し、オフ(無効)または停止している場合は消灯します。

22. マルチファンクションダイヤル(107ページ)

LCDモニターに映像が表示されているときに押すとダイレクトメニューが表示され、操作することができます。

また、LCDモニターに各種メニューが表示されているときに回すとカーソルが上下に移動して、メニュー項目や設定値を選択できます。押すと選択している項目を確定します。

メニュー表示していないときは、アサインブルダイヤルのように機能させることができます。

[メモ]

工場出荷時は、Eマウントレンズ装着時に回すと、Irisを調節できます。

23. マルチセレクター(8方向+決定)

オートフォーカスで被写体認識枠の選択やフォーカスエリアの移動に、ピント拡大で拡大位置の移動に使用します。LCDモニターが映像監視モード(22ページ)のときはメニュー操作に使用することもできます。

[メモ]

グリップリモコン(別売)やLANCリモコン(別売)のマルチセレクターはこのマルチセレクター相当の働きをします。

24. DISPLAY(画面表示)ボタン(23ページ)**25. ASSIGN 1/2(アサインブル1/2)ボタン/ランプ(107ページ)**

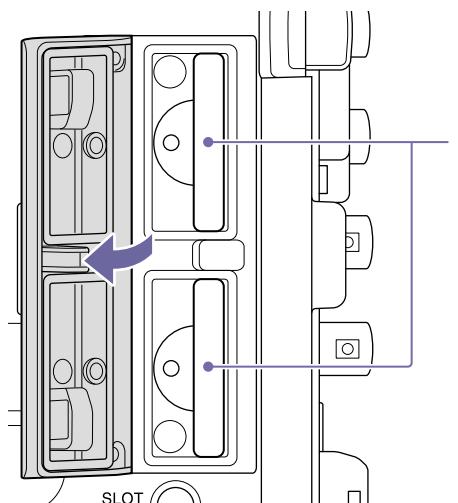
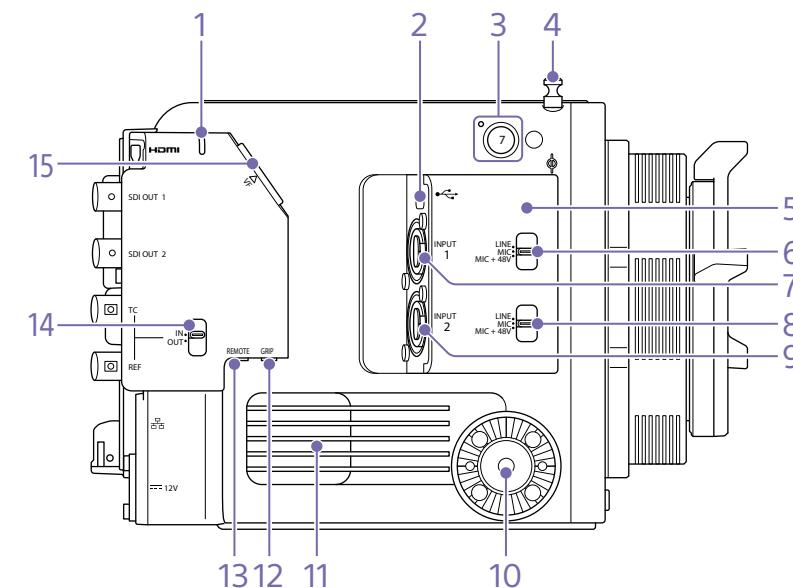
割り当てられた機能がオン(有効)または起動している場合はオレンジ色に点灯し、オフ(無効)または停止している場合は消灯します。

26. ND FILTER POSITION上下ボタン/ND CLEARランプ(102ページ)

NDフィルターをCLEARにすると、ND CLEARランプが点灯します。

27. ND STEP/VARIABLEスイッチ(102ページ)**28. PLマウントアダプター(16ページ)****CFexpress Type Bカードスロット部(19ページ)**

CFexpress Type Bカードスロットはカバー内にあります。

**1. CFexpress Type BスロットA/B****端子面****1. 記録/タリーランプ(89ページ)**

記録中は点灯し、記録メディアやバッテリー残量が少なくなると点滅します。

2. USB-C™端子(82ページ、86ページ、117ページ)**3. ASSIGN 7(アサインブル7)ボタン/ランプ(107ページ)**

割り当てられた機能がオン(有効)または起動している場合はオレンジ色に点灯し、オフ(無効)または停止している場合は消灯します。

4. メジャーフック

メジャーフックがイメージセンサー面の位置となります。本機から被写体までの距離を正確に測るには、メジャーフックの位置を参考にしてください。メジャーフックにメジャーの先端をかけて、被写体からの距離を実測できます。

5. Wi-Fiアンテナ**[ご注意]**

この部分を手や金属などで覆うと、Wi-Fi通信が遮断されることがあります。

6. INPUT 1スイッチ(LINE/MIC/MIC+48V)(105ページ)**7. INPUT 1(オーディオ入力1)端子(105ページ)**

**8. INPUT 2スイッチ(LINE/MIC/MIC+48V)
(105ページ)**

**9. INPUT 2(オーディオ入力2)端子
(105ページ)**

10. グリップリモコン取り付け部

グリップリモコン(別売)を取り付ける部位です。

11. 排気口

[ご注意]

排気口をふさがないでください。

12. グリップリモコン端子

グリップリモコン(別売)を接続する端子です。

13. REMOTE端子

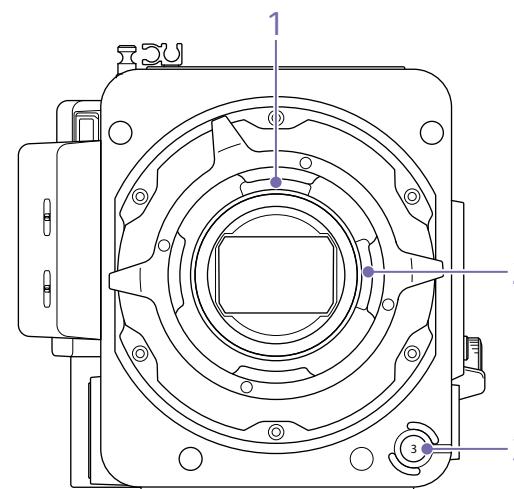
汎用のLANC端子アクセサリーを接続する端子です。

**14. TC/REF IN/OUT切り替えスイッチ(115
ページ)**

後面2端子の機能を、TC IN/REF INにするか、
TC OUT/REF OUTにするかを切り替えます。

15. ビューファインダー接続端子(11ページ)

フロント(前面)



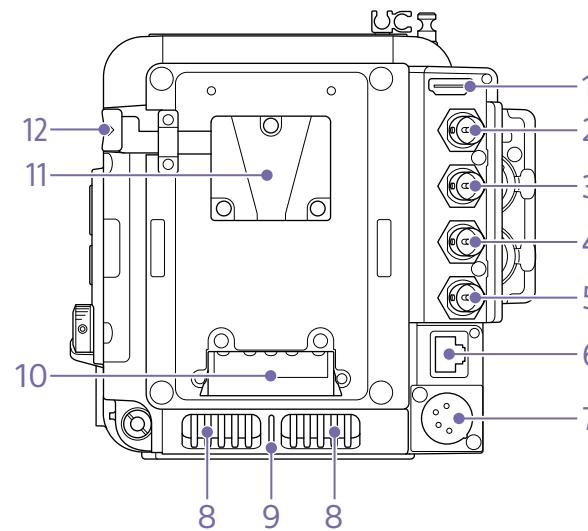
1. PLLレンズ通信用端子(トップ)

2. PLLレンズ通信用端子(サイド)

**3. ASSIGN 3(アサインブル3)ボタン(107
ページ)**

押すたびに、割り当てられた機能のオン(有効)
とオフ(無効)を切り換えたり、割り当てられた機
能を起動したりできます。

リア(後面)



1. HDMI OUT端子(114ページ)

OUT : 外部機器の同期用に同期信号を出力しま

す。REF OUT端子は常にHD sync信号を出
力します。

2. SDI OUT 1端子(114ページ)

12G-SDI出力に対応しています。

3. SDI OUT 2端子(114ページ)

3G-SDI出力に対応しています。

4. TC IN/TC OUT(タイムコード入力/出力)端子(115ページ)

5. REF IN/REF OUT(同期信号入力/出力)端子

TC/REF IN/OUT切り替えスイッチによって、以
下のいずれかの用途に使用します。

IN : 外部から本機にGenlockをかけるとき、また
は本機のタイムコードを外部ロックさせると
き、基準信号を入力します。

6. ネットワーク端子(RJ-45)

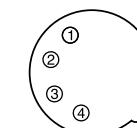
LANケーブル(別売)を接続することで、有線
LAN接続による安定したネットワーク機能を使用
できます(82ページ)。

[ご注意]

Wi-Fiと同時に使用できません。

7. DC-IN端子(XLR 4ピン) (14ページ)

本機に外部電源を供給するためのDC IN(DC電
源入力)端子(XLR4ピン、凸)です。入力電圧は
12V(11 ~ 17V)に対応しています。



No.	信号
1	GND
2	NC
3	NC
4	12V(11V ~ 17V)

8. 吸気口

[ご注意]

吸気口をふさがないでください。

9. 記録/タリーランプ

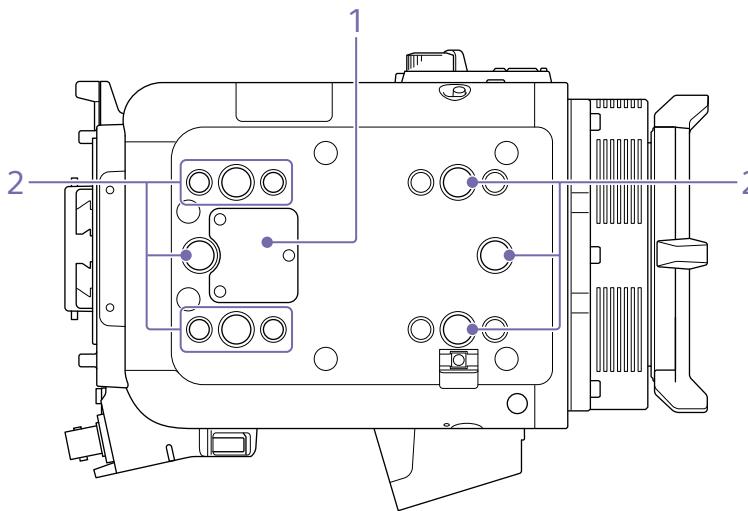
記録中は点灯し、記録メディアやバッテリー残量
が少なくなると点滅します。

10. バッテリー取り付け端子(14ページ)

11. バッテリーパック取り付け部(14ページ)

12. バッテリーリリースレバー (14ページ)

トップ(上面)

**1. ハンドル接続端子**

MIシュー搭載ハンドル(別売)を接続する端子です。

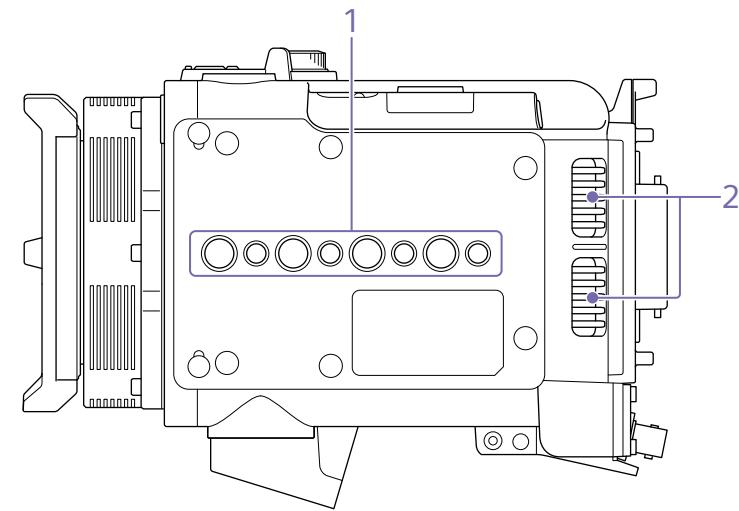
2. アクセサリー取り付けねじ穴

ネジ種 : 1/4-20UNC(×8)

ネジ種 : 3/8-16UNC(×6)

ネジ勘合長 : 10 mm 以下

ボトム(底面)

**1. 三脚プレート取り付け穴**

ネジ種 : 1/4-20UNC(×4)

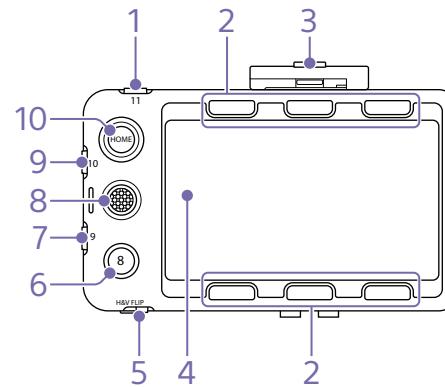
ネジ種 : 3/8-16UNC(×4)

ネジ勘合長 : 9 mm 以下

2. 吸気口**[ご注意]**

吸気口をふさがないでください。

LCDモニター部



1. ASSIGN 11(アサインブル11) ボタン(107ページ)

2. ITEMボタン 1 ~ 6(26ページ)
ホーム画面・再生操作画面の操作を行います。

3. ルーペロックつまみ(12ページ)

4. タッチパネル
アサインブルボタンまたはメニューでタッチ操作を無効にすることもできます(10ページ)。

5. H&V FLIPスイッチ(ON/OFF)

画面の表示を、反転なし(OFF) または上下左右反転(ON) に切り替えます。

6. ASSIGN 8(アサインブル8) ボタン(107ページ)

7. ASSIGN 9(アサインブル9) ボタン(107ページ)

8. マルチセレクター (8方向+決定)
LCDモニターに表示されている内容を操作するときには使用します。

9. ASSIGN 10(アサインブル10) ボタン(107ページ)

10. HOMEボタン(22ページ)
押すとホーム画面が表示されます。

[メモ]

撮影画面を基点として各種操作を行う映像監視モードと、ホーム画面による設定確認・変更に特化した情報表示モードを切り替えます。

タッチパネルの使いかた

タッチパネル利用上のご注意

本製品のLCDモニターはタッチパネルになっており、指で直接触れて操作を行えます。

- ・タッチパネルは指で軽く触れるように設計されています。指で強く押したり、先の尖ったもの(爪／ボールペン／ピンなど)を押し付けたりしないでください。
- ・次の場合はタッチパネルに触れても動作しないことがあります。また、誤動作の原因となりますのでご注意ください。
 - ・爪の先での操作
 - ・異物を操作面に乗せたまでの操作
 - ・保護シートやシールなどを貼っての操作
 - ・ディスプレイに水滴が付着または結露している状態での操作
 - ・濡れた指または汗で湿った指での操作

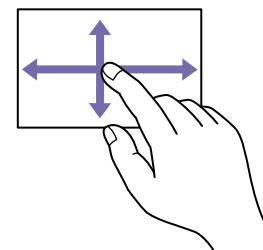
タッチパネル上の操作

タップ

アイコンやメニューなどの項目に指で軽く触れ、すぐに離します。

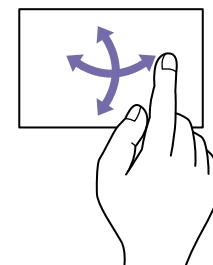
ドラッグ

画面に触れたまま目的の位置までなぞって指を離します。



フリック／スワイプ

画面に触れて上下または左右にはらうように操作します。



[メモ]

表示内容が画面の外へ続く場合は、表示内容をドラッグしたりフリックしたりしてスクロールさせることができます。

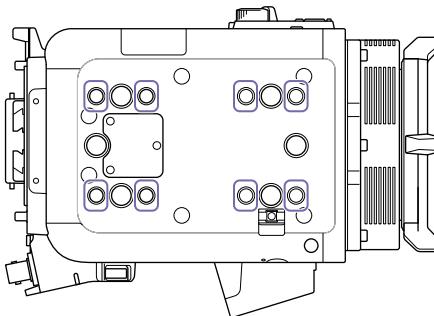
タッチパネルの設定

タッチパネルを利用するかどうかは、TechnicalメニューのTouch Operation(62ページ)で設定できます。

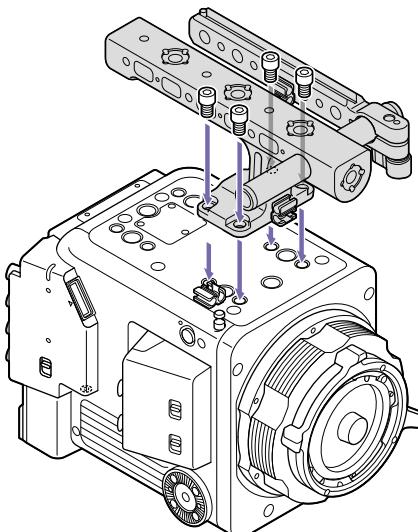
ハンドルとビューファインダーの取り付け

ハンドルを取り付ける

- 1 ハンドルを上面の前部または後部のネジ穴(4箇所)に合わせて配置する。



- 2 六角ネジ(4本)を取り付け、六角レンチ(3/16インチ)を使用して締め付けトルク1.4N・mで締め付ける。



ハンドルを取り外すには

- 六角レンチを使用して六角ネジ(4本)を取り外し、ハンドルを取り外します。

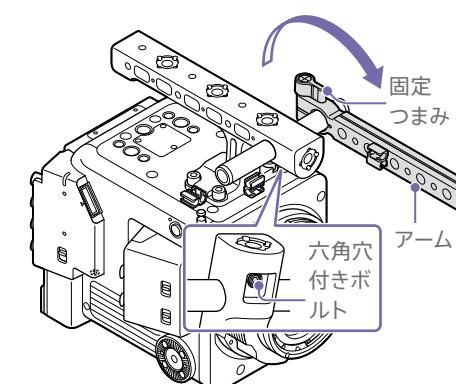
ビューファインダーを取り付ける

- 1 本機にハンドルを取り付け、ビューファインダーアームの固定つまみを反時計方向に回して緩め、アームを前方に180°回す。

[メモ]

固定つまみが回しにくい位置にある場合は、固定つまみを引き出してから操作しやすい位置まで回します。位置決めたら固定つまみを元の位置に戻します。

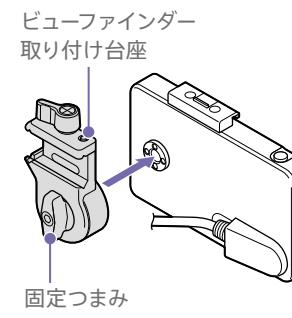
- 2 固定つまみを時計方向に回して締める。



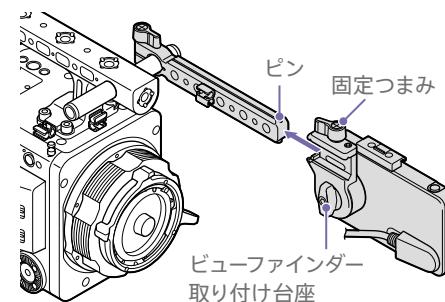
[ご注意]

アーム取り付けロッドがハンドルに対して回転してしまう場合は、ロッド基部裏側にある六角穴付きボルトを六角レンチ(3 mm)で締めてください(締め付けトルク: 1.6 N·m)。

- 3 ビューファインダー取り付け台座をLCDモニター後面に取り付け、固定つまみを時計方向に回して締める。

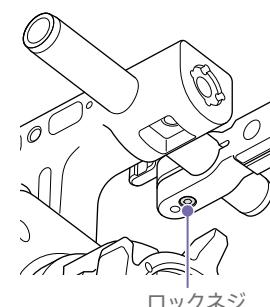


- 4 アームのピンを指先で押しながら、ビューファインダー取り付け台座をアームに取り付け、固定つまみを時計方向に回して締める。



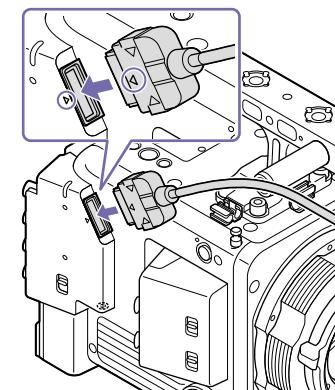
[ご注意]

アーム取り付け部の固定つまみを緩めたときにアームが極端に緩む場合は、六角レンチ(2.5 mm)でロックネジを調節してください。

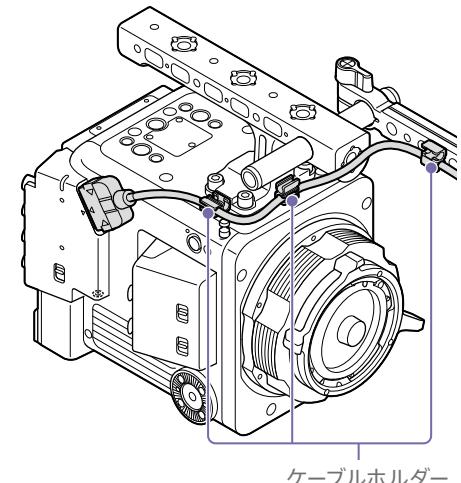


- 5 本体のビューファインダー接続端子の▲マークとLCDモニターに付いているケーブルのプラグの▼マークを合わせて、ケーブルを差し込む。

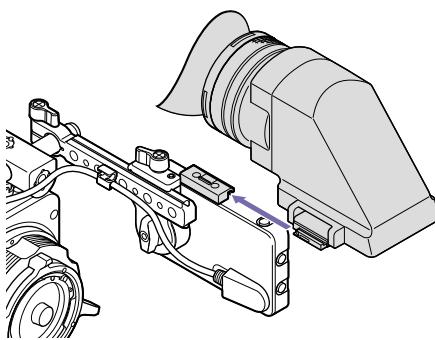
必ず▼マークが外側になるように、向きを確認してから差し込んでください。



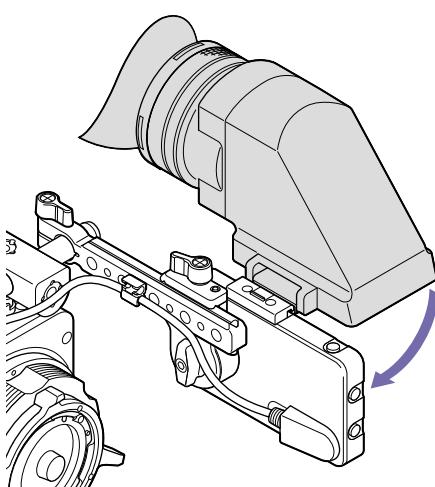
- 6 ケーブルを3箇所のうち任意のケーブルホルダーに取り付ける。



- 7 LCDモニター上部の溝に、ビューファインダールーペを取り付け部を図のようにスライドさせて取り付ける。



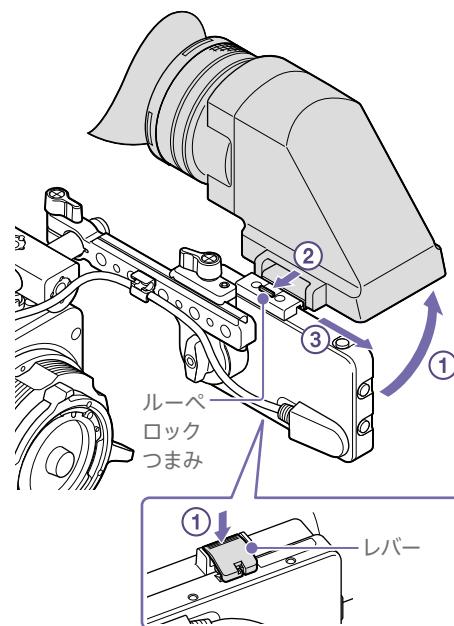
- 8 ビューファインダールーペを矢印の方向に押して閉める。



ビューファインダールーペを取り外す

ビューファインダールーペ下部のレバーを押して上へ開き(①)、ビューファインダールーペ取り付け部のルーペロックつまみを矢印の方向に押し

ながら(②)、ビューファインダールーペを取り付けたときと逆の方向に抜き取ります(③)。



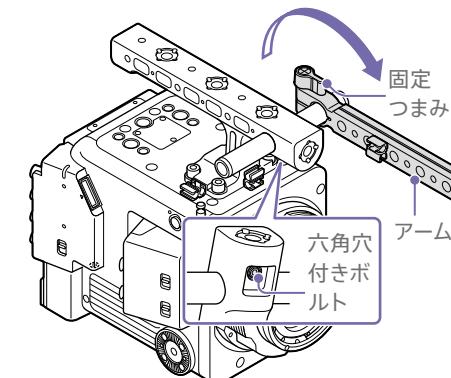
ビューファインダーを取り外す

- ケーブルホルダーからケーブルを外し、ビューファインダー接続プラグの両側面を押しながらケーブルを抜く。
- ビューファインダーの固定つまみを緩め、ビューファインダーを取り付けたときと逆の方向に抜き取る。

ビューファインダーを取り付ける(ビューファインダールーペを使用しない場合)

- 1 本機にハンドルを取り付け、アームの固定つまみを反時計方向に回して緩め、アームを前方に180°回す。

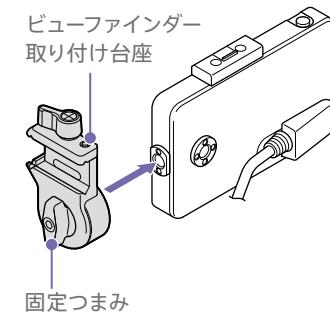
- 2 固定つまみを時計方向に回して締める。



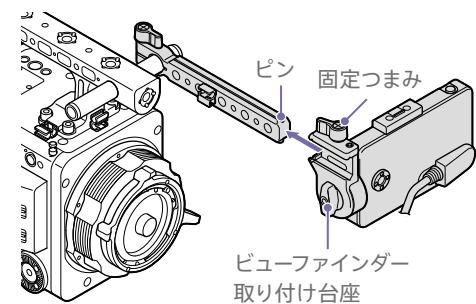
[ご注意]

アーム取り付けロッドがハンドルに対して回転してしまう場合は、ロッド基部裏側にある六角穴付きボルトを六角レンチ(3 mm)で締めてください(締め付けトルク: 1.6 N・m)。

- 3 ビューファインダー取り付け台座をLCDモニター側面に取り付け、固定つまみを時計方向に回して締める。

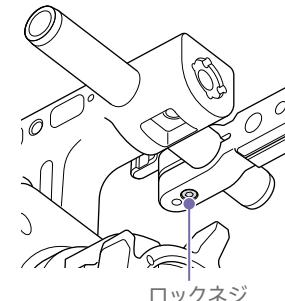


- 4 アームのピンを指先で押しながら、ビューファインダー取り付け台座をアームに取り付け、固定つまみを時計方向に回して締める。

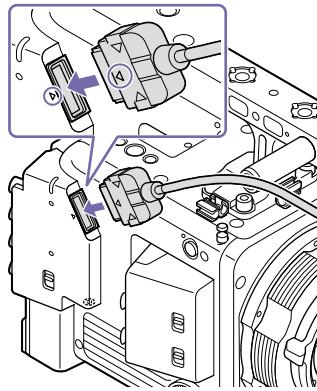


[ご注意]

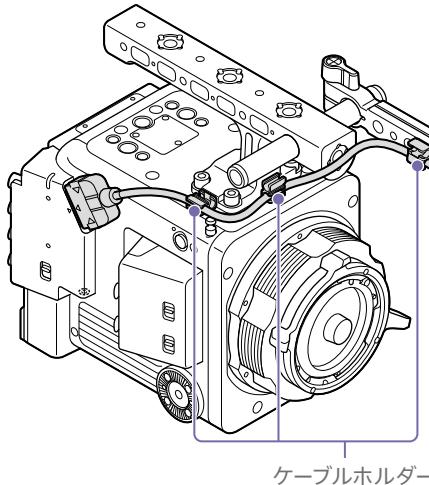
アーム取り付け部の固定つまみを緩めたときにアームが極端に緩む場合は、6角レンチ(2.5 mm)でロックネジを調節してください。



- 5 本体のビューファインダー接続端子の▲マークとLCDモニターに付いているケーブルのプラグの▼マークを合わせて、ケーブルを差し込む。
必ず▼マークが外側になるように、向きを確認してから差し込んでください。

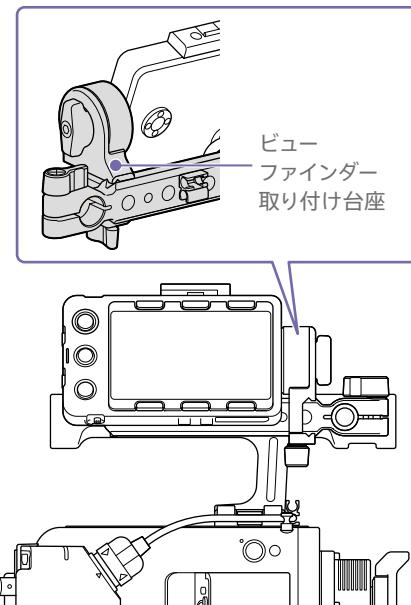


- 6 ケーブルを3箇所のうち任意のケーブルホルダーに取り付ける。



LCDモニターを操作パネルとして運用する場合の設置例

ビューファインダー取り付け台座の側面をアームに取り付けると、下図のようにLCDモニターを設置することができます。LCDモニターを操作パネルとして運用する場合に便利です。



電源の準備

バッテリーパック、またはACアダプターを介してAC電源を使用できます。

安全のため、下記ソニー純正以外のバッテリーを使用しないでください。

リチウムイオンバッテリーパック

BP-GL95B

ACアダプター

AC-DN10A

バッテリーパックを使用する

バッテリーパックをバッテリーパック取り付け部(7ページ)に差し込んで、下にスライドさせてロックします。

取り外すときは、バッテリーリリースレバー(7ページ)を押してロックを外しながらバッテリーパックを上にスライドさせて取り外します。

[ご注意]

- 装着する前に、バッテリーチャージャーを使用して充電してください。
- 使用直後でバッテリーパックの温度が上昇した状態で充電すると、完全に充電されないことがあります。
- バッテリーアダプターを取り外す際は、必ず手で支えながら外してください。

残量を確認する

バッテリーパックを使用して撮影・再生しているときは、LCDモニターにバッテリー残時間またはバッテリー電圧が表示されます。

残り時間は、現在の消費電流のペースで本機を継続使用した場合のバッテリーパックの使用可能時間を計算して分単位で表示されます。

バッテリーパックの容量が低下すると

使用中にバッテリーパックの容量が一定の値まで低下すると、バッテリー残量表示が点滅し、RECランプの点滅で警告します。

さらに容量が減り、動作が継続不可能な状態になると、バッテリーパックの残りがないことを知らせるメッセージが表示されます。

充電されたバッテリーパックに交換してください。

警告残量を変更する

フルメニューのTechnical > Camera Battery Alarm(64ページ)で変更します。

AC電源を使用する(DC IN電源)

本機は100WのACアダプターを使用することによって、AC電源に接続して動作させることができます。

入力電圧範囲は11V～17Vに対応しています。

入力電圧が低下した場合は警告を表示します。

フルメニューのTechnical > Camera DC IN Alarm(65ページ)で変更できます。

[ご注意]

バッテリー運用時にDC IN電源へ切り換える際には、12V～17Vの電圧の電源を使用することで、より安全に電源を切り換えることができます。

バッテリーパックとDC IN電源の併用について

バッテリーパックおよびDC IN電源がどちらも給電可能な電圧の場合は、DC IN電源側から優先的に給電状態となります。

[ご注意]

バッテリー運用時にDC IN電源からの給電状態に切り換えると、以下の要因等により本機の動作が停止する場合がありますのでご注意ください。

- DCコネクター挿抜時のコネクター部のチャタリング(コネクターこじり等)
- 電源供給元が切り換わったときの電圧降下(消費電力が大きいほど大きい)

時計を合わせる

本機を初めて使用するとき、電源を入れるとLCDモニターに初回設定画面が表示されます。この画面を使用して内蔵時計の日付／時刻を設定してください。

Time Zoneについて

UTC(協定世界時)からの時差を設定します。必要に応じて変更してください。

[ご注意]

Time Zoneを変更すると時差に合わせて時刻設定が変更されます。

日付／時刻を設定する

マルチファンクションダイヤル(4ページ)を回して項目や数値を選び、ダイヤルを押して決定します。最後にカーソルをSetに合わせてダイヤルを押すと、設定画面が消えて時計合わせが完了します。

初回設定画面が消えた後は、フルメニューの Maintenance > Clock Set(71ページ) を使用してTime Zoneおよび日時の設定を変更できます。

[ご注意]

- 動作電源が供給されていない(バッテリーパックもDC IN電源も接続されていない)状態でバックアップ電池が消耗するなどして現在日時の情報が失われた場合は、次に電源を入れると初回設定画面が表示されます。
- 初回設定画面が表示されている状態では、この画面での設定が完了するまで電源を切る以外の操作はできません。

[メモ]

マルチセレクターでも操作できます。

レンズの取り付けとフランジバックの調整

- ◆ 本機で使用できるレンズについて詳しくは、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

警告

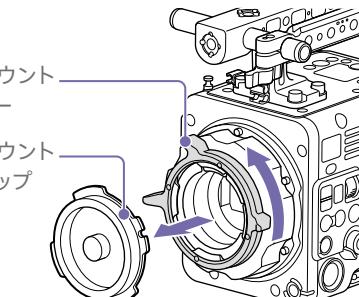
レンズを太陽に向けて放置しないでください。太陽光がレンズを通して機器内部に焦点を結び、火災の原因となることがあります。

[ご注意]

- レンズおよびアダプターの取り付け／取り外しは、本機の電源を切った状態で行ってください。
- レンズは精密部品です。レンズは、マウント部側を下にして直に置かないでください。必ず付属のキャップをかぶせてください。
- 本機のPLレンズインターフェースは、工場出荷時にCooke型コネクター付きレンズ用に合わせて設定されています。Cooke型コネクターを持たないレンズを使用する場合は、フルメニュー > Technical > Lens > PL-Mt Interface Position(63ページ) をOffに設定します。

PLマウントレンズを取り付ける

- 1 PLマウントレバーを反時計方向に回して、レンズマウントからPLマウントキャップを外す。

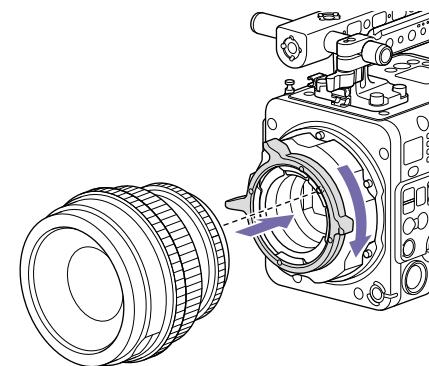


[ご注意]

PLマウントレバーを反時計回りにストッパーの位置まで回してください。

- 2 レンズマウント上面右の位置決めピンに、レンズの凹部を合わせ、レンズをマウントに差し込む。

- 3 レンズを支えながら、PLマウントレバーを時計方向に回して、レンズを固定する。



[ご注意]

PLレンズを装着の際は、レンズを回さないでください。レンズを回すと、PLレンズ用通信端子のピンが折れる原因となります。

Cooke /i レンズを取り付けるには

レンズ側のコンタクトと本機側のPLレンズ通信端子の位置を合わせてください。本機側の端子は2箇所ありますが、どちらも使用できます。フルメニュー > Technical > Lens > PL-Mt Interface Position(63ページ) を合わせた側に設定してください。

レンズを取り外すには

- 1 レンズを下から支えて、PLマウントレバーを反時計方向に回す。

- 2 レンズを前方に引き抜く。

[ご注意]

別のレンズをすぐに取り付けないときは、PLマウントキャップの凹部を確実に合わせて、PLマウントレバーを時計方向に回して固定してください。

フランジバックを調整する

本機はフランジバックを調整した状態で出荷しています。フランジバックの調整を行いたい場合は、PLマウントフランジを取り外し、シムを適切な厚みのものと交換してください。0.01 mm単位で±0.1 mmの調整ができます。

シムについて

本機には以下のシムが同梱されています

0.05 mm ×1(円弧型)

0.01 mm ×15(1/3円弧型)

1/3円弧型シムは3枚組でご使用ください。フランジバックを長く調整する場合は、シムを挿入してください。本機は出荷時に以下の3種類のシムによってフランジバックを調整した状態で出荷しています。

0.10 mm(円弧型)

0.05 mm(円弧型)

0.01 mm(1/3円弧型)

また、出荷時のシム厚みを示すシールが貼られています。

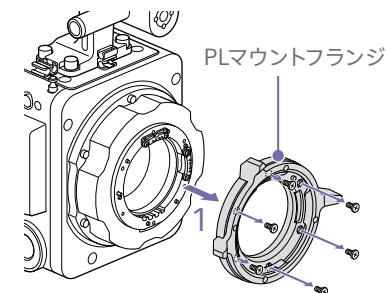
[ご注意]

フランジバックの確認を行う場合は、精度を高めるため電源を入れてから10分以上経過後に実施してください。

また、撮影状況に近い環境温度で確認すると運用時の誤差を最小限にすることができます。

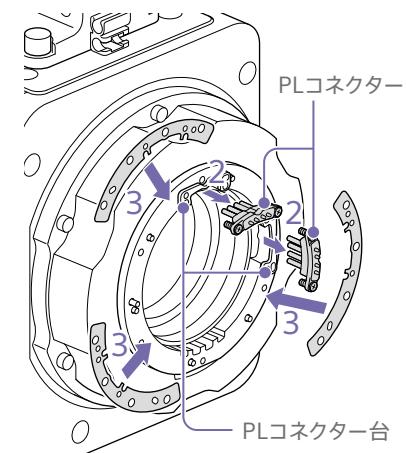
フランジバックの調整

- 1 トルクスネジ(6本)を外してPLマウントフランジを取り外す。



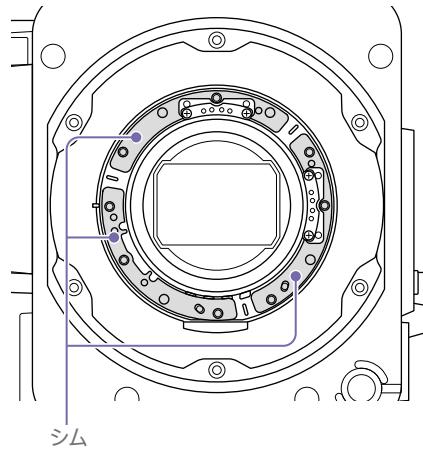
- 2 PLコネクター(2箇所)の両側の十字ネジ(4本)を緩めてPLコネクターとPLコネクター台を取り外す。

- 3 PLマウントアダプター(3箇所)にシムを取り付ける。



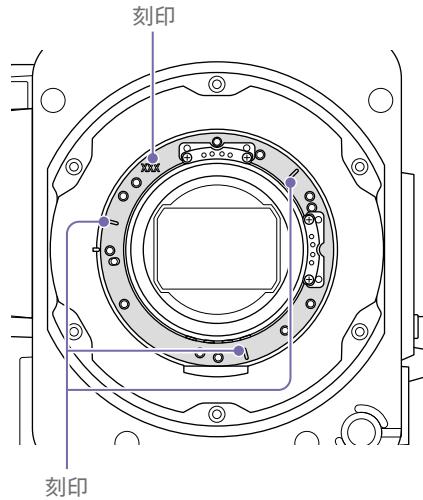
1/3円弧型のシムを使用する場合

3箇所とも同じ厚みになるようにシムを取り付けます。



円弧型のシムを使用する場合

刻印がある面を表にして取り付けます。

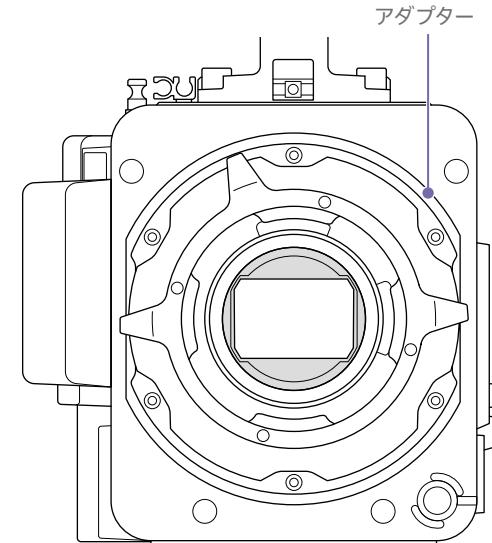


- PLコネクター(2箇所)を元の位置に戻し、締め付けトルク0.18 N・mで十字ネジ(4本)を締め付ける。

- PLマウントフランジを元の位置に戻し、トルクスレンチT8を使用して、締め付けトルク0.35 N・mでトルクスネジ(6本)を締め付ける。

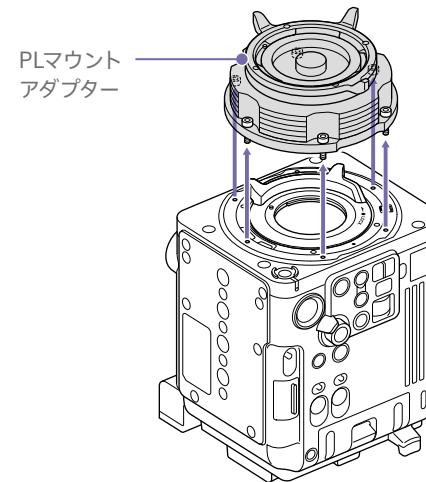
光学フィルターのお手入れについて

光学フィルターを掃除するときは、アダプターを外して拭いてください。アダプター中央部(網掛け部)をクロスなどで拭くと、繊維が付着する場合がありますので注意してください。繊維が付着した場合は、ソフトブラシで掃除してください。



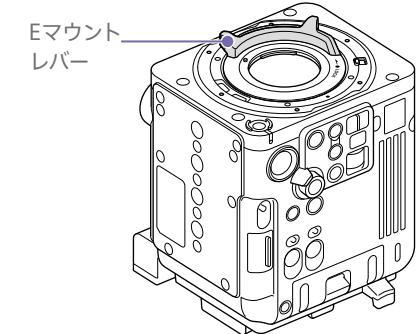
PLマウントアダプターを取り外す

本機にEマウントレンズを取り付ける場合、PLマウントアダプターを取り外します。取り付け／取り外しは、本機後面を下にした状態で行います。六角ネジ(2.5 mm、6本)を緩めて、PLマウントアダプターを取り外します。



PLマウントアダプターを取り付けるには

- Eマウントレバーがロック位置になっていることを確認する。



- PLマウントアダプターを元の位置に戻し、六角レンチ(2.5 mm)を使用して、締め付けトルク0.8±0.12N・mで六角ネジ(2.5 mm、6本)を締め付ける。

[ご注意]

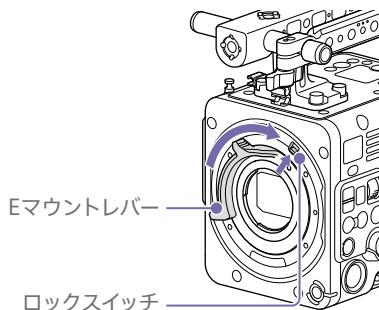
取り付け／取り外し作業時、本機とPLマウントアダプターの端子接点に触れないようにご注意ください。

[メモ]

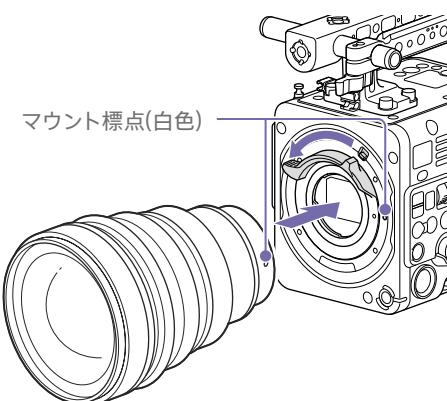
バッテリーを取り付けて本機後面を下にして置くと、安定した状態で作業できます。

Eマウントレンズを取り付ける

- 1 PLマウントアダプターを取り外す(17ページ)。
- 2 ロックスイッチを上方向に押してから、Eマウントレバーを時計方向に回してロックを解除する。



- 3 本体とレンズのマウント標点(白色)を合わせ、レンズをマウントに差し込む。
- 4 レンズを支えながら、Eマウントレバーを反時計方向に回して、レンズを固定する。



[ご注意]

一部のEマウントレンズでは制御できない場合があります。
推奨レンズをご使用ください。

◆ 本機で使用できるレンズについて詳しくは、ソニーの
サービス窓口にご相談ください。

レンズを取り外すには

- 1 ロックスイッチを上方向に押してから、Eマウントレバーを時計方向に回してロックを解除する。
- 2 レンズを前方に引き抜く。

[ご注意]

別のレンズをすぐに取り付けないときは、Eマウントキャップの凹部を確実に合わせて、Eマウントレバーを反時計方向に回して固定してください。

CFexpress Type Bメモリーカードの取り扱い

本機では、「推奨記録メディアについて」に記載のソニー製CFexpress Type Bメモリーカード*をご使用ください。

他社製メディアの動作については、各社メディアの取扱説明書やメーカー情報をご確認ください。

* 本書ではCFexpressカードと表現しています。

[ご注意]

- 2TB以上のサイズのCFexpress Type Bメモリーカードは使用できません。
- XQDメモリーカードは使用できません。

推奨記録メディアについて

動作保証条件はRec FormatやRecording設定によって異なります。

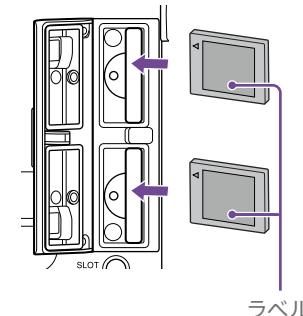
Yes : 動作を保証

No : 保証しない

		CFexpress Type B (exFAT)		
		非VPG	VPG200	VPG400
XAVC H Intra HQ	8192x4320	No	No	Yes
	7680x4320	No	No	Yes
XAVC H Intra SQ	8192x4320	No	No	Yes
	7680x4320	No	No	Yes
XAVC H Long	7680x4320	No	Yes	Yes
XAVC Intra	4096x2160	No	No	Yes
	3840x2160	No	No	Yes
	1920x1080	No	No	Yes
XAVC Long	3840x2160	No	No	Yes
	1920x1080	No	No	Yes
X-OCN (LT)	8.6K 17:9	No	No	Yes
	8.6K 16:9	No	No	Yes
	6K 17:9	No	No	Yes
	6K 16:9	No	No	Yes
	5.8K 17:9	No	No	Yes
	5.8K 16:9	No	No	Yes
4.3K 4:3	No	No	Yes	
4K 17:9	No	No	Yes	
3.8K 16:9	No	No	Yes	

メモリーカードを入れる

- 1 カードスロット部のメディア蓋を開ける。
- 2 CFexpressカードをラベルを左にして差し込む。



アクセスランプ(4ページ)が赤く点灯し、
使用可能な状態になると緑で点灯します。

[ご注意]

アクセスランプの赤い点滅が長く続き緑点灯にならない場合は、一度電源を切りメモリーカードを抜き差しすることで、緑点灯になる可能性があります。

- 3 メディア蓋を閉める。

[ご注意]

- 誤った向きで無理に入れると、メモリーカードやメモリーカードスロット、画像データが破損することがあります。
- CFexpress Type BカードスロットA/B両方にメディアを挿入して記録を行う際には、どちらのスロットにも、記録するフォーマットに対して動作が推奨されているメディアを挿入してください。

メモリーカードを取り出す

カードスロット部のメディア蓋を開け、メモリーカードを軽く1回押して取り出します。

[ご注意]

- メモリーカードにアクセス中に本機の電源を切ったりメモリーカードを抜いた場合はデータは保証されません。カードに記録されたすべてのデータが壊れる可能性があります。また、本機の動作に影響が出る場合があります。電源を切ったり、カードを抜くときは、必ず使用するメモリーカードのアクセスランプが緑で点灯または消灯していることを確認してから操作してください。
- 記録終了後にメモリーカードを取り出した際、メモリーカードが熱くなっている場合がありますが故障ではありません。

メモリーカードをフォーマット(初期化)する

フォーマットされていないメモリーカード、または別の仕様でフォーマットされたメモリーカードを装着すると、メッセージ「フォーマットが必要なメディアです」がLCDモニターに表示されます。下記の手順に従ってフォーマットしてください。

- 1 フルメニューのTC/MediaメニューのFormat Media(55ページ)を選択する。
- 2 Media(A) (スロットA) またはMedia(B) (スロットB) を選択して、Full Formatを選択する。
確認メッセージが表示されます。
- 3 Executeを選択する。
実行中はメッセージが表示され、アクセスランプが赤く点灯します。

フォーマットが終了すると、完了メッセージが表示されますので、マルチファンクションダイヤルを押して消します。

[ご注意]

- 記録メディアの性能を最大限発揮するために、必ず本機でフルフォーマットしてください。
- メモリーカードをフォーマットすると、記録された映像データ、セットアップファイルなどを含む、すべてのデータが消去されます。
- フォーマットの処理時間によっては、実行中のメッセージが表示されない場合があります。

フォーマットできなかったときは

本機で使用できないメモリーカードはフォーマットできません。

警告メッセージが表示されますので、メッセージに従って、使用できるメモリーカードに交換してください。

本機でフォーマットしたメディアを他の機器で使用するには

あらかじめバックアップを取り、お使いになる機器でフォーマットし直して使用してください。

残りの記録可能時間を確認する

撮影中(記録中／記録待機中)は、撮影画面またはホーム画面(23ページ)のA/Bスロットメディア残量表示部で、各スロットに装着したメモリーカードの残量を確認することができます。

現在設定されている記録フォーマットで撮影した場合に記録可能な時間を、それぞれのスロット内のメディアの残量から計算して分単位で表示します。

メモリーカードの交換時期

- 記録中に2枚のメモリーカードの残記録可能時間の合計が5分を切ると、警告メッセージ「メディア残量がわずかです」(Media Near Full)が表示され、記録／ターランプの点滅とブザー音(ヘッドホン出力)で警告します。
- 空きのあるメディアに交換してください。
- 記録を継続して、残記録可能時間の合計が0になると、メッセージが「メディア残量がありません」(Media Full)に変わり記録が停止します。

[ご注意]

1枚のメモリーカードに約600個までのクリップを記録できます。

メモリーカードを修復する

何らかの原因でメモリーカード内のデータに異常が発生した場合は、メモリーカードの修復が必要になります。

修復が必要なメモリーカードを挿入したときは、修復を実行するかどうかを確認するメッセージがLCDモニターに表示されます。

修復を実行する

マルチファンクションダイヤル(4ページ)でExecuteを選択し、マルチファンクションダイヤルを押します。

実行中メッセージと進捗状況(%)が表示され、アクセスランプが赤く点灯します。

修復が終了すると、完了メッセージが表示されます。

修復できなかったときは

- エラーが発生したメモリーカードは修復できません。警告メッセージが表示されますので、メッセージに従って別のメモリーカードに交換してください。
- エラーが発生したメモリーカードは、フォーマットをし直すと再利用できる場合があります。
- 一部のクリップのみが修復できない場合もあります。修復できたクリップは再生可能になります。

[ご注意]

- 本機で記録されたメディアは、本機で修復してください。
- 本機以外で記録されたメディアや、本機と同一機種であってもバージョンが異なる機器で記録されたメディアは、本機では修復できない場合があります。
- 2秒以下のクリップは修復できません。
- 修復を実施したメディアは性能を発揮できない可能性があります。必要なクリップをバックアップしたあと、フルフォーマットをしてからお使いください。

Utility SDカードの取り扱い

UTILITY SDカードは、プロキシ記録、設定内容の保存・読み出しと、将来のバージョンアップ(ソフトウェアアップデート)時に使用します。

本機で使用可能なSDカード

SDXCメモリーカード*

SDHCメモリーカード*

SDメモリーカード*

* 本書ではSDカードと表現しています。

[ご注意]

プロキシ記録使用時は、Speed Class10を推奨します。

SDカードを入れる

Utility SDカードスロット(4ページ)にSDカードを差し込みます。

アクセスランプ(4ページ)が赤く点灯し、準備が整うと消灯します。

アクセスランプによる状態表示

ランプ	スロットの状態
赤で点灯	装着されているSDカードにアクセス中(データの書き込み/読み出し中)

SDカードを取り出す

SDカードを軽く1回押して取り出します。

[ご注意]

- メモリーカードにアクセス中に本機の電源を切ったりメモリーカードを抜いた場合はデータは保証されません。カードに記録されたすべてのデータが壊れる可能性があります。電源を切ったり、カードを抜くときは、必ず使用するメモリーカードのアクセスランプが消灯していることを確認してから操作してください。
- 出し入れ時にはメモリーカードの飛び出しにご注意ください。

SDカードをフォーマット(初期化)する

本機で初めてSDカードを使用するときは、フォーマットが必要です。

本機で使用するSDカードは、本機のフォーマット機能を使用してフォーマットしてください。SDカードを装着したときに注意メッセージが表示された場合も、フォーマットして使用してください。本機が対応していないフォーマットで初期化されたSDカードを装着すると、ファイルシステムが異なることを知らせるメッセージが表示されます。

1 フルメニューのTC/MediaメニューのFormat Media(55ページ)を選択する。

2 Utility SDを選択して、フォーマット種別(Full FormatまたはQuick Format)を選択する。確認メッセージが表示されます。

- Full Format : メディアのデータ管理情報だけでなくデータ領域を含む全体を初期化します。

- Quick Format : メディアのデータ管理情報を初期化します。

3 Executeを選択する。

実行中はメッセージが表示され、アクセスランプが赤く点灯します。フォーマットが終了すると、完了メッセージが表示されますので、マルチファンクションダイヤルを押して消します。

[ご注意]

SDカードをフォーマットすると、すべてのデータが消去され、復元できません。

クイックフォーマットとフルフォーマットの違い

フルフォーマットは、カードへの記録／読み出し速度が遅くなった感じるときや、データを完全に消去するときなどに実行してください。フルフォーマットは、メモリーカードの全領域を初期化するため、クイックフォーマットより時間がかかります。

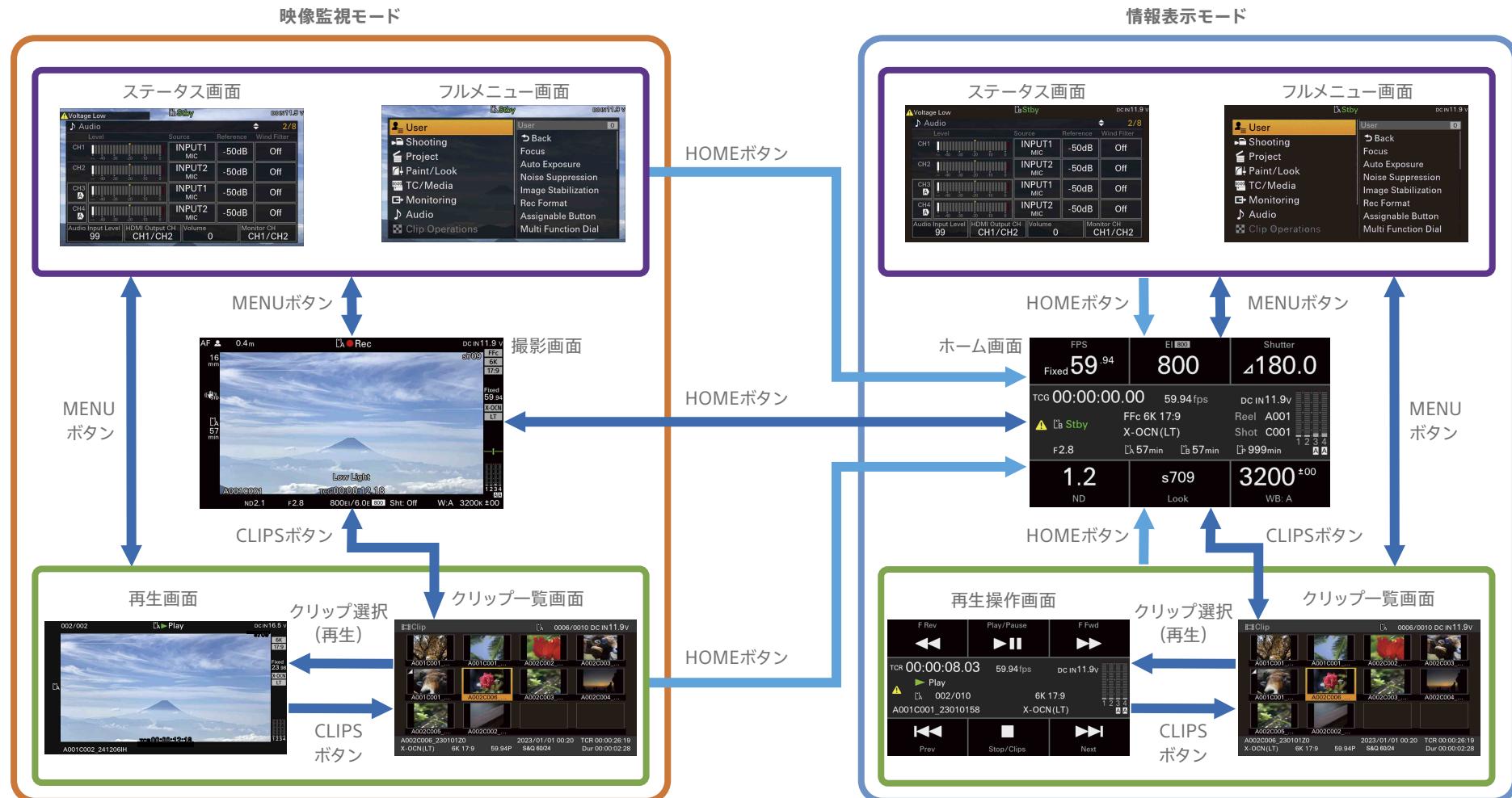
本機でフォーマットしたメディアを他の機器のスロットで使用するには

あらかじめバックアップを取り、お使いになる機器でフォーマットし直して使用してください。

LCDモニター画面構成

LCDモニターには、ホーム画面を中心に映像を確認しながら設定などを確認する映像監視モードと、各種情報や設定値等を確認・変更する情報表示モードの2つがあり、HOMEボタンによって切り替えることができます。また、それぞれのモードの中でステータス画面、フルメニュー画面、再生画面、クリップ一覧画面が表示されます。

HOMEボタン、MENUボタン、CLIPSボタンを操作してLCDモニターに表示される画面が下図のように遷移します。



[メモ]

- 映像監視モードでは、外部モニターにLCDモニターと同じ画面表示を出力させることができます。
- 情報表示モードは、HDMI出力に外部モニターを接続してLCDモニターと併用するよう設計されています。外部モニターは映像の監視用に操作スイッチ面に配置し、LCDモニターは設定操作用として、撮影チーム体制に応じて操作スイッチ面または端子面に配置してください。映像出力フォーマットがMonitor FHDの場合を除き、SDI出力に画面表示を重ねることはできません。
 - LCDモニターに表示された機能の操作は、LCDモニターのマルチセレクター、または操作スイッチ面のマルチファンクションダイヤルで行います。
 - 外部モニターに表示された機能の操作は、操作スイッチ面のマルチセレクターで行います。被写体認識枠の選択やフォーカスエリア、ピント拡大位置の移動ができます。
- X-OCNの場合、クリップ一覧画面に代表画像は表示されません。

撮影画面・再生画面

映像監視モードのとき、撮影中(記録中／記録待機中) および再生中は、LCDモニターおよび外部モニターの映像の周囲に本機の状態や設定が表示されます。

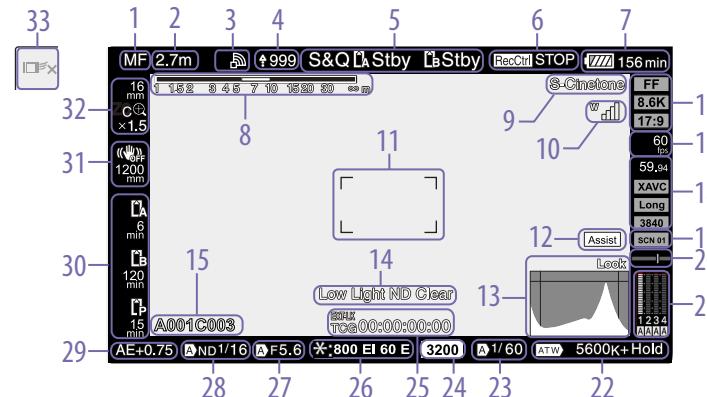
情報表示モードのときは外部モニターの映像に対して、撮影中および再生中に本機の状態や設定の一部を重ねて表示できます。あらかじめMonitoringステータス(29ページ) のInfo DispをOnに設定してください。

表示／非表示の切り替えは、DISPLAYボタンで行います。映像監視モードでは、非表示にした場合も、ダイレクトメニュー(107ページ) の操作中は重ねて表示されます。

また、項目ごとに表示／非表示を選択することもできます(56ページ)。

*印が付いている項目は、情報表示モードのとき外部モニターに表示できない項目です。

撮影中の画面に表示される情報



1. フォーカスマード表示(99ページ)

意味	表示
Focus Holdモード	Focus Hold
MFモード	MF
AFモード	AF
リアルタイムトラッキング	■
AFモード	■
被写体認識AF(AF/○/Only/□)	□
人物検出アイコン	○
人物限定AFアイコン	Only

意味	表示
AF一時停止アイコン ¹⁾	□

- 1) AF動作中にAF動作が継続できず、一時的にAF動作が停止したときに表示されます。AF動作を停止する原因が解消しAF動作が再開すると、非表示になります。

2. フォーカスピジョン表示

フォーカスの位置が表示されます(フォーカス設定表示対応レンズ装着時のみ)。

3. ネットワーク状態表示(25ページ)

ネットワーク接続の状態がアイコンで表示されます。

4. アップロード中表示／転送ファイル残数表示(84ページ)

5. 記録モード／スロットA/B/動作状態表示、インターバルレック記録間隔時間表示(109ページ)

表示	意味
●Rec	記録中
Stby	記録待機中

6. SDI出力／HDMI出力のRec Control状態表示(114ページ)

RECコントロール信号の出力状態を表示します。

7. バッテリー残量／DC IN電圧表示(14ページ)

8. 被写界深度表示

9. ルック名表示(93ページ)、High Key/Low Key表示(111ページ)

選択したルックを表示します。

High Key(高輝度の白飛び確認画面) または Low Key(低輝度の暗部の確認画面) が有効の場合は、「High Key」または「Low Key」を表示します。

10. UWP-Dシリーズの状態表示(25ページ)

UWP-DシリーズをMIシュー搭載ハンドル(別売) のMIシューにデジタルオーディオ伝送の設定で接続したとき、電波強度を示すRFレベルなどがアイコンで表示されます。

11. フォーカスエリア表示(96ページ)

オートフォーカスでフォーカスを合わせる領域が表示されます。

12. ガンマ表示アシスト表示*

Customモード(87ページ) のとき、ガンマ表示アシストの状態を表示します。ガンマ表示アシストの表示／非表示は、Gamma Display Assistが割り当てられたアサインブルボタン(107ページ) で切り替えることができます。

13. 映像信号モニター(110ページ)

ウェーブフォーム、ベクトルスコープ、ヒストグラムを表示します。

オレンジの線はゼブラレベルの設定値を表します。Cine EIモード(87ページ) のときは、表示の上にモニター対象としているSDI系統の色域などを表示します。

- LUT On時は、適用されているLUTの種類に関わらず、一律「Look」を表示します。
- High KeyまたはLow Keyが有効の場合は、「High Key」または「Low Key」を表示します。
- LUT Off時は、Color Gamutの設定値を表示します。

14. 映像レベル注意表示*

15. クリップ名表示(55ページ)

記録中または次に記録するクリップの名前が表示されます。

以下の場合は、クリップ名が点滅します。

- 新しい記録メディアが挿入された場合
- 記録メディアの最終クリップと、フルメニューのTC/Media > Clip Name Format(55ページ) のCamera IDやReel Numberの設定値が一致していない場合

16. イメージースキャンモード表示(87ページ)

17. スロー&クイックモーション撮像フレームレート表示(108ページ)

18. 記録フォーマット(フレームレート) / 記録フォーマット(コーデック) 表示(44ページ)

メモリーカードに記録されるフォーマット名称を表示します。

19. 記録ルック表示(93ページ)

20. 水準器表示

本機の水平方向の傾きが±1°刻みで±15°まで表示されます。

21. オーディオレベルメーター

CH1～CH4のオーディオレベルを表示します。

22. ホワイトバランスモード表示(103ページ)

表示	意味
[ATW]	自動モード
[ATW] Hold	自動モード一時停止
W:A	メモリー Aモード
W:B	メモリー Bモード
W:C	メモリー Cモード
W:D	メモリー Dモード
W:E	メモリー Eモード
W:F	メモリー Fモード
W:G	メモリー Gモード
W:H	メモリー Hモード

23. シャッター表示(102ページ)

表示	意味
[A]	自動モード

24. Base ISO / Base Sensitivity表示(101ページ)

Cine EIモード(87ページ) のときは、MainステータスのBase ISO/Sensitivity、またはフル

メニューのShootingメニューのISO/Gain/EIのBase ISOで設定されているBase ISO感度が表示されます。

Customモード(87ページ) のときは、MainステータスのBase ISO/Sensitivity、またはフルメニューのShootingメニューのISO/Gain/EIのBase Sensitivityで設定されている基準感度が表示されます。

25. タイムコード外部ロック表示 / タイムデータ表示(89ページ)

他機のタイムコードにロックさせると「EXT-LK」と表示されます。

26. Exposure Index表示(101ページ)

Customモード(87ページ) のときは、ISO感度またはゲインを表示します。

表示	意味
[A]	自動モード
※	一時調節モード
[B]	ボケ調節モード(110ページ)

27. アイリス表示

アイリス値(T値またはF値) を表示します。(アイリス設定表示対応レンズ装着時のみ)

表示	意味
[A]	自動モード

[ご注意]

T値が取得できない場合など、T値ではなくF値が表示される場合があります。

28. NDフィルター表示(102ページ)

NDフィルターの濃度が表示されます。

表示	意味
[A]	自動モード
[B]	ボケ調節モード(110ページ)

29. AEモード / AEレベル表示(51ページ)

30. メディア状態表示

表示	意味
[A]	マウント処理中 / マウント状態 (メディアA)
[B]	マウント処理中 / マウント状態 (メディアB)
[P]	プロキシ記録が有効でマウント処理中 / マウント状態 (Proxyメディア(SDカード))
[P] (点滅)	プロキシ記録が有効で準備が整っていない状態(メディア未挿入など)
[P] Stop (点滅)	プロキシ記録が停止している

メモリーカードがプロテクトされている場合は、マークが表示されます。

31. 手ブレ補正モード / 手ブレ補正焦点距離表示(104ページ)

表示	意味	PLマウントアダプター
[HPL High]	手ブレ補正ON(High)	装着
[HPL Low]	手ブレ補正ON(Low)	
[HPL Off]	手ブレ補正OFF	
[A STB]	手ブレ補正ON(Active)	非装着時
[S STB]	手ブレ補正ON(Standard)	
[Off]	手ブレ補正OFF	

フルメニューのShootingメニュー > Image StabilizationのStabilization Adjustment(43ページ) がManualのとき、手ブレ補正モードアイコンの下に、手ブレ補正焦点距離を表示します。

32. ズームポジション表示(94ページ)

ズームの焦点距離を表示します。(ズーム設定表示対応レンズ装着時のみ)
バー表示または数値表示に変えることもできます(64ページ)。

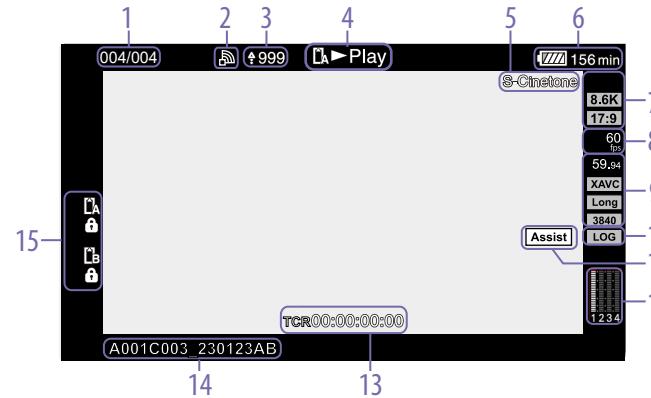
数値表示は広角端が0で望遠端が99です。
全画素超解像ズームを有効にすると、以下の表示が追加されます。

表示	意味
[Z]	全画素超解像ズーム機能が有効
倍率数値	全画素超解像ズーム中

33. リアルタイムトラッキングAF終了ボタン(100ページ)

再生中の画面に表示される情報

再生画像には、次のような情報が重ねて表示されます。



1. クリップ番号／クリップ総数
2. ネットワーク状態表示
3. アップロード中表示／転送ファイル残数表示
4. 再生動作状態表示
5. ルック名表示
6. バッテリー残量／DC IN電圧表示
7. X-OCN画像サイズ表示
X-OCN再生クリップの記録解像度とアスペクト比を表示します。
8. スロー＆クイックモーション撮像フレームレート表示
9. 再生フォーマット
再生クリップのフレームレートとコーデックを表示します。XAVCの場合は、加えて画像サイズを表示します。

アイコン表示について

ネットワーク接続のアイコン表示

ネットワークモード	接続状態	アイコン
アクセスポイントモード	アクセスポイントとして動作中	AP
	アクセスポイント動作エラー	AR
ステーションモード	Wi-Fi接続中 電波強度によりアイコンが変化(4段階)	Wi-Fi接続中 電波強度によりアイコンが変化(4段階)
	Wi-Fi接続断(準備中含む)	Wi-Fi接続断(準備中含む)
	Wi-Fi接続エラー	Wi-Fi接続エラー
USBテザリング	USBテザリング接続中	USBテザリング接続中
	USBテザリング切断	USBテザリング切断
	USBテザリングエラー	USBテザリングエラー
有線LAN	有線LAN接続中	有線LAN接続中
	有線LAN切断	有線LAN切断
	有線LANエラー	有線LANエラー

UWP-Dシリーズのアイコン表示

送信機の状態	受信状態	アイコン
電源OFF	未受信	W ----
通常送信状態	受信中	W █ ~ W █ (受信レベルを4段階で表示)
ミュート状態	受信中(ミュート中)	W M █
バッテリー残量警告状態	受信中	W █ (アイコン点滅)
ミュート、かつバッテリー残量警告状態	受信中	W M █ (アイコン点滅)

ホーム画面

HOMEボタンを押すとホーム画面が表示されます。ホーム画面では本機の状態の確認や基本的な項目の設定ができます。



[ご注意]

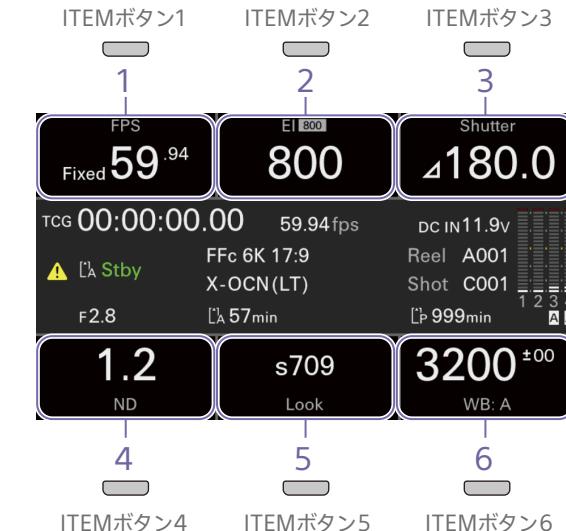
- ホーム画面では、各機能のオート／マニュアルの切り替えはできません。ダイレクトメニュー（107ページ）またはフルメニューのShootingメニューで設定してください。
- 情報表示モードのとき、ダイレクトメニュー（107ページ）は使用できません。HOMEボタンで撮影画面へ切り替えてから操作してください。

[メモ]

LCDモニターのアサインブルボタン（107ページ）に以下を割り当てると、LCDモニター部の操作だけでホーム画面に表示される項目の設定ができます。

- MENU
- IRIS(Eマウントレンズを使用する場合)

項目名／設定値／機能表示部



[ご注意]

1～6に表示される各項目はITEMボタン1～6にそれぞれ対応しています。ITEMボタンを押すと、対応する項目の操作ができます。

1. FPS

撮像フレームレートの表示／設定

2. Exposure Index/Base ISO

Exposure IndexおよびBase ISOの表示／設定

[メモ]

Customモードの場合はISO/Base Sensitivity、またはGain/Base Sensitivityの表示／設定となります。

3. Shutter

電子シャッターの表示／設定

4. ND Filter

NDフィルターの表示／設定

[ご注意]

VARIABLEモードの場合はNDフィルターをホーム画面で設定できません。操作スイッチ面にあるNDフィルター用のボタン・ダイヤルで設定してください。

5. Look

ルックの表示／設定

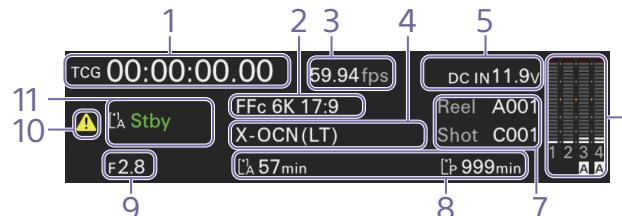
[メモ]

CustomモードのときはSceneファイルの表示／設定となります。

6. WB(White Balance)

ホワイトバランスの表示／設定

ステータス表示部



1. タイムデータ表示

フルメニューのTC/Mediaメニュー > TC Display の設定に従って、デュレーション、ユーザービットまたはタイムコードが表示されます(54ページ)。

タイムデータに現在表示しているデータの種類は、次のように表示されます。

TCG : 記録タイムコード

EXT-LK併記 : 外部ロック中

UBG : 記録ユーザービット

TCR : 再生タイムコード

UBR : 再生ユーザービット

Clk : クロック

Dur : デュレーション

2. イメージャースキャンモード表示

Projectステータス > Imager Scanの設定値が表示されます。

3. フレームレート表示

Projectステータス > Frequencyの設定値が表示されます。

4. 記録フォーマット(コーデック) / 画像解像度表示

CFexpressカードに記録されるフォーマット名称および画像解像度が表示されます。

11. 記録動作状態表示

本機の記録動作状態が次のように表示されます。

表示	説明
Stby	記録待機中
●Rec	記録中
●Cache	ピクチャーキャッシュレック記録待機中

ホーム画面の基本操作

1 HOMEボタンを押す。

ホーム画面が表示されます。



3 △ボタン(ITEMボタン1)、▽ボタン(ITEMボタン4)で、選択項目または設定値にカーソルを合わせる。

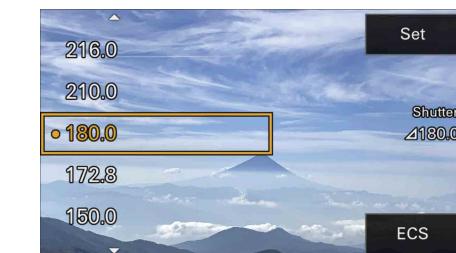
4 Setボタン(ITEMボタン3)を押して決定する。

[メモ]

LCDモニター部のマルチセレクター、または操作スイッチ面のマルチファンクションダイヤルでも操作できます。最初に押し込んでカーソルを表示させてから操作してください。また、タッチ操作も可能です。

2 ITEMボタン1～6で設定したい項目を選ぶ。

下図はITEMボタン3を押した場合の表示例です。



ホーム画面設定項目一覧

各項目で設定できる内容は次のとおりです。フルメニューに同じ設定がある項目については、フルメニューをあわせて参照してください(32ページ)。

項目	内容
FPS	<p>撮像フレームレートをシステム周波数に固定するか、システム周波数と異なる値にするかを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Fixed 設定画面で「Fixed」を選択すると、撮像フレームレートをシステム周波数に合わせて「Fixed」とシステム周波数を表示します。 • Variable 設定画面で「Variable」を選択すると、撮像フレームレートをシステム周波数と異なる値に設定できます。 1 ~ 60 / 66 / 72 / 75 / 88 / 90 / 96 / 100 / 110 / 120 / 150 / 180 / 200 / 240 fps <p>[ご注意] 設定値の範囲は、選択されているシステム周波数やコーデック、ビデオフォーマットによって異なります。</p> <p>[メモ] この設定は、Projectステータス > Rec FunctionのS&Q Motionと、フルメニューのShootingメニュー > S&Q Motionに相当します。</p>
Exposure Index/Base ISO (Cine EIモード時)	<p>Exposure Index(38ページ)を設定する。 Base ISOを押すとBase ISO(38ページ)を設定できます。</p> <p>[メモ] Exposure IndexはフルメニューのShootingメニュー > ISO/Gain/EIのExposure Index、Base ISOはフルメニューのShootingメニュー > ISO/Gain/EIのBase ISOに相当します。</p>
ISO/Gain / Base Sensitivity (Customモード時)	<p>ゲイン(38ページ)を設定する。 Base Sensitivityを押すと基準感度(38ページ)を設定できます。</p> <p>[メモ] ISO/GainはフルメニューのShootingメニュー > ISO/Gain/EIのISOまたはGain、Base SensitivityはフルメニューのShootingメニュー > ISO/Gain/EIのBase Sensitivityに相当します。</p>

項目	内容
Shutter	<p>電子シャッター(39ページ)を設定する。 AngleまたはECSを押すと、それぞれ開角度または周波数による設定に切り替わります。</p> <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> • AngleはフルメニューのShootingメニュー > ShutterのShutter Angle、ECSはフルメニューのShootingメニュー > ShutterのECS On/Off、ECS Frequencyに相当します。 • フルメニューのShootingメニュー > ShutterのModeをSpeedに設定すると、開角度の代わりに時間で設定できます。
ND Filter	NDフィルターのポジションを設定する。ND STEP/VARIABLEスイッチがSTEPのときのみ有効です。
Look (Cine EIモード時)	ルック(51ページ)を設定する。Edit Lookボタン(ITEMボタン4)を押してルックを選択します。ITEMボタン1、5、6で各出力系統にルックを適用するかどうかを設定します。状態により、設定不可または設定が連動となる組み合わせがあります。
Scene File (Customモード時)	<p>あらかじめ用意された画質設定を切り替える。 プリインストールされた画質設定のほか、好みの画質設定を保存(51ページ)して切り替えることができます。</p> <p>[メモ] この設定は、Monitoringステータスの一部、およびフルメニューのPaint/Lookメニュー > Base LookのSelectと、フルメニューのShootingメニュー > LUT On/Off以下の各項目に相当します。</p>
WB(White Balance)	<p>ホワイトバランスを設定する(41ページ)。 A/B/C/D/E/F/G/H、8つのホワイトメモリーポジションが用意されています。 それぞれ次の方法で値を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 色温度・Tint値をそれぞれ設定 • オートホワイトバランスで自動設定 • 特定のプリセット値を選択 <p>[メモ] この設定は、フルメニューのShootingメニュー > White以下の各項目に相当します。</p>

ステータス画面

ステータス画面では、本機の設定や状態を確認することができます。また、*印が付いている項目については設定を変更できます。

ステータス画面はタッチ操作に対応しています。

ステータス画面を表示させるには

- MENU(メニュー) ボタンを押す

[メモ]

TechnicalメニューのMenu Page On/Off(63ページ)で、各ステータス画面の表示／非表示を切り替えることができます。

ステータス画面を切り替えるには

- マルチファンクションダイヤルを回す
- マルチセレクターを上下に操作する
- ステータス画面を上下にスクロールする

[ご注意]

LCDモニターが情報表示モードのときは、操作スイッチ面やリモコンのマルチセレクターでは操作できません。

ステータス画面を消すには

- MENU(メニュー) ボタンを押す

設定を変更するには

ステータス画面の表示中にマルチファンクションダイヤルやマルチセレクターを押すと、ページ内の設定項目を選べるようになります。ページ番号を選んで押すと、ページ切り替えに戻ります。

なお、タッチ操作で直接選ぶこともできます。

[ご注意]

フルメニューのTechnicalメニュー > Menu Settings の User Menu Only(63ページ) をOnにすると、ステータス画面で設定変更できなくなります。

プロジェクトステータス画面

撮影プロジェクトに関する基本的な設定を表示します。

表示項目	説明
Frequency/ Scan*	システム周波数と走査方式の設定
Codec*	記録するコーデックの設定
Rec Function*	特殊な記録機能のOn/Offと主な設定
Simul Rec*	2スロット同時記録機能のOn/Off状態と設定
Reel*	クリップ名のCamera IDとReel Numberの設定値
Imager Scan*	イメージセンサーの読み出しモード
Video Format*	メモリーカードに記録する画サイズ
Picture Cache Rec*	ピクチャーキャッシュ機能のOn/Offとキャッシュサイズの設定
Shot*	クリップ名のCamera Positionの設定値と、次または現在記録中のShot Numberの値
Shooting Mode*	撮影モードの設定
Proxy Rec*	プロキシ記録のOn/Offの設定
Genlock	ゲンロックの状態

オーディオステータス画面

各チャンネルの入力設定、オーディオレベルメーターと音声モニターの設定を表示します。

表示項目	説明
CH1 Level Control	自動調節のOn/Off状態
Level Meter	オーディオレベルメーター
Source*	入力ソース
Reference*	入力リファレンスレベル
Wind Filter*	マイクの風音低減フィルターの設定
CH2 Level Control	自動調節のOn/Off状態
Level Meter	オーディオレベルメーター
Source*	入力ソース
Reference*	入力リファレンスレベル
Wind Filter*	マイクの風音低減フィルターの設定
CH3 Level Control*	自動調節のOn/Off状態
Level Meter*	オーディオレベルメーター
Source*	入力ソース
Reference*	入力リファレンスレベル
Wind Filter*	マイクの風音低減フィルターの設定
CH4 Level Control*	自動調節のOn/Off状態
Level Meter*	オーディオレベルメーター
Source*	入力ソース
Reference*	入力リファレンスレベル
Wind Filter*	マイクの風音低減フィルターの設定

表示項目 説明

Audio Input Level*	音声入力レベル(マスターボリューム)の設定
HDMI Output CH*	HDMIに出力される音声チャンネルの設定
Volume*	ヘッドホン/内蔵スピーカーの音量の設定
Monitor CH*	モニターするチャンネルの設定

モニタリングステータス画面

SDI、HDMI出力の設定を表示します。

表示項目	説明
SDI1 Signal*	出力画サイズ
Info.	画面表示出力On/Off
Disp.*	
Gamut/ Gamma*	モニター LUTの適用状態／色域の設定値
SDI2 Signal*	出力画サイズ
Info.	画面表示出力On/Off
Disp.*	
Gamut/ Gamma*	モニター LUTの適用状態／色域の設定値
HDMI Signal*	出力画サイズ
Info.	画面表示出力On/Off
Disp.*	
Gamut/ Gamma*	モニター LUTの適用状態／色域の設定値
LCD/ Stream Gamma*	モニター LUTの適用状態／色域の設定値
Base Look/LUT*	Base Look/LUTの設定
Gamma Display Assist*	Gamma Display AssistのOn/Off状態

[メモ]

Customモードのとき、Gamut/Gammaの代わりにColor Gamutを表示します。

アサインブルボンステータス画面

各アサインブルボタンに割り当てた機能を表示します。

表示項目	説明
1	ASSIGN 1ボタンに割り当てられている機能
2	ASSIGN 2ボタンに割り当てられている機能
3	ASSIGN 3ボタンに割り当てられている機能
4	ASSIGN 4ボタンに割り当てられている機能
5	ASSIGN 5ボタンに割り当てられている機能
6	ASSIGN 6ボタンに割り当てられている機能
7	ASSIGN 7ボタンに割り当てられている機能
8	ASSIGN 8ボタンに割り当てられている機能
9	ASSIGN 9ボタンに割り当てられている機能
10	ASSIGN 10ボタンに割り当てられている機能
11	ASSIGN 11ボタンに割り当てられている機能
Focus Hold Button	レンズのFocus Holdボタンに割り当てられている機能
Multi Function Dial	マルチファンクションダイヤルに割り当てられている機能
Grip Dial	グリップアサインブルダイヤル ¹⁾ に割り当てられている機能

1) グリップリモコンは別売です。

インフォメーション画面

イメージセンサー温度と電源の情報を表示します。

表示項目	説明
Detected Battery	バッテリーの種類
Battery Voltage / Charge Count	バッテリー電圧(V) / 充電を行った回数
Power Source / Supplied Voltage	電源供給源/供給電源電圧
Video Light Battery Remaining	ビデオライトバッテリー残量表示
Imager Temperature	イメージセンサー温度(°C)
Battery Remaining / Capacity	残容量(%) / 残容量(Ah)
Battery Manufacture Date	バッテリーの製造年月日

メディアステータス画面

記録メディアの残量および残記録可能時間を表示します。

表示項目	説明
メディアAのメディア情報	スロットAにメディアが挿入されているとき、メディアアイコンを表示する
メディアAの残量メーター	スロットAに挿入されている記録メディアの残容量を、残比率で表したバーで表示する
メディアAの残時間	現在と同じ状態でスロットAに挿入されている記録メディアに記録したときの予測残時間を分単位で表示する

表示項目	説明
Format Media(A)*	フォーマット種別(Full Format)を選択して、メディアAを初期化する
メディアBのメディア情報	スロットBにメディアが挿入されているとき、メディアアイコンを表示する
メディアBの残量メーター	スロットBに挿入されている記録メディアの残容量を、残比率で表したバーで表示する
メディアBの残時間	現在と同じ状態でスロットBに挿入されている記録メディアに記録したときの予測残時間を分単位で表示する
Format Media(B)*	フォーマット種別(Full Format)を選択して、メディアBを初期化する
Utility SDカードのメディア情報	Utility SDカードスロットにメディアが挿入されているとき、メディアアイコンを表示する
Utility SDカードのプロテクト情報	Utility SDカードスロットに挿入されている記録メディアがプロテクトされているとき、Protectアイコンを表示する
Utility SDカードの残量メーター	Utility SDカードスロットに挿入されている記録メディアの残容量を、残比率で表したバーで表示する
Utility SDカードの残容量	Utility SDカードスロットに挿入されている記録メディアにプロキシ記録したときの予測残時間を分単位で表示。または残容量を単位GBで表示する
Format Utility SD*	フォーマット種別(Full FormatまたはQuick Format)を選択して、SDカードを初期化する

ネットワークステータス画面

ネットワーク接続の接続状態を表示します。

表示項目	説明
Wireless LAN	ワイヤレスネットワークの設定、接続状態
Wired LAN	有線LANネットワークの設定、接続状態
USB Tethering	USBテザリングによるネットワークの設定、接続状態

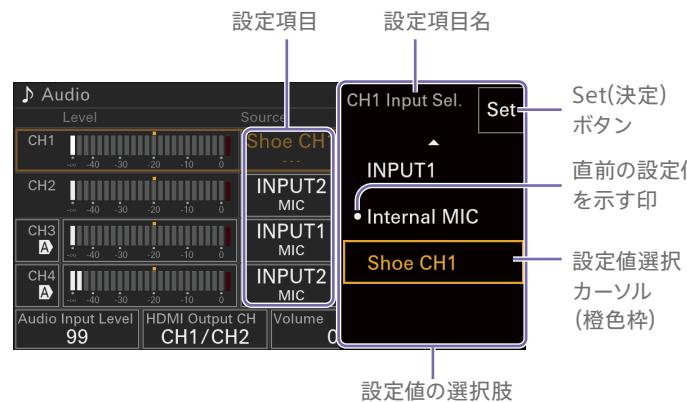
ファイル転送ステータス画面

ファイル転送の情報を表示します。

表示項目	説明
Auto Upload	オリジナルクリップの自動転送のOn/Off状態
Auto Upload (Proxy)	プロキシクリップの自動転送のOn/Off状態
Total Transfer Progress	総ジョブの転送進捗状況
Default Upload Server	クリップ自動転送の転送先サーバー名
Job Status (Remain / Total)	総ジョブ数と残りのジョブ数
Current File Transfer Progress	転送中ファイルの転送進捗状況
Current Transferring File Name	転送中のファイル名
Server Address	ファイル転送先サーバーのアドレス
Destination Directory	ファイル転送先サーバーの転送先ディレクトリー

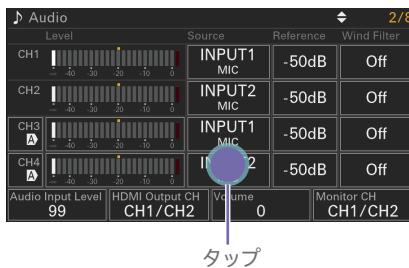
タッチ操作対応設定画面の使いかた

画面構成



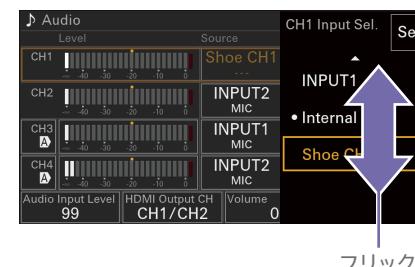
操作方法

1 設定項目をタップする。



設定値の選択肢が表示されます。

2 設定値をドラッグまたはフリックして選択する。



3 Setボタンまたは設定値選択カーソルをタップする。

設定値を確定し元の画面に戻ります。

[メモ]

- BACKボタンを押すと直前の設定値に戻ります。
- マルチファンクションダイヤルやマルチセレクターでも操作できます。
- タッチ操作を無効にすることもできます(62ページ)。

フルメニューの構成と階層

MENUボタンを長押しすると、撮影や再生に必要な各種設定を行うフルメニューがLCDモニターに表示されます。下記のメニューから選択して設定します。

メニュー構成

Userメニュー

任意の設定を集めたメニュー

Edit User Menuから編集できます。

Edit Userメニュー

Userメニューの編集に関する設定

Shootingメニュー

撮影に関する設定

Projectメニュー

プロジェクトの基本的な設定

Paint/Lookメニュー

画質に関する設定

TC/Mediaメニュー

タイムコードと記録メディアに関する設定

Monitoringメニュー

ビデオ出力やビューファインダー出力に関する設定

Audioメニュー

音声に関する設定

Clip Operationsメニュー

クリップ操作に関する設定

Technicalメニュー

技術的な内容の設定

Networkメニュー

ネットワークに関する設定

Maintenanceメニュー

時計や言語設定などの機器設定

フルメニューの階層

User (工場出荷時の設定)	Focus
	Auto Exposure
	Noise Suppression
	Image Stabilization
	Rec Format
	Assignable Button
	Multi Function Dial
	All File
	User File
	Base Look
	Clip Name Format
	Format Media
	De-Squeeze
	Marker
	LCD Monitor Setting
	Peaking
	Zebra
	Menu Settings
	Lens
	APR
Edit User Menu	Add Item
	Customize Reset

Shooting	ISO/Gain/EI	TC/Media	Timecode
	ND Filter	TC Display	
	Shutter	Users Bit	
	Iris	HDMI TC Out	
	Auto Exposure	Clip Name Format	
	White	Update Media	
	White Setting	Format Media	
	Focus	Monitoring	Output Format
	S&Q Motion		De-Squeeze
	LUT On/Off		Output Display
	Noise Suppression		Display On/Off
	Flicker Reduce		Marker
	Image Stabilization		LCD Monitor Setting
Project	Base Setting		Gamma Display Assist
	Rec Format		Peaking
	Cine EI Setting		Zebra
	Simul Rec		Focus Magnifier
	Proxy Rec	Audio	Audio Input
	Interval Rec		Audio Output
	Picture Cache Rec	Clip Operations	Display Clip Properties
	SDI/HDMI Rec Control		Set Clip Flag
	Assignable Button		Lock/Unlock Clip
	Assignable Dial		Transfer Clip
	Multi Function Dial		Transfer Clip (Proxy)
	User File		Filter Clips
	All File		Customize View
Paint/Look	Scene File		
	Base Look		
	Reset Paint Settings		
	Black		
	Knee		
	Detail		
	Matrix		
	Multi Matrix		

Technical	Color Bars ND Dial Rec/Tally LOCK Switch Settings Touch Operation Rec Review Zoom Handle Zoom Menu Settings Menu Page On/Off RCP Fan Control Lens Video Light Set APR Camera Battery Alarm Camera DC IN Alarm
Network	Network Setup Wireless LAN AP Mode Settings ST Mode Settings Wired LAN USB Tethering File Transfer Network Reset
Maintenance	Language Clock Set All Reset Hours Meter Version

フルメニューの操作方法

MENUボタンを長押しすると、詳細な設定を行うフルメニューがLCDモニターに表示されます(映像監視モードのときは外部HDMIモニターに表示させることもできます)。

メニュー操作部

MENUボタン(4ページ)

長押しするとフルメニューを表示します。フルメニューの表示中に押すと非表示にします。

マルチセレクター(8方向+決定)(5ページ)

8方向ボタンを押すと、カーソルが上下左右に移動して、メニュー項目や設定値を選択できます。

マルチセレクターの決定ボタンを押すと、選択している項目を決定します。

マルチファンクションダイヤル(4ページ)

マルチファンクションダイヤルを回すとカーソルが上下に移動して、メニュー項目や設定値を選択できます。

マルチファンクションダイヤルを押すと、選択している項目を決定します。

BACKボタン(4ページ)

1つ前の階層に戻ります。確定前の変更はキャンセルされます。

【ご注意】

- ピント拡大(95ページ)になっていると、フルメニューは操作できません。
- メニューを表示させたときの状態によって選択できない項目があります。
- LCDモニターが情報表示モードのときは、操作スイッチ面やリモコンのマルチセレクターでは操作できません。

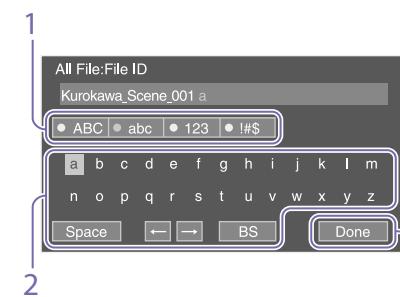
メニューを設定する

8方向ボタンを押すか、またはマルチファンクションダイヤルを回して設定したい項目にカーソルを合わせ、決定ボタンまたはマルチファンクションダイヤルを押して決定します。

- 選択項目が表示される選択肢エリアは最大8行表示です。選択肢が一度に表示できない場合は、カーソルを上下に移動すると表示がスクロールします。
- 選択肢の範囲が大きい項目の場合(例: -99 ~ +99)は、選択肢エリアは表示されません。文字がハイライト表示になり設定変更が可能な状態であることを示します。
- 実行項目でExecuteを選択した場合は、対応する機能が実行されます。
- 実行前に確認が必要な項目を選択すると、一旦メニューが消え、確認メッセージが表示されます。メッセージに従って、実行するかキャンセルするかを選択してください。

文字列を入力する

ファイル名など、文字列を設定する項目を選択した場合は、文字列の入力画面が表示されます。



- 8方向ボタンを押すか、またはマルチファンクションダイヤルを回して入力したい文字タイプを選択し、決定する。

ABC : 英大文字

abc : 英小文字

123 : 数字

!#\$: 特殊文字

- 選んだ文字タイプから文字を選択し、決定する。

カーソルが次の欄に移動します。

Space : カーソルの位置にスペースを入力します。

←→ : カーソル位置を移動します。

BS : カーソルの左の文字を削除します。

- 入力が終わったら、Doneを選択し、決定する。

文字列を確定して、入力画面が消えます。

メニューのロックと解除

フルメニューの表示をロックして、Userメニューだけを表示させることができます。

ホーム画面およびステータス画面では設定変更できなくなります。

メニューをロックする

- マルチファンクションダイヤルを押しながらMENUボタンを長押しする。

- TechnicalメニューのMenu SettingsのUser Menu with Lockを選択する。

【ご注意】

MENUボタンのみを長押しして通常のフルメニューを表示した場合、TechnicalメニューのMenu SettingsにはUser Menu Onlyが表示されますが、マルチファンクションダイヤルを押しながらMENUボタンを長押しすると、User Menu with Lockが表示されます。

- Onを選択して決定ボタンまたはマルチファンクションダイヤルを押す。

LCDモニターの表示が、暗証番号入力画面に切り替わります。

- 任意の番号を入力する。
0000 ~ 9999の4桁の数値が入力できます。初期値は0000となっています。

数値を入力し、決定ボタンまたはマルチファンクションダイヤルを押すと、カーソルが次の桁に移動します。

すべての桁を入力したら、カーソルがSETに移動します。

- 5** 決定ボタンまたはマルチファンクションダイヤルを押す。
入力が確定します。
設定が完了したメッセージが表示され、Userメニュー表示に切り替わります。

メニューのロックを解除する

- 1** マルチファンクションダイヤルを押しながらMENUボタンを長押しする。
- 2** UserメニューのMenu SettingsのUser Menu with Lockを選択する。

[ご注意]
MENUボタンのみを長押しして通常のフルメニューを表示した場合、TechnicalメニューのMenu SettingsにはUser Menu Onlyが表示されますが、マルチファンクションダイヤルを押しながらMENUボタンを長押しすると、User Menu with Lockが表示されます。

- 3** Offを選択して決定ボタンまたはマルチファンクションダイヤルを押す。
LCDモニターの表示が、暗証番号入力画面に切り替わります。

- 4** メニューをロックしたときの番号を入力する。
数値を入力し、決定ボタンまたはマルチファンクションダイヤルを押すと、カーソルが次の桁に移動します。
すべての桁を入力したら、カーソルがSetに移動します。

- 5** 決定ボタンまたはマルチファンクションダイヤルを押す。
入力が確定します。
メニューをロックしたときの暗証番号と入力した番号が一致した場合、ロックが解除できることのメニュー表示に切り替わります。

[ご注意]

- メニューをロックしたときの暗証番号と入力した番号が不一致の場合は、ロックを解除できません。
- 暗証番号は、忘れたときのために、手元に記録を残すことをお勧めします。忘れたときはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。
- 下表のフルメニューのメニュー項目をUserメニューに登録せずにメニューをロックした場合、同機能をアサインブルボタンに設定することはできません。
- 下表の機能をアサインブルボタンにアサインしていた場合は、メニューをロックした時点でアサインブルの設定が強制的にOffになります。

フルメニューのメニュー項目	アサインブルボタンの選択肢
Shooting>Auto Exposure>Mode	Spotlight
Shooting>White>Auto White Balance	Auto White Balance
Shooting>White>ATW	ATW
Shooting>Focus>AF Transition Speed.	AF Speed/Sens.
Shooting>Focus>AF Subj. Shift Sens.	
Shooting>Focus>Subject Recognition	Subject Recognition AF
Monitoring>Focus Magnifier>Focus Mag	LCD Focus Magnifier
Monitoring>Focus Magnifier>Focus Mag	Magnifier
Monitoring>Focus Magnifier>Focus Mag	Button Target
Monitoring>Focus Magnifier>Focus Mag	Output Focus
Monitoring>Focus Magnifier>Focus Mag	Magnifier
Monitoring>Focus Magnifier>Focus Mag	Button Target
Shooting>S&Q Motion>Setting	S&Q Motion
Shooting>LUT On/Off>1 SDI/HDMI	LUT On/Off 1
Shooting>LUT On/Off>1 SDI	
Shooting>LUT On/Off>2 LCD/Proxy/Stream	LUT On/Off 2
Shooting>LUT On/Off>2 LCD/Proxy/Stream	
Monitoring>Display On/Off>Image Stabilization	Image Stabilization
Project>Rec Format>Imager Scan Mode	Crop Select
Project>Picture Cache Rec>Setting	Picture Cache Rec

フルメニューのメニュー項目	アサインブルボタンの選択肢
Technical>Rec Review>Setting	Rec Review
Clip Operations>Set Clip Flag>Add OK	Clip Flag OK
Clip Operations>Set Clip Flag>Add NG	Clip Flag NG
Clip Operations>Set Clip Flag>Add KEEP	Clip Flag Keep
Technical>Color Bars>Setting	Color Bars
TC/Media>TC Display>Display Select	DURATION/TC/U-BIT
Monitoring>Display On/Off>Lens Info	Lens Info
Monitoring>Display On/Off>Video Signal Monitor	Video Signal Monitor
Monitoring>Marker>Setting	Marker
Monitoring>LCD Monitor>Color Mode	LCD Monitor Mode
Monitoring>Gamma Display Assist>Setting	Gamma Display Assist
Monitoring>Peaking>Setting	Peaking
Monitoring>Zebra>Setting	Zebra
Audio>Audio Output>Volume	Volume
Technical>Touch Operation>Setting	Touch Operation
Technical>Handle Zoom>Setting	Handle Zoom
Network>File Transfer>Auto Upload (Proxy)	Auto Upload (Proxy)

Userメニュー

工場出荷時のメニュー項目および対応する機能は以下のとおりです。

User	
メニュー項目	内容
Focus	Shooting > Focusの内容。
Auto Exposure	Shooting > Auto Exposureの内容。
Noise Suppression	Shooting > Noise Suppressionの内容。
Image Stabilization	Shooting > Image Stabilizationの内容。
Rec Format	Project > Rec Formatの内容。
Assignable Button	Project > Assignable Buttonの内容。
Multi Function Dial	Project > Multi Function Dialの内容。
All File	Project > All Fileの内容。
User File	Project > User Fileの内容。
Base Look	Paint/Look > Base Lookの内容。
Clip Name Format	TC/Media > Clip Name Formatの内容。
Format Media	TC/Media > Format Mediaの内容。
De-Squeeze	Monitoring > De-Squeezeの内容。
Marker	Monitoring > Markerの内容。
LCD Monitor Setting	Monitoring > LCD Monitor Settingの内容。
Peaking	Monitoring > Peakingの内容。
Zebra	Monitoring > Zebraの内容。
Menu Settings	Technical > Menu Settingsの内容。
Lens	Technical > Lensの内容。
APR	Technical > APRの内容。

[ご注意]

UserメニューはEdit Userメニューによってメニュー項目の追加や削除ができます。設定できる項目数は20が上限です。

Edit Userメニュー

UserメニューでEdit User Menuを選択すると、Edit Userメニューが第1階層に表示されます。

Edit User		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Add Item Userメニュー項目の追加		Userメニューに第2階層の項目を追加する。
Customize Reset Userメニュー項目のリセット		Userメニューの登録項目を工場出荷時の状態に戻す。
編集中に選択した第2階層の項目	Delete	Userメニューに登録した第2階層の項目を削除する。
	Move	Userメニューに登録した項目を並べ替える。
	Edit Sub Item	Userメニューに登録した第3階層の項目に属する細目を編集(登録・削除)する。

Shootingメニュー

各メニュー項目の機能および設定値は以下のとおりです。

工場出荷時の初期設定値は、**太文字**(例：**18dB**)で示します。

Shooting>ISO/Gain/EI

ゲインに関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Mode	ISO / dB	ゲイン設定モードを選択する。
ISO/Gain		ゲインを設定する。 Customモード時のみ有効です。

ModeがISOのとき

Base LookのSelect	S-Cinetone / Standard /		左記以外	
Base Sensitivity	Low	High	Low	High
ISO/Gain	ISO 320	ISO 1250	ISO 800	ISO 3200
ISO 400	ISO 1600	ISO 1000	ISO 4000	
ISO 500	ISO 2000	ISO 1250	ISO 5000	
ISO 640	ISO 2500	ISO 1600	ISO 6400	
ISO 800	ISO 3200	ISO 2000	ISO 8000	
ISO 1000	ISO 4000	ISO 2500	ISO 10000	
ISO 1250	ISO 5000	ISO 3200	ISO 12800	
ISO 1600	ISO 6400	ISO 4000	ISO 16000	
ISO 2000	ISO 8000	ISO 5000	ISO 20000	
ISO 2500	ISO 10000	ISO 6400	ISO 25600	

ModeがdBのとき

-3dB ~ **0dB** ~ 18dB(1dB間隔)

Shooting>ISO/Gain/EI

ゲインに関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Exposure Index	Base ISOがISO 800のとき 200EI / 4.0E 250EI / 4.3E 320EI / 4.7E 400EI / 5.0E 500EI / 5.3E 640EI / 5.7E 800EI / 6.0E 1000EI / 6.3E 1250EI / 6.7E 1600EI / 7.0E 2000EI / 7.3E 2500EI / 7.7E 3200EI / 8.0E	Exposure Indexを設定する。 Cine EIモード時のみ有効です。
Base ISO	Base ISOがISO 3200のとき 800EI / 4.0E 1000EI / 4.3E 1250EI / 4.7E 1600EI / 5.0E 2000EI / 5.3E 2500EI / 5.7E 3200EI / 6.0E 4000EI / 6.3E 5000EI / 6.7E 6400EI / 7.0E 8000EI / 7.3E 10000EI / 7.7E 12800EI / 8.0E	
Shockless Gain	On / Off	ショックレスゲイン機能をOn/Offする。
Base Sensitivity	High / Low	Customモード用の基準感度を設定する。
Base ISO	ISO 3200 / ISO 800	Cine EIモード用の基準ISO感度を設定する。

Shooting>ND Filter

NDフィルター透過光量の表現形式を設定します。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Display Mode	<u>Optical Density</u> / Transmittance	NDフィルター透過光量の表現形式を設定する。選択した表現形式で、表示および制御を実行する。 Optical Density: NDフィルター透過光量を光学濃度(対数表記)で表示および制御を行う。 Transmittance: NDフィルター透過光量を透過率(分数表示)で表示および制御を行う。

Shooting>Shutter

電子シャッターの動作を設定します。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Mode	Speed / <u>Angle</u>	電子シャッターのモードを選択する。秒数でシャッター速度を設定するSpeed(スピード)モードと開角度でシャッター速度を設定するAngle(角度)モードを選択する。
Shutter Speed On/Off	On / <u>Off</u>	Speedモード選択時の露光時間を、Shutter Speedの設定値に従うかフル露光にするかを設定する。

Shooting>Shutter

電子シャッターの動作を設定します。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Shutter Speed	64F ~ 1/8000	Speedモード選択時、シャッタースピードを設定する。
Angle	59.94P: 64F / 32F / 16F / 8F / 7F / 6F / 5F / 4F / 3F / 2F / 1.2F(1/50) / <u>1/60</u> / 1/100 / 1/120 / 1/125 / 1/250 / 1/500 / 1/1000 / 1/2000 / 1/4000 / 1/8000 50P: 64F / 32F / 16F / 8F / 7F / 6F / 5F / 4F / 3F / 2F / <u>1/50</u> / 1/60 / 1/100 / 1/120 / 1/125 / 1/250 / 1/500 / 1/1000 / 1/2000 / 1/4000 / 1/8000 29.97P: 64F / 32F / 16F / 8F / 7F / 6F / 5F / 4F / 3F / 2F / <u>1/30</u> / 1/40 / 1/50 / 1/60 / 1/100 / 1/120 / 1/125 / 1/250 / 1/500 / 1/1000 / 1/2000 / 1/4000 / 1/8000 25P: 64F / 32F / 16F / 8F / 7F / 6F / 5F / 4F / 3F / 2F / <u>1/25</u> / 1/33 / 1/50 / 1/60 / 1/100 / 1/120 / 1/125 / 1/250 / 1/500 / 1/1000 / 1/2000 / 1/4000 / 1/8000 24P/23.98P: 64F / 32F / 16F / 8F / 7F / 6F / 5F / 4F / 3F / 2F / <u>1/24</u> / 1/32 / 1/48 / 1/50 / 1/60 / 1/96 / 1/100 / 1/120 / 1/125 / 1/250 / 1/500 / 1/1000 / 1/2000 / 1/4000 / 1/8000	
ECS On/Off	64F / 32F / 16F / 8F / 7F / 6F / 5F / 4F / 3F / 2F / 360.0° / 300.0° / 270.0° / 240.0° / 216.0° / 210.0° / <u>180.0</u> ° / 172.8° / 150.0° / 144.0° / 120.0° / 90.0° / 86.4° / 72.0° / 45.0° / 30.0° / 22.5° / 11.25° / 5.6°	Angleモード選択時、開角度を設定する。
	On / <u>Off</u>	Extended Clear Scanの設定をOn/Offする。

Shooting>Shutter

電子シャッターの動作を設定します。

メニュー項目	細目と設定値	内容
ECS Frequency	23.99 ~ 8000 設定値は、選択されている記録フォーマットのシステム周波数によって異なります。 初期値は以下のとおりです。 59.94P : 60.00 50P : 50.00 29.97P : 30.00 23.98P : 23.99 25P : 25.02 24P : 24.02	ECSモード選択時、ECS周波数を設定する。

Shooting>Iris

ボケ調節機能の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Bokeh Control	On / Off	ボケ調節機能をOn/Offする。

Shooting>Auto Exposure

自動露出調整の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Level	+3.0 / +2.75 / +2.5 / +2.25 / +2.0 / +1.75 / +1.5 / +1.25 / +1.0 / +0.75 / +0.5 / +0.25 / ±0 / -0.25 / -0.5 / -0.75 / -1.0 / -1.25 / -1.5 / -1.75 / -2.0 / -2.25 / -2.5 / -2.75 / -3.0	自動検出した露出に対する明暗レベルを設定する。
Mode	Backlight / Standard / Spotlight	自動露出調整の動作モードを設定する。 Backlight: バックライトモード(中心となる被写体が逆光のとき、黒沈みを軽減するモード) Standard: 標準モード Spotlight: スポットライトモード(中心となる被写体にスポットライトが当たっているとき、白潰れを軽減するモード)
Speed	-99 ~ +99(±0)	自動露出調整の調整スピードを設定する。
Auto ND Filter	On / Off	NDフィルター透過光量の自動調整機能をOn/Offする。

Shooting>Auto Exposure

自動露出調整の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
AGC	On / Off	AGC(オートゲインコントロール)機能をOn/Offする。
AGC Limit	AGC機能の最大ゲインを設定する。	ModeがISOのとき
Base LookのSelect	S-Cinetone / Standard / Still / ITU709 / 709tone	左記以外
Base Sensitivity	Low High	Low High
AGC Limit	ISO 400 ISO 1600	ISO 1000 ISO 4000
	ISO 500 ISO 2000	ISO 1250 ISO 5000
	ISO 640 ISO 2500	ISO 1600 ISO 6400
	ISO 800 ISO 3200	ISO 2000 ISO 8000
	ISO 1000 ISO 4000	ISO 2500 ISO 10000
	ISO 1250 ISO 5000	ISO 3200 ISO 12800
	ISO 1600 ISO 6400	ISO 4000 ISO 16000
	ISO 2000 ISO 8000	ISO 5000 ISO 20000
	ISO 2500 ISO 10000	ISO 6400 ISO 25600
AGC Point	F2.8 / F4 / F5.6	ModeがdBのとき 3dB、6dB、9dB、12dB、 15dB 、18dB
Auto Shutter	On / Off	AGC機能がOnのとき、AGCを動作させ始めるアイリスのF値を設定する。
A.SHT Limit	1/100 / 1/150 / 1/200 / 1/250 / 1/2000	オートシャッターモードの最速シャッタースピードを設定する。
A.SHT Point	F5.6 / F8 / F11 / F16	オートシャッターを動作させ始めるアイリスのF値を設定する。
Auto Iris	On / Off	オートアイリスをOn/Offする。
Clip High light	On / Off	高輝度部の検出を無視して、高輝度に対する反応を鈍くさせる機能をOn/Offする。
Detect Window	1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / Custom	被写体の明るさに追従して露出を自動調整する測光範囲を選択する。(露出を手動調整しているときは無効)

Shooting>Auto Exposure 自動露出調整の設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Detect	On / <u>Off</u>	測光範囲の表示をOn/Offする。
Window Indication		
Custom Width	40 ~ 999(<u>500</u>)	測光範囲の幅を設定する。
Custom Height	70 ~ 999(<u>500</u>)	測光範囲の高さを設定する。
Custom H Position	-479 ~ +479(<u>±0</u>)	測光範囲の水平位置を設定する。
Custom V Position	-464 ~ +464(<u>±0</u>)	測光範囲の垂直位置を設定する。
Shooting>White ホワイトバランスの設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
White Select	A / B / C / D / E / F / G / H	ホワイトメモリーポジションを選択する。
Auto White Balance	Execute / Cancel	選択しているホワイトメモリーポジションに対して、オートホワイトバランスを実行する(Executeで実行)。
ATW	On / <u>Off</u>	ATW機能をOn/Offする。
[ご注意] ホワイトメモリーポジションを切り替えると、ATW機能はOffになります。		
Color Temp	2000K ~ 15000K(<u>3200K</u>)	選択しているホワイトメモリーポジションに保存するホワイトバランスの色温度を設定する。
[ご注意] Color Tempは、R/B Gain操作時に2000Kや15000Kでクリップされるため、R/B Gain値に応じた正確なColor Temp値を表示できない場合があります。		

Shooting>White ホワイトバランスの設定を行います。				
メニュー項目	細目と設定値	内容		
Tint	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	選択しているホワイトメモリーポジションに保存するホワイトバランスのTint値を設定する。		
[ご注意] Tintは、R/B Gain操作時に±99でクリップされるため、R/B Gain値に応じた正確なTint値を表示できない場合があります。				
R Gain	-99.0 ~ +99.0(<u>±0.0</u>)	選択しているホワイトメモリーポジションに保存するホワイトバランスのRゲイン値を設定する。		
B Gain	-99.0 ~ +99.0(<u>±0.0</u>)	選択しているホワイトメモリーポジションに保存するホワイトバランスのBゲイン値を設定する。		
Preset White Select	撮影モードがCustomモードのとき 3200K ±00 4300K ±00 5600K ±00 6300K ±00			
撮影モードがCine EIモードのとき 3200K ±00 4300K ±00 5500K ±00				
Shooting>White Setting ホワイトバランスの調整を行います。				
メニュー項目	細目と設定値	内容		
Shockless White	Off / 1 / <u>2</u> / 3	ホワイトバランスモード切り替え時のホワイトバランス変化速度を設定する。 Off : 瞬時に切り替わる。 1 ~ 3 : 数字が大きいほどゆっくり切り替わる。		
ATW Speed	1 / 2 / <u>3</u> / 4 / 5	ATWモード時の反応速度を設定する。 1 : 最も反応速度が速い。		

Shooting>Focus フォーカスの設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
AF Transition Speed	1(Slow) / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7(Fast)	オートフォーカス中の被写体が移り変わる際のフォーカス駆動の速さを設定する。
AF Subj. Shift Sens.	1(Locked On) / 2 / 3 / 4 / 5(Responsive)	オートフォーカス中の被写体の乗り移り感度を設定する。
Focus Area	Wide / Zone / Flexible Spot	<p>オートフォーカス、ブッシュオートフォーカス(AF) の対象とする領域を設定する(96ページ)。</p> <p>Wide: 映像全域からフォーカスを合わせる位置を探す。</p> <p>Zone: 指定したゾーン内から自動でフォーカスを合わせる点を探す。</p> <p>Flexible Spot: 映像の指定した位置にフォーカスを合わせる。</p>
Subject Recognition AF	Human Only AF / Human Priority AF / Off	<p>被写体検出AF機能の動作を設定する。</p> <p>Human Only AF: カメラが被写体(人物)を検出したとき、人物の瞳、顔、頭部、体にフォーカスを合わせる。人物を検出しない間はオートフォーカスが一時停止する(人物限定AF)。</p> <p>Human Priority AF: カメラが被写体(人物)を検出したとき、人物の瞳、顔、頭部、体にフォーカスを合わせる。人物を検出しないときはオートフォーカスで動作する(人物優先AF)。</p>
Touch Function in MF	Tracking AF / Spot Focus	マニュアルフォーカス時にタッチパネルをタップしたときの動作を設定する。
AF Assist	On / Off	Onに設定すると、オートフォーカス時、一時に手動でフォーカスを合わせることができる。

Shooting>S&Q Motion スロー&クイックモーションモードの設定を行います(108ページ)。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	On / Off	<p>スロー&クイックモーションモードをOn/Offする。</p> <p>Onのとき、以下の機能が無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> オートアイリス オートシャッター
Frame Rate	1 ~ 60 / 66 / 72 / 75 / 88 / 90 / 96 / 100 / 110 / 120 / 150 / 180 / 200 / 240 fps	<p>スロー&クイックモーション撮影時のフレームレートを設定する。</p> <p>[ご注意] 設定値の範囲は、選択されているシステム周波数やコーデック、ビデオフォーマットによって異なります。</p>
Shooting>LUT On/Off LUTの設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
1 SDI / HDMI	LUT On / LUT Off	<p>SDIおよびHDMI出力映像にモニター LUT を適用するか選択する。</p> <p>[ご注意] Projectメニュー > Rec Format > Codec(44ページ) がX-OCNフォーマットのときに設定できます。</p>
1 SDI	LUT On / LUT Off	<p>SDI出力映像にモニター LUT を適用するか選択する。</p> <p>[ご注意] Projectメニュー > Rec Format > Codec(44ページ) がX-OCNフォーマット以外のときに設定できます。</p>
2 LCD / Proxy / Stream	LUT On / LUT Off	<p>LCD、ProxyおよびStreamの出力映像にモニター LUT を適用するか選択する。</p> <p>[ご注意] Projectメニュー > Rec Format > Codec(44ページ) がX-OCNフォーマットのときに設定できます。</p>

Shooting>LUT On/Off

LUTの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
2LCD/ HDMI/Px/ Stream	LUT On / LUT Off	LCD、HDMI、ProxyおよびStreamの出力映像にモニター LUTを適用するか選択する。

[ご注意]
Projectメニュー > Rec Format > Codec(44ページ)がX-OCNフォーマット以外のときに設定できます。

Shooting>Noise Suppression

ノイズサプレスの設定を行います。

[メモ]

Setting(Custom)とLevel(Custom)の設定値はそれぞれTarget Displayの設定に反映されます(72ページ)。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting (Custom)	On / Off	Customモード時のノイズサプレス機能をOn/Offする。
Level (Custom)	Low / Mid / High	Customモード時のノイズサプレスのレベルを設定する。
Setting (Cine EI)	On / Off	Cine EIモード時のノイズサプレス機能をOn/Offする。
Level (Cine EI)	Low / Mid / High	Cine EIモード時のノイズサプレスのレベルを設定する。

Shooting>Flicker Reduce

フリッカー補正の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Mode	Auto / On / Off	フリッカー補正モードを設定する。
Frequency	50Hz / 60Hz	フリッカーの原因となる照明の電源周波数を設定する。

Shooting>Image Stabilization

手ブレ補正の設定を行います(104ページ)。

メニュー項目	細目と設定値	内容
PL Stabilization	High / Low / Off	手ブレ補正機能を設定する。 [ご注意] PLマウントアダプター装着時のみ設定できます。
SteadyShot	Active / Standard / Off	手ブレ補正機能を設定する。 [ご注意] <ul style="list-style-type: none">• PLマウントアダプター非装着時のみ設定できます。• 手ブレ補正スイッチ付きレンズを装着していて、レンズ側のスイッチがOFFの場合、レンズ側が優先となるため、本機では設定を切り替えることができません。
Stabilization Adjustment	Auto / Manual	装着しているレンズによって、最適な手ブレ補正機能を設定する。 Auto: レンズから取得した情報をもとに自動で手ブレ補正する。 Manual: Focal Lengthで設定した焦点距離で手ブレ補正する(8mm ~ 1000mm)。
Focal Length	8mm / 9mm / 10mm / 11mm / 12mm / 13mm / 14mm / 15mm / 16mm / 17mm / 18mm / 19mm / 20mm / 21mm / 24mm / 25mm / 28mm / 30mm / 32mm / 35mm / 40mm / 45mm / 50mm / 55mm / 60mm / 70mm / 75mm / 80mm / 85mm / 90mm / 100mm / 105mm / 120mm / 135mm / 150mm / 180mm / 200mm / 210mm / 250mm / 300mm / 350mm / 400mm / 450mm / 500mm / 600mm / 800mm / 1000mm	手ブレ補正調整がManualのとき、カメラ内の手ブレ補正機能の焦点距離情報を設定する。 [ご注意] <ul style="list-style-type: none">• レンズから焦点距離などの情報が取得できないときは、手ブレ補正が正しく動作しません。Stabilization AdjustmentをManualにして、装着しているレンズに合わせてFocal Lengthを設定してください。その場合、手ブレ補正アイコンの下に、設定している手ブレ補正焦点距離の値が表示されます。• レンズSEL16F28(別売)にコンバーターレンズを装着している場合などには、Stabilization AdjustmentをManualにして、Focal Lengthを設定してください。

Projectメニュー

各メニュー項目の機能および設定値は以下のとおりです。

工場出荷時の初期設定値は、太文字(例：18dB)で示します。

Project>Base Setting

基本設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Shooting Mode	Custom / <u>Cine EI</u>	撮影モードを設定する(87ページ)。
Target Display	<u>SDR(BT.709)</u> / HDR(HLG)	Customモード時の記録/出力の色域を設定する。
Project>Rec Format		
記録フォーマットの設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Frequency	59.94 / 50 / 29.97 / 25 / 24 / <u>23.98</u>	システム周波数を選択する。
Imager Scan Mode	FF 8.6K 17:9 / FF 8.6K 16:9 / <u>FFc 6K 17:9</u> / FFc 6K 16:9 / FFc 3.8K 16:9 / S35 5.8K 17:9 / S35 5.8K 16:9 / S35 4.3K 4:3 / S35c 4K 17:9 / S35 1.9K 16:9	イメージヤーサイズを選択する。 [メモ] <ul style="list-style-type: none">システム周波数が24のときは、S35 1.9K 16:9を選択できません。S35 1.9K 16:9のときは、CodecがXAVC-IまたはXAVC-Lになります。8Kを記録したいときは、システム周波数を29.97以下に設定してください。S35 4.3K 4:3またはシステム周波数が24でFF 8.6K 16:9 / FFc 6K 16:9 / FFc 3.8K 16:9 / S35 5.8K 16:9のときは、CodecがX-OCNになります。
Codec	<u>X-OCN(LT)</u> / XAVC H-I HQ / XAVC H-I SQ / XAVC H-L / XAVC-I / XAVC-L	クリップの記録・再生コーデックを設定する。 [メモ] <ul style="list-style-type: none">8Kを記録したいときは、X-OCNまたはXAVC Hを選択してください。X-OCNはCine EIモード時のみ選択できます。

Project>Rec Format

記録フォーマットの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容		
Video Format	Frequency	Codec	選択肢	[メモ]
59.94	X-OCN(LT)	—		X-OCNの画像サイズはImager Scanモードに従います。XAVC Hは8Kのみに対応しています。
		XAVC-I	4096x2160P 3840x2160P 1920x1080P	
		XAVC-L	3840x2160P 1920x1080P	
	XAVC-I	—		
		XAVC-L	3840x2160P 1920x1080P	
		XAVC-L	3840x2160P 1920x1080P	
	XAVC-H	—		
		XAVC H-I	8192x4320P HQ	
		XAVC H-I	8192x4320P SQ	
		XAVC H-L	7680x4320P XAVC-I	
			4096x2160P 3840x2160P 1920x1080P	
	XAVC-L	3840x2160P		
			1920x1080P	

Project>Rec Format 記録フォーマットの設定を行います。			
メニュー項目	細目と設定値	内容	
Video Format	25	X-OCN(LT) — XAVC H-I 8192x4320P HQ 7680x4320P XAVC H-I 8192x4320P SQ 7680x4320P XAVC H-L 7680x4320P XAVC-I 4096x2160P 3840x2160P 1920x1080P XAVC-L 3840x2160P 1920x1080P	
	23.98	X-OCN(LT) — XAVC H-I 8192x4320P HQ 7680x4320P XAVC H-I 8192x4320P SQ 7680x4320P XAVC H-L 7680x4320P XAVC-I 4096x2160P 3840x2160P 1920x1080P XAVC-L 3840x2160P 1920x1080P	
	24	X-OCN(LT) — XAVC H-I 8192x4320P HQ XAVC H-I 8192x4320P SQ XAVC-I 4096x2160P	
Project>Cine EI Setting Cine EIモードの設定を行います。			
メニュー項目	細目と設定値	内容	
Color Gamut	S-Gamut3/SLog3 / S-Gamut3.Cine/SLog3	Cine EIモード時の色域を設定する。	

Project>Cine EI Setting Cine EIモードの設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Embed LUT File	On / Off	3D LUTファイル(CUBEファイル)のメタデータ記録をOn/Offする。
Project>Simul Rec 同時記録の設定を行います(110ページ)。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	On / Off	本線同時記録機能のOn/Offと記録先メディアを一括設定する。
Project>Proxy Rec プロキシ記録モードの設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	On / Off	プロキシ記録モードをOn/Offする。
Audio Channel	CH1/CH2 / CH3/CH4	プロキシデータに記録するオーディオチャンネルを選択する。
Project>Interval Rec インターバルレックの設定を行います(109ページ)。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	On / Off	インターバルレックモードをOn/Offする。 (この設定をOnにすると、他の特殊記録モードの設定がOffになる。)
Interval Time	1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 15 / 20 / 30 / 40 / 50 (s) 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 15 / 20 / 30 / 40 / 50 (min) 1 / 2 / 3 / 4 / 6 / 12 / 24 (h)	Interval Recの設定がOnの場合に、インターバル撮影時の録画間隔(インターバル)を設定する。
Number of Frames	1frame / 2frames / 3frames / 6frames / 9frames / 12frames 選択されているビデオフォーマットのフレーム周波数によって設定値が異なります。 59.94P/50P: 2frames / 6frames / 12frames 29.97P/25P/24P/23.98P: 1frame / 3frames / 6frames / 9frames	Interval Recの設定がOnの場合に、インターバル撮影時の1回の記録フレーム数を設定する。

Project>Interval Rec

インターバルレックの設定を行います(109ページ)。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Pre-Lighting	<u>Off</u> / 2 s / 5 s / 10 s	インターバルレック撮影開始時にビデオライトを点灯させる場合は何秒前に点灯させるかを選択する。
[メモ]		
		HVL-LBPC(別売) 使用時のみ有効な設定です。
Project>Picture Cache Rec		
ピクチャーキャッシュレックモードの設定を行います(109ページ)。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	On / <u>Off</u>	ピクチャーキャッシュレックモードをOn/Offする。
Cache Size	Short / Medium / Long / <u>Max</u>	ピクチャーキャッシュメモリーに画像を蓄積する時間(キャッシュレック開始時にさかのぼる時間)を設定する。
Cache Rec Time		ピクチャーキャッシュメモリーに画像を蓄積する時間(キャッシュレック開始時にさかのぼる時間)を表示する。

Project>SDI/HDMI Rec Control

SDI/HDMI記録制御の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	<u>Off</u> / SDI/HDMI Remote I/F / Parallel Rec	SDI/HDMI出力信号による外部接続機器の記録/停止制御を設定する。 Off: リモート制御しない。 SDI/HDMI Remote I/F: 本機にメディアを挿入していない状態で、外部接続機器の記録/停止制御が可能。本機のメディアとフレーム精度で同期しない。 Parallel Rec: 本機にメディアを挿入している状態で、外部接続機器の記録/停止制御が可能。本機のメディアとフレーム精度で同期する。
[ご注意]		
		<ul style="list-style-type: none"> HDMI出力信号による制御を行う場合は、フルメニューのTC/Mediaメニュー >HDMI TC OutのSetting(54ページ) をOnに設定してください。 映像出力フォーマットでMonitor FHDを選択しているときは、Parallel Recを選択できません。

Project>Assignable Button アサインブルボタンへの機能割り当て設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
<1> ~ <11>	Off / Base ISO/Sensitivity / AGC /	アサインブルボタンに機能を割り当てる。
Focus Hold	Push AGC / ND Filter Position / Auto	Base ISO/Sensitivity: イメージセンサーの基準感度の切り替え
Button	ND Filter / Push Auto ND / Iris / Auto	AGC: AGC機能のOn/Off切り替え
	Iris / Push Auto Iris / Bokeh Control /	Push AGC: ボタンを押している間、AGC機能を有効にする
	Auto Shutter / Auto Exposure Level /	ND Filter Position: NDフィルターの切り替え
	Backlight / Spotlight / Auto White	Auto ND Filter: オートNDフィルターのOn/Off即時切り替え
	Balance / ATW / ATW Hold / AF	Push Auto ND: ボタンを押している間、オートNDフィルター機能を有効にする
	Speed/Sens. / Focus Setting / Subject	Iris: アイリスピジョンの設定値を選択
	Recognition AF / Push AF/Push MF /	映像監視モードのときは長押しでオート/マニュアルアイリス設定の設定値を選択
	Focus Hold / LCD Focus Magnifier /	Auto Iris: オートアイリス機能のOn/Off切り替え
	Output Focus Magnifier / S&Q Motion /	Push Auto Iris: ボタンを押している間、オートアイリス機能を有効にする
	LUT On/Off 1 / LUT On/Off 2 / High/	Bokeh Control: ボケ調節モードのOn/Off切り替え
	Low Key / Image Stabilization / Crop	Auto Shutter: オートシャッター機能のOn/Off切り替え
	Select / Rec / Picture Cache Rec / Rec	Auto Exposure Level: Auto Exposure Levelのダイレクトメニューを開始／終了する
	Review / Clip Flag OK / Clip Flag NG /	Backlight: Backlight/Standard切り替え
	Clip Flag Keep / Color Bars / CALL /	Spotlight: Spotlight/Standard切り替え
DURATION/TC/U-BIT / Display / Lens		Auto White Balance: Auto White Balanceを実行する
Info / Video Signal Monitor / Marker /		ATW: ATW機能のOn/Off切り替え
LCD Monitor Adjust / LCD Monitor		
Mode / Gamma Display Assist /		
Peaking / Zebra / Volume / Clips /		
Touch Operation / Handle Zoom / Auto		
Upload (Proxy) / Direct Menu / User		
Menu / Menu		

Project>Assignable Button アサインブルボタンへの機能割り当て設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
<1> ~ <11>		ATW Hold: ATW機能の動作を一時ホールド
Focus Hold		AF Speed/Sens.: AFトランジション速度の設定とAF乗り移り感度の設定の切り替え
Button		Focus Setting: フォーカスエリアの設定を行う
		Subject Recognition AF: Subject Recognition AFの設定の切り替え
		Push AF/Push MF: フォーカスモードがMF時、ボタンを押している間はAFになる フォーカスモードがAF時、ボタンを押している間はMFになる
		Focus Hold: フォーカスモードがAF時、ボタンを押している間フォーカスを固定する
		LCD Focus Magnifier:
		Output Focus Magnifier: LCDモニターまたは外部出力のピント拡大の倍率の切り替え
		[メモ] フルメニューのMonitoringメニュー > Focus MagnifierのFocus Mag Button Target(58ページ) がLCD Monitorの場合は、LCD Focus Magnifierを選択できます。Outputの場合には、Output Focus Magnifierを選択できます。
		S&Q Motion: スロー＆クイックモーション機能のOn/Off切り替え 長押しで撮影時のフレームレートの設定
		LUT On/Off 1: Shootingメニュー > LUT On/Off > 1 SDIまたは1 SDI/HDMIの設定の切り替え

Project>Assignable Button アサインブルボタンへの機能割り当て設定を行います。	
メニュー項目	細目と設定値
<1> ~ <11>、 Focus Hold Button	LUT On/Off② : Shootingメニュー > LUT On/Off > ②LCD/HDMI/Px/Streamまたは ②LCD/Proxy/Streamの設定の切り 替え High/Low Key : High Key(高輝度の白飛び確認画面) / Low Key(低輝度の暗部の確認画面) / Off (通常画面) の切り替え Image Stabilization : 手ブレ補正機能の動作の切り替え Crop Select : イメージヤースキャンモードの設定を行う Rec : 記録の開始または停止 Picture Cache Rec : ピクチャーキャッシュレックモードの On/Off切り替え Rec Review : レックレビューのOn/Off切り替え Clip Flag OK : Add OKを実行する 2回続けて押すとDelete Clip Flagを実 行する Clip Flag NG : Add NGを実行する 2回続けて押すとDelete Clip Flagを実 行する Clip Flag Keep : Add Keepを実行する 2回続けて押すとDelete Clip Flagを実 行する Color Bars : カラーバーのOn/Off切り替え CALL : ボタンを押している間、本機に接続し たリモートコントロールパネルにコール 信号を送信する。 DURATION/TC/U-BIT : Time Code/Users Bit/Duration切り 替え

Project>Assignable Button アサインブルボタンへの機能割り当て設定を行います。	
メニュー項目	細目と設定値
<1> ~ <11>、 Focus Hold Button	Display : 画面表示のOn/Off切り替え Lens Info : 被写界深度表示の切り替え Video Signal Monitor : 映像信号モニター (波形モニターなど) の表示切り替え Marker : マーカー機能のOn/Off切り替え LCD Monitor Adjust : LCDモニターの明るさ調節用レベル バーの表示 LCD Monitor Mode : LCDモニターのカラー / モノクロ切り替 え Gamma Display Assist : ガンマ表示アシスト機能の切り替え Peaking : ピーリング機能のOn/Off切り替え Zebra : ゼブラ機能のOn/Off切り替え Volume : ヘッドホン端子および本体内蔵スピー カーのモニター音声レベルを調整する Clips : クリップ一覧画面の開始/終了 Touch Operation : タッチ操作のOn/Off切り替え Handle Zoom : ハンドルズーム動作の切り替え Auto Upload (Proxy) : プロキシクリップの自動転送のOn/Off 切り替え Direct Menu : ダイレクトメニューの開始/終了 User Menu : Userメニューの開始/終了 Menu : フレメニューの開始/終了

Project>Assignable Dial アサインブルダイヤルへの機能割り当て、回転方向の設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Grip/ Remote Dial	Off / ISO/Gain/EI / ND Filter / <u>IRIS</u> / Auto Exposure Level / Audio Input Level / Multi Function Dial	別売のグリップリモコンまたはRM-30BPのアサインブルダイヤルに機能を割り当てる。 ISO/Gain/EI: ゲインまたはEIを調節する ND Filter: NDフィルターを調節する IRIS: アイリスを調節する Auto Exposure Level: 自動露出レベルを調節する Audio Input Level: 録音レベルを調節する Multi Function Dial: マルチファンクションダイヤルとして動作する
Grip Dial Direction	<u>Normal</u> / Opposite	別売のグリップリモコンまたはRM-30BPのアサインブルダイヤルの回転方向を設定する。 Normal : 順方向に回転する Opposite : 逆方向に回転する
Project>Multi Function Dial マルチファンクションダイヤルへの機能割り当て設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Default Function	Off / ISO/Gain/EI / <u>IRIS</u> / Auto Exposure Level / Audio Input Level	マルチファンクションダイヤルのデフォルト機能を割り当てる。 IRIS: アイリスを調節する ISO/Gain/EI: ゲインまたはEIを調節する Auto Exposure Level: 自動露出レベルを調節する Audio Input Level: 録音レベルを調節する

Project>User File ユーザーファイルの操作に関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Load from UTILITY SD	Execute / Cancel	ユーザーファイルの設定をSDカードから読み込む。 Execute : 実行
Save to UTILITY SD	Execute / Cancel	ユーザーファイルの設定をSDカードに保存する。 Execute : 実行
File ID		ユーザーファイルのFile ID表示と編集を行う画面を表示する。
Load Customize Data	On / <u>Off</u>	Load from UTILITY SDの実行時にUserメニューの構成カスタマイズ情報を読み込むかどうかを設定する。
Load White Data	On / <u>Off</u>	Load from UTILITY SDの実行時にホワイトバランス情報を読み込むかどうかを設定する。
Project>All File Allファイルに関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Load from UTILITY SD	Execute / Cancel	Allファイルの設定をSDカードから読み込む。 Execute : 実行
Load from Cloud(Private)	Execute / Cancel	クラウドサービス「C3 Portal」(個人)にアップロードしたAllファイルを読み込む。 Execute : 実行
Load from Cloud(Share)	Execute / Cancel	クラウドサービス「C3 Portal」(共通)にアップロードしたAllファイルを読み込む。 Execute : 実行
Save to UTILITY SD	Execute / Cancel	Allファイルの設定をSDカードに保存する。 Execute : 実行
Save to Cloud(Private)	Execute / Cancel	Allファイルの設定をクラウドサービス「C3 Portal」(個人)に保存する。 Execute : 実行
Save to Cloud(Share)	Execute / Cancel	Allファイルの設定をクラウドサービス「C3 Portal」(共通)に保存する。 Execute : 実行
File ID		ファイルに名前を付ける。

Project>All File

Allファイルに関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Load	On / <u>Off</u>	Load from UTILITY SD、Load from Cloud(Private)およびLoad from Cloud(Share)の実行時に、Networkメニューの設定情報を読み込むかどうかを設定する。
Network		
Data		

Paint/Lookメニュー

各メニュー項目の機能および設定値は以下のとおりです。

工場出荷時の初期設定値は、太文字(例：18dB)で示します。

Paint/Look>Scene File

Sceneファイルに関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Recall		内蔵メモリーに保存されているSceneファイルを読み込み、現在の画質設定に適用する。
Store		現在の画質設定状態をSceneファイルとして内蔵メモリーに保存する。
Delete		内蔵メモリーに保存されているSceneファイルを削除する。
Preset Recall	Shooting ModeがCustomで、Target DisplayがSDR(BT.709)のとき S-Cinetone / Standard / Still / ITU709 / 709tone Shooting ModeがCustomで、Target DisplayがHDR(HLG)のとき HLG Live / HLG Natural	プリセット画質(書き換え不可)を現在の画質設定に適用する。
Paint/Look>Base Look		基本ルックに関する設定を行います。
Select	Shooting ModeがCustomで、Target DisplayがSDR(BT.709)のとき <u>S-Cinetone</u> / Standard / Still / ITU709 / 709tone / User1 ~ User16 Shooting ModeがCustomで、Target DisplayがHDR(HLG)のとき <u>HLG Live</u> / HLG Natural / User1 ~ User16 Shooting ModeがCine EIのとき 709(800%) / S-Log3 / <u>s709</u> / Warm / Cool / Vintage / Teal and Orange / ACESproxy / ACEScct / ACES 1.0 Output-Rec.709 / User1 ~ User16	基本ルックを選択する。 [ご注意] フルメニューのProjectメニュー > Cine EI SettingのColor Gamut(45ページ)が S-Gamut3/SLog3のときに、以下の基本ルックを選択できます。 <ul style="list-style-type: none">• ACESproxy• ACEScct• ACES 1.0 Output-Rec.709
Delete		選択した基本ルックを削除する。
Delete All		すべての基本ルックを削除する。
Import from Utility SD	Execute / Cancel	SDカードから基本ルックファイルを読み込む。 Execute : 実行

Paint/Look>Base Look

基本ルックに関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Import from Cloud(Private)	Execute / Cancel	クラウドサービス「C3 Portal」(個人)にアップロードした基本ルックファイルを読み込む。 Execute : 実行
Import from Cloud(Share)	Execute / Cancel	クラウドサービス「C3 Portal」(共通)にアップロードした基本ルックファイルを読み込む。 Execute : 実行
Input	S-Gamut3/SLog3 / <u>S-Gamut3.Cine/SLog3</u>	Selectで選択している基本ルックの入力Gamutを設定する。
Output	<u>BT.709</u> / HLG	Selectで選択している基本ルックの出力色域を設定する。
AE Level Offset	<u>0EV</u> / 1/3EV / 2/3EV / 1EV / 4/3EV / 5/3EV / 2EV	Selectで選択している基本ルックの露出基準値を設定する。
Paint/Look>Reset Paint Settings		基本ルック以外のPaint/Lookメニューの設定値をリセットします。
Reset without Base Look	Execute / Cancel	基本ルック以外のPaint/Lookメニューの設定値のリセットを実行する。 Execute : 実行
Paint/Look>Black		ブラックの設定を行います。
Master Black R Black B Black	-99.0 ~ +99.0(<u>±0.0</u>)	マスターBLACKレベルを設定する。 R BLACKレベルを設定する。 B BLACKレベルを設定する。
Paint/Look>Knee		ニー補正の設定を行います。
Setting	Target DisplayがSDR(BT.709)のとき <u>On</u> / Off Target DisplayがHDR(HLG)のとき On / <u>Off</u>	ニー補正機能をOn/Offする。 [メモ] Base Look設定のSelectがStandard、ITU709、709tone、HLG LiveまたはHLG Naturalのときのみ有効です。

Paint/Look>Knee

ニーカットの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Auto Knee	Target DisplayがSDR(BT.709)のとき <u>On</u> / Off	オートニーカット機能をOn/Offする。
	Target DisplayがHDR(HLG)のとき On / <u>Off</u>	[メモ] ニーカットのSettingがOnで、Base Look設定のSelectがStandard、ITU709または709toneのときのみ有効です。
Point	75% ~ 109%(<u>90%</u>)	ニーコントロールを設定する。
Slope	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	ニースロープを設定する。

Paint/Look>Detail

ディテール調整の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	<u>On</u> / Off	ディテール機能をOn/Offする。
Level	-7 ~ +7(<u>±0</u>)	ディテールレベルを設定する。
H/V Ratio	-2 ~ +2(<u>±0</u>)	垂直(V) / 水平(H) ディテールのバランスを設定する。
B/W Balance	Type1 / Type2 / <u>Type3</u> / Type4 / Type5	下側(B) / 上側(W) ディテールのバランスを設定する。
Limit	<u>0</u> ~ 7	ディテールのリミットレベルを設定する。
Crispening	<u>0</u> ~ 7	クリスピニングレベルを設定する。
High Light	<u>0</u> ~ 4	高輝度部分のディテールレベルを設定する。
Detail		

Paint/Look>Matrix

マトリクス補正の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
User Matrix	On / <u>Off</u>	ユーザーマトリクス補正機能をOn/Offする。
User Matrix Level	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	映像全域の色の濃さ(サチュレーション)を調整する。
User Matrix Phase	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	映像全域の色合い(フェーズ)を調整する。
User Matrix R-G	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	R-Gのユーザーマトリクスを任意に設定する。
User Matrix R-B	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	R-Bのユーザーマトリクスを任意に設定する。

Paint/Look>Matrix

マトリクス補正の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
User Matrix G-R	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	G-Rのユーザーマトリクスを任意に設定する。
User Matrix G-B	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	G-Bのユーザーマトリクスを任意に設定する。
User Matrix B-R	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	B-Rのユーザーマトリクスを任意に設定する。
User Matrix B-G	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	B-Gのユーザーマトリクスを任意に設定する。

Paint/Look>Multi Matrix マルチマトリクス補正の設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	On / <u>Off</u>	Multi Matrix補正機能をOn/Offする。
Area Indication	On / <u>Off</u>	<p>Multi Matrixを設定中に補正対象となる色軸が分かるように、対象領域を見分ける表示機能をOn/Offする。</p> <p>On: Axisで指定されている色の領域以外を白黒で表示する</p> <p>Off: 通常表示</p> <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> マルチマトリクス補正の各設定画面を表示しているときにDISPLAYボタン(5ページ)を押すと、On/Offを切り替えることができます。また、Area Indication ControlがMenu & RCPに設定されているときは、リモートコントロールパネルからOn/Offを切り替えることができます。 記録動作中、および、ピクチャーキャッシュレック機能がOnのときは、本設定はOff固定となります。 Multi Matrixの設定メニューから他の画面に移動すると、本設定は自動的にOffになります。 <p>[ご注意]</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象領域を見分ける表示機能をOnにしているときは、表示されている映像が記録映像や出力映像にも出力されます。 ピクチャーキャッシュレック機能がOnのときは、Area Indicationの設定を変更できません。
Area Indication Control	<u>Menu Only</u> / Menu & RCP	<p>Area IndicationのOn/Off設定の操作対象を設定する。</p> <p>Menu Only: 本機からのみArea IndicationのOn/Offを設定可能</p> <p>Menu & RCP: 本機とリモートコントロールパネルからArea IndicationのOn/Offを設定可能</p>

Paint/Look>Multi Matrix マルチマトリクス補正の設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Reset	Execute / Cancel	各色軸の色相(ヒュー)と飽和度(サチュレーション)の設定値をすべて初期値にする。
Axis	<u>B</u> / B+ / MG- / MG / MG+ / R / R+ / YL- / YL / YL+ / G- / G / G+ / CY / CY+ / B-	調整対象の色軸を選択する。
Hue	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	Axisで選択した調整対象の色軸の色相(ヒュー)を設定する。
Saturation	-99 ~ +99(<u>±0</u>)	Axisで選択した調整対象の色軸の飽和度(サチュレーション)を設定する。

TC/Mediaメニュー

各メニュー項目の機能および設定値は以下のとおりです。

工場出荷時の初期設定値は、太文字(例：18dB)で示します。

TC/Media>Timecode

タイムコードの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Mode	<u>Preset</u> / Regen / Clock	タイムコードの歩進モードを設定する。 Preset(プリセット) : 設定された値から歩進する。 Regen(リジェネ) : 前のクリップのタイムコードに続けて歩進する。 Clock(クロック) : 内蔵時計をタイムコードとして使用する。
Run	<u>Rec Run</u> / Free Run	Rec Run : 記録時のみ歩進する。 Free Run : 記録に関係なく常に歩進する。
Setting		タイムコードを任意の値に設定する。 SET: 決定
Reset	Execute / Cancel	タイムコードを00:00:00:00にリセットする。 Execute : 実行
TC Format	DF / <u>NDF</u>	タイムコードのフォーマットを設定する。 DF : ドロップフレーム NDF : ノンドロップフレーム

TC/Media>TC Display

タイムデータ表示の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Display	<u>Timecode</u> / Users Bit / Duration	タイムデータの表示を切り替える。 Select

TC/Media>Users Bit

ユーザービットに関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Mode	<u>Fix</u> / Time	ユーザービットのモードを設定する。 Fix : ユーザービットに任意の固定値を使用する。 Time : ユーザービットに現在の時分秒を使用する。
Setting		ユーザービットを任意の値に設定する。

TC/Media>HDMI TC Out

HDMI利用時のタイムコード出力に関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	On / <u>Off</u>	HDMIを利用して、他の業務用機器にタイムコードを出力するかどうかを設定する。

TC/Media>Genlock

ゲンロックに関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Reference	Internal / External(HD) / External(HD)	ゲンロックの動作状態を表示する。
Lock Type	Shift / External(SD) / External(SD) Shift	Internal: ゲンロックせず内部クロックで映像を出力している状態であることを示す。 External(HD): HDリファレンス信号にゲンロックしていることを示す。 External(HD) Shift: HDリファレンス信号に対してSync Shift Valueの位相差でゲンロックしていることを示す。 External(SD): SDリファレンス信号にゲンロックしていることを示す。 External(SD) Shift: SDリファレンス信号に対してSync Shift Valueの位相差でゲンロックしていることを示す。

Sync Shift

調整範囲上限のステップ数は、選択されている記録フォーマットのシステム周波数によって異なります。

- 59.94:
0 ~ 72071 (+16683.102μs)
- 50:
0 ~ 86399 (+19999.769μs)
- 29.97:
0 ~ 144143 (+33366.435μs)
- 25:
0 ~ 172799 (+39999.769μs)
- 24:
0 ~ 179999 (+41666.435μs)
- 23.98:
0 ~ 180179 (+41708.102μs)

TC/Media>Genlock

ゲンロックに関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Sync Shift Value	+xxxxx.xxx μs	Sync Shiftで設定した位相シフト時間を表示する。

TC/Media>Clip Name Format

クリップの名称やフォルダに関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Camera ID	<u>A</u> ~ Z	クリップ名の生成時のカメラIDを設定する。
Reel Number	<u>001</u> ~ 999	クリップ名の生成時のReel Numberの数字部分を設定する。
Camera Position	<u>C</u> / L / R	クリップ名の生成時のShot Numberの先頭文字部分を選択する。
XAVC Root Folder Name	<u>XDROOT</u> / Cam ID + Reel#	記録メディアのVolumeラベル名およびRootフォルダ名を設定する。

TC/Media>Update Media

メモリーカード内の管理ファイルを更新します。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Media(A)	Execute / Cancel	スロットAのメモリーカード内の管理ファイルを更新する。 Execute : 実行
Media(B)	Execute / Cancel	スロットBのメモリーカード内の管理ファイルを更新する。 Execute : 実行

TC/Media>Format Media

メモリーカードを初期化します。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Media(A)	Full Format / Cancel	スロットAのメモリーカードを初期化する。
Media(B)	Full Format / Cancel	スロットBのメモリーカードを初期化する。
Utility SD	Full Format / Quick Format / Cancel	SDカードを初期化する。

Monitoringメニュー

各メニュー項目の機能および設定値は以下のとおりです。

工場出荷時の初期設定値は、太文字(例：18dB)で示します。

Monitoring>Output Format

出力フォーマットの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
SDI1	設定項目について詳しくは、「出力のフォーマットと制限」(120ページ)をご覧ください。	SDIとHDMI出力の解像度設定をする。
SDI2		
HDMI		
REF	HD Sync	同期信号出力のフォーマットを表示する。(HD Syncのみ)

Monitoring>De-Squeeze

デスクイーズの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Ratio	<u>Off(1.0x)</u> / 1.3x / 1.5x / 1.8x / 2.0x	アナモフィックレンズでの撮影時に、指定した出力系統に表示する映像のデスクイーズ倍率を選択する。
SDI (Monitor FHD)	<u>On</u> / Off	Monitor FHD設定時に、SDI出力映像のデスクイーズ表示を行うかどうかを設定する。
HDMI (FHD Output)	<u>On</u> / Off	FHD出力画サイズのHDMI出力映像のデスクイーズ表示を行うかどうかを設定する。
LCD Monitor	<u>On</u> / Off	LCDモニター出力映像のデスクイーズ表示を行うかどうかを設定する。

Monitoring>Output Display

画面表示の出力設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
SDI	On / <u>Off</u>	SDI出力信号へのメニュー/ステータスなど、画面表示の重畳を設定する。
HDMI	On / <u>Off</u>	HDMI出力信号へのメニュー/ステータスなど、画面表示の重畠を設定する。

Monitoring>Display On/Off

画面表示項目の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Focus Mode	<u>On</u> / Off	LCDモニターに表示する項目を選択する。
Focus Position	<u>On</u> / Off	
Network Status	<u>On</u> / Off	
File Transfer Status	<u>On</u> / Off	
Rec/Play Status	Always On / <u>On</u> / Off	
SDI/HDMI Rec Control	<u>On</u> / Off	
Tally	<u>On</u> / Off	
Battery Remain	<u>On</u> / Off	
Zoom Position	<u>On</u> / Off	
Image Stabilization	<u>On</u> / Off	
Media Status	<u>On</u> / Off	
Lens Info	On / <u>Off</u>	
Look Name	<u>On</u> / Off	
UWP RF Level	<u>On</u> / Off	
Focus Area Indicator	<u>On</u> / Off	
Subject Recognition Frame	<u>On</u> / Off	
Clip Name	<u>On</u> / Off	
Video Level Warning	<u>On</u> / Off	
Timecode	<u>On</u> / Off	
Gamma Display Assist	<u>On</u> / Off	

Monitoring>Display On/Off 画面表示項目の設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Video Signal Monitor	<u>Off</u> / Waveform / Vector / Histogram	
Imager Scan Mode	<u>On</u> / Off	
Frame Rate	<u>On</u> / Off	
Rec Format	<u>On</u> / Off	
Rec Look	<u>On</u> / Off	
Level Gauge	<u>On</u> / Off	
Audio Level Meter	<u>On</u> / Off	
Auto Exposure Mode	<u>On</u> / Off	
Auto Exposure Level	<u>On</u> / Off	
ND Filter	<u>On</u> / Off	
Iris	<u>On</u> / Off	
ISO/Gain/EI	<u>On</u> / Off	
Base ISO/ Sensitivity	<u>On</u> / Off	
Shutter	<u>On</u> / Off	
White Balance	<u>On</u> / Off	
Clip Number	<u>On</u> / Off	
Notice Message	<u>On</u> / Off	
Monitoring>Marker マーカー表示の設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	<u>On</u> / Off	すべてのマーカー表示をまとめてOn/Offする。
Color	<u>White</u> / Yellow / Cyan / Green / Magenta / Red / Blue	マーカーの信号色を選択する。

Monitoring>Marker マーカー表示の設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Center Marker	1 / 2 / 3 / 4 / <u>Off</u>	センターマーカーを選択する。
Safety Zone	On / <u>Off</u>	セーフティゾーンマーカーをOn/Offする。
Safety Area	80% / <u>90%</u> / 92.5% / 95%	セーフティゾーンマーカーの大きさ(画面全体に対する比率)を選択する。
Aspect Marker	Line / Mask / <u>Off</u>	アスペクトマーカーの比を選択する。
Aspect Mask	0 ~ 15(<u>12</u>)	マーカー外側のビデオ信号のレベルを設定する。
Aspect Safety Zone	On / <u>Off</u>	アスペクトセーフティゾーンマーカーをOn/Offする。
Aspect Safety Area	80% / <u>90%</u> / 92.5% / 95%	アスペクトセーフティゾーンマーカーの大きさ(画面全体に対する比率)を選択する。
Aspect Select	1:1 / 4:3 / 13:9 / 14:9 / 15:9 / 16:9 / 17:9 / 1.66:1 / 1.85:1 / 2.35:1 / <u>2.39:1</u> / Custom	アスペクトマーカーを表示するときのモードを設定する。
Custom Aspect Ratio	任意の値を入力する(<u>01.00:01.00</u>)	アスペクト比を任意の値に設定する。 [ご注意] Aspect SelectでCustomを選択した場合に、この設定が有効になります。
Guide Frame	On / <u>Off</u>	ガイドフレーム表示をOn/Offする。
100% Marker	On / <u>Off</u>	100%マーカーをOn/Offする。
User Box	On / <u>Off</u>	ユーザボックスマーカーの表示をOn/Offする。
User Box Width	3 ~ 479(<u>240</u>)	ユーザボックスマーカーの幅(中心から左右端までの距離)を設定する。
User Box Height	3 ~ 269(<u>135</u>)	ユーザボックスマーカーの高さ(中心から上下端までの距離)を設定する。
User Box H Position	-476 ~ +476(<u>0</u>)	ユーザボックスマーカーの中心の水平位置を設定する。
User Box V Position	-266 ~ +266(<u>0</u>)	ユーザボックスマーカーの中心の垂直位置を設定する。

Monitoring>LCD Monitor Setting ビューファインダーの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Brightness	1 ~ 15(<u>8</u>)	ビューファインダー映像の明るさを調整する。
Color Mode	<u>Color</u> / B&W	E-E表示/記録時のビューファインダーの表示モードを選択する。

Monitoring>Gamma Display Assist ガンマ表示アシストの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	On / Off	Cine EIモードでBase LookがS-Log3時(初期値: Off)、またはCustomモードでTarget DisplayがHDR(HLG)時(初期値: On)のガンマ表示アシスト機能をOn/Offする。

Monitoring>Peaking ピーキングの設定を行います

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	On / <u>Off</u>	ピーキング機能をOn/Offする。
Peaking Level	High / <u>Mid</u> / Low	カラーピーキングの信号レベルを設定する。
Color	<u>B&W</u> / Red / Yellow / Blue	カラーピーキングの信号色を選択する。

Monitoring>Zebra ゼブラパターンの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	<u>Off</u> / Zebra1 / Zebra2	ゼブラ表示の種類(Off, ゼブラ1, ゼブラ2)を選択する。
Zebra1 Level	0% ~ 109%(<u>70%</u>)	ゼブラ1を表示するレベルを設定する。
Zebra1 Aperture Level	2% ~ 20%(<u>10%</u>)	ゼブラ1のアーチャーレベルを設定する。
Zebra2 Level	0% ~ 109%(<u>100%</u>)	ゼブラ2を表示するレベルを設定する。

Monitoring>Focus Magnifier ピント拡大の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Focus Mag	<u>LCD Monitor</u> / Output Button	アサインブルボタンで操作するピント拡大対象を設定する。

Audioメニュー

各メニュー項目の機能および設定値は以下のとおりです。

工場出荷時の初期設定値は、**太文字**(例：**18dB**)で示します。

「ブロックダイヤグラム」(139ページ)をあわせてご覧ください。

Audio>Audio Input

音声入力の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
CH1 Input Select	INPUT1 / Internal MIC / Shoe CH1	記録CH1に対する入力元を切り替える。
CH2 Input Select	INPUT1 / INPUT2 / Internal MIC / Shoe CH2	記録CH2に対する入力元を切り替える。
CH3 Input Select	Off / INPUT1 / Internal MIC / Shoe CH1	記録CH3に対する入力元を切り替える。
CH4 Input Select	Off / INPUT1 / INPUT2 / Internal MIC / Shoe CH2	記録CH4に対する入力元を切り替える。
INPUT1 MIC Reference	-80dB / -70dB / -60dB / -50dB / -40dB / -30dB	INPUT1からのXLRマイク入力に対するリファレンスレベルを設定する。
INPUT2 MIC Reference	-80dB / -70dB / -60dB / -50dB / -40dB / -30dB	INPUT2からのXLRマイク入力に対するリファレンスレベルを設定する。
Line Input Reference	+4dB / 0dB / -3dB / EBUL	INPUT1/INPUT2スイッチの設定がLINEの場合の基準入力レベルを選択する。
Reference Level	-20dB / -18dB / -16dB / -12dB / EBUL	基準入力レベルの1 kHz信号の記録レベルを選択する。
CH1 Wind Filter	On / Off	記録CH1に対する風音低減フィルターを設定する。
CH2 Wind Filter	On / Off	記録CH2に対する風音低減フィルターを設定する。
CH3 Wind Filter	On / Off	記録CH3に対する風音低減フィルターを設定する。
CH4 Wind Filter	On / Off	記録CH4に対する風音低減フィルターを設定する。
CH3 Level Control	Auto / Manual	記録CH3の音声入力レベル調整を自動にするか、手動にするかを設定する。

[ご注意]

CH3 Input Select、CH4 Input SelectがどちらもInternal MICに設定されている場合は、本設定に連動してCH4の自動・手動も切り替わります。

Audio>Audio Input

音声入力の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
CH4 Level Control	Auto / Manual	記録CH4の音声入力レベル調整を自動にするか、手動にするかを設定する。
CH3 Input Level	0 ~ 99(49)	[ご注意] CH3 Input Select、CH4 Input SelectがどちらもInternal MICに設定されている場合は、CH3 Level Controlの設定に連動してCH4の自動・手動も切り替わります。 記録CH3の入力レベルを設定する。
CH4 Input Level	0 ~ 99(49)	記録CH4の入力レベルを設定する。
Audio Input Level	0 ~ 99	音声入力レベルを設定する。 CH1 Level ~ CH4 Levelの設定に従って、マスター・ボリュームとして使用できます。
Limiter Mode	Off / -6dB / -9dB / -12dB / -15dB / -17dB	オーディオ入力レベルの手動調節時の大さな信号に対するリミッター特性を選択する。
CH1&2 AGC Mode	Mono / Stereo	記録CH1と記録CH2の自動レベル調整モードを設定する。Stereoに設定されているときは、CH間でAGCが連動する。
CH3&4 AGC Mode	Mono / Stereo	記録CH3と記録CH4の自動レベル調整モードを設定する。Stereoに設定されているときは、CH間でAGCが連動する。
AGC Spec	-6dB / -9dB / -12dB / -15dB / -17dB	AGC特性を選択する。
1kHz Tone on Color Bars	On / Off	カラーバー表示中の1 kHzの基準音声信号をOn/Offする。
		[ご注意] Onに設定すると、CH3 Input Select、CH4 Input SelectがOffの場合でも、1 kHzの基準音声信号を記録CH3、記録CH4に乗せます。

Audio>Audio Input 音声入力の設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
CH1 Level	XLRアダプター入力なし Audio Input Level / Side / <u>Level+Side</u> XLRアダプター入力あり(105ページ) <u>Audio Input Level</u> / Through	記録CH1の音声入力レベル調整の組み合わせを設定する。 [ご注意] Sideは本機側面のAUDIO LEVEL(CH1) ダイヤルを指します。Level+Sideを設定したときは Audio Input Level設定の割合とダイヤル設定の割合を掛け合わせた割合が録音レベルになります(139ページ)。
CH2 Level	XLRアダプター入力なし Audio Input Level / Side / <u>Level+Side</u> XLRアダプター入力あり(105ページ) <u>Audio Input Level</u> / Through	記録CH2の音声入力レベル調整の組み合わせを設定する。 [ご注意] Sideは本機側面のAUDIO LEVEL(CH2) ダイヤルを指します。Level+Sideを設定したときは Audio Input Level設定の割合とダイヤル設定の割合を掛け合わせた割合が録音レベルになります(139ページ)。
CH3 Level	XLRアダプター入力なし Audio Input Level / CH3 Input Level / <u>Level+CH3 Input Level</u> XLRアダプター入力あり(105ページ) <u>Audio Input Level</u> / Through	記録CH3の音声入力レベル調整の組み合わせを設定する。
CH4 Level	XLRアダプター入力なし Audio Input Level / CH4 Input Level / <u>Level+CH4 Input Level</u> XLRアダプター入力あり(105ページ) <u>Audio Input Level</u> / Through	記録CH4の音声入力レベル調整の組み合わせを設定する。

Audio>Audio Output 音声出力の設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Monitor CH	<u>CH1/CH2</u> / CH3/CH4 / MIX ALL / CH1 / CH2 / CH3 / CH4	ヘッドホン端子および内蔵スピーカーに出力する音声チャンネルを選択する。 [ご注意] 複数チャンネルの音声を同時出力する設定値を選択した場合は、音割れしないよう各チャンネルの出力レベルを下げて音声が outputされます。
Volume	<u>0</u> ~ 50	ヘッドホン端子および内蔵スピーカーのモニター音声レベルを調整する。
Headphone Out	<u>Mono</u> / Stereo	ヘッドホン端子をモノラル(Mono) 出力にするか、ステレオ(Stereo) 出力にするかを選択する。
Alarm Level	0 ~ 7(<u>4</u>)	警告音の音量を調整する。
HDMI Output CH	<u>CH1/CH2</u> / CH3/CH4	HDMIに出力される音声チャンネルの組み合わせを設定する。
SDI Out CH (Monitor FHD)	<u>CH1/CH2</u> / CH3/CH4	SDI出力フォーマットがMonitor FHDのときに、SDIに出力される音声チャンネルの組み合わせを設定する。

Clip Operationsメニュー

各メニュー項目の機能および設定値は以下のとおりです。

工場出荷時の初期設定値は、太文字(例：18dB)で示します。

Clip Operations	
メニュー項目	細目と設定値
Display Clip Properties	クリップ詳細情報画面を開く。
Clip Operations>Set Clip Flag クリップフラグの編集を行います。	メニュー項目 細目と設定値
Add OK	OKフラグを付ける。
Add NG	NGフラグを付ける。
Add KEEP	Keepフラグを付ける。
Delete Clip Flag	すべてのフラグを外す。
Clip Operations>Lock/Unlock Clip クリップの保護設定を行います。	メニュー項目 細目と設定値
Select Clip	保護/保護解除するクリップを選択して実行する。
Lock All Clips	すべてのクリップを保護する。
Unlock All Clips	すべてのクリップを保護解除する。
Clip Operations>Transfer Clip クリップを転送します。	メニュー項目 紆日と設定値
Select Clip	任意のクリップを転送する。
All Clips	クリップを一括転送する。

Clip Operations>Transfer Clip (Proxy)

プロキシクリップを転送します。

[ご注意]

NetworkメニューのNetwork Setupでパスワードを設定していない場合、Transfer Clip (Proxy)は設定できません。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Select Clip	任意のクリップに対応しているプロキシクリップを転送する。	メニュー項目 細目と設定値
All Clips	クリップに対応するプロキシクリップを一括転送する。	Clip Operations>Filter Clips 表示するクリップの設定を行います。
		[ご注意] 転送できるクリップの上限は200件です。
		Clip Operations>Customize View クリップ一覧画面の表示を切り替えます。
Clips	<u>Clip Name</u> / Date Time / Time Code / Duration / Sequential Number	メニュー項目 細目と設定値
Caption	クリップ画像直下の表示内容を切り替える。	内容

Technicalメニュー

各メニュー項目の機能および設定値は以下のとおりです。

工場出荷時の初期設定値は、太文字(例：18dB)で示します。

Technical>Color Bars

カラーバーの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	On / <u>Off</u>	カラーバーをOn/Offする。 [メモ] イメージヤースキャンモードがS35 4.3K 4:3のときはOnにできません。
Type	<u>ARIB</u> / 100% / 75% / SMPTE	カラーバーの種類を選択する。

Technical>ND Dial

ND VARIABLEダイヤルの操作に関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
CLEAR with Dial	<u>On</u> / Off	ND VARIABLEダイヤルの操作でNDの状態遷移(CLEAR↔On)を可能にするかどうか設定する。

Technical>Rec/Tally

記録/タリーランプの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Rec/Tally Lamp	<u>On</u> / Off	記録/タリーランプをOn/Offする。

Tally Control

REMOTE / External / <u>Internal</u>	Tally/Call制御情報を受け付ける対象を選択する。
REMOTE:	REMOTE端子(6ページ)に接続されている機器からのTally制御
External:	外部機器からのTally/Call制御
Internal:	カメラの設定および状態による制御

Rec Start/ Stop Beep	<u>0</u> ~ 50	記録開始、終了時のビープ音の音量を調整する。
----------------------	---------------	------------------------

Technical>LOCK Switch Settings

ロックスイッチの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
with Rec Button	<u>On</u> / Off	REC(記録開始／記録停止)ボタンをロックの対象にするか非対象にするかを設定する。

Technical>LOCK Switch Settings

ロックスイッチの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
with Hand Grip Remote	<u>On</u> / Off	グリップリモコンによる操作をロックの対象にするか非対象にするかを設定する。
with LCD Monitor	<u>On</u> / Off	LCDモニターのボタンをロックの対象にするか非対象にするかを設定する。

Technical>Touch Operation

タッチ操作に関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	<u>On</u> / Off	タッチ操作をOn/Offする。

Technical>Rec Review

レックレビューの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	3 s / 10 s / <u>Clip</u>	レックレビューで直前に記録したクリップを再生する時間を選択する。

Technical>Zoom

ズームの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Zoom Type	<u>Optical Zoom Only</u> / On(Clear Image Zoom)	ズームの種類を設定する。 Optical Zoom Only: レンズを動かすことにより、光学的なズームを行う On(Clear Image Zoom): 画質劣化が少ない、電子的なズームを行う

Technical>Handle Zoom

別売のMIシュー搭載ハンドルにあるハンドルズームの設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	Off / Low / High / <u>Variable</u>	ハンドルズームスピードを設定する。
High	1 ~ 8(<u>8</u>)	ハンドルズームスピードHigh選択時、ハンドルズームレバーを押したときのズームスピードを設定する。

Technical>Handle Zoom 別売のMIシュー搭載ハンドルにあるハンドルズームの設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Low	1 ~ 8(3)	ハンドルズームスピードLow選択時、ハンドルズームレバーを押したときのズームスピードを設定する。 [ご注意] ズームスピードが低速のときにズーミングにムラが出ることがあります。
Technical>Menu Settings メニューに関する設定を行います。		
メニュー項目 細目と設定値		
User Menu Only	On / <u>Off</u>	メニューを表示したときに、Userメニューだけを表示するか(On)、メニューリストを表示するか(Off)を設定する。
User Menu with Lock	On / <u>Off</u>	メニュー表示にロックをかけて、Userメニューだけの表示にするかどうかを設定する。 [ご注意] 通常のメニュー表示操作では表示されません。メニュー表示の操作方法は、34ページをご覧ください。
Technical>Menu Page On/Off ステータス画面の表示に関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Project	<u>On</u> / Off	プロジェクトステータス画面の表示をOn/Offする。
Audio	<u>On</u> / Off	オーディオステータス画面の表示をOn/Offする。
Monitoring	<u>On</u> / Off	モニタリングステータス画面の表示をOn/Offする。
Assignable Button	<u>On</u> / Off	アサインブルボタンステータス画面の表示をOn/Offする。
Information	<u>On</u> / Off	インフォメーション画面の表示をOn/Offする。
Media	<u>On</u> / Off	メディアステータス画面の表示をOn/Offする。

Technical>Menu Page On/Off ステータス画面の表示に関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Network	<u>On</u> / Off	ネットワークステータス画面の表示をOn/Offする。
File Transfer	<u>On</u> / Off	ファイル転送ステータス画面の表示をOn/Offする。
Technical>RCP リモートコントロールパネルに関する設定を行います		
メニュー項目	細目と設定値	内容
CNS Mode	<u>Off</u> / Bridge	リモートコントロールパネルとのBridgeモード接続を許可するかどうかを設定する。
Technical>Fan Control ファン制御モードの設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	<u>Auto</u> / Minimum / Off in Rec	本機のファン制御モードを設定する。 [ご注意] Off in Recを選択していても、本機の内部温度が一定温度を超えるとファンが回転します。
Technical>Lens レンズに関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
PL-Mt Interface Position	<u>Top</u> / Side / Off	PLマウントレンズのインターフェース位置を設定する。
PL-Mt Voltage	<u>10 V → 24 V</u> / 24V	PLマウントレンズへの通電方式を設定する。
Zoom Ring Direction	<u>Left(W)/Right(T)</u> / Right(W)/Left(T)	ズームリングの操作方向を設定する。 [ご注意] ズームリングの操作方向切り替えに対応したEマウントレンズ使用時のみ設定できます。

Technical>Lens

レンズに関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Shading Compensation	Auto / Auto(Low) / Off	対応レンズが装着されている場合に自動周辺光量補正を設定する。
		<p>[ご注意]</p> <ul style="list-style-type: none"> レンズによっては、Shading Compensationを設定しても周辺光量が補正しきれない場合があります。 レンズによっては、AutoとAuto(Low)で補正効果に差が出ないことがあります。
Chroma Aberration Comp.	Auto / Off	対応レンズが装着されている場合に自動倍率色収差補正を設定する。
Distortion Comp.	Auto / Off	自動歪曲収差補正を設定する。
		<p>[ご注意]</p> <p>Shootingメニュー > Image StabilizationのSteadyShot(43ページ)をActiveに設定すると、Distortion Comp.はAutoになります。</p>
Breathing Compensation	Auto / Off	レンズのブリージング補正を設定する。
Distance Display	Meter / Feet	レンズ情報とフォーカスポジションの表示単位を設定する。
Zoom Position Display	Focal Length / Number / Bar	ズーム位置の表示形式を設定する。
		<p>[ご注意]</p> <p>情報表示モードのときは、Zoom Position DisplayがBarに設定されてもNumberの表示になります。</p>

Technical>Video Light Set

ビデオライトの点灯方式を設定します。HVL-LBPC(別売) 使用時のみ有効な設定です。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Video Light Set	Power Link / Rec Link / Rec Link + Stby	マルチインターフェースキーに取り付けるビデオライトの点灯方式を設定する。
	Power Link :	本機の電源の入/切に連動してビデオライトが点灯/消灯する。
	Rec Link :	本機の録画開始/終了に連動してビデオライトが点灯/消灯する。
	Rec Link + Stby :	本機の録画開始/終了に連動してビデオライトが点灯/スタンバイ点灯する。

Technical>APR

APRを実行します。

メニュー項目	細目と設定値	内容
APR	Execute / Cancel	APR(Auto Pixel Restoration : イメージセンサーの自動調整)を実行する。
	Execute :	実行

[ご注意]
確実な遮光するために、キャップを取り付けて、さらに黒い布で周囲を覆ってください。

Technical>Camera Battery Alarm

バッテリーの電圧低下警告の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Near End:Info Battery	5% ~ 100%(5%刻み)	インフォバッテリー使用時にバッテリー残量表示が点滅するしきい値を設定する。
End:Info Battery	0% ~ 5%	インフォバッテリー使用時に「Battery End」を表示するしきい値を設定する。
Near End:Sony Battery	11.5V ~ 17.0V(0.1V刻み)	ソニー製の非インフォバッテリー使用時にバッテリー残量表示が点滅するしきい値を設定する。
End:Sony Battery	11.0V ~ 12.5V(0.1V刻み)	ソニー製の非インフォバッテリー使用時に「Battery End」を表示するしきい値を設定する。

Technical>Camera Battery Alarm

バッテリーの電圧低下警告の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Near End:Other Battery	11.5V ~ 17.0V(11.8V) (0.1V刻み)	ソニー製以外のバッテリー使用時にバッテリー残量表示が点滅するしきい値を設定する。
End:Other Battery	11.0V ~ 14.0V(0.1V刻み)	ソニー製以外のバッテリー使用時に「Battery End」を表示するしきい値を設定する。
Detected Battery	Sony Info Battery / Sony Battery / Other Battery / DC IN	バッテリーの種類を自動判別した結果を表示する。

Technical>Camera DC IN Alarm

入力電圧警告の設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
DC Low Voltage1	11.5V ~ 17.0V(0.1V刻み)	DC INへの入力電圧の低下警告を表示する電圧を設定する。
DC Low Voltage2	11.0V ~ 14.0V(0.1V刻み)	DC INへの入力電圧の不足警告を表示する電圧を設定する。

Networkメニュー

各メニュー項目の機能および設定値は以下のとおりです。

工場出荷時の初期設定値は、太文字(例：18dB)で示します。

Network>Network Setup

ネットワークに関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Setup for Mobile App		ネットワーク設定支援ツールを起動する。
User Name		アクセス認証のためのユーザー名を設定する。
Input Password		アクセス認証のためのパスワードを設定する。 [ご注意] セキュリティの観点から、パスワードには他人に推測されにくく充分な長さのある文字列を設定し、厳重に保管することを推奨します。
Generate Password	Execute / Cancel	アクセス認証のためのパスワードを自動生成する。 Execute : 実行
Show Authentication		アクセス認証のユーザー名パスワードをテキストとQRコードで表示する。
LAN Type Select	WLAN (AP Mode) / WLAN (ST Mode) / Wired LAN / <u>Off</u>	LANの接続方法を設定する。

Network>Wireless LAN

ワイヤレスLAN接続に関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
WPS	Execute / Cancel	WPS(Wi-Fi Protected Setup)による接続設定を開始する。 Execute : 実行 [ご注意] セキュリティ設定されていない機器とWPSで接続設定することはできません。
MAC Address		本機のワイヤレスLANインターフェースのMACアドレスを表示する。

Network>AP Mode Settings

アクセスポイントモードでの接続に関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Channel	Auto(5GHz) / <u>Auto</u> / CH1 / CH2 / CH3 / CH4 / CH5 / CH6 / CH7 / CH8 / CH9 / CH10 / CH11	ワイヤレスLANのチャンネルを設定する。
Camera SSID & Password		本機のSSIDとパスワードを表示する。
Regenerate Password	Execute / Cancel	パスワードを再生成する。 Execute : 実行
IP Address		本機のアクセスポイントモードでのIPアドレスを表示する。
Subnet Mask		本機のアクセスポイントモードでのサブネットマスクを表示する。

Network>ST Mode Settings ステーションモードでの接続に関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Camera Remote Control	<u>Enable / Disable</u>	ステーションモードで本機とワイヤレス LAN接続されている操作用デバイスからのリモートコントロールを許可するかどうかを設定する。
Connected Network		接続中のワイヤレスLANネットワーク(アクセスポイント)を表示する。
SSID		接続先アクセスポイントのSSIDを表示する。
Security		接続先アクセスポイントのセキュリティ種別を表示する。
Password		接続先アクセスポイントのパスワードを表示する。 セキュリティがWPA2またはWPA3時: ***** セキュリティがNone時:空欄
DHCP		DHCPの有効(On)、無効(Off)を表示する。
IP Address		本機のIPアドレスを表示する。
Subnet Mask		本機のサブネットマスクを表示する。
Gateway		本機のデフォルトゲートウェイを表示する。
DNS Auto		DNS自動取得のON/OFFを表示する。
Primary DNS Server		本機のプライマリー DNSサーバーを表示する。
Secondary DNS Server		本機のセカンダリー DNSサーバーを表示する。

Network>ST Mode Settings ステーションモードでの接続に関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Scan Networks		ワイヤレスLANネットワーク(アクセスポイント)を検出し、リスト表示する。リストから接続先を選択し、接続する。
SSID		接続先アクセスポイントのSSIDを表示する。
Security		接続先アクセスポイントのセキュリティ種別を表示する。
Password		接続先アクセスポイントのパスワードを入力する。
[ご注意] WPA2の場合、入力可能な文字数は8文字～63文字です。WPA3の場合、入力可能な文字数は8文字～128文字です。また、入力可能な文字は以下です。 英字(大文字・小文字)、数字、記号(- . @ _ ! " # \$ % & ' * + , / : ; < = > ? [\] ^ ` { } ~)		
DHCP	<u>On / Off</u>	DHCPの有効(On)、無効(Off)を設定する。
IP Address		DHCPがOffのときに本機のIPアドレスを入力する。
Subnet Mask		DHCPがOffのときに本機のサブネットマスクを入力する。
Gateway		DHCPがOffのときに本機のデフォルトゲートウェイを入力する。
DNS Auto	<u>On / Off</u>	DNS自動取得をOn/Offする。
Primary DNS Server		DNS AutoがOffのときに本機のプライマリー DNSサーバーを入力する。
Secondary DNS Server		DNS AutoがOffのときに本機のセカンダリー DNSサーバーを入力する。

Network>ST Mode Settings ステーションモードでの接続に関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Manual Register	SSID	アクセスポイントと手動接続する。 接続先アクセスポイントのSSIDを入力する。 [ご注意] 入力可能な文字数は1文字～32文字です。また、入力可能な文字は以下です。 英字(大文字・小文字)、数字、記号(- . @ _ () ! " # \$ % & ' * + , / : ; < = > ? [\] ^ ` { } ~)
Security	None / <u>WPA2</u> / WPA3	接続先アクセスポイントのセキュリティ種別を設定する。 [ご注意] <ul style="list-style-type: none"> 本機は、セキュリティ設定がWPA3-SAE、WPA2-PSK (AES)、または、セキュリティ設定なしのアクセスポイントに接続することが可能です。セキュアな無線LAN接続を実現するために、セキュリティ設定がWPA3またはWPA2のアクセスポイントを使用することを、強く推奨します。 セキュリティ方式は初期状態でWPA2が選択されています。 セキュリティ設定なしのアクセスポイントに接続すると、ハッキングや悪意ある第三者からのアクセス、脆弱性への攻撃を受ける可能性があります。特別な理由がある場合以外は、セキュリティ設定なしでの使用は推奨しません。 無線LANではセキュリティの設定をすることが非常に重要です。セキュリティ対策を施さなかった場合、あるいは無線LANの使用上やむを得ない事情により、セキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。

Network>ST Mode Settings ステーションモードでの接続に関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Manual Register	Password	接続先アクセスポイントのパスワードを入力する。 [ご注意] WPA2の場合、入力可能な文字数は8文字～63文字です。WPA3の場合、入力可能な文字数は8文字～128文字です。また、入力可能な文字は以下です。 英字(大文字・小文字)、数字、記号(- . @ _ () ! " # \$ % & ' * + , / : ; < = > ? [\] ^ ` { } ~)
DHCP	<u>On</u> / Off	DHCPの有効(On)、無効(Off)を設定する。
IP Address		DHCPがOffのときに本機のIPアドレスを入力する。
Subnet Mask		DHCPがOffのときに本機のサブネットマスクを入力する。
Gateway		DHCPがOffのときにデフォルトのゲートウェイを入力する。
DNS Auto	<u>On</u> / Off	DNS自動取得をOn/Offする。
Primary DNS Server		DNS AutoがOffのときにプライマリDNSサーバーを入力する。
Secondary DNS Server		DNS AutoがOffのときにセカンダリDNSサーバーを入力する。

Network>Wired LAN 有線LAN接続に関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Camera Remote Control	Enable / <u>Disable</u>	本機と有線LAN接続されている操作用デバイスからのリモートコントロールを許可するかどうかを設定する。
Detail Settings		有線LAN接続の詳細設定を行う。
DHCP	<u>On</u> / Off	DHCPの有効(On)、無効(Off)を設定する。
IP Address		DHCPがOffのときに本機のIPアドレスを入力する。
Subnet Mask		DHCPがOffのときに本機のサブネットマスクを入力する。
Gateway		DHCPがOffのときにデフォルトのゲートウェイを入力する。
DNS Auto	<u>On</u> / Off	DNS自動取得をOn/Offする。
Primary DNS Server		DNS AutoがOffのときにプライマリDNSサーバーを入力する。
Secondary DNS Server		DNS AutoがOffのときにセカンダリDNSサーバーを入力する。
MAC Address		本機に搭載されている有線LANのMACアドレスを表示する。
Network>USB Tethering USBテザリングの使用に関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Setting	On / <u>Off</u>	スマートフォン接続の有効(On)、無効(Off)を設定する。
Camera Remote Control	Enable / <u>Disable</u>	スマートフォンアプリであるMonitor & ControlやCreators' App for enterpriseなど、USBテザリング経由でのリモートコントロールの可否を設定する。
Device Name		スマートフォンのDevice Nameを表示する。
IP Address		本機のIPアドレスを表示する。
Subnet Mask		本機のサブネットマスクを表示する。

Network>File Transfer ファイルの転送に関する設定を行います。		
メニュー項目	細目と設定値	内容
Auto Upload	On / <u>Off</u>	オリジナルクリップの自動転送をOn/Offする。 [ご注意] Projectメニュー >Simul RecのSetting(45ページ) がOnに設定されている場合は、スロットBのメディア上に記録されるクリップは、自動転送の対象にはなりません。
Auto Upload	On / <u>Off</u> (Proxy)	On: プロキシクリップの自動転送を有効にする。 Off: プロキシクリップの自動転送を無効にする。
Default Upload Server		ファイルの転送先サーバーを選択する。ここで選択したサーバーは、オリジナルクリップやプロキシクリップの自動転送先、およびクリップ一覧画面からのファイル転送先のサーバーになる。 Server Settings 1 ~ 3で設定したDisplay Nameを表示する。
Clear Completed Jobs	Execute / Cancel	転送完了済みのジョブをリストからクリアする。 Execute : 実行
Clear All Jobs	Execute / Cancel	すべての転送ジョブをリストからクリアする。 Execute : 実行
View Job List		転送ジョブ一覧を表示する。

Network>File Transfer

ファイルの転送に関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Server Settings1	Display Name Service <u>FTP</u>	転送先設定のメニュー上の表示名を入力する。 サーバーの種類を表示する。
	Host Name	転送先サーバーのホスト名を設定する。
	Port(1 ~ 65535) <u>(21)</u>	転送先サーバーのポート番号を設定する。
	User Name	転送先サーバー接続の認証用ユーザー名を設定する。
	Password	転送先サーバー接続の認証パスワードを設定する。
	Passive Mode On / <u>Off (Active Mode)</u>	PASVモードをOn/Offする。
	Destination Directory	転送先のディレクトリ名を入力する。
	Using Secure Protocol On / <u>Off</u>	セキュアなFTP転送(FTPSのExplicit Mode : FTPES)を行うか(On)、行わないか(Off)を設定する。
	Root Certificate Load / Clear / <u>None</u>	セキュアなFTP転送ためのルート証明書の読み込み、削除を設定する。
	Root Certificate Status Loaded / <u>No Certificate</u>	セキュアなFTP転送ためのルート証明書の読み込み状態を表示する。
	Reset Execute / Cancel	Server Settingsの設定を初期値に戻す。 Execute : 実行
Server Settings2	Server Settings 1と同じ	
Server Settings3	Server Settings 1と同じ	

Network>Network Reset

ネットワークの設定をリセットします。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Reset	Execute / Cancel	ネットワークの設定をリセットする。 Execute : 実行

Maintenanceメニュー

各メニュー項目の機能および設定値は以下のとおりです。

工場出荷時の初期設定値は、太文字(例：18dB)で示します。

Maintenance>Language

表示する言語を設定します。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Select		表示する言語を設定する。 SET: 実行

Maintenance>Clock Set

内蔵時計に関する設定を行います。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Time Zone	UTC -12:00 ~ UTC +14:00	UTCからの時差を30分単位で設定する。
Date Mode	<u>YYMMDD</u> / MMDDYY / DDMMYY	年月日の表示方式を選択する。 YYMMDD: 年月日の順 MMDDYY: 月日年の順 DDMMYY: 日年の順
12h/24h	12h / <u>24h</u>	時刻の表示形式を選択する。 12h: 12時間表示 24h: 24時間表示

Date

現在の日付を設定する。

SET: 決定

Time

現在の時刻を設定する。

SET: 決定

Maintenance>All Reset

工場出荷時の状態にリセットします。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Reset	Execute / Cancel	工場出荷時の状態へのリセットを実行する。 Execute: 実行

[ご注意]

Paint/LookメニューのBase LookのImport from Utility SD, Import from Cloud(Private)およびImport from Cloud(Share)(51ページ)でインポートした3D LUTファイルは削除されません。インポートした3D LUTファイルを削除する場合は、Paint/LookメニューのBase LookのDelete All (51ページ)を実行してください。

Maintenance>All Reset

工場出荷時の状態にリセットします。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Reset	Execute / Cancel without Network	Networkメニュー以下の設定を除いたメニュー設定値を工場出荷状態にリセットする。
Reset to Factory Defaults	Execute / Cancel	すべての設定やファイルを削除し、工場出荷状態に戻す。

Maintenance>Hours Meter

積算時間を表示します。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Hours (System)		積算使用時間(リセット不可)を表示する。
Hours (Reset)		積算使用時間(リセット可)を表示する。
Reset	Execute / Cancel	Hours(Reset)表示を0にリセットする。 Execute: 実行

Maintenance>Version

バージョンを表示します。

メニュー項目	細目と設定値	内容
Version Number	Vx.xx	本機のソフトウェアバージョンを表示する。
Version Up	Execute / Cancel	本機をバージョンアップ*する。 Execute: 実行 * バージョンアップは本機のソフトウェアをアップデートする機能です。
Lens Version Number	Vxx	Eマウントレンズのソフトウェアバージョン番号を表示する。

撮影モードごとの画質に関する設定状態の保存について

画質に関する設定項目は、現在の設定状態が保持されますが、項目によって以下の撮影モードごとに保存される項目と共に保存される項目があります。個別に保存されている項目は、撮影モードを切り替えると、切り替え後の撮影モードで保持されている設定状態が適用されます。

- Cine EIモード
- CustomモードのSDR(BT.709)
- CustomモードのHDR(HLG)

画質に関する各設定について撮影モードごとの保存状態は以下のようになっています。

✓ : 保存(撮影モード間でまたがっている場合は共通の内容)

－ : 該当撮影モードでは無効

設定項目		撮影モード			
		Cine EIモード		Customモード	
		SDR(BT.709)	HDR(HLG)		
Shootingメニュー	ISO/Gain/EI	ISO/Gain	－	✓ ¹⁾	
		Exposure Index	✓	－	
		Base Sensitivity	－	✓	
		Base ISO	✓	－	
	White	White		✓	
		White Setting		✓	
		LUT On/Off	✓	－	
	Noise Suppression	Setting(Custom)	－	✓	✓
		Level(Custom)	－	✓	✓
		Setting(Cine EI)	✓	－	
		Level(Cine EI)	✓	－	
Paint/Lookメニュー	Base Look	Select	✓	✓	✓
		Input ²⁾		✓	
		Output ²⁾		✓	
		AE Level Offset ²⁾		✓	
	Black	－	✓	✓	✓
		Auto Knee	－	✓	✓
		上記以外	－	✓	✓
	Detail	－	✓	✓	✓
	Matrix	－	✓	✓	✓
	Multi Matrix	－	✓	✓	✓

1) ISO感度については、CustomモードのSDR(BT.709)、HDR(HLG)で設定値が個別に保存される場合があります。

2) 設定値はBase Lookごとに保持されており、各撮影モードには依存しません。

設定データの保存と読み込み

設定データ

フルメニューの設定内容を、SDカードに保存することができます。また、Allファイルをクラウドサービスに保存することができます。このデータを使って適切なセットアップ状態をすばやく再現できます。

設定データは、次のように分類されて保存されます。

User File(ユーザーファイル)

カスタマイズしたUserメニューの設定項目と設定データを保存します。

SDカードに64個まで保存することができます。このファイルを本機のメモリーに読み込むことにより、Userメニューをカスタマイズした状態にセットアップすることができます。

All File(ALLファイル)

全メニューの設定データを保存します。SDカードに64個まで保存することができます。C3 Portal(クラウドサービス)には、個人60個までと共に60個までの計120個まで保存することができます。

【ご注意】

Allファイルに保存される内容については「ファイルに保存される項目」(131ページ)をご覧ください。

ユーザーファイル、Allファイルを保存する

SDカードに保存する

- 1 SDカードをUtility SDカードスロット(4ページ)に差し込む。
- 2 ユーザーファイルの場合は、フルメニューのProjectメニュー >User FileのSave to UTILITY SD(49ページ)で、Executeを選択する。
Allファイルの場合は、フルメニューのProjectメニュー >All FileのSave to UTILITY SD(49ページ)で、Executeを選択する。
ファイルの保存先画面が表示されます。
- 3 保存先画面のNo Fileの行を選択する。File IDが記載されている行を選択すると、そのファイルに上書きされます。
保存する際に付けられるFile IDはメニューで変更できます。設定方法については「File IDを変更するには」(74ページ)をご覧ください。
- 4 確認画面のExecuteを選択する。

Allファイルをクラウドサービスに保存する

- 1 本機をスマートフォンアプリ「Creators' App for enterprise」に接続する(86ページ)。

- 2 フルメニューのProjectメニュー >All File のSave to Cloud(Private)またはSave to Cloud(Share)(49ページ)で、Executeを選択する。
ファイルの保存先画面が表示されます。

- 3 保存先画面のNo Fileの行を選択する。File IDが記載されている行を選択すると、そのファイルに上書きされます。
保存する際に付けられるFile IDはメニューで変更できます。設定方法については「File IDを変更するには」(74ページ)をご覧ください。

- 4 確認画面のExecuteを選択する。

- 2 ユーザーファイルの場合は、フルメニューのProjectメニュー >User FileのLoad from UTILITY SD(49ページ)で、Executeを選択する。

- ALLファイルの場合は、フルメニューのProjectメニュー >All FileのLoad from UTILITY SD(49ページ)で、Executeを選択する。
ファイルの一覧画面が表示されます。

- 3 読み込むファイルを選択する。
確認画面が表示されます。

- 4 Executeを選択する。

【ご注意】

- 設定データを読み込むと、本機は自動的に再起動されます。
- フルメニューのProjectメニュー >All FileのLoad Network DataがOffの場合は、Networkメニューの設定項目を除いたAllファイルを読み込みます。

Allファイルをクラウドサービスから読み込む

【ご注意】

ユーザーファイルを読み込んだ際に各設定間での整合性を担保するために、ユーザーファイルに関する設定以外の設定値が自動的に変化する場合があります。

SDカードから読み込む

- 1 ファイルを保存したSDカードをUtility SDカードスロット(4ページ)に差し込む。

- 1 本機をスマートフォンアプリ「Creators' App for enterprise」に接続する(86ページ)。

- 2 フルメニューのProjectメニュー >All File のLoad from Cloud(Private)またはLoad from Cloud(Share)(49ページ)で、Executeを選択する。
ファイルの一覧画面が表示されます。

- 3 読み込むファイルを選択する。
確認画面が表示されます。

4 Executeを選択する。

[ご注意]

- 設定データを読み込むと、本機は自動的に再起動されます。
- フルメニューのProjectメニュー >All FileのLoad Network DataがOffの場合は、Networkメニューの設定項目を除いたALLファイルを読み込みます。

File IDを変更するには

1 ユーザーファイルの場合は、フルメニューのProjectメニューのUser Fileで、File ID(49ページ)を選択する。

ALLファイルの場合は、フルメニューのProjectメニューのAll Fileで、File ID(49ページ)を選択する。

File IDの編集画面が表示されます。

2 マルチセレクター(9ページ)またはマルチファンクションダイヤル(4ページ)で文字を選択し、マルチセレクターの決定ボタンまたはマルチファンクションダイヤルを押す。

3 手順2を繰り返す。

4 文字の入力が終了したら、Doneを選択する。

クリップ操作

CLIPSボタン(4ページ)を押すと、メモリーカードに収録されているクリップが、クリップ一覧画面に表示されます。

クリップ一覧画面で選択したクリップを再生することができます。クリップ一覧画面ではフルメニューのClip Operationsメニューを使用してクリップの操作や詳細情報の確認などが可能です。情報表示モードのときは、LCDモニターで再生操作をすることができます(再生操作画面)。

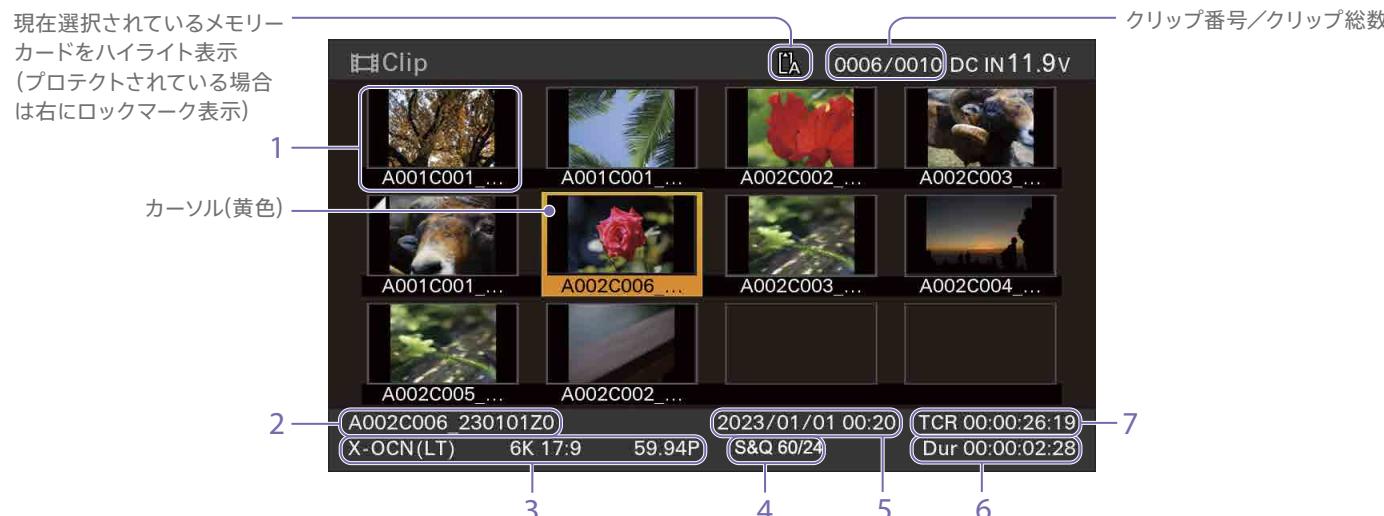
CLIPSボタンを押すと、クリップ一覧画面を終了し、撮影画面に戻ります。

[ご注意]

- クリップ一覧画面には、現在選択している記録フォーマットで収録されたクリップのみが表示されます。収録したはずのクリップが表示されないときは、記録フォーマットをご確認ください。また、メディアのフォーマット(初期化)などを行う際にはご注意ください。
- クリップ一覧画面を開いている状態で、フルメニューでパスワード関連の設定を開くと、外部モニターにメニューページが表示されますのでご注意ください。

クリップ一覧画面

画面下部には、カーソル位置のクリップの情報が表示されます。



1. サムネイル(縮小画)

各クリップの代表画像です。記録時にはクリップの先頭フレームが自動的に代表画に設定されます。サムネイルの下にはクリップ／フレーム情報が表示されます。フルメニューのClip Operationsメニュー >Customize View(61ページ) の Clips Captionで表示内容を変更できます。また、クリップの状態がアイコンで表示されます。

アイコン	意味
（再生不可）	再生できないクリップ

[ご注意]

X-OCN(LT)フォーマットでは代表画像は表示されず、「X-OCN」の文字が表示されます。

2. クリップ名

選択されているクリップのクリップ名が表示されます。

3. 記録時のビデオフォーマット

選択したクリップのファイルフォーマットが表示されます。

4. 特殊記録撮影情報

特殊記録モードで記録されたクリップの場合のみ、そのモードが表示されます。

スロー＆クイックモーション記録されたクリップの場合は、右側にフレームレートが表示されます。

5. 作成日時

6. クリップの収録時間(Duration)

7. タイムコード

再生操作画面

LCDモニターが情報表示モードの場合は、クリップ一覧画面で再生するクリップを選択すると、再生操作画面が表示されます。機能表示部はタッチ操作に対応しています。

機能表示部



[ご注意]

1～6に表示される各項目はITEMボタン1～6にそれぞれ対応しています。ITEMボタンを押すと、対応する項目の操作ができます。

1. F Revボタン

逆方向に高速再生します。

押した回数に応じて3段变速します。

2. Play/Pauseボタン

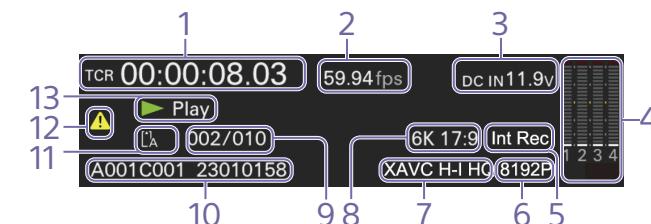
クリップの再生または再生を一時停止します。

3. F Fwdボタン

順方向に高速再生します。

押した回数に応じて3段变速します。

ステータス表示部



1. タイムデータ表示

再生位置のタイムコードが表示されます。

2. フレームレート表示

再生クリップのフレームレートが表示されます。

3. 電源電圧/バッテリー残量表示

電源電圧またはバッテリー残量が表示されます。

4. 音声レベルメーター

再生音声レベルが表示されます。

5. 特殊記録

再生クリップの特殊記録情報が表示されます。

6. 画像解像度表示

画像解像度が表示されます。

7. コーデック名表示

コーデック名が表示されます。

8. 画像サイズ表示

画サイズが表示されます。

9. クリップ番号/クリップ総数表示

再生中のクリップ番号／再生可能なクリップ総数が表示されます。

10. クリップ名表示

クリップ名が表示されます。

11. メディア表示

再生しているメディアが表示されます。

メモリーカードがプロテクトされている場合は、右に (プロテクト) アイコンが表示されます。

12. 警告/エラーアイコン

警告またはエラーがあるときに表示されます。

メニューを表示させると、警告またはエラーの内容が確認できます。外部モニターに画面表示を重畠している場合は、外部モニターでも確認できます。

13. 再生動作状態表示

再生動作状態が表示されます。

Clip Operationsメニューの操作方法

MENUボタンを長押ししてClip Operationsを選択すると、Clip Operationsメニュー(61ページ)が表示されます。

マルチセレクター(5ページ)またはマルチファンクションダイヤル(4ページ)を操作して機能を選択し、マルチセレクターの決定ボタンまたはマルチファンクションダイヤルを押してください。

BACKボタン(4ページ)を押すと、操作前の画面に戻ります。

[ご注意]

メニューを表示させたときの状態によって選択できない項目があります。

クリップの詳細情報画面を表示する

Clip OperationsメニューのDisplay Clip Properties(61ページ)を選択すると、クリップの詳細情報画面を表示されます。

マルチセレクターの左ボタン/右ボタンを押すと、前後のクリップへ移動することができます。

クリップフラグを付ける

クリップにクリップフラグ(OK、NG、KPマーク)を付けると、クリップフラグを基準にクリップを絞り込んで表示することができます。

クリップフラグを付けたいクリップを選択し、フルメニューのClip OperationsメニューのSet Clip Flag(61ページ)からクリップフラグを選びます。

設定値	付加されるクリップフラグ
Add OK	OK

設定値	付加されるクリップフラグ
Add NG	NG
Add KEEP	KP

フィルタードクリップ一覧画面を表示する

フルメニューのClip OperationsメニューのFilter Clips(61ページ)で表示したいフラグを選ぶと、指定したフラグの付いているクリップのみを表示することができます。

すべてのクリップを表示するには、Allを選んでください。

[メモ]

DISPLAYボタンでフィルターを順に切り替えることができます。

クリップ一覧画面の情報を変更する

サムネイルの下に表示されるクリップ/フレーム情報を変更します。

フルメニューのClip OperationsメニューのCustomize View>Clips Captionから、表示したい内容を選びます。

Clip Name:

クリップ名

Date Time:

作成日時または最終変更日時

Time Code:

タイムコード

Duration:

収録時間

Sequential Number:

サムネイル番号

再生

本機が記録停止中(Stby)のときは、記録したクリップを再生することができます。

- 1 再生するメモリーカードを入れる。
- 2 CLIPSボタン(4ページ)を押す。
LCDモニターに再生アクティブなメディアのクリップ一覧画面が表示されます。
- 3 マルチセレクター(5ページ)またはマルチファンクションダイヤル(4ページ)を操作して、再生を開始したいクリップにカーソルを合わせる。
- 4 マルチセレクターの決定ボタンまたはマルチファンクションダイヤルを押す。
選択したクリップの先頭から再生が始まります。

【ご注意】

本機は連続再生をしません。

再生操作について

再生操作は次のボタンで行います。

マルチセレクターの決定ボタンまたはマルチファンクションダイヤル押し：再生を一時停止します。もう一度押すと再生に戻ります。

マルチセレクターの左ボタン／右ボタン押し：クリップの先頭または前後のクリップに移動します。

マルチセレクターの左ボタン／右ボタン長押し：高速再生します。長押しをやめると標準再生に戻ります。

BACKボタン：再生を停止し、記録停止状態になります。撮影画面またはホーム画面が表示されます。

再生操作画面のボタンで操作するには

LCDモニターが情報表示モードの場合は、再生操作画面のボタンでも操作できます。

Play/Pauseボタン：再生を一時停止します。もう一度押すと再生モードに戻ります。

Prev／Nextボタン：クリップの先頭または前後のクリップに移動します。

F Fwdボタン／F Revボタン：高速再生します。
Play/Pauseボタンを押すと標準再生に戻ります。

Stop/Clipsボタン：再生を停止し、クリップ一覧画面になります。

【メモ】

タッチ操作で直接操作することもできます。

音声を聞く

標準再生モードでは、記録されている音声を内蔵スピーカー(4ページ)またはヘッドホンでモニターできます。

ヘッドホン端子(4ページ)にヘッドホンをつなぐと、内蔵スピーカーはオフになります。
モニターするチャンネルの選択および音量の調整は、フルメニューのAudioメニュー > Audio OutputのMonitor CHおよびVolume(60ページ)で行います。

頭出しする

クリップの先頭から再生するには再生画面のPrevボタンを押して頭出します。
PrevボタンまたはNextボタンを複数回押すことで、クリップを飛ばして頭出しができます。

メモリーカードを切り換える

メモリーカードが2枚装着されているときは、クリップ一覧画面でSLOT SELECTボタン(4ページ)を押して切り替えます。

【ご注意】

再生中にメモリーカードを切り換えることはできません。またスロットAからスロットBへの連続再生はできません。

デバイスとLAN接続する

本機のLAN機能を使用して、スマートフォンやタブレットなどの操作用デバイスと本機をLAN接続することができます。

LAN接続されたデバイスと本機の間では、「Monitor & Control」アプリケーションを用いて、以下が可能です。

- リモート操作

本機とLAN接続されたスマートフォンやタブレットから本機をリモート操作することができます。

- ファイル転送

本機のメモリーカードに記録したプロキシクリップ(低解像度)やオリジナルクリップ(高解像度)を、LAN経由でサーバーに転送することができます。

- 映像をモニタリング

本機のカメラ映像や再生映像を、「Monitor & Control」アプリケーションを使ってデバイスでモニタリングすることができます。

[ご注意]

- 本機はワイヤレスLANと有線LANを同時に使用できません。
- 本機はネットワーク機器(例えばルーター、スイッチング・ハブ)ではありません。DoS攻撃(サービス妨害攻撃)などのネットワーク経由での攻撃に対して、適切な設定と管理を行うことができるネットワークに本機を接続することを強く推奨します。
- 本機のネットワークへの接続には、適切な設定と管理が行われたルーターを介した接続、もしくは同機能を有したLANポートへの接続をしてください。このような接続をしない場合(例えばFree Wi-Fiなど)、セキュリティ上の問題を生じる可能性があります。ルーターは適切な設定をすることにより、ネットワーク内の機器へのDoS攻撃または機器の機能喪失に対する十分な保護を提供します。何か異常を感じた場合は、すぐにカメラをネットワーク接続から遮断してください。

「Monitor & Control」アプリケーション

デバイスの画面で本機の映像をモニタリングしながら、リモート操作や本機の設定をすることができるアプリケーションを用意しています。

- ◆ 「Monitor & Control」アプリケーションについては、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご確認ください。

ユーザー名とパスワードを設定する

ネットワーク機能をご利用の際は、まず本機にユーザー名とパスワードを設定してください。

- 1 フルメニューのNetworkメニュー
>Network SetupのUser Name(66ページ)を設定する。

- 2 フルメニューのNetworkメニュー
>Network SetupのInput Password(66ページ)を設定する。

[メモ]

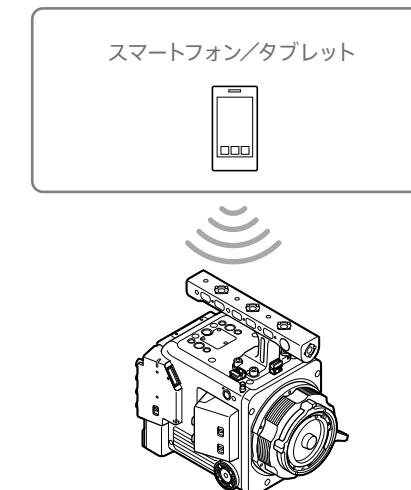
- パスワードを自動生成することもできます。Input Passwordの代わりにGenerate Passwordを行います。
- Show Authenticationでユーザー名やパスワードを、文字やQRコードで見ることができます。

[ご注意]

QRコードやパスワードを他者に盗み見られないよう、ご注意ください。特に映像出力フォーマットがMonitor FHDの場合やHDMI出力の場合は、クリップ一覧画面を開いている状態で、フルメニューでQRコードやパスワードを表示すると、外部モニターにもメニューページが表示されますのでご注意ください。

ワイヤレスLANアクセスポイントモード(Access Pointモード)で接続する

本機をアクセスポイントとして操作用デバイスとワイヤレスLAN接続します。



WPS機能搭載のデバイスで接続する

デバイスがWPSをサポートしている場合には、WPSでの接続が可能です。

- 1 フルメニューのNetworkメニュー
>Network SetupのLAN Type Selectで、WLAN (AP Mode)を選択する。

- 2 フルメニューのNetworkメニュー
>Wireless LANのWPSを実行する。

- 3 デバイスのNetwork設定/Wi-Fi設定を開き、Wi-FiをOnにする。

- 4 デバイスのWi-Fi NetworkのSSID一覧から、本機のSSIDを選択し、詳細Optionを表示し、WPS Push Buttonを選択して接続する。

[ご注意]

- 使用する機器によっては、操作が異なる場合があります。
- 本機のSSIDおよびPasswordは、フルメニューのNetworkメニュー>AP Mode SettingsのCamera SSID & Password(66ページ)で表示してご確認ください。

- 5 Monitor & Controlアプリケーションで接続する。

[メモ]

本機に接続するための情報は、フルメニューのNetworkメニュー>Network SetupのShow Authentication(66ページ)で確認できます。

デバイスでSSID、Passwordを入力して接続する

デバイス側で本機のSSIDとPasswordを入力して接続します。

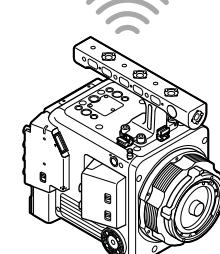
- 1 フルメニューのNetworkメニュー
->Network SetupのLAN Type Selectで、WLAN (AP Mode)を選択する。
- 2 デバイスのNetwork設定／Wi-Fi設定を開き、Wi-FiをOnにする。
- 3 デバイスのWi-Fi NetworkのSSID一覧から、本機のSSIDを選択し、Passwordを入力して接続する。
本機のSSIDおよびPasswordは、NetworkメニューのAP Mode SettingsのCamera SSID & Password(66ページ)でご確認ください。
- 4 Monitor & Controlアプリケーションで接続する。

[メモ]

本機に接続するための情報は、フルメニューのNetworkメニュー->Network SetupのShow Authentication(66ページ)で確認できます。

ワイヤレスLANステーションモード(Stationモード)で接続する

本機をクライアントとして既存のワイヤレスLANのアクセスポイントに接続します。操作用デバイスとはアクセスポイント経由で接続します。接続したアクセスポイントの履歴は、過去10件まで記憶されます。接続履歴はALLファイルに保存されますが、アクセスのパスワードは保存されないため、ALLファイル読み込み後の再接続の際にはパスワードの入力が必要となります。



WPS機能を使ってアクセスポイントに接続する

アクセスポイントがWPS機能対応の場合は、簡単な設定で接続することができます。

- 1 アクセスポイントの電源を入れる。
- 2 本機の電源を入れる。
- 3 フルメニューのNetworkメニュー
->Network SetupのLAN Type Selectで、WLAN (ST Mode)を選択する。
- 4 フルメニューのNetworkメニュー->ST Mode SettingsのCamera Remote Control(67ページ)で、Enableを選択する。
- 5 フルメニューのNetworkメニュー
->Wireless LANのWPSを実行する。
- 6 アクセスポイントのWPSボタンを押す。
WPSボタンの操作については、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
接続が完了すると、LCDモニターのネットワーク状態表示のアイコンが強度1以上で点灯します。
- 7 デバイスをアクセスポイントに接続する。
接続のしかたについては、各機器の取扱説明書をご覧ください。

[ご注意]

接続に失敗した場合は手順1からやり直してください。

- 8 デバイスでMonitor & Controlアプリケーションを実行し、本機を選ぶ。

[メモ]

本機に接続するための情報は、フルメニューのNetworkメニュー->Network SetupのShow Authentication(66ページ)で確認できます。

アクセスポイント自動検出機能を使って接続する

- 1 「WPS機能を使ってアクセスポイントに接続する」(80ページ)の手順1～3を行う。
- 2 フルメニューのNetworkメニュー->ST Mode SettingsのScan Networks(67ページ)で、Executeを選択する。
本機が接続先の検出を開始します。
接続先の候補が見つかると一覧表示されます。
- 3 一覧から接続先を選択する。
ネットワーク(アクセスポイント)詳細設定画面が表示されます。SSIDには選択した接続先が表示されます。
- 4 Passwordを選択し、パスワード入力画面で接続先のアクセスポイントのパスワードを入力する。
接続履歴にあるSSIDを選択すると、パスワードを含んだ設定値が自動的に設定されます。
パスワードを設定したら、ネットワーク(アクセスポイント)詳細設定画面に戻ります。
- 5 以下の接続設定を行う。
 - DHCP
DHCPを設定します。

Onにすると、自動的に本機にIPアドレスを割り当てます。

手動で本機のIPアドレスを入力する場合は、Offにします。

- IP Address

本機のIPアドレスを入力します。
DHCPがOffのときに有効です。

- Subnet Mask

本機のサブネットマスクを入力します。
DHCPがOffのときに有効です。

- Gateway

アクセスポイントのゲートウェイを入力します。
DHCPがOffのときに有効です。

- DNS Auto

DNS自動取得設定をします。
Onにすると、自動的にDNSサーバーのア

ドレスを取得します。DHCPがOnのとき
に有効です。

- Primary DNS Server

アクセスポイントのプライマリーDNSサー
バーを入力します。

DNS AutoがOffのときに有効です。

- Secondary DNS Server

アクセスポイントのセカンダリーDNSサー
バーを入力します。

DNS AutoがOffのときに有効です。

6 設定が完了したらConnectを選択し、アク
セスポイントに接続する。

7 デバイスをアクセスポイントに接続する。
接続のしかたについては、各機器の取扱説
明書をご覧ください。

8 デバイスでMonitor & Controlアプリケー
ションを実行し、本機を選ぶ。

[メモ]

本機に接続するための情報は、フルメニューの
Networkメニュー>Network SetupのShow
Authentication(66ページ)で確認できます。

**アクセスポイントの情報を手動で入力
して接続する**

1 「WPS機能を使ってアクセスポイントに接続
する」(80ページ)の手順1~3を行う。

2 フルメニューのNetworkメニュー>ST
Mode SettingsのManual Register(68
ページ)を選択する。
ネットワーク(アクセスポイント)詳細設定画
面が表示されます。

3 以下の接続設定を行う。

- SSID

接続先のアクセスポイントのSSIDを入力
します。

- Security

暗号化方式を選択します。

[ご注意]

- 本機は、セキュリティ設定がWPA3-SAE、
WPA2-PSK(AES)、または、セキュリティ設定
なしのアクセスポイントに接続することが可能
です。セキュアな無線LAN接続を実現するため
に、セキュリティ設定がWPA3またはWPA2の
アクセスポイントを使用することを、強く推奨し
ます。
- セキュリティ方式は初期状態でWPA2が選択さ
れています。
- セキュリティ設定なしのアクセスポイントに接続
すると、ハッキングや悪意ある第三者からのア
クセス、脆弱性への攻撃を受ける可能性があり

ます。特別な理由がある場合以外は、セキュ
リティ設定なしでの使用は推奨しません。

- 無線LANではセキュリティの設定をすることが
非常に重要です。セキュリティ対策を施さなかっ
た場合、あるいは無線LANの使用上やむを得な
い事情により、セキュリティの問題が発生してし
まった場合、弊社ではこれによって生じたあらゆ
る損害に対する責任を負いかねます。

- Password

接続先のアクセスポイントのパスワードを
入力します。

- DHCP

DHCPを設定します。

Onにすると、自動的に本機にIPアドレス
を割り当てます。

手動で本機のIPアドレスを入力する場合
は、Offにします。

- IP Address

本機のIPアドレスを入力します。
DHCPがOffのときに有効です。

- Subnet Mask

本機のサブネットマスクを入力します。
DHCPがOffのときに有効です。

- Gateway

ゲートウェイのアドレスを入力します。
DHCPがOffのときに有効です。

- DNS Auto

DNS自動取得設定をします。
Onにすると、自動的にDNSサーバーのア
ドレスを取得します。DHCPがOnのとき
に有効です。

- Primary DNS Server

プライマリーDNSサーバーのアドレスを入
力します。

DNS AutoがOffのときに有効です。

- Secondary DNS Server

セカンダリーDNSサーバーのアドレスを入

力します。

DNS AutoがOffのときに有効です。

4 設定が完了したらConnectを選択し、アク
セスポイントに接続する。

5 デバイスをアクセスポイントに接続する。
接続のしかたについては、各機器の取扱説
明書をご覧ください。

6 デバイスでMonitor & Controlアプリケー
ションを実行し、本機を選ぶ。

[メモ]

本機に接続するための情報は、フルメニューの
Networkメニュー>Network SetupのShow
Authentication(66ページ)で確認できます。

インターネットに接続する

本機は、USBテザリング、ワイヤレスLAN、有線LANでインターネットに接続することができます。

あらかじめ本機にユーザー名とパスワードを設定してください(79ページ)。

USBテザリングを使用して接続する

USBケーブルで本機とスマートフォンを接続し、スマートフォンの回線を使用してインターネットに接続できます。

スマートフォンの通信設定をする

スマートフォンのテザリング通信を有効に設定します。

詳しくは、スマートフォンの取扱説明書をご覧ください。

スマートフォンを本機に取り付ける

本機のUSB-C端子(5ページ)にUSBケーブルを接続し、スマートフォンを接続します。

[ご注意]

- スマートフォンの取り付け／取り外しは、本機の電源を切った状態で行ってください。
- USBハブを介してスマートフォンを取り付けた場合、USBテザリングは使用できません。
- テザリングを行うスマートフォンは、信頼できるデバイスのみを使用してください。セキュリティ上安全ではないため、素性が不明なデバイスとの接続は推奨しません。

ネットワークに接続する

- 本機の電源を入れる。

- フルメニューのNetworkメニューのUSB Tetheringで、Setting(69ページ)をOnに設定する。

スマートフォンからの操作を有効にする

USBケーブルで接続したスマートフォンで Monitor & Controlアプリケーションを使用して本機を遠隔操作できます。

- フルメニューのNetworkメニュー >USB TetheringのCamera Remote Control (69ページ)をEnableに設定する。

- スマートフォンでMonitor & Controlアプリケーションを実行し、本機を選ぶ。

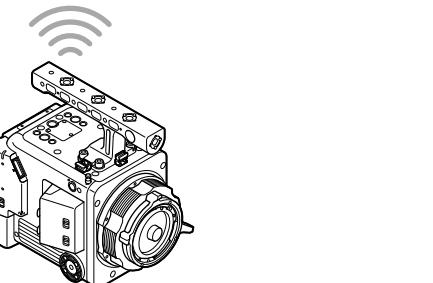
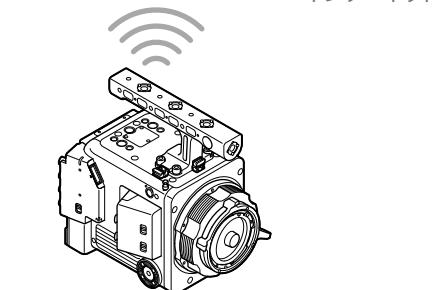
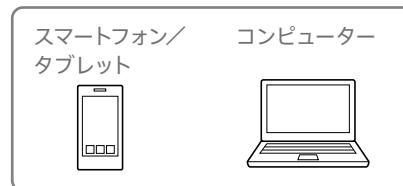
[メモ]

Monitor & Controlアプリケーションが本機に接続するための情報は、フルメニューのNetworkメニュー >Network SetupのShow Authentication(66ページ)で確認できます。

ワイヤレスLANステーションモード(Wi-Fi Stationモード)で接続する

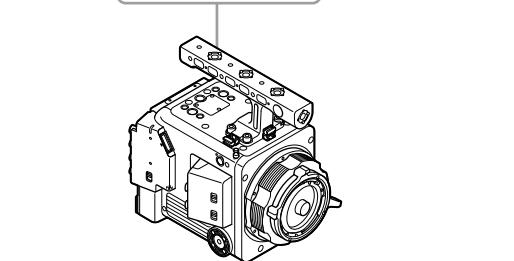
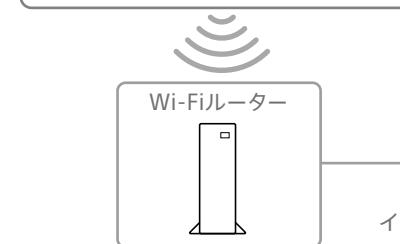
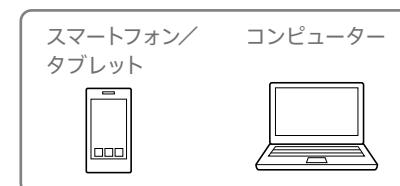
Wi-Fiルーター(別売)またはスマートフォンのWi-Fiテザリングを使用することによって、Wi-Fiステーションモードでインターネットに接続することができます。

Wi-Fiルーターまたはデバイスへは、「ワイヤレス LANステーションモード(Stationモード)で接続する」(80ページ)の手順で接続します。



LANケーブルを使用して接続する

本機のネットワーク端子とWi-Fiルーター(別売)をLANケーブルで接続することによって、インターネットに接続することができます。



LANケーブルの接続と有線LAN設定

1 本機のネットワーク端子とWi-Fiルーターを LANケーブルで接続する。

2 本機の電源を入れる。

3 フルメニューのNetworkメニュー > Network SetupのLAN Type Selectで、 Wired LANを選択する。

4 NetworkメニューのWired LANのDetail Settings(69ページ)で、接続設定を行う。

- DHCP

DHCPを設定します。

Onにすると、自動的に本機にIPアドレスを割り当てます。

手動で本機のIPアドレスを入力する場合は、Offにします。

- IP Address

本機のIPアドレスを入力します。

DHCPがOffのときに有効です。

- Subnet Mask

本機のサブネットマスクを入力します。

DHCPがOffのときに有効です。

- Gateway

ゲートウェイのアドレスを入力します。

DHCPがOffのときに有効です。

- DNS Auto

DNS自動取得設定をします。

Onにすると、自動的にDNSサーバーのアドレスを取得します。DHCPがOnのときに有効です。

- Primary DNS Server

プライマリー DNSサーバーのアドレスを入力します。

DNS AutoがOffのときに有効です。

- Secondary DNS Server

セカンダリー DNSサーバーのアドレスを入力します。

DNS AutoがOffのときに有効です。

5 設定が完了したらSetを選択し、設定内容を確定する。

[ご注意]

接続設定を変更した場合、必ずSetを選択してください。
Setを選択しなかった場合は設定した内容が反映されません。

有線LANを経由したスマートフォンからの操作を有効にする

有線LANで接続したWi-Fiルーターの先から、スマートフォンでMonitor & Controlアプリケーションを使用して本機を遠隔操作する場合は、フルメニューのNetworkメニュー >Wired LAN のCamera Remote Control(69ページ)をEnableに設定します。

ファイルを転送する

本機に記録したプロキシクリップやオリジナルクリップを、スマートフォンやアクセスポイント経由で接続したインターネット上のサーバーやローカルネット上のサーバーへ転送することができます。

準備する

ネットワークに接続する

「インターネットに接続する」(82ページ) または「デバイスとLAN接続する」(79ページ) の手順に従って、本機をインターネットまたはローカルネットワークに接続します。

ファイルの転送先を登録する

あらかじめファイルを転送するサーバーを登録しておきます。

1 フルメニューのNetworkメニューのFile Transferで、Server Settings1(またはServer Settings2、Server Settings3)を選択する。

転送先設定画面が表示されます。

2 転送先設定画面の各項目を設定する。

Display Name

転送先のリストに表示されるサーバー名を入力します。

Service

サーバーの種類を表示します。

「FTP」：FTP サーバー

Host Name

サーバーのアドレスを入力します。

Port

サーバーに接続する際のポート番号を入力します。

User Name

ユーザー名を入力します。

Password

パスワードを入力します。

Passive Mode

パッシブモードのON/OFFを行います。

Destination Directory

転送先ディレクトリ名を入力します。

[ご注意]

- オリジナルクリップは、転送先として指定したディレクトリー内の“Main”フォルダーに転送されます。
- 編集時、編集不可能な文字は“□”で表示されます。この文字を含むディレクトリ名を編集した場合の動作は保証されません。
もし編集してしまった場合は、すべての文字を削除して入力し直してください。
- 転送先サーバーで使用できない文字をDestination Directoryに入力した場合、ファイルはユーザーのホームディレクトリーに転送されます。使用できない文字はサーバーによって異なります。

Using Secure Protocol

セキュアなFTP転送を行うかどうかを設定します。

Root Certificate

証明書の読み込みや消去を行います。

• Load

手順3でSetを選択すると、CA証明書を読み込みます。

* 読み込む証明書はPEM形式で、Utility SDカードスロットに挿入したSDカードのルートディレクトリーに“certification.pem”的ファイル名で書き込んでおいてください。

[メモ]

証明書の有効性の確認方式はOCSPです。また、証明書の構造は以下のとおりです。

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----
(Your Root certificate)
-----END CERTIFICATE-----
```

• Clear

手順3でSetを選択すると、CA証明書をクリアします。

• None

読み込み／消去を行いません。

[ご注意]

- CA証明書を読み込む際は、本機の時刻を正しく設定してください。
- XAVC-I 4096×2160P/3840×2160P、XAVC H-I HQ/SQ、X-OCNで記録中は、Loadは選択できません。
- 低電圧時には、CA証明書をLoad/Clearすることはできません。

Root Certificate Status

証明書の読み込み状態を表示します。

Reset

Server Settingsの設定を初期値に戻します。

3 設定が完了したらSetを選択し、設定内容を確定する。

設定完了後は、必ずSetを選択してください。Setを選択しなかった場合、設定した内容が反映されません。

クリップを選んで転送する

本機のメモリーカードに記録したプロキシクリップやオリジナルクリップをサーバーに転送します。

クリップ一覧画面からメモリーカードのプロキシクリップを転送する

1 本機とデバイスをLAN接続する(79ページ)。

2 フルメニューのClip OperationsメニューのTransfer Clip (Proxy)で、Select Clipを選択する。

画面がフルメニューからクリップ一覧画面に変わります。

転送操作は、クリップ一覧画面またはフィルタードクリップ一覧画面で行えます。

3 転送したいクリップを選択し、最後にMENUボタンを押す。

転送実行の確認画面が表示されます。

4 Executeを選択する。

選択したプロキシクリップに対応するファイル群が転送ジョブとして登録され、転送が開始されます。

転送ジョブへの登録が完了すると、登録結果画面が表示されます。

5 OKを選択する。

クリップを一括転送するには

手順2でSelect Clipではなく、All Clipsを選択するとプロキシクリップに対応するファイル群が一括転送されます。

[ご注意]

転送ジョブの上限は200件です。

クリップ一覧画面からメモリーカードのオリジナルクリップを転送する

[ご注意]

オリジナルクリップは、転送先として指定したディレクトリー内の“Main”フォルダーに転送されます。

1 本機とデバイスをLAN接続する(79ページ)。

2 フルメニューのClip OperationsメニューのTransfer Clipで、Select Clipを選択する。画面がフルメニューからクリップ一覧画面に変わります。

転送操作は、クリップ一覧画面またはフィルタードクリップ一覧画面で行えます。

3 転送したいクリップを選択し、最後にMENUボタンを押す。
転送実行の確認画面が表示されます。

4 Executeを選択する。
選択したクリップに対応するファイル群が転送ジョブとして登録され、転送が開始されます。

転送ジョブへの登録が完了すると、登録結果画面が表示されます。

5 OKを選択する。

クリップを一括転送するには

手順2でSelect Clipではなく、All Clipsを選択するとファイルが一括転送されます。

[ご注意]

転送ジョブの上限は200件です。

ファイル転送の確認をする

フルメニューのNetworkメニューのFile TransferでView Job List(69ページ)を選択すると、ファイル転送の状態を確認することができます。

Monitor & Controlアプリケーションの画面からファイル転送の状態を確認することもできます。

[メモ]

フルメニューのNetworkメニューのFile TransferでAuto Upload(69ページ)またはAuto Upload (Proxy) (69ページ)をOnに設定すると、ネットワーク接続状態の場合、記録終了時にDefault Upload Server(69ページ)で設定されたサーバーに対して自動的にオリジナルクリップやプロキシクリップを送信します。オリジナルクリップとプロキシクリップの両方を自動転送設定している場合には、プロキシクリップが優先して自動転送されます。

[ご注意]

- 転送ジョブは200件まで登録可能です。
- ジョブリストは本機の電源を切っても保持されますが、電源スイッチをSTANDBYにせずにバッテリーパックを取り外すなどして電源を切った場合には、最大で10分間分程度の進捗情報が喪失する可能性があります。
- バッテリー電圧低下状態に陥った後に追加されたジョブについては、ジョブリスト上に保存されません。
- ファイル転送中に転送がエラーになると、転送先サーバーの設定や状態によっては、同じ名前のクリップが転送できなくなることがあります。その場合は転送先サーバーの設定や状態を確認してください。

クリップを自動転送する

オリジナルクリップを自動転送する

記録終了時にオリジナルクリップを指定したサーバーに転送します。この機能を有効にするには、フルメニューのNetworkメニューのFile TransferでAuto Upload(69ページ)をOnに設定します。

プロキシクリップを自動転送する

記録終了時にプロキシクリップを指定したサーバーに転送します。この機能を有効にするには、フルメニューのNetworkメニューのFile TransferでAuto Upload (Proxy) (69ページ)をOnに設定します。

セキュアなFTP転送を行うには

ファイル転送先サーバーとの接続にFTPSのExplicitモード(FTPES)を使用することで、ファイルを暗号化して転送することができます。

セキュアなFTP転送の設定

セキュアなFTP転送を行うには、ファイル転送先サーバーの設定で、Using Secure ProtocolをONに設定し、証明書の読み込みを行います。設定方法については、「ファイルの転送先を登録する」(84ページ)をご覧ください。

Creators' App for enterpriseを使用する

本機はスマートフォンアプリ「Creators' App for enterprise」と連携して、クラウドサービス「C3 Portal」へのファイル転送を簡単に行なうことができます。

あらかじめC3 Portalのアカウントを取得し、スマートフォンにCreators' App for enterpriseをインストールしてください。

クラウドサービス「C3 Portal」のアカウント取得については、所属組織の管理者にお問い合わせください。

【ご注意】

- お住まいの地域によってはサービスを提供していない場合があります。
- Creators' App for enterpriseの操作方法については、Creators' App for enterpriseのヘルプをご覧ください。

ファイルをC3 Portalへ転送する

1 フルメニューのNetworkメニュー > Network Setupで、Setup for Mobile App(66ページ)を選択する。

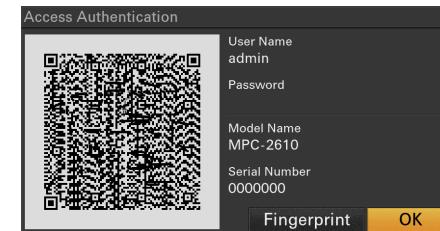
自動変更される項目の確認画面が表示されます。

Networkメニューの設定が次のように自動変更されます。

- USB Tethering>Setting : On
- USB Tethering>Camera Remote Control : Enable
- Network Setup>Input Password : 未設定の場合自動生成

2 設定内容を確認してOKを選択する。

設定が開始されます。設定中は「Now changing」のメッセージが表示されます。設定が正常に終了すると、ビューファインダーに次の画面が表示されます。



アクセス認証の下記の情報を表示します。ユーザー名、パスワード、フィンガープリント、カメラのモデル名、シリアル番号

【メモ】

本画面は映像出力へ出力されません。

【ご注意】

パスワードを盗み見られたり、QRコードの画像を流出させないように注意してください。特に映像出力フォーマットがMonitor FHDの場合やHDMI出力の場合は、クリップ一覧画面を開いている状態で、フルメニューでQRコードやパスワードを表示すると、外部モニターにもメニューページが表示されますのでご注意ください。

3 スマートフォンでCreators' App for enterpriseを実行し、クラウドサービスにサインインする。

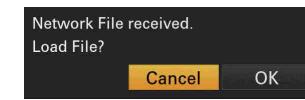
4 本機のUSB-C端子とスマートフォンを、USBケーブルで接続する。

5 スマートフォンの画面でUSBテザリングを有効にする。
設定方法については、「USBテザリングを使用して接続する」(82ページ)をご覧ください。

お使いのスマートフォンにより、操作が異なります。スマートフォンの取扱説明書をご確認ください。

6 Creators' App for enterpriseの画面の指示に従って、ビューファインダーに表示されたQRコードを撮影する。

スマートフォンから本機へファイル転送の設定情報が送られ、次のメッセージが表示されます。



7 OKを選択する。

設定の読み込みが開始されます。設定の読み込みが正常に終了すると、「Network File loaded.」のメッセージが表示されます。

【ご注意】

- Creators' App for enterpriseは、本機のNetworkメニューのFile Transfer(69ページ)の設定を書き換えます。
- Root Certificateは自動では設定できません。手動で設定してください。

オリジナルクリップを転送する

NetworkメニューのFile TransferのAuto Upload(69ページ)をOnにすると、オリジナルクリップをC3 Portalへ転送できます。記録を終了するたびに、C3 Portalのアカウントに紐づけされた場所へファイルが転送されます。

プロキシクリップを転送する

NetworkメニューのFile TransferのAuto Upload (Proxy)(69ページ)をOnにすると、

プロキシクリップをC3 Portalへ転送できます。記録を終了するたびに、C3 Portalのアカウントに紐づけされた場所へファイルが転送されます。

任意のクリップを転送する

「クリップを選んで転送する」(84ページ)をご覧ください。

【メモ】

- 本機が送信したファイルは、Creators' App for enterpriseでキャッシュされながらC3 Portalへ転送されます。本機のファイル転送状態表示は、Creators' App for enterpriseへの転送状況を示しています。
- 本機からスマートフォンのCreators' App for enterpriseへファイル転送が終了した後は、本機の電源を切ることができますが、スマートフォンからのファイル転送は継続している場合があります。スマートフォンの電池残量にはご注意ください。

C3 Portalを使用したその他の機能

3D LUTファイルを管理する

C3 Portal側で保存された3D LUTファイルを本機にインポートできます。「クラウドサービスからインポートする」(92ページ)をご覧ください。

Allファイルを管理する

本機で作成したAllファイルをC3 Portalに保存したり、読み出したりして利用できます。「Allファイルをクラウドサービスに保存する」(73ページ)、「Allファイルをクラウドサービスから読み込む」(73ページ)をご覧ください。

本機の基本動作を設定する

撮影を始める前に、運用形態に合わせて、Projectステータス画面で基本動作の設定を行います。

撮影モード

本機では、ポストプロダクション処理を前提とし、現場では画作りを行わないフィルムカメラと同等の使いかたができる「Cine EI」と、現場で自在に映像の作り込みができる「Custom」を切り替えて使用できます。

ProjectステータスのShooting Mode(29ページ)で切り替えます。

[メモ]

フルメニューのProjectメニュー >Base SettingのShooting Mode(44ページ)でも設定できます。

Cine EI

撮影モードがCine EIのときは、記録信号および出力信号のベースとなる色域を選択します。ここで選択した色域が記録映像およびモニター LUTをOffに設定した映像出力の色域となります。

フルメニューのProjectメニュー >Cine EI SettingのColor Gamut(45ページ)で切り替えます。

- S-Gamut3.Cine/SLog3 : デジタルシネマの色域(DCI-P3)への調整がしやすい色域
- S-Gamut3/SLog3 : ソニー独自のITU-R BT.2020をカバーする広い色域
その他詳細は91ページをご覧ください。

[ご注意]

- Cine EIでは以下の制約があります。
 - 自動調節(追尾)できない機能
 - ホワイトバランス

- ゲイン
- シャッター
- 設定変更できない機能
 - ISO感度／ゲイン(基準ISO感度に固定)
 - Paint/Lookメニューの設定(Base Lookを除く)
 - Scene File(無効)
- 以下の機能はCine EIでのみ使用可能です(91ページ)。
 - Exposure Index
 - モニター LUT
- Cine EIでの記録中は、Exposure Indexの設定を固定にすることをお勧めします。Exposure Indexの設定を変更してしまうと、ポストプロダクション処理での明るさ補正が非常に難しくなり、撮影時の状態を再現できない恐れがあります。

Custom

撮影モードがCustomのときは、映像規格を選ぶことができます。

フルメニューのProjectメニュー >Base SettingのTarget Display(44ページ)で切り替えます。

- SDR(BT.709) : HD放送の規格に準じた撮影
- HDR(HLG) : 次世代の4K放送の規格に準じた撮影
その他詳細は93ページをご覧ください。

[ご注意]

記録・再生中にシステム周波数を切り替えることはできません。

イメージャースキャンモード

イメージセンサーの有効画サイズと解像度の設定を行います。

ProjectステータスのImager Scan(29ページ)で切り替えます。

- FF 8.6K 16:9、FF 8.6K 17:9、FFc 6K 16:9、FFc 6K 17:9、FFc 3.8K 16:9 : フルサイズで使用します。
- S35 5.8K 16:9、S35 5.8K 17:9、S35 4.3K 4:3、S35c 4K 17:9、S35 1.9K 16:9 : Super 35mmサイズで使用します。

[メモ]

フルメニューのProjectメニュー >Rec FormatのImager Scan Mode(44ページ)でも設定できます。

[ご注意]

記録・再生中にイメージャースキャンモードを切り替えることはできません。

システム周波数

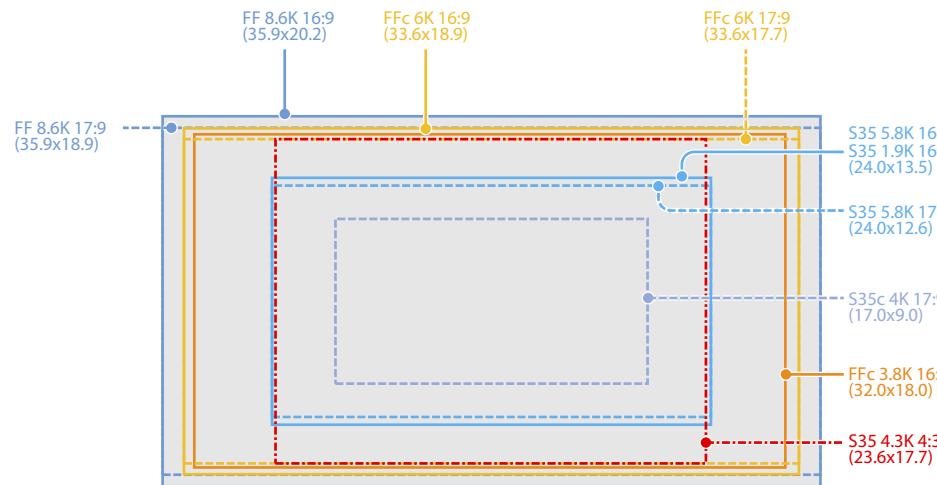
ProjectステータスのFrequency/Scan(29ページ)で切り替えます。設定値によっては、切り替えを実行すると本機が自動的に再起動します。

[メモ]

フルメニューのProjectメニュー >Rec FormatのFrequency(44ページ)でも設定できます。

有効画サイズについて

本機では、以下の有効画サイズでの撮影が可能です。(単位：ミリメートル)



コーデック

ProjectステータスのCodec(29ページ)で切り替えます。設定値によっては、切り替えを実行すると本機が自動的に再起動します。

[メモ]

フルメニューのProjectメニュー >Rec FormatのCodec(44ページ)でも設定できます。

[ご注意]

- 記録・再生中にコーデックを切り替えることはできません。
- X-OCNとXAVCを切り替えたとき、本機は再起動します。
- X-OCNのとき、映像出力信号に制限がかかります。詳細は120ページをご覧ください。
- X-OCNに切り替えるには、撮影モードをCine EIにしておく必要があります。

ビデオフォーマット

記録するビデオフォーマットの設定を行います。ProjectステータスのVideo Format(29ページ)で切り替えます。

[メモ]

フルメニューのProjectメニュー >Rec FormatのVideo Format(44ページ)でも設定できます。

[ご注意]

- X-OCNのときは設定できません。
- 記録・再生中にビデオフォーマットを切り替えることはできません。
- ビデオフォーマットの設定によって、SDI OUTおよびHDMI OUT端子からの信号も制限されます。

基本操作手順

基本的な撮影は次の手順で行います。

1 必要な機器が取り付けられ、電源が供給されていることを確認する。

2 メモリーカードを入れる。

[ご注意]

撮影の前にはクリップのバックアップを取ったあと、フルメニューのTC/MediaメニューのFormat Media(55ページ)で記録メディアのフルフォーマットを行ってください。

3 電源を入れる。

電源ランプが点灯して、LCDモニターに撮影画面が表示されます。

4 REC(記録開始／記録停止)ボタン(4ページ)を押す。

RECランプが点灯して、記録が始まります。

5 記録を終了するときは、もう一度REC(記録開始／記録停止)ボタンを押す。

記録が停止し、本機はSTBY(記録待機)モードになります。

[ご注意]

電源を入れてから数秒以内にREC(記録開始／記録停止)ボタンを押すと、RECランプが点灯し録画状態になりますが、選択している記録フォーマットによっては最初の数秒間はメディアに記録されない場合があります。

メモリーカードを切り替える

メモリーカードが2枚装着されているときは、SLOT SELECTボタン(4ページ)を押して切り替えます。

撮影中にメモリーカードA(またはメモリーカードB)の残量がなくなる直前に、自動的にもう一方のメモリーカードへの記録に切り替わります(リレー記録)。メモリーカードが切り替わるたびに、記録済みのメモリーカードを新しいメモリーカードに交換することで、中断することなく撮影を続けられます。

[ご注意]

再生中にメモリーカードを切り替えることはできません。またスロットAとスロットBをまたぐ連続再生はできません。

クリップ(記録データ)

記録を停止すると、開始から停止までの画像・音声と付随データが、1つの「クリップ」としてメモリーカードに記録されます。

クリップ名について

本機で記録されるクリップの名前は、フルメニューのTC/MediaメニューのClip Name Format(55ページ)で設定された形式でつけられます。

クリップの最大時間

1クリップあたり6時間までです。

動画の連続撮影可能時間は、クリップの最大記録時間と同様です。録画時間がクリップの最大時間を超える場合、録画を継続したまま自動的に新しいクリップが作られます。新しいクリップはクリップ一覧画面で別のクリップとして確認できます。

リレー記録では複数のクリップに連続記録しますが、約24時間で自動的に停止します。

[ご注意]

- 記録中のメモリーカードを取り出さないでください。記録中にメモリーカードを入れ替えるときは、スロットのランプが消光しているスロットのみ行ってください。
- 記録中のメモリーカードの残量が1分未満のときに、もう一方のスロットに記録可能なメモリーカードが入っていると、メッセージ「まもなくスロットを切り替えます」が表示されます。メモリーカードスロットが切り替わると消えます。
- メモリーカードの残量が1分未満のときに記録を始めるとき、リレー記録ができない場合があります。リレー記録を正しく行うには、記録開始時にメモリーカードの残量が1分以上あることを確認してください。
- 本機を使ってリレー記録した動画は、本機上ではシームレス再生できません。
- 本機を使ってリレー記録した動画を結合するには、ソフトウェア「Catalyst Browse」を使用してください。

タイムデータ

タイムコードを設定する

記録されるタイムコードは、フルメニューのTC/MediaメニューのTimecode(54ページ)で設定します。

ユーザービットを設定する

8桁の16進数をユーザービットとして記録映像に付加できます。ユーザービットを現在時刻に設定することも可能です。TC/MediaメニューのUsers Bit(54ページ)で設定します。

タイムデータを表示する

表示するタイムコードは、TC/MediaメニューのTC Display(54ページ)のDisplay Selectで設定します。

DURATION/TC/U-BIT機能が割り当てられた ASAIBAブルボタン(107ページ)を押すと、表示がタイムコード、ユーザービット、経過時間の順に切り替わります。

タイムコードの入力／出力を切り替える

TC/REF IN/OUT切り替えスイッチ(6ページ)で、タイムコードの入力／出力を切り替えることができます。

詳しくは115ページをご覧ください。

音声を聞く

記録される音声をヘッドホンでモニターできます。ヘッドホン端子(4ページ)にヘッドホンをつなぐと、記録される音声をモニターできます。また、再生時(78ページ)は内蔵スピーカー(4ページ)またはヘッドホンでモニターできます。モニターする音声の音量の調整は、AudioステータスのVolume(29ページ)、またはフルメニューのAudioメニュー > Audio OutputのVolume(60ページ)で行います。モニターするチャンネルの選択は、AudioステータスのMonitor CH(29ページ)、またはフルメニューのAudioメニュー > Audio OutputのMonitor CH(60ページ)で行います。

記録内容を確認する(レックレビュー)

直前に記録したクリップの映像を画面で確認(レックレビュー)できます。

[ご注意]

記録後にビデオフォーマットを変更したときは、レックレビューはできません。

レックレビューの方法

事前にアサイナブルボタンのいずれかにRec Reviewを割り当てておきます。

記録を停止したら、Rec Reviewが割り当てられたアサイナブルボタン(107ページ)を押します。

すると、直前に記録したクリップの再生が始まります。

クリップの終わりまで再生すると、レックレビューは終了し、STBY(記録待機)モードに戻ります。

レックレビューを中止するには

Rec Reviewが割り当てられたアサイナブルボタンまたはBACKボタンを押します。

レックレビューの設定

TechnicalメニューのRec Review(62ページ)の設定により、再生開始位置を次のいずれかに設定できます。

- クリップの最後の3秒
- クリップの最後の10秒
- クリップの先頭から

[メモ]

撮影した複数のクリップから任意のクリップを確認したい場合は、CLIPSボタンを押してクリップ一覧画面からクリップを選択して再生を開始することができます。

ポストプロダクションでルックを調節する前提で撮影する

本機のCine EIモードを使い、暗部から明部まで階調を均等に記録すると、ポストプロダクションで局所的に暗部や明部の階調を復元するなど細かい調節を行うことができます。

しかし、この記録映像を普通のモニターで見ると、全体にコントラストが低いため、フォーカスや露出などの調節が困難です。

本機では、モニター映像にLUTを適用して撮影時の各種調節を補助することができます。また、再生映像にLUTを適用して仕上がりを確認することもできます。

LUTは以下の系統別に適用されます。ただし、適用されるLUTは1種類です。

- X-OCN記録時:
 - SDI出力およびHDMI出力(どちらか一方のみ出力)
 - LCDモニターおよびProxy、ストリーミング
- X-OCN記録時以外:
 - SDI出力
 - HDMI出力、LCDモニター、Proxyおよびストリーミング

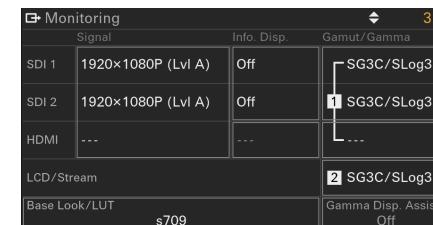
[ご注意]

- SDI 1の映像出力フォーマットが4096x2160または3840x2160の解像度の場合は、SDIの出力映像にLUTを適用できません。
- HDMIの映像出力フォーマットが3840x2160の解像度の場合は、HDMIの出力映像にLUTを適用できません。

LCDモニター映像にLUTを適用する

- 1 MENUボタンを押してMonitoringステータスを表示する。

- 2 LCD/Stream行のGamut/Gamma列を選ぶ。



- 3 OnまたはOffを選ぶ。

[ご注意]

- LCDモニターのLUT On/Off設定は、X-OCN記録時はProxyファイルやストリーミング映像にも作用します。X-OCN記録時以外は、HDMI出力やProxyファイル、ストリーミング映像にも作用します。
- ピント拡大中は、ガンマ表示アシストになります。

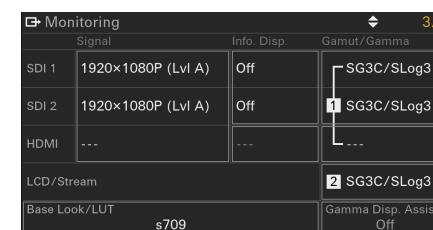
[メモ]

- フルメニューのShootingメニュー>LUT On/Off(42ページ)でも設定できます。
- SDI/HDMIもLCDモニターと同様に設定できます。

LUTを変更する

- 1 MENUボタンを押して、Monitoringステータスを表示する。

- 2 Base Look/LUT欄を選ぶ。



- 3 基本ルックのリストから、適用するLUTを選ぶ。

[メモ]

- 本機にはプリセットのLUTとして、s709、709(800%)、S-Log3、Warm、Cool、Vintage、Teal and Orange、ACESproxy、ACEScct、ACES 1.0 Output-Rec.709が用意されています。
- 3D LUTファイルをインポートして適用することもできます。詳しくは、「好みの基本ルックをインポートする」(91ページ)および「基本ルックを削除する」(92ページ)をご覧ください。
- フルメニューのPaint/Lookメニュー>Base LookのSelect(51ページ)でも設定できます。

がOnになっていても3D LUTファイルのメタデータ記録はできません。

このような基本ルックの場合は、基本ルックのリスト表示などで、ルック名の先頭に!アイコンが表示されます。

メモリーカードからインポートする

3D LUTファイルをメモリーカードからインポートします。

- 1 PCなどで記録メディアの所定のフォルダに、3D LUTファイルを保存する。

記録メディア	フォルダパス
SDカード	/PRIVATE/SONY/PRO/ LUT/

- 2 3D LUTファイルを保存した記録メディアを、Utility SDカードスロットに差し込む。

- 3 フルメニューのPaint/Lookメニュー>Base LookのImport from Utility SD(51ページ)を選択する。

- 4 インポート先を選択する。

- 5 インポートする3D LUTファイルを選択する。画面の指示に従ってください。本機は3D LUTファイルを基本ルックとして取り扱います。

- 6 フルメニューのPaint/Lookメニュー>Base LookのSelect(51ページ)でインポートした3D LUTファイルを選択する。

好みの基本ルックをインポートする

本機は、PCなどで作成した3D LUTファイルを、基本ルックとしてメモリーカードまたはクラウドサービスから最大16個までインポートすることができます。

- ファイル形式 : Catalyst BrowseやRAW Viewerで生成される17格子または33格子のCUBEファイル(*.cube)
- 入力色域／ガンマ : S-Gamut3.Cine/S-Log3 またはS-Gamut3/S-Log3
- インポートするCUBEファイルのファイルサイズは33格子の場合で1MB程度を想定しています。これを超えるファイルサイズのCUBEファイルはインポートできません。

ファイルサイズによってはインポートできても、本機の不揮発メモリー内にオリジナルのCUBEファイルを保存できないことがあります。この場合、フルメニューのProjectメニュー> Cine EI Setting > Embed LUT File(45ページ)

7 インポートした3D LUTファイルの属性に合わせて、フルメニューのPaint/Lookメニュー>Base LookのInputとOutput(51ページ)を設定する。

クラウドサービスからインポートする

3D LUTファイルをクラウドサービスからインポートします。

1 本機をスマートフォンアプリ「Creators' App for enterprise」に接続する(86ページ)。

2 フルメニューのPaint/Lookメニュー>Base LookのImport from Cloud/Private)またはImport from Cloud(Share)(51ページ)を選択する。

3 インポート先を選択する。

4 インポートする3D LUTファイルを選択する。画面の指示に従ってください。本機は3D LUTファイルを基本ルックとして取り扱います。

5 フルメニューのPaint/Lookメニュー>Base LookのSelect(51ページ)でインポートした3D LUTファイルを選択する。

6 インポートした3D LUTファイルの属性に合わせて、フルメニューのPaint/Lookメニュー>Base LookのInputとOutput(51ページ)を設定する。

露出不足を調節する

インポートした基本ルックを使って自動露出をしたときに露出不足の傾向がある場合は、Paint/LookメニューのBase LookのAE Level Offset(51ページ)で調節してください。

[ご注意]

- 3D LUTファイルをインポートしただけでは映像に反映されません。フルメニューのPaint/Lookメニュー>Base LookのSelect(51ページ)でインポートした3D LUTファイルを読み出してください。
- Inputを正しく設定しないと、本来のルックになりません。
- 設定項目Input、Output、AE Level Offsetは、Selectで選択された基本ルックに適用されます。複数の3D LUTファイルをインポートした場合は、各3D LUTファイルをSelectで選択し、Input、Output、AE Level Offsetをそれぞれ設定してください。
- 設定したInput、Output、AE Level Offsetは、3D LUTファイルごとに保存されます。
- インポートした3D LUTファイルは、Custom/Cine EIモード共通の基本ルック／LUT選択肢となりますが、これらのモードに応じた色域・ガンマ変換は行いません。
- フルメニューのMaintenanceメニューのAll ResetのResetを実行しても3D LUTファイルは削除されません。

基本ルックを削除する

フルメニューのPaint/Lookメニュー>Base LookのDelete(51ページ)で、インポートした3D LUTファイルを削除できます。

フルメニューのPaint/Lookメニュー>Base LookのDelete All(51ページ)で、すべての3D LUTファイルを削除できます。

[ご注意]

- 削除する前に、その基本ルックがSceneファイルで使用されていないことをご確認ください。使用されている基本ルックを削除した場合、該当するSceneファイルのルックは不適切なものになります。
- 削除した基本ルックは、Customモードでも使えなくなります(91ページ)。
- インポートした3D LUTファイルは、フルメニューのMaintenanceメニューのAll ResetのReset(71ページ)を実行しても削除されません。

3D LUTファイルをメタデータとして記録する

撮影時にモニター映像に適用していた3D LUTファイル(CUBEファイル)を、クリップにメタデータとして記録することができます。

この機能を有効にするには、フルメニューのProjectメニュー>Cine EI SettingのEmbed LUT File(45ページ)をOnに設定します。

記録開始時に選択していた3D LUTファイル(CUBEファイル)をメタデータとして記録します。ただし、以下の場合はメタデータとして記録することはできません。

- インポートした3D LUTファイルのサイズが1.25MBを超えており、3D LUTファイル(CUBEファイル)をカメラ内に保持できない場合(Base Look選択時、ファイル名の前に「!」が表示されます。)
- 保存が可能な3D LUTファイルを選択時に、適用するLUTデータを変更した直後に記録を開始した場合

[ご注意]

- 1つのクリップに記録できるメタデータは1つのみです。
- X-OCN記録時は3D LUTファイルをメタデータとして記録することはできません。

好みのルックで撮影する

本機のCustomモードでは、基本ルックをベースにブラックやマトリクスなどの調節を加えてルックを構成します。



これらの設定をSceneファイルに保存することで、内容の異なるルックを簡単に選ぶことができます。

本機は、計6個のプリセットのルックを用意しています。

ルックを選ぶ

- 1 撮影画面でマルチファンクションダイヤルを押す。
- 2 **[SCN]1** (Sceneファイル) アイコンを選択。アイコンの数字はファイル番号です。
- 3 マルチファンクションダイヤルを押す。
- 4 メニューから好みのルックを選択し、マルチファンクションダイヤルを押す。

[メモ]

- 工場出荷時は、以下がプリセットされています。

Shooting Mode	Custom
Target Display	SDR(BT.709) HDR(HLG)
Sceneファイル 1	S-Cinetone HLG Live

Shooting Mode	Custom
Target Display	SDR(BT.709) HDR(HLG)
Sceneファイル 2	Standard HLG Natural
Sceneファイル 3	Still 未登録
Sceneファイル 4	ITU709 未登録
Sceneファイル 5	709tone 未登録
Sceneファイル 6 ~ 16	未登録 未登録

- フルメニューのPaint/Lookメニュー >Scene FileのStore(51ページ) で、現在のルックをSceneファイルとして内部メモリーに保存できます。なお、プリセットのルックはScene FileのPreset Recallでも呼び出せます。

ルックをカスタマイズする

プリセットルック以外のルックで撮影したい場合は、任意の基本ルックを基に、フルメニューのPaint/LookメニューのBlack、Knee、Detail、Matrix、Multi Matrixの各設定項目でルックをカスタマイズすることができます。各設定項目の詳細は51ページを参照してください。設定するときは、本機をテレビやモニターについて、画像を確認しながら調節してください。

[ご注意]

3D LUTファイルをインポートして映像に適用したとき、Paint/LookメニューのMatrixなどの基本ルック以外の各設定が変更されていると、3D LUTファイルに定義された通りのルックになりません。フルメニューのPaint/Lookメニュー >Reset Paint SettingsのReset without Base Look(51ページ) で、カスタマイズされた設定値をまとめてリセットできます。

ルックを保存する

フルメニューのPaint/Lookメニュー >Scene FileのStore(51ページ) で、現在のルックをSceneファイルとして内部メモリーに保存できます。

撮影画面からダイレクトメニューの操作で簡単に呼び出せるようになります。

[ご注意]

- ルックを保存せずにほかのルックを選択すると、保存前のルックは破棄されます。
- フルメニューのMaintenanceメニュー >All ResetのReset(71ページ) を実行しても、Sceneファイルは削除されません。

[メモ]

プリセットのSceneファイルも上書きできます。プリセットのSceneファイルを復元するには、フルメニューのPaint/Lookメニュー >Scene FileのPreset Recall(51ページ) で復元したいルックを読み出したあと、Scene FileのStoreでSceneファイルに保存してください。

保存したルックを削除する

フルメニューのPaint/Lookメニュー >Scene FileのDelete(51ページ) で、内部メモリーに保存されているSceneファイルを削除できます。

[メモ]

削除すると、ダイレクトメニューに表示されなくなります。

ズームを調節する

撮影時の状況に応じて、ズームを調節します。

電動ズームレンズを装着したとき、グリップリモコンまたはMIシュー搭載ハンドル(別売)のズームレバーでズーム操作ができます。レバーを押し込む量に応じてズームスピードが変化します。

また本機は、全画素超解像という画像処理技術によるズーム機能を搭載しています。全画素超解像ズームを有効にすると、単焦点レンズでもズームができるようになります。電動ズームレンズでは光学望遠端からさらに寄ることができます。

全画素超解像ズームの最大倍率は、記録解像度により異なります。

- 記録解像度QFHD/4Kのとき：1.5倍
- 記録解像度HDのとき：2倍

[ご注意]

- 全画素超解像ズームは、イメージヤースキャンモード(87ページ)がS35 5.8K 17:9/S35 5.8K 16:9/S35 1.9K 16:9のときのみ使用できます。
- PLマウントレンズ装着時、レンズの操作で全画素超解像ズームはできません。
- X-OCN記録時、全画素超解像ズームはできません。

ズームの種類を選ぶ

フルメニューのTechnicalメニュー >ZoomのZoom Type(62ページ)でズームの種類を設定します。

装着するレンズの種類によって以下のように異なります。

装着する レンズ	Zoom Typeの設定	
	Optical Zoom Only	On(Clear Image Zoom)
単焦点レンズ／手動ズームレンズ	レバーによるズーム操作はできな い。	全画素超解像ズームができる。
電動ズームレンズ	光学ズームのみ	光学ズームと全画素超解像ズームができる。

[ご注意]

- フルメニューのShootingメニュー >S&Q MotionのSetting(42ページ)がOnの場合、全画素超解像ズームは使えません。
- レンズのSERVO/MANUAL切り替えスイッチを切り替えると、全画素超解像ズームの倍率は1倍にリセットされます。

ハンドルズームを設定する

フルメニューのTechnicalメニューのHandle Zoom(62ページ)でMIシュー搭載ハンドル(別売)のズームレバーの設定を行います。

ズームリングの回転方向を設定する

一部のEマウントレンズでは、ズームリングの回転方向を逆にすることができます。

フルメニューのTechnicalメニュー >LensのZoom Ring Direction(63ページ)で設定します。

フォーカスを調節する

撮影時の状況に応じて、フォーカスを自動または手動で調節します。

[ご注意]

LCDモニターが情報表示モードのときは、LCDモニター部のマルチセレクターで外部モニターに表示された画面の操作はできません。

フォーカスを手動調節する(マニュアルフォーカス)

フォーカスを手動調節するには、FOCUSスイッチ(4ページ)を「MF」に設定します。

撮影状況に応じて、手動でフォーカス合わせができます。

以下のようなときに使います。

- 水滴の多い被写体
- 背景とコントラストの弱い被写体
- 意図的にフォーカスを手前の被写体から奥の被写体に送るとき

[メモ]

電源を入れて10分以上経過後にフォーカスを合わせると、安定した合焦状態を保つことができます。

また、環境温度が大きく変動した場合、フォーカス合わせを再度行うことで最適な撮影状態を維持できます。

手動調節を基本オペレーションとして、オートフォーカスを補助的に効かせることもできます。

- AF乗り移り感度設定を1(Locked)にする

- FOCUSスイッチを「AF」に設定する

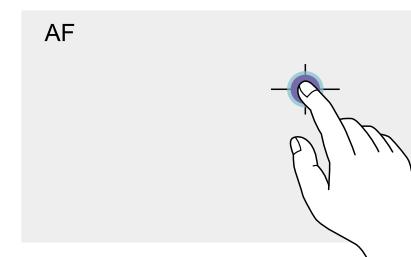
- フォーカスリングを操作する(AF Assist, 98ページ)

タッチ操作でフォーカスを合わせる(スポットフォーカス)

マニュアルフォーカス時、ピントを合わせたい位置をタッチ操作で指定すると、フォーカスを合わせることができます。

スポットフォーカスを使用するには、ShootingメニューのFocusのTouch Function in MF(42ページ)をSpot Focusに設定します。

ピントを合わせたい位置をタップすると、スポットフォーカスマークが表示されます。



[メモ]

- スpotフォーカス中にPush AF/Push MFが割り当てられたアサインブルボタン(107ページ)押すとスポットフォーカスを終了し、そのボタンを押している間はオートフォーカスになります。ボタンから指を離すと、マニュアルフォーカスに戻ります。

- レンズ側でマニュアルフォーカスに設定されていると、スポットフォーカスは動作しません。
- ピント拡大中、またはTechnicalメニューのTouch Operation(62ページ)がOffのときは、スポットフォーカスの位置指定操作はできません。

一時的に自動でフォーカスを合わせる(ピッシュオートフォーカス(AF))

マニュアルフォーカス中に、Push AF/Push MFが割り当てられたアサインブルボタン(107ページ)を押すと、そのボタンを押している間はオートフォーカスになります。

フルメニューのShootingメニュー>Focusの

Focus Area(42ページ)で設定したフォーカスエリア内でフォーカスを合わせます。

ボタンから指を離すと、マニュアルフォーカスに戻ります。

マニュアルフォーカス中に、ある被写体から別の被写体にゆっくりとフォーカス送りするような場合に有効です。

[ご注意]

レンズ側でマニュアルフォーカスに設定されていると、ピッシュオートフォーカスは動作しません。

拡大表示をしてフォーカスを合わせる(ピント拡大)

フルメニューのMonitoringメニュー>Focus Magnifier(58ページ)でピント拡大を行う出力先を選択できます。設定に応じて、ピント拡大で使用するアサインブルボタンの機能名が変わります。

LCD Focus Magnifierが割り当てられたアサインブルボタン(107ページ)を押すと、LCDモニターのピント拡大の倍率を切り替えることができます。そのボタンを押すたびに、画面中央が以下の倍率で拡大されます。

コーデック設定	記録画サイズ	倍率
X-OCN	8K	3倍、6倍
	8K以外	
X-OCN以外	8K	4倍
	8K以外	3倍、6倍

フォーカスが合っているかを確認するときに便利です。

最大の倍率にした後、もう一度押すと元に戻ります。

ピント拡大中にマルチセレクター(5ページ)で拡大位置を移動できます。マルチセレクターを押すと中央に戻ります。

また、SDI出力およびHDMI出力の画像もOutput Focus Magnifierが割り当てられたアサインブルボタン(107ページ)を押すと、以下のように拡大されます。

コーデック	記録画サイズ	倍率	
設定	ズ	SDI (FHD)	HDMI(FHD)/Monitor FHD
X-OCN	—	2倍、4倍	2倍、4倍
X-OCN以外	8K	—	4倍
	8K以外	—	2倍、4倍

[ご注意]

- 映像出力フォーマットがMonitor FHD以外のSDI出力と、FHD以外のSDI/HDMI出力では、画像は拡大されません。

- X-OCN記録以外で、HDMI出力画像のピント拡大を行った場合は、出力画像にLUTを適用することはできません。
- 拡大位置は本機の電源を切ると画面中央に戻ります。
- X-OCN記録時に、LCDモニター映像をLUT Offでピント拡大した場合は、LUTが適用された映像になることがあります。
- X-OCN記録以外で、HDMI出力画像のピント拡大を行った場合は、Log映像になります。

フォーカスを自動調節する (オートフォーカス)

本機は、高速性に優れる位相差AF方式と、高い精度でフォーカスを合わせることに優れるコントラストAF方式を採用しています。これらの2つのAF方式を組み合わせることで、高速性・高精度を両立したオートフォーカスを実現しています。

フォーカスを自動調節するには、本機のFOCUSスイッチ(4ページ)を「AF」に設定します。レンズにフォーカス切り替えスイッチがある場合はあらかじめ「AF/MF」または「AF」に設定してください。「Full MF」または「MF」の場合、レンズは本機からのフォーカス指示を受け付けません。

[メモ]

フルメニューのShootingメニュー>FocusのAF Assist(42ページ)をOnに設定すると、オートフォーカス中でもレンズのフォーカスリングでフォーカスを動かすことができます。

[ご注意]

- オートフォーカスに対応したレンズが必要です。
- 撮影状況により精度が出ない場合があります。
- PLマウントレンズではフォーカスを自動調節できません。
- フルメニューのMonitoringメニュー>De-SqueezeのRatio(56ページ)がOff(1.0x)以外のときは、オートフォーカスは使用できません。

オートフォーカスの対象領域／位置を設定する(フォーカスエリア)

フルメニューのShootingメニュー>FocusのFocus Area(42ページ)でオートフォーカスの対象とする領域を設定できます。

Flexible Spot:

映像の指定した位置にフォーカスを合わせます。

選択後、マルチセレクター(5ページ)で位置を指定します。マルチセレクターを長押しすると中央の位置に戻ります。



Zone:

指定したゾーン内から自動でフォーカスを合わせる位置を探します。

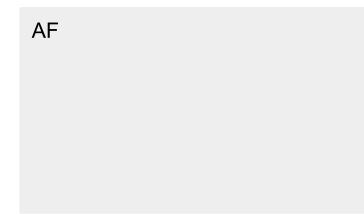
選択後、マルチセレクター(5ページ)で位置を指定します。

マルチセレクターを長押しすると中央の位置に戻ります。



Wide:

映像全域からフォーカスを合わせる位置を探します。枠は表示されません。



[メモ]

フルメニューのMonitoringメニュー>Display On/OffのFocus Area Indicator(56ページ)で、フォーカスエリア表示をOn/Offすることができます。

[ご注意]

フォーカスエリア枠はDISPLAYボタンでは非表示になりません。

フォーカスエリアをすばやく変更する (フォーカスセット)

アサインブルボタン(107ページ)にFocus Settingを割り当てるとき、撮影中などにオートフォーカスの対象領域(フォーカスエリア)の位置や大きさをすばやく変更することができます。フォーカスエリアの設定により動作が変わります。

フルメニューのShootingメニュー >FocusのFocus Area(42ページ) が Flexible SpotまたはZoneの場合:

Focus Settingを割り当てるアサインブルボタンを押すと、マルチセレクター(5ページ)でフォーカスエリアの位置を変更することができます。

位置変更中にマルチセレクターを押すと、フォーカスエリアの位置が中央に戻ります。

Focus Settingを割り当てるアサインブルボタンを長押しするとフォーカスエリアの大きさを変更することができます。

大きさを変更後、マルチセレクターを押すとフォーカスエリアの位置を設定します。

設定の変更が終了したら、Focus Settingを割り当てるアサインブルボタンを押して元の画面に戻ります。

フルメニューのShootingメニュー >FocusのFocus Area(42ページ) が Wideの場合:

Focus Settingを割り当てるアサインブルボタンの長押しによるフォーカスエリアの大きさ変更のみ可能です。種別をFlexible SpotまたはZoneに変更すれば、続けて位置変更も可能です。

[メモ]

フォーカスエリアの位置変更が可能な場合は、フォーカスエリア枠がオレンジ色で表示されます。

フォーカスエリア枠をタッチ操作で移動する(タッチフォーカスエリア)

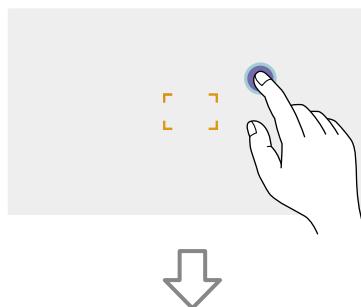
Focus Settingを割り当てるアサインブルボタン(107ページ)を押すなどしてフォーカスエリアの表示をオレンジにしたとき、タッチ操作で移動できます。

タップした場所をフォーカスエリアの中心とし、フォーカスエリアの位置を移動します。ドラッグすると、フォーカスエリアの位置は指の動きに追従して移動します(10ページ)。

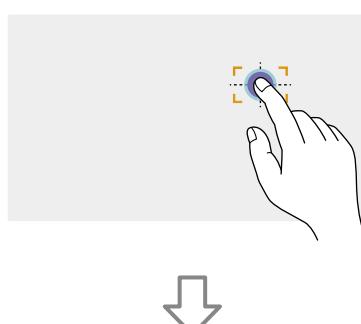
[メモ]

撮像画面ではFocus Settingを割り当てるアサインブルボタンの操作で、タッチフォーカス操作の有効・無効を切り替えることができます。

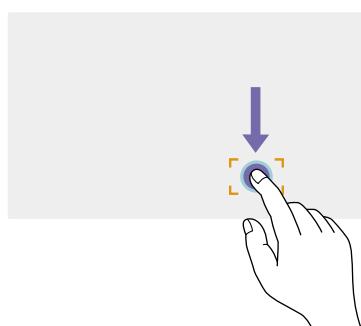
任意の位置をタップする



タップした位置をフォーカスエリアの中心として位置を移動する



ドラッグで指先を追従し、フォーカスエリアの位置を移動する



[ご注意]

- タップまたはドラッグした位置がフォーカスエリアの位置の設定範囲を超えた場合、フォーカスエリアの位置は設定範囲内の上下左右端に設定されます。
- 以下の場合、この機能は使えません。
 - フルメニューのTechnicalメニューのTouch Operation(62ページ)がOffの場合
 - フォーカスエリア枠がグレーまたは非表示の場合

オートフォーカスの動作の調節をする (AFトランジション速度、AF乗り移り感度)

AFトランジション速度

フルメニューのShootingメニュー >FocusのAF Transition Speed(42ページ)で、被写体が移り変わる際のフォーカス駆動の速さを設定することができます。

低速側に設定すると被写体の移り変わり時にゆっくりとフォーカス送りし、印象的な映像表現を可能にします。

高速側に設定すると被写体間のフォーカス送りがすばやくなります。フレームに入った被写体にすぐにフォーカスが合うので、すばやいフォーカス合わせが要求されるドキュメンタリー撮影などに効果的です。

奥の被写体に合焦している



AF乗り移り感度

フルメニューのShootingメニュー >FocusのAF Subj. Shift Sens.(42ページ)で、被写体の乗り移り感度を設定することができます。

粘る側に設定するとフォーカスの合っている被写体の前に別の被写体が来てもフォーカスが移りにくくなり、敏感側に設定すると手前に来た被写体を優先してフォーカスが移りやすくなります。

[メモ]

AF Speed/Sens.を割り当てたアサインブルボタンを押すたびに、調整用のレベルバーが以下の順で表示され、AFトランジション速度とAF乗り移り感度の設定を変更できます。

AFトランジション速度→AF乗り移り感度→非表示・・・

乗り移り中

- 1(低速) : フォーカスがゆっくり動く
·
·
7(高速) : フォーカスがすばやく動く

手前の被写体に合焦

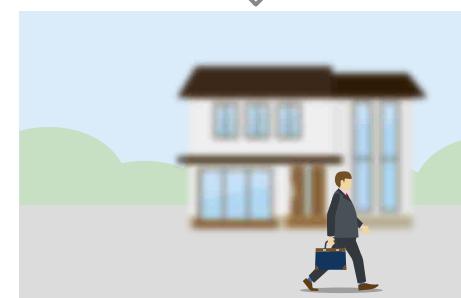


AF Subj. Shift Sens.: 1(粘る)



別の被写体にフォーカスが移りにくい

AF Subj. Shift Sens.: 5(敏感)



別の被写体にフォーカスが移りやすい

手動でフォーカス対象を変更する(AF Assist)

フルメニューのShootingメニュー>FocusのAF Assist(42ページ)をOnに設定すると、オートフォーカス中でもレンズのフォーカスリングを操作して任意の被写体にフォーカスを合わせることができます。

フォーカスリングの操作を止めると、フォーカスリングで合わせた被写体にオートフォーカスします(AFアシスト状態)。

フルメニューのShootingメニュー>Focus>AF Subj. Shift Sens.(42ページ)の設定に関わらず、フォーカスリング操作後はフォーカスが乗り移りにくくなります。

以下の場合、AFアシスト状態は解除されます。

- フォーカスリングで合わせた被写体を見失ったとき
- マニュアルフォーカスにしたとき
- リアルタイムトラッキングAFを開始したとき

[メモ]

- Push AF/Push MFが割り当てられたアサインブルボタン(107ページ)を使うと、AFアシスト状態を素早く解除できます。
- フォーカスリングを操作すると、リアルタイムトラッキングAFは終了します。
- 人物限定AFの場合、フォーカスリングを操作すると一番近い顔にオートフォーカスします。

一時的に手動でフォーカスを合わせる(プッシュマニュアルフォーカス)

オートフォーカス中に、Push AF/Push MFが割り当てられたアサインブルボタン(107ページ)を押すと、そのボタンを押している間はマニュアルフォーカスになります。

ボタンから指を離すと、オートフォーカスに戻ります。

被写体の手前を撮影対象でないものが横切るときなど、一時的にオートフォーカスを止めて手動でフォーカスを合わせることができます。

人物を検出して追尾する(被写体認識AF)

人物を追尾対象として検出し、フォーカスエリア内にある顔や瞳、頭、体にフォーカスを合わせ続けることができます。

フォーカスモードがAFモードまたはプッシュオートフォーカス中のみ使用できます。

人物を検出すると灰色の被写体認識枠が表示されます。オートフォーカスの対象と判断されると、枠が白色になり、追尾が開始されます。

よりピンポイントな認識部位(瞳など)が認識された場合は、その部位が自動的に優先されて認識枠が表示されます。

複数の人物を検出したときは、主な被写体は自動的に決定します。

[メモ]

フォーカスエリアがZoneまたはFlexible Spotに設定されているときは、設定したフォーカスエリアの範囲に人物が重なっているときに、認識した被写体の部位(顔や瞳/頭/体)に認識枠が表示されます。

ShootingメニューのFocusのSubject Recognition AF(42ページ)で、被写体認識AFの動作を設定します。

Human Only AF:

カメラが被写体(人物)を検出したとき、人の顔や瞳、頭、体にフォーカスを合わせて追尾します。顔や瞳、頭、体を検出しない間は、AFが一時停止し、人物限定AF中の①(AF一時停止アイコン)(23ページ)が表示されます。顔や瞳、頭、体だけにフォーカスを合わせて追尾したいときに有効なモードです。

Human Priority AF:

カメラが被写体(人物)の顔や瞳、頭、体を検出したとき、人の顔や瞳、頭、体に優先的にフォーカスを合わせて追尾します。顔や瞳、頭、体を検出しないときは、AFモードになります(初期設定)。

Off:

被写体認識AF機能を無効にします。

[ご注意]

- Human Only AFに設定しているときでも、プッシュオートフォーカス実行中は、Human Priority AFになります。
- FOCUSスイッチが「MF」のときは、被写体認識AFできません(プッシュオートフォーカス実行中を除く)。
- Human Only AFに設定した状態で本機の電源を切った場合、次に電源を入れると自動的にHuman Priority AFになります。

被写体認識枠を消す

被写体認識枠の表示／非表示は、フルメニューのMonitoringメニュー>Display On/OffのSubject Recognition Frame(56ページ)で設定できます。

アサイナブルボタンで被写体認識AFの動作を切り替える

アサイナブルボタン(107ページ)にSubject Recognition AFを割り当てるとき、そのボタンを押すたびに、被写体認識AFの動作がHuman Priority AF、Human Only AF、Offの順に切り替わります。

ダイレクトメニューで設定する

被写体認識AFの動作は、ダイレクトメニュー(107ページ)でも切り替えることができます。

被写体を指定して追尾する(リアルタイムトラッキングAF)

タッチ操作や被写体認識枠の選択操作で指定した被写体にフォーカスを合わせ続けることができます。

被写体を選択すると白色の追尾枠が表示され、追尾が開始されます。

[メモ]

- フォーカスエリアの設定に関わらず、映像領域全体で追尾します。
- ShootingメニューのFocusのTouch Function in MF(42ページ)をTracking AFに設定すると、フォーカスモードがMFモードの場合でもリアルタイムトラッキングAFが可能です。

被写体認識AFの動作モードの設定によって、追尾対象に対して次のように動作します。

Human Only AF、Human Priority AF:

指定した被写体にフォーカスを合わせ追尾します。

追尾対象が人物で、顔／瞳／頭／体を検出した場合は、顔／瞳／頭／体にフォーカスを合わせます。

Off:

指定した被写体にフォーカスを合わせ追尾します。追尾対象が人物であっても、顔／瞳／頭／体の検出は行いません。

[ご注意]

レンズ側でマニュアルフォーカスに設定されているとき、リアルタイムトラッキングAFは動作しません。

リアルタイムトラッキングAFを開始する

特定の被写体を追尾対象に指定すると、その被写体に対して追尾が開始されます。

タッチ操作で指定する

次のいずれかの状態のときに、追尾対象とする被写体をタップします。

- フォーカスモードがMFモード、またはプッシュマニュアルフォーカスで、ShootingメニューのFocusのTouch Function in MF(42ページ)がTracking AFのとき
- フォーカスモードがAFモード、またはプッシュオートフォーカス(AF)中のとき

[ご注意]

TechnicalメニューのTouch Operation(62ページ)がOffの場合はタッチ操作での指定はできません。

被写体認識枠の選択操作で指定する

マルチセレクター（5ページ）で被写体選択

カーソル（オレンジ色の下線）を追尾対象にする被写体に移動して、マルチセレクターを押し込みます。

他の被写体認識枠（灰色） 追尾枠



[メモ]

- リアルタイムトラッキングAF中に追尾対象を変更することができます。
- リアルタイムトラッキングAF中にLCD Focus Magnifierを割り当てたアサインブルボタン（107ページ）を押すと、追尾状態を継続したままピント拡大が実行されます。ただし、ピント拡大中は、追尾対象の指定はできません。

[ご注意]

マニュアルフォーカス中は、被写体認識枠の選択操作でトラッキングを開始できません。

リアルタイムトラッキングAFを終了する

タッチ操作で終了する

タッチパネル左上に表示される (リアルタイムトラッキングAF終了) ボタンをタップします。

[メモ]

以下の場合もリアルタイムトラッキングAFが終了します。

- FOCUSスイッチまたはレンズ側でAUTO/MANを切り替えたとき
- フォーカスマードを変更したとき
- オートフォーカスアシストを実行したとき
- フォーカスエリアの設定や被写体認識AFの動作を変更したとき

更したとき

- Push AF/Push MFを割り当てたアサインブルボタンを押したとき
- 撮影画面内から追尾対象がなくなり、フォーカスがどこにも合っていない状態が数秒経過したとき

撮影時のご注意

- 以下の場合は、状況によってはうまく被写体にピントが合わないことがあります。

- 低照度、逆光時
- 影がかかった状態
- ピントが大きくずれた状態

また、被写体の動きが大きいときなど、瞳を認識していても、以下の場合は、状況によってはうまく瞳にピントが合わないことがあります。

- 目を閉じた状態
- 瞳に毛などがかかった状態
- メガネ（サングラス）をかけた状態

ほかにも、状況によって被写体にピントを合わせられない場合があります。

- 被写体の瞳などの優先したい部位にピントを合わせることができないときは、被写体の頭部や体などの認識されたほかの部位に自動でピントを合わせることができます。
- 被写体の顔などに白色の被写体認識枠が表示されても、自動的に被写体の瞳などの優先したい部位にピントを合わせることができます。
- 被写体の一部しか画角に入っていないときは認識しない場合があります。
 - 人物や動物の手や足のみが見えている場合
 - 被写体の一部が隠れて見えない場合など
- 状況によっては、被写体以外のものや部位などを被写体と誤認識することができます。

明るさを調節する

アイリス、ゲイン、シャッタースピードを調節したり、NDフィルターを使って光量を調節したりして、明るさを調節できます。自動調節することもできます。

明るさを自動調節するときの目標レベルは、フルメニューのShootingメニュー>Auto ExposureのLevel(40ページ)で設定します。アサインブルボタンやアサインブルダイヤル(107ページ)にAuto Exposure Levelを割り当てるこもできます。

[ご注意]

Cine EIモードではゲインを調節できません。基準感度に固定されます。また、シャッタースピードによる明るさの自動調節はできません。アイリスやNDフィルターによる明るさの自動調節は可能です。

基準感度を選択する

本機では2種類の基準感度を選択することができます。

Cine EIモードでは、フルメニューのShootingメニュー>ISO/Gain/EIのBase ISO(38ページ)でISO 3200またはISO 800から選択します。通常の照明下ではISO 800、低照度の条件ではISO 3200を選択してください。

Customモードでは、フルメニューのShootingメニュー>ISO/Gain/EIのBase Sensitivity(38ページ)でHighまたはLowから選択します。

通常の照明下ではLow、低照度の条件ではHighを選択してください。

[メモ]

アサインブルボタンにBase ISO/Sensitivityを割り当てることもできます(107ページ)。

アイリスを調節する

アイリスを調節して、明るさを調節できます。

[ご注意]

PLマウントレンズ装着時、本機やリモートコントロールパネル以外のリモコンからのアイリス制御はできません。リモートコントロールパネルからは、手動調節によってのみアイリス制御が可能です。

アイリスを自動調節する

被写体に応じて明るさを調整します。対応するレンズが必要です。

- 1 レンズにAuto Irisスイッチがついている場合、AUTOにする。
- 2 Auto Irisのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、Autoを選ぶ。

[ご注意]

PLマウントレンズ装着時、Auto IrisはOffになります。

[メモ]

アサインブルボタンにAuto Irisを割り当てるこもできます(107ページ)。

アイリスを手動調節する

- 1 Auto Irisのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、Manualを選ぶ。

- 2 Irisのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、アイリス値が白背景で表示された状態にする。

- 3 マルチファンクションダイヤルを回して調節する。

[メモ]

- マルチファンクションダイヤルにIRISを割り当てる、マルチファンクションダイヤルを常時IRISとして動作させることもできます(107ページ)。
- リモコンのアサインブルダイヤルにIRISを割り当てることもできます(107ページ)。
- アイリスリングが付いているレンズの場合は、レンズのアイリスリングで手動調節できます。

[ご注意]

Cine EIでの記録中は、Exposure Indexの設定を固定することをお勧めします。Exposure Indexの設定を変更してしまうと、ポストプロダクション処理での明るさ補正が非常に難しくなり、撮影時の状態を再現できない恐れがあります。

ゲインを調節する

Customモードではゲインを調節して、明るさを調節できます。

ゲインを自動調節する

AGCのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、Autoを選ぶ。

[メモ]

- レンズのAuto IrisスイッチをMANUALにすると、本機からのAuto IrisやPush Auto Irisを受け付けなくなります。また、本機からのアイリス手動調節操作も受け付けなくなります。
- ShootingメニューのIrisのBokeh Control(40ページ)がOnのときは、Push Auto Irisを実行できません。

ゲインを手動調節する

アイリスを固定したまま露出調整したいときや、AGCによるゲインアップを行いたくないときなどに使用します。

- 1 AGCのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、Manualを選ぶ。

- 2 Gain Valueのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、ゲインを設定する。

[メモ]

- フルメニューのShootingメニュー>ISO/Gain/EIのISO/Gain(38ページ)でゲインのプリセット値を変更できます。
- アサインブルボタンにPush AGCを割り当てる、そのボタンを押している間だけAGCをOnにできます。

Exposure Indexを調整する

Cine EIモードではモニター LUTをOffに設定した映像出力を本線として記録することを想定しており、EI値に合わせてモニター LUT On側の映像の明るさを変化させることで、ポストプロダクション処理での増感／減感処理結果を撮影時に確認することができます。

フルメニューのShootingメニュー>ISO/Gain/EIのExposure Index(38ページ)でEI値を変更できます。

[ご注意]

フルメニューのShootingメニュー > IrisのBokeh Control(40ページ)がOnのときは、Push AGCを実行できません。

シャッターを調節する

シャッターを調節して、明るさを調節できます。

シャッターを自動調節する

Auto Shutterのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、Autoを選ぶと、映像の明るさに応じて自動でシャッター速度または開角度を調整できます。

[メモ]

フルメニューのShootingメニュー > Auto ExposureのAuto Shutter(40ページ)をOnにしても同様の調節が可能です。

シャッターを手動調節する

1 Shutter Speed ValueまたはShutter Angle Valueのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、シャッター値が白背景で表示された状態にする。

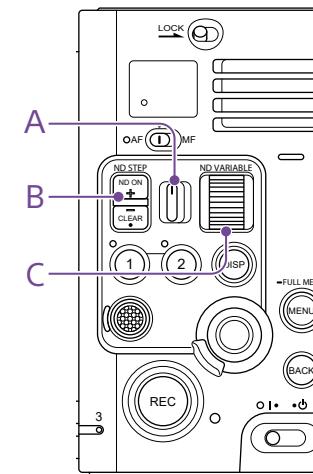
2 マルチファンクションダイヤルを回してシャッター値を調節する。

[メモ]

- 露光時間をフレーム周期に合わせる場合は、手順1でOffを選択します。
- 角度で設定したり、周波数で細かく設定することもできます(39ページ)。

光量を調節する(NDフィルター)

撮影状況が明るすぎるときは、NDフィルターを変更して適切な明るさにすることができます。本機は2つのNDフィルターモードを備えています。2つのモードはND STEP/VARIABLEスイッチで切り替えます。

**ステップモードで調節する**

ND STEP/VARIABLEスイッチ(A)をSTEPの位置にして、ND FILTER POSITION上下ボタン(B)で切り替えます。

フルメニューのShootingメニュー > ND FilterのDisplay Mode(39ページ)で、NDフィルター透過光量の表現形式を設定できます。

- Optical Densityの場合:
Clear(NDなし)、0.6、0.9、1.2、1.5、1.8、2.1のいずれかに調節できます。

• Transmittanceの場合:

Clear(NDなし)、1/4、1/8、1/16、1/32、1/64、1/128のいずれかに調節できます。

バリアルモードで調節する

ND STEP/VARIABLEスイッチ(A)をVARIABLEの位置にします。ND FILTER POSITION上下ボタン(B)でCLEARとOnを切り替えます。

光量を自動調節する

オートNDフィルターをOnにすると、NDフィルターを使った自動露出調節を行います。

- ND FILTER POSITION上下ボタン(B)の+を押して、NDフィルターをOnにする。
- Auto ND Filterのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、Autoを選ぶ。

光量を手動調節する

ND FILTER POSITION上下ボタン(B)の+を押して、NDフィルターをOnにする。

- Auto ND Filterのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、Manualを選ぶ。
- ND VARIABLEダイヤル(C)を回してフィルターの透過率を調節する。

[メモ]

アサイナブルダイヤルにND Filterを割り当てることもできます(107ページ)。

一時的に自動調節する

Push Auto NDが割り当てられたアサイナブルボタン(107ページ)を押している間、オートNDフィ

ルターがOnになります。指を離すとオートNDフィルターがOffに戻ります。

ND FILTER POSITION上下ボタン(B)の+を押し、NDフィルターをOnの状態にしておいてください。

[ご注意]

- Display Modeを変更すると、NDフィルターの現在の濃度が変わることがあります。
- 撮影中にCLEARをまたいでNDフィルターを切り替えたとき、画像内にNDフィルターの枠と検出用センサーの紫光が入り、音声に動作音が入ります。切り替えが完了後は、センサー光が映り込んだり動作音が入ることはあります。
- ShootingメニューのIrisのBokeh Control(40ページ)がOnのときは、Push Auto NDを実行できません。

[メモ]

- ND VARIABLEダイヤル(C)をND0.6からさらに下に回すと、CLEARにることができます。また、CLEARからある程度上に回すと、ND0.6にすることができます。フルメニューのTechnicalメニュー > ND DialのCLEAR with Dial(62ページ)で、この動作を無効にすることができます。
- ND FILTER POSITION上下ボタンの代わりに、ND Filter Positionが割り当てられたアサイナブルボタン(107ページ)を押して設定を変更することもできます。ステップモード: Clear → 0.6 → 0.9 → ... → Clear ...
バリアルモード: Clear → On → Clear ...
- Auto ND Filterが割り当てられたアサイナブルボタン(107ページ)を押してオートNDフィルターをOn/Offすることもできます。
- 明るい被写体を撮影するとき、アイリスを極端に絞ると回折現象が生じフォーカスが甘くなることがあります(ビデオカメラでは一般的に起こる現象です)。NDフィルターを使うことでこの現象を抑え、より良好な撮影結果を得ることができます。

自然な色合いに調節する(ホワイトバランス)

撮影状況に応じて調節モードを選択できます。

ATW(自動追尾ホワイトバランス)

常に適切なホワイトバランスになるように自動的に調節します。

光源の色温度が変化すると、ホワイトバランスを自動的に調節し直します。

ホワイトバランスのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、ATWをOnにします。

フルメニューのShootingメニュー>White SettingのATW Speed(41ページ)で、5段階の調節速度を選択できます。

[メモ]

- フルメニューのShootingメニュー>WhiteのATW(41ページ)、またはATWを割り当てたアサインブルボタン(107ページ)でOnにすることもできます。
- アサインブルボタン(107ページ)にATW Hold機能を割り当てておくと、このボタンを押すことによって、ATWモードでも一時的にATWを停止させ、ホワイトバランスを固定することができます。

[ご注意]

- Cine EIモードのとき、ATWは使えません。
- 照明や被写体の条件によっては、ATWを使用しても適切な色に調節できないことがあります。
例:
 - 空、海、地面、草花など単一色の被写体が大部分を占める場合
 - 色温度が非常に高い／非常に低い光源下の被写体ATWの自動追従の時間が遅い場合や、適切な効果が得られない場合は、オートホワイトバランスを実行してください。

ホワイトバランスを手動調節する

ATW Onのとき:

ダイレクトメニュー(107ページ)で[ATW]アイコンを選び、W:A～W:Hのいずれかを選ぶ。

ATW Offのとき:

ダイレクトメニューでW:A～W:Hのいずれかを選ぶ。

- W:A : メモリーポジションA
 - W:B : メモリーポジションB
 - W:C : メモリーポジションC
 - W:D : メモリーポジションD
 - W:E : メモリーポジションE
 - W:F : メモリーポジションF
 - W:G : メモリーポジションG
 - W:H : メモリーポジションH
- メモリーポジションA～Hの選択は、ホーム画面(26ページ)で行います。

[メモ]

フルメニューのShootingメニュー>WhiteのWhite Select(41ページ)で選択することもできます。

各メモリーポジションはそれぞれ以下の手段で設定できます。

- 既定のプリセット値に変更する
- 任意の色温度・Tintに変更する
- オートホワイトバランスを実行する

既定のプリセット値に変更する

ダイレクトメニュー(107ページ)のW:A～W:Hのいずれかを選ぶと、以下が表示されます。

Cine EI:

→5500K±00

→4300K±00

→3200K±00

Custom:

→6300K±00

→5600K±00

→4300K±00

→3200K±00

選択すると、そのときのメモリーポジションの設定値が更新されます。

任意の色温度に変更する

1 Color Temp.またはTintのダイレクトメニュー(107ページ)を表示させ、設定値が白背景で表示された状態にする。

2 マルチファンクションダイヤルを回して調節する。

[メモ]

ホーム画面(26ページ)、またはフルメニューのShootingメニュー>WhiteのColor Temp、Tint、R-Gain、B-Gain(41ページ)で設定することもできます。

オートホワイトバランスを実行する

メモリーポジションA～Hに保存するホワイトバランスを自動で設定します。

1 メモリーポジションA～Hのいずれかを選択する。

2 被写体の照明光源と同じ条件のところに白い紙などを置き、ズームアップして画面に白を映す。

3 明るさを調節する。

「アイリスを手動調節する」(101ページ)に従って、アイリスを調節してください。

4 ダイレクトメニューのW:A～W:Hのいずれかを選び、AWBを選択する。

- 自動で調節した結果は手順1で選択したメモリーポジション(A～Hのいずれか)に保存されます。
- ATWモードで実行した場合、自動調節が終わると、結果を引き継いでATWを再開します。ATW Speedの設定に関わらず、最速でホワイトバランスを合わせたいときに使用できます。

[メモ]

ホーム画面(26ページ)、またはフルメニューのShootingメニュー>WhiteのAuto White Balance(41ページ)、またはAuto White Balanceを割り当てたアサインブルボタン(107ページ)でも実行できます。

[ご注意]

正常に終了しなかったときは画面に約3秒間エラーメッセージが表示されます。繰り返し調整を試みてもエラーメッセージが表示されるときは、ソニーのサービス担当者にご相談ください。

手ブレ補正を使用する

手ブレ補正を有効にすると、撮影時の細かな動きによる画像のブレを抑えることができます。また、装着しているレンズによって、自動または手動で手ブレ補正を行うことができます。

[ご注意]

Monitoringメニュー > De-SqueezeのRatio(56ページ)がOff(1.0x)以外の場合、手ブレ補正是使用できません。

手ブレ補正を有効にする

PLマウントアダプターの装着の有無によって、設定項目が異なります。

PLマウントアダプター装着時

フルメニューのShootingメニュー > Image StabilizationのPL Stabilization(43ページ)をHighまたはLowに設定します。

- Low : 安定した状態での動画撮影時に手ブレ補正を行います。
- High : Low設定より強い手ブレ補正を行います。

手ブレ補正機能を使用しない場合は、PL StabilizationをOffに設定します。この場合は、三脚を使用することをお勧めします。

PLマウントアダプター非装着時

フルメニューのShootingメニュー > Image StabilizationのSteadyShot(43ページ)をActiveまたはStandardに設定します。

- Standard : 安定した状態での動画撮影時に手ブレ補正を行います。
- Active : Standard設定より強い手ブレ補正を行います。

手ブレ補正機能を使用しない場合は、SteadyShotをOffに設定します。この場合は、三脚を使用することをお勧めします。

[ご注意]

以下の場合、ActiveまたはHighに設定できません。

- Projectメニュー > Rec FormatのCodec(44ページ)がX-OCNの場合
- Shootingメニュー > S&Q MotionのSetting(42ページ)がOnの場合
- フルメニューのProjectメニュー > Rec FormatのImager Scan Mode(44ページ)がFF 8.6K 17:9 / FF 8.6K 16:9 / S35c 4K 17:9の場合

> Image StabilizationのFocal Length(43ページ)で設定します。8mm ~ 1000mmまでの範囲で焦点距離を設定できます。

自動で焦点距離の設定をする

レンズから取得した情報をもとに自動で手ブレ補正の焦点距離の設定を行います。

自動で手ブレ補正の焦点距離の設定を行う場合は、フルメニューのShootingメニュー > Image StabilizationのStabilization Adjustment(43ページ)をAutoに設定します。

手動で焦点距離の設定をする

手動で手ブレ補正の焦点距離の設定を行います。手動で手ブレ補正の焦点距離の設定を行う場合は、フルメニューのShootingメニュー > Image StabilizationのStabilization Adjustment(43ページ)をManualに設定し、焦点距離を設定します。

焦点距離は、フルメニューのShootingメニュー

収録する音声を設定する

本機の入力端子やスイッチ、ダイヤルなどを使い、収録する音声を設定します。

外部音声の入力端子と切り替えスイッチ

INPUT 1端子(5ページ)

INPUT 2端子(6ページ)

マルチインターフェースシュー(別売のMIシュー搭載ハンドル装着時)

INPUT 1スイッチ(LINE/MIC/MIC+48V)(5ページ)

INPUT 2スイッチ(LINE/MIC/MIC+48V)(6ページ)

録音レベルの設定用スイッチ

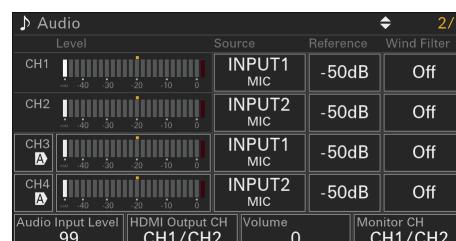
CH1(AUTO/MAN)スイッチ(4ページ)

CH2(AUTO/MAN)スイッチ(4ページ)

AUDIO LEVEL(CH1)ダイヤル(4ページ)

AUDIO LEVEL(CH2)ダイヤル(4ページ)

オーディオステータス画面



音声入力機器を選ぶ

- 1 オーディオステータス画面のCH1/CH2/CH3/CH4のSource(29ページ)、またはフルメニューのAudioメニュー>Audio InputのCH1 Input Select～CH4 Input Select(59ページ)で音声入力を切り替えます。

[ご注意]

- ・インターバルレックモード、スロー&クイックモーション撮影では、音声は記録されません。
- ・本機は環境音収録用のナレーションマイクを内蔵しています。他機器とのタイミング合わせなどにご利用いただけます。その場合はInternal MICを設定します。
- ・CH1 Input SelectとCH2 Input SelectがInternal MICに設定されている場合、CH1とCH2の録音レベルは共にAUDIO LEVEL(CH1)ダイヤル(4ページ)に連動して調節されます。CH3 Input SelectとCH4 Input SelectがInternal MICに設定されている場合、CH3とCH4の録音レベルは共にCH3 Input Level(59ページ)に連動して調節されます。

- 2 入力する音源を選ぶ。

INPUT 1/INPUT 2端子に接続する機器に合わせて、INPUT 1/INPUT 2(LINE/MIC/MIC+48V)スイッチを設定します。

接続機器	スイッチの位置
外部音声機器(ミキサーなど)	LINE
ダイナミックマイクや電池内蔵のマイク	MIC
+48V電源(ファンタム電源)対応のマイク	MIC+48V

- ・MIC+48Vにしたままで+48V電源に対応していない機器を接続すると、接続した機器の故障の原因になります。接続前にご確認ください。

- ・接続しない端子の雑音が気になるときは、INPUT1/INPUT2(LINE/MIC/MIC+48V)スイッチを「LINE」にしてください。

- ・CH1～CH4を一括してレベル調節することもできます。Audio Input Levelが割り当てられたアサイナブルダイヤル(107ページ)や、オーディオステータス画面、またはフルメニューのAudioメニュー>Audio InputのAudio Input Levelで調節します。

[メモ]

音声入力レベルの確認には、オーディオステータス画面が便利です(29ページ)。

[ご注意]

- ・Audioメニューの設定の組み合わせによりAudio Input Levelの設定が無効になる場合があります。詳細は139ページの図をご覧ください。
- ・本機では組み合わせによりさまざまな設定ができます。詳細は139ページの図をご覧ください。

録音レベルを自動調節する

自動調節するチャンネルのCH1/CH2(AUTO/MAN)スイッチを「AUTO」にします。CH3/CH4の場合は、オーディオステータス画面(29ページ)、またはフルメニューのAudioメニュー>Audio InputのCH3 Level Control、CH4 Level ControlをAutoに設定します(59ページ)。

録音レベルを手動調節する

CH1/CH2の録音レベルを手動調節する場合は、以下の手順で行います。

- 1 調節するチャンネルのCH1/CH2(AUTO/MAN)スイッチを「MAN」にする。

- 2 撮影中またはスタンバイ中に、調節するチャンネルのAUDIO LEVEL(CH1)/(CH2)ダイヤルを回して、音量を調節する。

- ・CH3/CH4の場合は、オーディオステータス画面のCH3/CH4(29ページ)、またはフルメニューのAudioメニュー>Audio InputのCH3 Level ControlまたはCH4 Level ControlをManualに設定し、CH3 Input LevelまたはCH4 Input Levelで録音レベルを調節します。

オーディオ入力端子を増設する

MIシュー搭載ハンドル(別売)と、XLRアダプターXLR-K3M(別売)を使うと、同時に4系統のXLR音声機器を本機に接続することができます。

MIシュー搭載ハンドル(別売)のマルチインターフェースシューにXLRアダプターを装着して、オーディオステータス画面(29ページ)のCH3のSourceをShoe CH1に、CH4のSourceをShoe CH2に設定してください。または、フルメニューのAudioメニュー>Audio InputのCH3 Input SelectをShoe CH1に、CH4 Input SelectをShoe CH2に設定してください。

入力にXLRアダプターを選択したチャンネルでは、重複する本機の機能は無効になります。XLRアダプターのスイッチやダイヤルで調節してください。

[ご注意]

- 本機はXLR-K3Mのデジタル2chオーディオインターフェースに対応しています。
- AudioメニューのAudio InputのCH3 LevelやCH4 LevelをAudio Input Levelに設定した場合は、XLRアダプターで調節したレベルに本機のAudio Input Levelが掛け合わされます。
XLRアダプターのスイッチをAUTOに設定した場合も
Audio Input Levelが有効になります。
- Throughに設定した場合は、XLRアダプターで調節した
レベルで記録されます(140ページ)。

便利な機能

ダイレクトメニュー操作

LCDモニターに撮影画面を表示したとき、画面に表示された本機の状態や設定を、直接選択して変更することができます。

設定できる項目は、以下のとおりです。

- Auto Focus Mode
- Steady Shot
- Auto Exposure Mode
- Auto Exposure Level
- ND Filter Position
- Auto ND Filter
- ND Filter Value
- Auto Iris
- Iris Value
- AGC
- Gain Value
- ISO Value
- EI Gain
- Base ISO/Sensitivity
- ECS
- Auto Shutter
- Shutter Speed Value
- Shutter Angle Value
- ATW
- Auto White Balance
- Color Temp.
- Tint
- Preset White Select
- Scene File
- S&Q Motion Frame Rate

1 マルチファンクションダイヤル、または Direct Menuが割り当てられたアサインブルボタンを押す。

ダイレクトメニュー操作のできる項目のいずれかにオレンジのカーソルが表示されます。

2 マルチファンクションダイヤルで操作したい項目にカーソルを合わせ、マルチファンクションダイヤルを押す。

メニューが表示されるか、または項目が白背景で表示されます。

3 マルチファンクションダイヤルで設定を選び、マルチファンクションダイヤルを押す。

メニューまたは白背景が消えて、新しい設定がオレンジのカーソルで表示されます。再びDirect Menuが割り当てられたアサインブルボタンを押すか、何も操作しないで3秒経過すると、ダイレクトメニューが終了します。

[メモ]

- 各種ファンクションボタンを長押しして、直接設定をする状態にすることもできます。
- 白背景で表示された状態では、マルチファンクションダイヤルをアサインブルダイヤルのように使うことができます。
- 選択操作はマルチセレクター(5ページ)でも行えます。

~6ボタンはグリップリモコン(別売)、RM-30BP(別売)に搭載されています。

ボタンの機能を変更する

フルメニューのProjectメニューのAssignable Button(47ページ)を使用します。

割り当てられた機能は、アサインブルボタンステータス画面(30ページ)で確認することができます。

工場出荷時にアサインブルボタンに割り当てられている機能

ボタン1	Off
ボタン2	Off
ボタン3	Off
ボタン4	LCD Focus Magnifier
ボタン5	Direct Menu
ボタン6	Off
ボタン7	Off
ボタン8	Off
ボタン9	Off
ボタン10	Off
ボタン11	Off

Focus Holdボタン Focus Hold

ボタンに割り当てられる機能

- Off
- Base ISO/Sensitivity
- AGC
- Push AGC
- ND Filter Position
- Auto ND Filter
- Push Auto ND
- Iris(ファンクションボタン)
- Auto Iris
- Push Auto Iris
- Bokeh Control
- Auto Shutter
- Auto Exposure Level
- Backlight
- Spotlight
- Auto White Balance
- ATW
- ATW Hold
- AF Speed/Sens.
- Focus Setting
- Subject Recognition AF
- Push AF/Push MF
- Focus Hold
- LCD Focus Magnifier
- Output Focus Magnifier
- S&Q Motion
- LUT On/Off 1
- LUT On/Off 2
- High/Low Key
- Image Stabilization
- Crop Select
- Rec
- Picture Cache Rec
- Rec Review
- Clip Flag OK
- Clip Flag NG
- Clip Flag Keep
- Color Bars
- CALL
- DURATION/TC/U-BIT
- Display
- Lens Info
- Video Signal Monitor
- Marker

- LCD Monitor Adjust
- LCD Monitor Mode
- Gamma Display Assist
- Peaking
- Zebra
- Volume
- Clips
- Touch Operation
- Handle Zoom
- Auto Upload (Proxy)
- Direct Menu
- User Menu
- Menu

ダイヤルの機能を変更する

本体のマルチファンクションダイヤルと、グリップリモコン(別売)のアサインブルーダイヤルの機能を変更することができます。

マルチファンクションダイヤルはProjectメニューのMulti Function Dial(49ページ)のDefault Functionで設定します。

工場出荷時にはIrisが割り当てられています。

マルチファンクションダイヤルに割り当 られる機能

- Off
- ISO/Gain/EI
- IRIS
- Auto Exposure Level
- Audio Input Level

[ご注意]
メニューなどを表示しているときは、本設定は無効になります。

アサインブルーダイヤルは、フルメニューのProjectメニューのAssignable Dial(49ページ)で設定します。

工場出荷時は、いずれもIRISが割り当てられています。

[メモ]

RM-30BP(別売)のアサインブルーダイヤルは、Grip/Remote Dialの設定に従います。

アサインブルーダイヤルに割り当 られる機 能

- Off
- ISO/Gain/EI
- ND Filter
- IRIS
- Auto Exposure Level
- Audio Input Level
- Multi Function Dial

割り当てられた機能は、アサインブルボタンステータス画面(30ページ)で確認することができます。

スロー&クリックモーション

フルメニューのProjectメニュー > Rec Format の Imager Scan Mode(44ページ) が下記に設定されているときは、撮像時のフレームレートを再生時のフレームレートと異なる値に設定することができます。

イメージャースキャン モード	フレームレート
FF 8.6K 17:9	1-30
FF 8.6K 16:9	
FFc 6K 17:9	1-60
FFc 6K 16:9	
FFc 3.8K 16:9	1-60、66、72、75、 88、90、96、100、 110、120
S35 5.8K 17:9	1-60
S35 5.8K 16:9	
S35 4.3K 4:3	1-60
S35c 4K 17:9	1-60、66、72、75、 88、90、96、100、 110、120
S35 1.9K 16:9	1-60、66、72、75、 88、90、96、100、 110、120、150、180、 200、240

S&Q Motionを割り当たアサインブルボタン(107ページ)を押すと、スロー&クリックモーションモードをOn/Offできます。

ボタンを長押しすると、撮像時のフレームレートを設定できます。

[メモ]

プロジェクトステータスのRec Function、フルメニューのShootingメニューのS&Q Motionでも設定可能です。

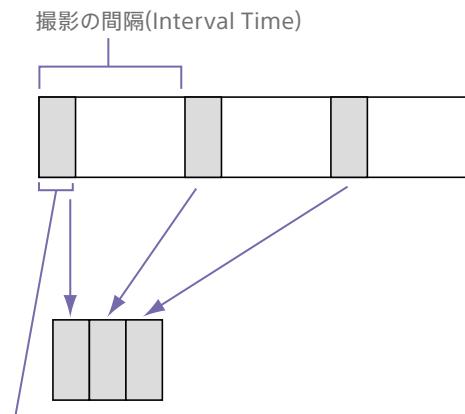
[ご注意]

- 記録中、再生中、クリップ一覧画面表示中は、スロー&クリックモーションモードにできません。
- スロー&クリックモーションモードでは、音声は記録できません。
- スロー&クリックモーションモードでは、オートアイリス機能、オートシャッター機能が無効になります。
- 一部のレンズでは、記録フォーマットとの組み合わせによっては、フレームレートの上限に制限がある場合があります。
- スロー&クリックモーションモードでは、オートフォーカスに以下の制限があります。
 - レンズ機種とシステム周波数、撮像フレームレートによる制限

ソニー製 レンズ	システム周波 数	AF可否
SEL16F28	59.94/29.97/ 23.98	30、60、 120fpsで可
	50.00/25.00	25、50、 100fpsで可
	24.00	不可

間欠的に映像を記録する(インターバルレック機能)

本機のメモリーを利用して間欠的に映像を取り込み、記録するインターバルレック機能は、主に動きの少ない被写体を撮影するときに有効です。記録を開始すると、設定したフレーム数(Number of Frames)分の映像を、任意のインターバル(Interval Time)で自動記録できます。



1回に記録する画像フレーム数
(Number of Frames)

インターバルレックを有効にしているときは、撮影開始前にビデオライトHVL-LBPC(別売)を自動的に点灯させ、光量、色温度を安定させた状態で撮影を行うことができます(プリライティング機能)。

ご注意

- インターバルレックなどの特殊記録機能を複数同時に使用できません。
- インターバルレック使用中に他の特殊記録機能を有効にすると、インターバルレックは自動的に解除されます。
- ビデオフォーマットなどのシステム設定を変更すると、インターバルレックモードは自動的に解除されます。
- 記録中や再生中、クリップ一覧画面表示中にインターバルレックの設定を変更することはできません。

設定するには

プロジェクトステータスのRec Functionで Interval Recを選択し、Number of Framesと Interval Timeを設定してください。

ビデオライトHVL-LBPC(別売)を使用する場合は、必要に応じてProjectメニューのInterval RecのPre-Lightingで記録開始前のビデオライト点灯時間を設定してください。

[メモ]

フルメニューのProjectメニューのInterval Rec(45ページ)でも設定できます。

[ご注意]

- HVL-LBPCを使用するには、別売のMIシュー搭載ハンドルが必要です。
- ビデオライトを記録前に点灯させる場合は、ビデオライトのスイッチをAUTOに設定してください。このとき TechnicalメニューのVideo Light Set(64ページ)の設定に従ってビデオライトが自動点灯／消灯します。
- ビデオライトのスイッチをONに設定すると、ビデオライトは常時点灯します。(ビデオライトは自動点灯／消灯しません。)
- 各設定により消灯時間が5秒以下になる場合は、ビデオライトは消灯しません。

本機の電源を切るとインターバルレックモードは解除されますが、Number of Frames、Interval Time、Pre-Lightingの設定は保持されます。次回インターバルレックモードで撮影するときに再設定する必要はありません。

撮影するには

REC(記録開始／記録停止)ボタンを押すと記録が開始され、LCDモニター上に「Int●Rec」と「Int●Stby」が交互に表示されます。

プリライティング機能を使用する場合は、記録が始まる前にビデオライトが点灯します。

撮影を終了するには

記録停止の操作を行います。

撮影を終了すると、その瞬間までメモリーに蓄えられていた映像がメディアに記録されます。

インターバルレックモードを解除するには

次のいずれかを実行します。

- 電源を切る。
 - 記録待機中に、プロジェクトステータスのRec FunctionをInterval Rec以外に設定する。
- また、本機が再起動した場合もインターバルレックモードは解除されます。

記録中の動作制限

- 音声は記録されません。
- レックレビュー操作は行えません。

本機の電源が切れた場合

- 本機の電源スイッチをOffにした場合は、その瞬間までメモリーに蓄えられていた映像を記録するため、メディアにアクセスしてから、自動的に電源が切れます。
- 記録中にバッテリーを取り外したり、DC電源コードを引き抜いたり、ACアダプター側の電源を切ったりした場合は、その瞬間以前に撮影したショット(最大10秒)が記録されないことがあります。バッテリー交換の際は充分ご注意ください。

数秒前の映像から記録する(ピクチャーキャッシュレック機能)

ピクチャーキャッシュレック機能を使用すると、カメラが捉えた映像を、指定した時間内蔵キャッシュメモリーに蓄えておくことによって、記録開始操作以前にさかのばって記録することができます。

プロジェクトステータスのPicture Cache RecでOnを選択し、キャッシュサイズを設定します。

Cache Sizeの設定	蓄積時間(目安)
Short	5秒
Medium	10秒
Long	20秒
Max	各記録フォーマットでの最大値

[メモ]

- 蓄積時間は、撮影フレームレートや記録フォーマットにより短くなる場合があります。キャッシュサイズ設定画面右下の表示をご確認ください。
- フルメニューのProjectメニューのPicture Cache Rec(46ページ)でも設定できます。
- アサインブルボタン(107ページ)でPicture Cache RecのOn/Offを切り替えることもできます。

[ご注意]

- ピクチャーキャッシュレックは、インターバルレック、2スロット同時記録、プロキシ記録との併用はできません。ピクチャーキャッシュレックをOnにすると、これらの機能は強制的にOffになります。
- 記録中、レックレビュー中は、ピクチャーキャッシュレックモードでできません。
- ピクチャーキャッシュレックがOnのときは、タイムコードがRegenやRec Runに設定されていてもFree Runモードで記録されます(54ページ)。
- ピクチャーキャッシュレック中はOutput Formatの設定を変更できない場合があります。この場合、一度ピクチャーキャッシュレックをOffにしてから変更操作を行ってください。

ピクチャーキャッシュレックを実行する

Picture Cache RecがOnのとき、LCDモニター上に「●Cache」が点灯します。

REC(記録開始／記録停止)ボタンを押すと記録が開始され、キャッシュメモリーに蓄積されている映像からメモリーカードに書き込まれます。

ピクチャーキャッシュレック機能を解除するには

プロジェクトステータスのPicture Cache RecをOffにするか、Picture Cache Rec機能を割り当てたアサインブルボタンを押します。

【ご注意】

- 記録フォーマットや基本ルックが変更されると、それまで蓄えていた映像をクリアし、新たに蓄積を開始します。したがって、変更直後に記録を開始しても、フォーマット変更前の映像はピクチャーキャッシュレックできません。
- メモリーカード挿入直後にピクチャーキャッシュレックの開始／終了操作を行った場合は、データがカードに記録されないことがあります。
- 画像の蓄積は、ピクチャーキャッシュレック機能をOnにしてから開始されます。したがって、Onにする前の映像はピクチャーキャッシュレックできません。
- 再生、レックレビュー、クリップ一覧画面表示など、メモリーカードにアクセスしている間は映像を蓄えないとめ、この間の映像はピクチャーキャッシュレックできません。

メモリーカードAとメモリーカードBの両方に記録するには(2スロット同時記録)

ProjectステータスのSimul Rec(29ページ)、またはフルメニューのProjectメニュー>Simul RecのSetting(45ページ)をOnにすると、メモリーカードAとメモリーカードBの両方に同時に記録できます。

映像信号モニター

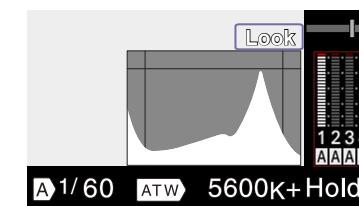
MonitoringメニューのDisplay On/OffのVideo Signal Monitor(57ページ)で、LCDモニターに表示する映像信号の種類をウェーブフォーム、ベクトルスコープ、ヒストグラムのいずれかに設定できます。

オレンジの線はゼブラレベルの設定値を表します。

Video Signal Monitorを割り当てたアサインブルボタン(107ページ)でも設定できます。

モニター対象の表示

Cine EIモードのときは、モニター対象を示す情報として、色域設定(87ページ)またはモニターラUTの設定(42ページ)が映像信号モニターの右上に表示されます。



ガンマ表示アシスト機能

Customモード(87ページ)でTarget DisplayをHDR(HLG)にしたとき、モニタリングステータスのGamma Display Assist*をOnにすると、ビューファインダーをHDR撮影しやすい表示にすることができます。

* フルメニューのMonitoringメニュー>Gamma Display AssistのSetting(58ページ)でも設定可能。

ブリージング補正

フルメニューのTechnicalメニュー>LensのBreathing Compensation(64ページ)で、Eマウントレンズのブリージング補正を行うかどうかを設定できます。

ブリージングとは、フォーカス位置が変化すると画角変動が起こる現象です。

ブリージング補正を実行すると、画角が一定になるよう電子的に画像が切り出され、ブリージングのない撮影が可能になります。

【ご注意】

- ブリージング補正を有効にすると、画角と画質がわずかに変化します。
- レンズによっては、ブリージング補正を有効に設定していても画角の変化を補正しきれない場合があります。
- ブリージング補正に非対応のレンズが装着されている場合は補正できません。
- 以下のいずれかの条件では、本機能はOffに固定されます。
 - Technicalメニュー>LensのDistortion Comp.がOff
 - Shootingメニュー>S&Q MotionのSettingがOn
 - Projectメニュー>Rec FormatのImager Scan Mode(44ページ)がS35 5.8K 17:9/S35 5.8K 16:9/S35 1.9K 16:9以外

- Projectメニュー>Rec FormatのCodec(44ページ)がX-OCN(LT)

ボケを調節する(ボケ調節機能)

アイリス操作にNDフィルターやゲインを連動させて、ボケ具合を簡単に調節することができます。

ボケ調節機能のOn/Offを切り替える

本機能は露出の手動調節時のみ有効にすることができます。NDフィルターをパリアルモードにし、アイリス、ゲイン、シャッター、NDフィルターを手動調節に設定してください。

フルメニューのShootingメニュー>IrisのBokeh Control(40ページ)で、ボケ調節機能のOn/Offを切り替えることができます。

ボケ調節機能がOnの状態では、NDフィルターおよびゲインの表示に[B]アイコンが表示されます。

【メモ】

Bokeh Controlを割り当てたアサインブルボタン(107ページ)で、ボケ調節機能のOn/Offを切り替えることもできます。

ボケ具合を調節する

1 ボケ調節機能をOnにする。

2 アイリスを開放端にする。

3 NDフィルターを1/128に設定する。

4 ゲインを0dBにして、照明で適正露出にする。

5 フォーカスを合わせる。

6 アイリスを調整する。

ボケ具合が変化します。

[メモ]

- ボケ調節機能がOnの場合は、アイリス調節による露出変化をNDフィルターおよびゲインが連動し相殺することで、ボケ具合を変化させることができます。
- ボケ調節はアイリス操作に対して、まずNDフィルターから連動します。NDフィルターが変化できなくなつた際に、ゲインが連動します。
- MFのときは一旦アイリスを開けて、ピントを合わせておくことをお勧めします。
- ボケ調節機能の代わりにオートNDフィルターを使用すると、NDフィルターが被写体の明るさの変化に追従します。

ゲイン連動中の表示について

ボケ調節機能がOnのとき、アイリスを調整するとゲインが変化することがあります。

ゲインが連動して変化した際は、画面上に注意メッセージが表示され、ゲイン表示の[B]アイコンが点滅します。

[ご注意]

- 本機と通信できるEマウントレンズでのみ本機能は有効です。
- 本機能はソニー製のEマウントレンズでIrisリングを使った操作で最大限の効果を得られます。
- 操作スピード、レンズ、撮影設定、被写体によって見え方が異なり、明るさが変化して見える場合があります。撮影前のカメラテストを強くお勧めします。
- アイリスを絞った後に開くとき、または開いた後に絞るとき、のように操作方向を変更する際には明るさが変化する場合があります。その場合は、あらかじめ余分に操作してから少し戻して明るさを確認してから、撮影を開始してください。
例) F8から絞りを開いて背景をぼかしていく撮影をしたい場合、事前にF8よりも余分に絞った後に再度F8まで開いてから明るさを確認し、撮影を開始してください。
- ボケ調節の操作はゆっくり行ってください。操作を速くする場合は画の変化を確認しながら徐々にお試しください。

- ボケ調節はすべての撮影条件で映像の品位を保証するものではありません。
- 下記の操作を行ったとき、ボケ調節機能がOffになります。
 - 本機の電源を切ったとき
 - アイリス、ゲイン、シャッター、NDフィルターのいずれかをAutoにしたとき
 - 撮影モードを切り替えたとき
 - NDフィルターをクリアまたはステップモードにしたとき
 - レンズを取り外したとき
 - 周波数切り替えなど、再起動を行ったとき

デスクイーズ表示設定

シネマスコープサイズの映像コンテンツを制作する場合、アナモフィックレンズを使用して撮影します。

使用するアナモフィックレンズの倍率に合わせたデスクイーズ表示設定をすると、直接被写体を見たときと同じ縦横比に調整された映像をSDI出力やHDMI出力したり、LCDモニターに表示したりすることができます。

デスクイーズ表示は、フルメニューの Monitoringメニュー > De-Squeeze(56ページ) で設定します。

[ご注意]

デスクイーズ倍率が1.8xまたは2.0xに設定されている場合、波形モニター (VSM) はデスクイーズ表示での左右非表示部分も検波します。

高輝度の白飛びまたは低輝度の暗部を確認する

映像出力やLCDモニター映像を、高輝度の白飛び確認または低輝度の暗部確認の状態にすることができます。

High Keyを有効にすると、高輝度部分の差異が見やすくなり、高輝度の白飛びを確認できます。

Low Keyを有効にすると、低輝度部分の差異が見やすくなり、低輝度の暗部を確認できます。

High/Low Keyを割り当てたアサイナブルボタンを押すと、High Key表示/Low Key表示/Off(通常表示) を切り換えることができます。

[ご注意]

- SDIの出力フォーマットがMonitor FHD以外に設定されている場合は、SDI出力をLUT Onに設定していると、High/Low Keyを有効にできません。
- Shootingメニュー > LUT On/Off(42ページ) が LUT Onに設定されている映像に表示されます。
- メニュー画面やホーム画面を表示する、Base Lookを変更するなどの操作を行うと、High/Low Key表示は Offになります。

プロキシ記録をする

CFexpressカードに記録するのと同時に、プロキシクリップをSDカードに記録することができます。

- ◆ 使用可能なメモリーカードや、メモリーカードのフォーマット方法、残容量の確認方法については「残りの記録可能時間を確認する」(20ページ)をご覧ください。

撮影前の設定

- 1 ProjectステータスのProxy Rec(29ページ)、またはフルメニューのProjectメニューのProxy Recで、Setting(45ページ)をOnにする。
- 2 SDカードを、ラベルを上にしてUtility SDカードスロット(4ページ)に差し込む。

[ご注意]

プロキシ記録は、ピクチャーキャッシュレック、スロー＆クイックモーション、インターバルレックと同時にOnにすることはできません。プロキシ記録をOnにすると、これらの機能は強制的にOffになります。

プロキシ記録で撮影する

撮影前に必要な設定が終わったら、REC(記録開始／記録停止)ボタンを押すと記録を開始します。

[ご注意]

- メモリーカードにアクセス中に本機の電源を切ったりメモリーカードを抜いた場合はデータは保証されません。メモリーカードに記録されたすべてのデータが壊れる可能性があります。電源を切ったり、メモリーカードを抜くときは、必ず使用するメモリーカードのアクセランプが消灯していることを確認してから操作してください。
- 出し入れ時にはメモリーカードの飛び出しにご注意ください。

撮影を終了するには、記録停止の操作を行います。

プロキシ記録時のオーディオチャンネルを設定する

フルメニューのProjectメニュー >Proxy RecのAudio Channel(45ページ)で、プロキシデータに記録するオーディオチャンネルを設定できます。

記録されるファイルについて

拡張子は「.mp4」です。

タイムコードも同時に記録されます。

ファイルの保存先について

記録したファイルは、以下のディレクトリーに保存されます。

記録メディア	フォルダパス
SDカード	/PRIVATE/PXROOT/Clip

ファイル名について

メモリーカードに記録されるクリップ名+S03となります。

クリップ名については、フルメニューのTC/MediaメニューのClip Name Format(55ページ)をご覧ください。

[ご注意]

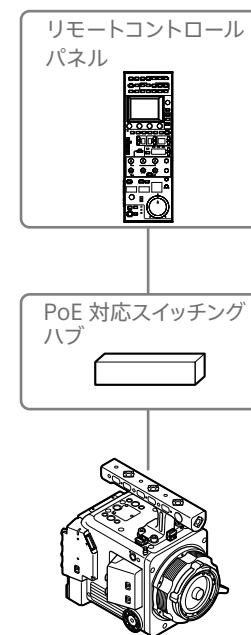
オリジナルクリップとプロキシクリップの関連付けが切れたときは、記録開始時のタイムコードをクリップ名としたプロキシクリップが生成されます。

リモートコントロールパネルを接続する

RCP-1530/3100/3500/3501などのリモートコントロールパネルと本機をLANケーブルで接続すると、それらの機器から本機の機能の一部をコントロールできます。

リモートコントロールパネルを接続する

- 1 「LANケーブルを使用して接続する」(82ページ) の手順に従って、有線LANネットワークの設定をする。
- 2 フルメニューのNetworkメニュー >Wired LANのCamera Remote Control(69ページ) をEnableにする。
- 3 フルメニューのTechnicalメニュー >RCPのCNS Mode(63ページ) をBridgeに設定する。
- 4 リモートコントロールパネルをBRIDGEモードに設定する。
- 5 本機のIPアドレスをリモートコントロールパネルに設定する。
設定方法については、各リモートコントロールパネルの取扱説明書をご覧ください。
- 6 本機のネットワーク端子とPoE対応スイッチングハブをLANケーブルで接続し、リモートコントロールパネルと接続する。



- 7 本機の電源を入れる。
本機はリモートコントロールモードになり、リモートコントロールパネルで本機の撮影操作が可能となります。

[ご注意]

- ・ 無線LANで接続することはできません。
- ・ インターネット経由で接続することはできません。
- ・ 他のネットワーク機能と一緒に使用することはできません。

リモートコントロールモードを解除する

- 1 フルメニューのTechnicalメニュー >RCPのCNS ModeをOffに設定する。
- 2 フルメニューのNetworkメニュー >Wired LANのCamera Remote ControlをDisableに設定する。
- 3 本機の電源を切り、リモートコントロールパネルを取り外す。

[ご注意]

スマートフォンやタブレットなどの操作用デバイスと本機をLAN接続する場合は、「デバイスとLAN接続する」(79ページ) をご確認ください。

外部モニターや記録装置を接続する

記録・再生画像を外部モニターに表示させるときは、本機の出力信号を選択し、接続するモニターに応じた接続ケーブルを使用してください。

VTRなどの記録装置を接続して、本機の出力信号を記録することもできます。

外部HDMIモニターに各種ステータス情報やメニューなどを表示させることができます。モニターに出力する信号に応じて、MonitoringステータスのInfo. Disp.(29ページ)、またはフルメニューのMonitoringメニューのOutput Display(56ページ)をOnに設定してください。なお、映像出力フォーマットがMonitor FHDの場合には、HDMIの代わりにSDIモニターにも各種情報を表示させることができます。

[ご注意]

本機に外部モニターや記録装置などを接続する際には次のことにご注意ください。これらを守らないと、本機の内部回路に大電流が流れ、電気部品が破壊することがあります。

1. DCケーブルについて

外部モニターや記録装置などに接続するDCケーブルは、GND線のインピーダンスが低いものを使用してください。

2. 電位差の確認について

事前にすべての接続機器と本機に電位差がないことを確認してください。

(1) 外部モニターや記録装置などすべての接続機器と本機の接続がない状態にする。

75Ω同軸ケーブルやHDMIケーブルなどは接続しない状態で確認してください。

(2) すべての接続機器と本機のDCケーブルを接続し、各接続機器および本機の電源をONにする。

(3) 本機と各接続機器との間に電位差がないことをテスターなどで確認する。

もし電位差があった場合はいずれかのDCケーブルのGND線のインピーダンスが高いことが考えられます。

GND線のインピーダンスが低いケーブルに交換するなどして電位差がなくなるようにしてください。

3. 接続と電源ONの順番について

各ケーブル接続と電源ONは次の順番で行ってください。

(1) 本機と外部モニターや記録装置などの電源をすべてOFFにする。

(2) 初めにすべての機器のDCケーブルを接続する。

(3) 75Ω同軸ケーブル、HDMIケーブルなどを接続する。

(4) すべての接続機器と本機の電源をONにする。
詳しくはソニーのサービス窓口にご相談ください。

SDI OUT 1/2端子(BNC型)

SDI OUT 1端子は、12GまでのSDI信号を出力できます。

SDI OUT 2端子は、3GまでのSDI信号を出力できます。

Monitoringメニュー(56ページ)で出力フォーマットを設定します。

接続には市販の75Ω同軸ケーブルを使用してください。

[ご注意]

• X-OCN記録時、HDMI出力が有効な状態では、SDI出力はできません。

• 本機と外部機器との間のアースが確実に接地されていることを確認してから、電源を入れてください。(75Ω同軸ケーブルを接続した後に、本機と外部機器の電源を入れることをお勧めします。)

やむを得ず、電源投入状態で外部機器を接続する場合は、75Ω同軸ケーブルを外部機器に接続した後に、本機と接続してください。

• 映像出力フォーマットでMonitor FHDを選択しているときは、一部のリアルタイムのメタデータは出力されません。

本機と同時に外部機器で記録を開始するには

SDI信号出力時は、フルメニューのProjectメニュー>SDI/HDMI Rec Control(46ページ)のSettingをSDI/HDMI Remote I/FまたはParallel Recに設定すると、SDI OUT端子に接続した外部機器にRECトリガー信号を出力することによって、本機と同期した記録が可能になります。

[ご注意]

• 接続した外部機器がRECトリガー信号に対応していない場合は動作しません。

• メディアが挿入されていないときは、RECトリガー信号のみ出力されます。

• 映像出力フォーマットでMonitor FHDを選択しているときやX-OCN記録時は、Parallel Recを選択できません。

HDMI OUT端子(Type Aコネクター)

フルメニューのMonitoringメニュー(56ページ)で、出力フォーマットを設定します。

本機と同時に外部機器で記録を開始するには

HDMI信号出力時は、フルメニューのTC/Mediaメニュー>HDMI TC OutのSetting(54ページ)をOnにして、Projectメニュー>SDI/HDMI Rec ControlのSetting(46ページ)をSDI/HDMI Remote I/FまたはParallel Recに設定すると、HDMI OUT端子に接続した外部機器にRECトリガー信号を出力することによって、本機と同期した記録が可能になります。

[ご注意]

• 接続した外部機器がRECトリガー信号に対応していない場合は動作しません。

• SDI/HDMI Remote I/Fに設定した場合、記録メディアが挿入されていないときは、RECトリガー信号のみ出力されます。

• X-OCN記録時はParallel Recは選択できません。

外部同期

本機のREF IN/REF OUT端子を介して、本機を複数台使用して撮影するときなど、特定の基準信号に同期させたり、タイムコードを合わせることができます。

映像信号の位相を合わせる (ゲンロック)

本機のTC/REF IN/OUT切り替えスイッチ(6ページ)をIN側に設定し、REF IN/REF OUT端子(7ページ)に基準信号を入力することによって、ゲンロックが可能です。

入力できる基準信号は、選択している記録フォーマットのシステム周波数によって異なります。

記録フォーマットの システム周波数	入力可能な基準信号
59.94P	1920×1080 59.94i 720×486 59.94i
50P	1920×1080 50i 720×576 50i
29.97P	1920×1080 59.94i 720×486 59.94i
25P	1920×1080 50i 720×576 50i
24P	1920×1080 48i(24PsF) 1920×1080 24P
23.98P	1920×1080 47.95i (23.98PsF) 1920×1080 23.98P

[ご注意]

- 基準信号が不安定な場合は、ゲンロックできません。
- サブキャリアは同期しません。

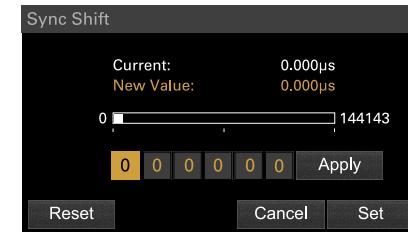
撮像位相(タイミング)を調整するには

ゲンロック入力信号の位相に対して、撮像位相および映像出力信号の位相を、ステップ単位で最大約1フレーム期間の範囲で調整できます。

- フルメニューのTC/Media > Genlock > Sync Shift(54ページ)を選択する。

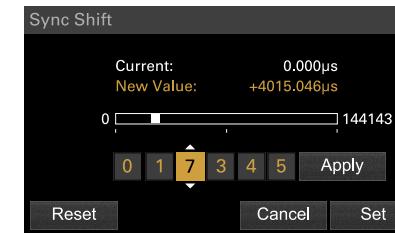


ゲンロックの位相調整画面が表示されます。

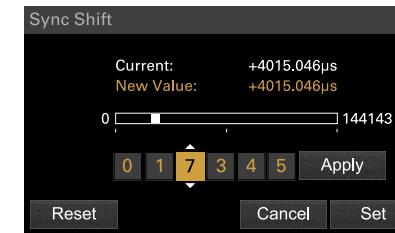


- 8方向ボタンを押すか、またはマルチファンクションダイヤルを回してカーソルを移動し、ステップ値を変更する桁を選択する。

- 8方向ボタンか、またはマルチファンクションダイヤルを回してステップ値を入力する。入力したステップ値を時間値に換算した値がNew Valueに反映されます。
8方向ボタン、またはマルチファンクションダイヤルを押すと、New Valueの値がCurrentに反映され、撮像位相および映像出力信号の位相に反映されます。



入力したステップ値が上限を超えた場合は、New Valueの値に"Over"が表示されます。Applyを選択して決定すると、New Valueの値がCurrentに反映され、撮像位相および映像出力信号の位相に反映されます。Resetを選択すると、初期値に戻すことができます。



ステップ値が上限値を超えた状態(New Valueの値に"Over"が表示された状態)は、上限値で設定反映されます。

- Setを選択して決定する。



ステップ値が決定され、メニュー画面に遷移します。

Cancelを押すと、入力する前のステップ値に戻り、メニュー画面に遷移します。

[ご注意]

- ステップ値を撮像位相に反映させる際は、LCDモニター、SDI出力、HDMI出力に一時的に黒画や「No Sync」が表示されます。位相調整結果の確認は、出力信号が安定してから行ってください。
- 設定したステップ値は、本機の電源を切っても保持されます。ゲンロック信号が入力されると、その値が撮像位相に反映されます。
- 記録フォーマットのFrequencyまたはImager Scan Modeを変更すると、設定したステップ値はリセットされます。必要に応じて、再設定を行ってください。
- ステップ値が「0」に設定されている場合は、ゲンロック入力信号の位相と映像出力信号の位相が一致している状態です。
- 映像出力フォーマットがMonitor FHDに設定されている場合、ゲンロック入力信号の位相と映像出力信号の位相が一致していない場合があります。
- 映像出力フォーマットがMonitor FHDに設定されている場合、本機の電源を切って、次に電源を入れたときに、映像出力信号の位相が設定した位相と異なる状態になることがあります。その場合は再度位相を調整してください。
- 映像出力フォーマットがMonitor FHDに設定されている場合、ステップ値を1ステップだけ変更しても映像出力信号の位相が変わらない場合があります。その場合は、さらにステップ値を変更してください。

他機のタイムコードにロックさせる

タイムコード供給源となる機器は、タイムコード出力が更新されるモード(Free RunやClock)に設定してください。

- TC/MediaメニューのTimecode(54ページ)を次のように設定する。
Mode : Preset
Run : Free Run

2 DURATION/TC/U-BIT機能が割り当てられたアサインブルボタン(107ページ)を押して、画面にタイムコードを表示させる。

3 TC/REF IN/OUT切り替えスイッチ(6ページ)がIN側になっていることを確認し、REF IN/REF OUT端子とTC IN/TC OUT端子に、それぞれHDまたはSDのリファレンスビデオ信号およびそれに同期した基準タイムコードを供給する。

これで本機のタイムコードジェネレーターが基準タイムコードにロックし、画面に「EXT-LK」と表示されます。

ロックしてから約10秒経過した後は、外部からの基準タイムコードの接続を外しても、外部ロック状態は保たれます。

[ご注意]

- 供給する基準タイムコードとリファレンスビデオ信号が、SMPTEタイムコードの規格を満たした位相関係にあることを確認してください。
- 外部ロックの操作をすると、タイムコードは瞬時に外部のタイムコードにロックし、外部タイムコードの値と同じ値がタイムデータ表示部に出ますが、タイムコードジェネレーターが安定するまでの数秒間は、記録を開始しないでください。
- リファレンスビデオ信号の周波数と本機のフレーム周波数が同じでないと、正しくロックできず、本機が正常に動作できません。この場合、タイムコードも外部のタイムコードに正しくロックできません。
- 接続を外した場合、基準タイムコードに対し1時間で1フレームずれる場合があります。

外部ロックを解除するには

TC/MediaメニューのTimecodeの設定を変更してください。

システム周波数を変更した場合や、特殊記録モード(スロー&クイックモーションまたはインターバルレック)での記録を開始した場合も、外部ロックは解除されます。

本機のタイムコードに他機の タイムコードを合わせる

本機のタイムコード設定を、タイムコード出力が更新されるモード(Free RunやClock)に設定してください。

- 1 TC/MediaメニューのTimecodeで本機のタイムコードを設定する(54ページ)。
- 2 TC/REF IN/OUT切り替えスイッチ(6ページ)がOUT側になっていることを確認し、TC IN/TC OUT端子とREF IN/REF OUT端子を、同期させたい機器のタイムコード入力端子、リファレンス信号入力端子に接続する。

コンピューターでクリップ管理・編集する

USBケーブルを使って接続する

カードリーダー(別売)を使う

コンピューターにCFexpress Type BカードリーダーまたはSDカードリーダーをUSBケーブルで接続すると、カードリーダーのスロットに装着されたメモリーカードがコンピューターの拡張ドライブとして認識されます。なお、対応したコンピューターの場合、本機のマストレージモードを使用するよりも高速に、クリップを取り込むことができます。

本機のマストレージモードを使う

[ご注意]

フルメニューのNetworkメニュー>USB TetheringのSettingがOnの場合は、マストレージモードを使うことができません。Offに設定してください。

本機をUSBケーブルで接続すると、カードスロットA/Bに装着されたメモリーカードがコンピューターの拡張ドライブとして認識されます。

1 USB-C端子(5ページ)とコンピューターをUSBケーブルで接続する。

2 本機の電源を入れる。
LCDモニターにUSBの接続を有効にするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

[ご注意]

- アクセスランプが赤く点灯しているときは、次の操作をしないでください。
 - 電源を切る。電源コードを抜く。
 - メモリーカードを抜く。
 - USBケーブルを抜く。

- メモリーカードのフォーマットや修復など、実行を確認するメッセージや実行中のメッセージが表示されている間は、USB接続確認メッセージは表示されません。

フォーマットや修復などの実行が終了後に表示されます。またクリップの詳細情報表示中もUSB接続確認メッセージは表示されません。処理が終了するか、クリップ一覧画面に戻ると表示されます。

- 3 マルチファンクションダイヤルを回してExecuteを選ぶ。
- 4 Windowsの場合、「マイコンピュータ」にリムーバブルディスクとして追加されていることを確認する。
Macの場合、デスクトップにNO NAMEまたはUntitledフォルダー(フォルダーナンは任意に変更可)が作成されていることを確認する。

[ご注意]

- アクセスランプが赤く点灯しているときは、次の操作をしないでください。
 - 電源を切る。電源コードを抜く
 - メモリーカードを抜く
 - USBケーブルを抜く
- すべてのコンピューターについて、動作を保証するものではありません。

ノンリニア編集システムを使う

ノンリニア編集システムには、本機で記録したフォーマットに対応した編集ソフトウェア(別売)が必要です。

専用アプリケーションソフトウェアを使って、あらかじめコンピューターのHDDに編集したいクリップを保存しておきます。

使用上のご注意

安全にご使用いただくために、付属の「ご使用になる前に」とあわせてご覧ください。

取り扱い・保管上のご注意

強い衝撃を与えない

内部構造や外観の変形などの損傷を受けることがあります。

動作中は布などで包まないでください

内部の温度が上がり、好ましくありません。

使い終わったら

電源を切ってください。

長時間使わないときは

バッテリーを抜いておいてください。

レンズを太陽光に向けて放置しない

太陽光がレンズを通して内部に焦点を結び、火災の原因となることがあります。

輸送

- メモリーカードは必ず取り出しておいてください。
- トラック、船、航空機など、本機を貨物として扱う輸送では、お買い上げ時の梱包材をご使用ください。

お手入れ

外装の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ります。ひどい汚れは、中性洗剤液を少し含ませた布で拭いた後、カラ拭きします。

アルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品類は、表面が変質したり、塗料がはげることがありますので、使わないでください。

エアダスター等の高風圧機器を使ったお手入れは光学部位の損傷につながりますのでお控えください。

万一、異常が生じたときは

お買い上げ店かソニーのサービス窓口にご相談ください。

ファンについて

ファンは有寿命部品として定期的な交換が必要です。

常温でのご使用の場合、5年を目安に交換してください。ただし、交換時期は目安であり、部品の寿命を保証するものではありません。交換の際はお買い上げ店にご相談ください。

電解コンデンサについて

電解コンデンサの寿命は約5年です。

(常温で1日に8時間、1ヶ月で25日間、通常に使用すると想定した場合)

したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。

バッテリー端子に関するご注意

機器に搭載されているバッテリー端子(バッテリー・パックやACアダプターとの接点部分)は消耗品です。

振動や衝撃によって端子が変形したり、曲がったり、あるいは長期の屋外での使用などによって表面が腐食したりすると、本体に電源が供給されなくなります。

長期間機器を使用していただくために、定期点検を実施することをお願いします。点検につきましては、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

使用場所・保管場所

水平な場所、空調のある場所に保管してください。次のような場所での使用・保管は避けてください。

- 極端に寒い所、暑い所(使用温度は0°C~40°C)。

真夏、窓を閉め切った自動車内は50°Cを越えることがあります。

- 湿気・ほこりの多い所。
- 雨があたる所。
- 激しく振動する所。
- 強い磁気を発生するものの近く。
- 強力な電波を発生するテレビやラジオの送信所の近く。
- 直射日光が長時間当たる場所や暖房器具の近く。

携帯電話などによる電波障害を防止するため

携帯電話などを本機の近くで使用すると、誤動作を引き起したり、映像、音声などに影響を与えることがあります。

本機の近くでは、携帯電話などの電源はできるだけ切ってください。

レーザービームについてのご注意

レーザービームはCMOSイメージセンサーに損傷を与えることがあります。レーザービームを使用した撮影環境では、CMOSイメージセンサー表面にレーザービームが照射されないように充分注意してください。特に医療用などの強力なレーザー光の場合は、反射光や散乱光でも損傷を与えることがあります。

画面について

- 画面を太陽に向けたままにすると、画面を傷めます。屋外でご使用のときは、太陽に向けて放置しないでください。
- 画面を強く押したり、ひっかいたり、上に物を置いたりしないでください。画面にムラが出たり、パネルの故障の原因になります。
- 使用中に画面が暖かくなることがありますが、故障ではありません。

LCD(液晶)画面について

本機のLCD(液晶)パネルは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、画面上に黒い点が現れたり(画素欠け)、常時点灯している輝点(赤、青、緑など)や滅点がある場合があります。また、LCD(液晶)パネルの特性上、長期間ご使用の間に画素欠けが生じることもあります。

これらの現象は故障ではありませんので、ご了承の上本機をお使いください。

なお、これらの点が記録されることはありません。

結露について

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなど、機器表面や内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。結露が起きたときは電源を切り、結露がなくなるまで放置し、結露がなくなってからご使用ください。結露時の

ご使用は機器の故障の原因となる場合があります。

本機搭載のCMOSイメージセンサーの現象

[ご注意]

撮影画面に出る下記の現象は、イメージセンサー特有の現象で、故障ではありません。

白点

イメージセンサーは非常に精密な技術で作られていますが、宇宙線などの影響により、まれに画面上に微小な白点が発生する場合があります。これはイメージセンサーの原理に起因するもので故障ではありません。

また、下記の場合、白点が見えやすくなります。

- 高温の環境で使用するとき
- ゲイン(感度)を上げたとき

フリッカー

蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯、LEDによる照明下で撮影すると、画面が明滅したり、色が変化したように見えることがあります。

画面表示に関するご注意

次のような場合、ビューファインダーおよび出力の映像が乱れことがあります。

- フォーマットを切り換えたとき
- FPSフレームレートを切り換えたとき
- ゲンロックがかかるとき

ファイルの断片化について

画像が正しく記録・再生されないときは記録メディアをフォーマット(初期化)してください。長期間、映像の記録・クリップの消去を繰り返していると、記録メディア内のファイルが断片化(フラグメンテーション)して、映像が正しく記録・保存できなくなる場合があります。このような場合は、クリップのバックアップを取ったあと、メニューの TC/Media > Format Media(55ページ)で記録メディアのフォーマット(初期化)を行ってください。

医療機器に近づけない

本製品(付属品を含む)は磁石を使用しているため、ペースメーカー、水頭症治療用圧可変式シャントなどの医療機器に影響を与える恐れがあります。本製品をこれらの医療機器をご使用の方に近づけないでください。これらの医療機器を使用されている場合、本製品のご使用前に担当医師にご相談ください。

セキュリティに関するご注意

- セキュリティの面から、本機を常に最新のソフトウェアバージョンにアップデートすることを強く推奨します。セキュリティに関するご注意の詳細については、以下のサイトをご確認ください。

<https://helpguide.sony.net/pro/>

network_security_c/v1/h_zz/index.html

- 通信を行う機器でセキュリティ対策を行わなかった結果、または、通信仕様上の、やむを得ない事情により、データ漏洩等、セキュリティ上の問題が発生した場合、弊社ではそれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。
- 使用環境によってはネットワーク上の意図せぬ第三者から製品にアクセスされる可能性があります。本機をネットワークに接続する際には、セキュアなネットワークであることをご確認の上ご使用ください。
- 利用者が気付かないうちに、電波が届くところから意図せぬ第三者に通信内容を盗み見られてしまうおそれがあります。無線LAN通信を利用する際は、通信内容を保護するために、適切なセキュリティ対策をしてください。
- 本製品のネットワークへの接続には、ルーター やファイアウォールなどの保護機能を通して接続をしてください。このような接続をしない場合、セキュリティ上の問題が生じる可能性があります。
- セキュリティの面から、製品をネットワークに接続してご使用になる際は、ブラウザでコントロール画面にアクセスし、アクセス制限設定を工場出荷時の設定値から変更して設定することを強く推奨します。(66ページ)
- また、定期的にパスワードを変更することを推奨します。
- 設定作業中または設定作業後のブラウザで他のサイトを閲覧しないでください。ブラウザにログインした状態が残りますので、意図しない第三者の使用や悪意のあるプログラムの実行を防ぐために、設定作業が完了したら必ずブラウザを終了してください。

出力のフォーマットと制限

初期設定値は、[太文字](#)(例：[1920×1080P \(Level A\)](#))で示します。

[ご注意]

- 出力フォーマットの解像度はフルメニューのProjectメニュー >Rec FormatのFrequency、CodecおよびVideo Formatの設定によって制限されます(44ページ)。
- 再生画像の解像度より大きな解像度が設定されている場合、映像は出力されません。
- システム周波数が50/59.94Hz時のMonitor FHD出力は1920X1080P Level-A出力になります。

SDI OUT/HDMI OUT端子の出力フォーマット

システム周波数設定 (Projectメニュー >Rec Formatの Frequency)	Codec設定 (Projectメニュー >Rec FormatのCodec)	記録解像度設定	出力フォーマット(Monitorメニュー >Output Format)		
			SDI1	SDI2	HDMI
50/59.94Hz	X-OCN LT	(6K 17:9) (5.8K 17:9) (4.3K 4:3) (4K 17:9)	Monitor FHD	Monitor FHD	—
		—	—	—	4096x2160P
		—	—	—	1920x1080P
		—	—	—	1920x1080i
		(6K 16:9) (5.8K 16:9) (3.8K 16:9)	Monitor FHD	Monitor FHD	—
	XAVC Intra	—	—	—	3840x2160P
		—	—	—	1920x1080P
		—	—	—	1920x1080i
		4096x2160 (17:9)	Monitor FHD	Monitor FHD	—
		4096x2160P ¹⁾	2048x1080P(A) ¹⁾	4096x2160P ¹⁾	4096x2160P ¹⁾
		4096x2160P ¹⁾	2048x1080P(A) ¹⁾	1920x1080P ¹⁾	1920x1080P ¹⁾
		4096x2160P ¹⁾	2048x1080P(A) ¹⁾	1920x1080i ¹⁾	1920x1080i ¹⁾
		1920x1080P(A)	1920x1080P(A)	1920x1080P	1920x1080P
		1920x1080P(A)	1920x1080P(A)	1920x1080i	1920x1080i
		1920x1080P(B)	1920x1080P(B)	1920x1080P	1920x1080P
		1920x1080P(B)	1920x1080P(B)	1920x1080i	1920x1080i
		1920x1080i	1920x1080i	1920x1080i	1920x1080i

システム周波数設定 (Projectメニュー>Rec FormatのFrequency)	Codec設定 (Projectメニュー>Rec FormatのCodec)	記録解像度設定	出力フォーマット(Monitorメニュー>Output Format)		
			SDI1	SDI2	HDMI
50/59.94Hz	XAVC Intra XAVC Long	3840x2160 (16:9)	<u>Monitor FHD</u>	<u>Monitor FHD</u>	—
			3840x2160P ¹⁾	1920x1080P(A) ¹⁾	3840x2160P ¹⁾
			3840x2160P ¹⁾	1920x1080P(A) ¹⁾	1920x1080P ¹⁾
			3840x2160P ¹⁾	1920x1080P(A) ¹⁾	1920x1080i ¹⁾
			1920x1080P(A)	1920x1080P(A)	1920x1080P
			1920x1080P(A)	1920x1080P(A)	1920x1080i
			1920x1080P(B)	1920x1080P(B)	1920x1080P
			1920x1080P(B)	1920x1080P(B)	1920x1080i
			1920x1080i	1920x1080i	1920x1080i
			<u>Monitor FHD</u> ²⁾	<u>Monitor FHD</u> ²⁾	—
25/29.97Hz	X-OCN LT	(8.6K 17:9) (6K 17:9) (5.8K 17:9) (4.3K 4:3) (4K 17:9)	<u>Monitor FHD</u>	<u>Monitor FHD</u>	—
			—	—	4096x2160P
			—	—	1920x1080P
			<u>Monitor FHD</u>	<u>Monitor FHD</u>	—
			—	—	3840x2160P
			—	—	1920x1080P
			<u>Monitor FHD</u>	<u>Monitor FHD</u>	—
			1920x1080P	1920x1080P	1920x1080P
			1920x1080PsF	1920x1080PsF	1920x1080i
			<u>Monitor FHD</u>	<u>Monitor FHD</u>	—
XAVC H-I HQ XAVC H-I SQ	XAVC H-I HQ XAVC H-I SQ	8192x4320 (17:9)	1920x1080P	1920x1080P	1920x1080P
			1920x1080PsF	1920x1080PsF	1920x1080i
			<u>Monitor FHD</u>	<u>Monitor FHD</u>	—
XAVC H-I HQ XAVC H-I SQ XAVC H-L	XAVC H-I HQ XAVC H-I SQ XAVC H-L	7680x4320 (16:9)	1920x1080P	1920x1080P	1920x1080P
			1920x1080PsF	1920x1080PsF	1920x1080i

システム周波数設定 (Projectメニュー>Rec FormatのFrequency)	Codec設定 (Projectメニュー>Rec FormatのCodec)	記録解像度設定	出力フォーマット(Monitorメニュー>Output Format)		
			SDI1	SDI2	HDMI
25/29.97Hz	XAVC Intra	4096x2160 (17:9)	Monitor FHD	Monitor FHD	—
			4096x2160P ¹⁾	2048x1080P ¹⁾	4096x2160P ¹⁾
			4096x2160P ¹⁾	2048x1080P ¹⁾	1920x1080P ¹⁾
			1920x1080P	1920x1080P	1920x1080P
			1920x1080PsF	1920x1080PsF	1920x1080i
	XAVC Intra XAVC Long	3840x2160 (16:9)	Monitor FHD	Monitor FHD	—
			3840x2160P ¹⁾	1920x1080P ¹⁾	3840x2160P ¹⁾
			3840x2160P ¹⁾	1920x1080P ¹⁾	1920x1080P ¹⁾
			1920x1080P	1920x1080P	1920x1080P
			1920x1080PsF	1920x1080PsF	1920x1080i
	XAVC Intra XAVC Long	1920x1080 (16:9)	Monitor FHD ²⁾	Monitor FHD ²⁾	—
			1920x1080P ²⁾	1920x1080P ²⁾	1920x1080P ²⁾
			1920x1080PsF ²⁾	1920x1080PsF ²⁾	1920x1080i ²⁾
			Monitor FHD	Monitor FHD	—
			—	—	4096x2160P
23.98Hz	X-OCN LT	(8.6K 17:9) (6K 17:9) (5.8K 17:9) (4.3K 4:3) (4K 17:9)	Monitor FHD	Monitor FHD	—
			—	—	4096x2160P
			—	—	1920x1080P
			Monitor FHD	Monitor FHD	—
			—	—	3840x2160P
	XAVC H-I HQ XAVC H-I SQ	8192x4320 (17:9)	Monitor FHD	Monitor FHD	—
			1920x1080P	1920x1080P	1920x1080P
			1920x1080PsF	1920x1080PsF	1920x1080P
			Monitor FHD	Monitor FHD	—
			1920x1080P	1920x1080P	1920x1080P
	XAVC H-I HQ XAVC H-I SQ XAVC H-L	7680x4320 (16:9)	Monitor FHD	Monitor FHD	—
			1920x1080PsF	1920x1080PsF	1920x1080P

システム周波数設定 (Projectメニュー>Rec FormatのFrequency)	Codec設定 (Projectメニュー>Rec FormatのCodec)	記録解像度設定	出力フォーマット(Monitorメニュー>Output Format)		
			SDI1	SDI2	HDMI
23.98Hz	XAVC Intra	4096x2160 (17:9)	Monitor FHD	Monitor FHD	—
			4096x2160P ¹⁾	2048x1080P ¹⁾	4096x2160P ¹⁾
			4096x2160P ¹⁾	2048x1080P ¹⁾	1920x1080P ¹⁾
			1920x1080P	1920x1080P	1920x1080P
			1920x1080PsF	1920x1080PsF	1920x1080P
	XAVC Intra XAVC Long	3840x2160 (16:9)	Monitor FHD	Monitor FHD	—
			3840x2160P ¹⁾	1920x1080P ¹⁾	3840x2160P ¹⁾
			3840x2160P ¹⁾	1920x1080P ¹⁾	1920x1080P ¹⁾
			1920x1080P	1920x1080P	1920x1080P
			1920x1080PsF	1920x1080PsF	1920x1080P
24Hz	X-OCN LT	1920x1080 (16:9)	Monitor FHD ²⁾	Monitor FHD ²⁾	—
			1920x1080P ²⁾	1920x1080P ²⁾	1920x1080P ²⁾
			1920x1080PsF ²⁾	1920x1080PsF ²⁾	1920x1080P ²⁾
			Monitor FHD	Monitor FHD	—
			—	—	4096x2160P
	XAVC H-I HQ XAVC H-I SQ	8192x4320 (17:9)	—	—	1920x1080P
			Monitor FHD	Monitor FHD	—
			—	—	3840x2160P
			—	—	1920x1080P
			Monitor FHD	Monitor FHD	—
	XAVC Intra	4096x2160 (17:9)	1920x1080P	1920x1080P	1920x1080P
			Monitor FHD	Monitor FHD	—
			4096x2160P ¹⁾	2048x1080P ¹⁾	4096x2160P ¹⁾
			1920x1080P	1920x1080P	1920x1080P

1) スロー&クイックモーション撮影時のフレームレートが66fps以上の場合は選択できません。

2) スロー&クイックモーション撮影時のフレームレートが240fpsの場合は選択できません。

クリップ記録・再生時間

ソニー製CFexpress Type BメモリーカードVPG400 960GBを使用した場合の記録・再生時間は以下のとおりです(単位: min)。

[ご注意]

記録・再生時間は、1クリップとして連続記録したときのものです。記録するクリップ数によっては記載の時間より短くなる場合があります。また、使用条件やメモリーの特性などにより、多少の誤差が生じる場合があります。

Imager Scan Mode	Frequency	Codec										
		X-OCN (LT)	XAVC H-I HQ 8192x4320	XAVC H-I HQ 7680x4320	XAVC H-I SQ 8192x4320	XAVC H-I SQ 7680x4320	XAVC H-L 7680x4320	XAVC-I 4096x2160	XAVC-I 3840x2160	XAVC-I 1920x1080	XAVC-L 3840x2160	XAVC-L 1920x1080
FF 8.6K 17:9	23.98	74	130	—	194	—	—	—	—	—	—	—
	24	74	130	—	193	—	—	—	—	—	—	—
	25	71	125	—	186	—	—	—	—	—	—	—
	29.97	59	104	—	155	—	—	—	—	—	—	—
	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	59.94	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
FF 8.6K 16:9	23.98	69	—	130	—	194	239	—	—	—	—	—
	24	69	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25	66	—	125	—	186	239	—	—	—	—	—
	29.97	55	—	104	—	155	238	—	—	—	—	—
	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	59.94	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
FFc 6K 17:9	23.98	149	—	—	—	—	—	494	—	—	—	—
	24	149	—	—	—	—	—	493	—	—	—	—
	25	143	—	—	—	—	—	473	—	—	—	—
	29.97	119	—	—	—	—	—	397	—	—	—	—
	50	71	—	—	—	—	—	241	—	—	—	—
	59.94	60	—	—	—	—	—	201	—	—	—	—
FFc 6K 16:9	23.98	140	—	—	—	—	—	—	494	1207	1145	2121
	24	140	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25	134	—	—	—	—	—	—	473	985	1140	2106
	29.97	112	—	—	—	—	—	—	397	981	1127	2070
	50	67	—	—	—	—	—	—	241	512	756	1939
	59.94	56	—	—	—	—	—	—	201	510	745	1878

Imager Scan Mode	Frequency	Codec											
			X-OCN (LT)	XAVC H-I HQ 8192x4320	XAVC H-I HQ 7680x4320	XAVC H-I SQ 8192x4320	XAVC H-I SQ 7680x4320	XAVC H-L 7680x4320	XAVC-I 4096x2160	XAVC-I 3840x2160	XAVC-I 1920x1080	XAVC-L 3840x2160	XAVC-L 1920x1080
FFc 3.8K 16:9	23.98	342	—	—	—	—	—	—	—	494	1207	1145	2121
	24	341	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25	328	—	—	—	—	—	—	—	473	985	1140	2106
	29.97	274	—	—	—	—	—	—	—	397	981	1127	2070
	50	165	—	—	—	—	—	—	—	241	512	756	1939
	59.94	137	—	—	—	—	—	—	—	201	510	745	1878
S35 5.8K 17:9	23.98	164	—	—	—	—	—	—	494	—	—	—	—
	24	164	—	—	—	—	—	—	493	—	—	—	—
	25	157	—	—	—	—	—	—	473	—	—	—	—
	29.97	131	—	—	—	—	—	—	397	—	—	—	—
	50	79	—	—	—	—	—	—	241	—	—	—	—
	59.94	65	—	—	—	—	—	—	201	—	—	—	—
S35 5.8K 16:9	23.98	154	—	—	—	—	—	—	—	494	1207	1145	2121
	24	154	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25	147	—	—	—	—	—	—	—	473	985	1140	2106
	29.97	123	—	—	—	—	—	—	—	397	981	1127	2070
	50	74	—	—	—	—	—	—	—	241	512	756	1939
	59.94	61	—	—	—	—	—	—	—	201	510	745	1878
S35 4.3K 4:3	23.98	211	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	24	211	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25	202	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29.97	169	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	50	101	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	59.94	84	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
S35c 4K 17:9	23.98	321	—	—	—	—	—	—	494	—	—	—	—
	24	321	—	—	—	—	—	—	493	—	—	—	—
	25	308	—	—	—	—	—	—	473	—	—	—	—
	29.97	257	—	—	—	—	—	—	397	—	—	—	—
	50	155	—	—	—	—	—	—	241	—	—	—	—
	59.94	129	—	—	—	—	—	—	201	—	—	—	—

Imager Scan Mode	Frequency	Codec										
		X-OCN (LT) 8192x4320	XAVC H-I HQ 7680x4320	XAVC H-I HQ 8192x4320	XAVC H-I SQ 7680x4320	XAVC H-I SQ 7680x4320	XAVC H-L 7680x4320	XAVC-I 4096x2160	XAVC-I 3840x2160	XAVC-I 1920x1080	XAVC-L 3840x2160	XAVC-L 1920x1080
S35 1.9K 16:9	23.98	—	—	—	—	—	—	—	—	1207	—	2121
	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25	—	—	—	—	—	—	—	—	985	—	2106
	29.97	—	—	—	—	—	—	—	—	981	—	2070
	50	—	—	—	—	—	—	—	—	512	—	1939
	59.94	—	—	—	—	—	—	—	—	510	—	1878

トラブル時の対処

電源

症状	原因	対策
電源が入らない。	バッテリーパックからの電源、DC IN電源のどちらも供給されていない。	バッテリーパックを取り付ける(14ページ)か、ACアダプターを使用してAC電源に接続する(14ページ)。
	バッテリーパックが完全に消耗している。	充電済みのバッテリーパックと交換する(14ページ)。
電源が途中で切れる。	バッテリーパックが消耗している。	充電済みのバッテリーパックと交換する(14ページ)。
バッテリーパックがすぐ消耗する。	温度が極端に低いところで使用している。	バッテリーパックの特性によるもので、故障ではありません。
	充電が不充分。	バッテリーパックをもう一度充電し直す(14ページ)。 フル充電してもすぐに消耗する場合は、バッテリーパックの寿命です。新しいバッテリーパックに交換してください。

記録・再生

症状	原因	対策
REC(記録開始／記録停止)ボタンを押しても記録が始まらない。	メモリーカードの容量がいっぱいになっている。	充分な空き容量のあるメモリーカードに交換する。
	修復が必要なメモリーカードが入っている。	メモリーカードを修復する(20ページ)。
音声が記録できない。	AUDIO LEVEL(CH1/CH2)ダイヤルが最小の位置になっている。	AUDIO LEVEL(CH1/CH2)ダイヤルを調節する(105ページ)。
記録した音声がひずんでいる。音声レベルが高すぎる。		AUDIO LEVEL(CH1/CH2)ダイヤルを調節する(105ページ)。
雑音が多い。	音声レベルが低すぎる。	AUDIO LEVEL(CH1/CH2)ダイヤルを調節する(105ページ)。 外部マイク選択時は、フルメニューのAudioメニュー > Audio InputのINPUT MIC Referenceの設定値も調節する(59ページ)。

症状	原因	対策
クリップを再生できない。	クリップが編集されている。	コンピューターでフォルダーやファイル名を変更したり、クリップを加工したりすると、再生できない場合があります。故障ではありません。
	クリップが他機で記録されている。	他機で記録したクリップは、再生できなかったり、正しいサイズで表示されなかたりすることがあります。故障ではありません。

外部機器

症状	対策
本機がコンピューターに認識されない。	コンピューターからUSBケーブルを抜き、もう一度しっかりと差し込む。 コンピューターからUSBケーブルを抜き、コンピューターを再起動してから正しい手順でもう一度コンピューターと本機をつなぐ。
	USB-C端子またはUSB/マルチ端子のどちらか一方にのみUSBケーブルを差し込んでコンピューターと本機をつなぐ。
クリップがコンピューターに取り込めない。	コンピューターからUSBケーブルを抜き、本機の電源を入れてから、もう一度つなぐ。
	クリップをコンピューターに取り込むにはアプリケーションソフトウェアのダウンロードが必要です(117ページ)。

ワイヤレスLAN使用時

[ご注意]

本機とワイヤレスLANアクセスポイントまたは端末機器間の障害物や電波状況、壁の材質など、周囲の環境によって通信可能距離が短くなったり、接続できなくなったりすることがあります。本機の場所を移動するなど、本機とアクセスポイントまたは端末機器の距離を近づけて、接続/通信状態を確認してください。

症状	対策
端末機器から本機にアクセスできない	<ul style="list-style-type: none"> ワイヤレスLANの接続(IPアドレスなど)を確認してください。 アクセスポイントのクライアント間の通信設定が無効になっている可能性があります。詳しくは、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
ログインできない	登録したユーザー名、パスワードが正しいか確認してください。

インターネット接続

症状	対策
ファイル転送が失敗する	サーバーのユーザー名//パスワードが間違っている可能性があります。正しい値を入力してください。
ファイル転送ができない	電波状態が悪い可能性があります。移動して再度試してください。

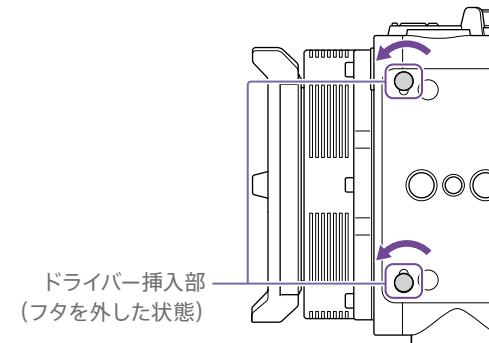
NDフィルター使用時

症状	対策
NDフィルターが動かない。	次の作業により、手動でClearの位置に移動させることができます。

- 1 ND STEP/VARIABLEスイッチ(5ページ)をSTEPの位置にして、ND FILTER POSITION上下ボタン(5ページ)の下ボタンを押してND CLEARランプを点灯させる。
- 2 本機の電源を切る。
- 3 底面の丸いフタ(2箇所)を外す。

4 ドライバーを穴(2箇所)に差し込んで左に回す。

- 左に回すことでの、NDフィルターがClear側に動きます。Clearの位置になるまで回し続けてください。
- Φ2.4以下のマイナスドライバーを使用してください。ドライバー挿入部の深さは約3.0 cmです。



[ご注意]

- 上記の作業は、通常の動作時には行わないでください。NDフィルターが動かなくなった場合のみに行ってください。通常の動作時にを行うと、NDユニットが故障するおそれがあります。
- 上記の作業を行ったあと、サービスセンターで本機を修理してください。
- 上記の作業を行ってもエラーメッセージが出たままの場合がありますが、撮影は可能です。

エラー／警告表示

本機では警告、注意、動作確認などが必要な状況では、LCDモニターのメッセージ表示、記録／タリーランプの点滅、および警告音で対応します。

警告音は、ヘッドホン端子に接続したヘッドホンに出力します。

エラー表示

次のような表示が出た場合は、本機は動作を停止します。

LCDモニター エラー表示	警告音	記録／ タリーランプ	原因と対策
E+エラーコード	連続音	高速点滅	本体の異常の可能性があります。 電源を切り、接続している機器やケーブル類、メディアに異常がないか確認してください。これらに異常がないときは、再度電源を入れ、エラーが継続する場合はソニーのサービス窓口にご連絡ください。 (電源スイッチを「(Standby)」の位置にしても電源が切れない場合は、バッテリーパックやDC IN電源も外してください。) 本機の状況によっては、エラー表示や警告音が出ない可能性があります。

警告表示

次のような表示が出た場合は、メッセージに従って対策してください。

LCDモニター 警告表示	警告音	記録／ タリーランプ	原因と対策
Battery Near End	断続音	点滅	バッテリーパックの残量が少なくなっています。 早い機会に充電してください。
Battery End	連続音	高速点滅	バッテリーパックが消耗しました。記録はできません。 一旦操作を中止し、バッテリーパックを交換してください。
Temperature High	断続音	点滅	内部温度が上昇しました。 一旦電源を切り、温度が下がるまで使用を中止してください。
Media Temperature High	断続音	点滅	CFexpressカードの温度が上昇しました。 カードを交換するか、温度が下がるまでカードの使用を中止してください。

LCDモニター 警告表示	警告音	記録／ タリーランプ	原因と対策
Voltage Low	断続音	点滅	DC IN電圧が低くなっています(段階1)。供給電源を確認してください。
Insufficient Voltage	連続音	高速点滅	DC IN電圧が低すぎます(段階2)。記録はできません。他の電源に接続し直してください。
Media Near Full	断続音	点滅	メモリーカードの残量が少なくなっています。 早い機会に交換してください。
Media Full	連続音	高速点滅	メモリーカードの残量がないため、記録、コピーはできません。 交換してください。
Clips Near Full	断続音	点滅	メモリーカードに記録できる残りのクリップ数が少なくなっています。 早い機会に交換してください。
Clips Full	連続音	高速点滅	メモリーカードに記録できるクリップ数の上限に達しました。 これ以上記録やコピーはできません。交換してください。
Last Clip Recording	断続音	点滅	記録中のクリップの記録を完了すると、記録可能なクリップ数の上限に達します。 新しいメモリーカードをご用意ください。
Media(A) ¹⁾ Life Near End	断続音	点滅	メモリーカードの寿命が僅かです。早めに交換してください。
Media(A) ¹⁾ Life End	連続音	高速点滅	メモリーカードの寿命がきました。交換してください。
Media(A) ¹⁾ Near Full	断続音	点滅	同時記録機能使用時
Media(A) ¹⁾ Full	連続音	高速点滅	同時記録機能使用時
Media(A) ¹⁾ Clips Near Full	断続音	点滅	同時記録機能使用時
Media(A) ¹⁾ Clips Full	連続音	高速点滅	同時記録機能使用時
Media(A) ¹⁾ Last Clip Rec	断続音	点滅	同時記録機能使用時
Transfer Jobs Near Full	—	—	FTPファイル転送ジョブ登録可能数が少なくなっています。
Transfer Jobs Full	—	—	FTPファイル転送ジョブ登録可能数が上限に達しました。ジョブを追加したい場合は、不要なジョブを削除してください。 ²⁾

1) スロットBに入れたカードの場合は(B)

2) フルメニューのNetworkメニューのFile Transfer > View Job List(69ページ)からジョブを選んで削除することができます。または、Monitor & Controlアプリケーションのジョブリストからジョブを削除することができます。

注意・動作確認表示

画面中央部分に次のような注意・動作確認表示が現れることがあります。この場合は次表に従って対処してください。

表示内容	原因と対策
Battery Error	バッテリーパックに異常が検出されました。
Please Change Battery	正常なバッテリーパックに交換してください。
Backup Battery End	バックアップ電池の残量が不足しています。
Please Change	バックアップ電池を充電してください。
Unknown Media(A) ¹⁾	パーティションが切られているメモリーカードや、本機で扱えるクリップ数を超えて記録されたメモリーカードが挿入されました。本機では使用できませんので、交換してください。
Please Change	
Cannot Use Media(A) ¹⁾	ファイルシステムの異なるカードまたはフォーマットされていないカードが挿入されました。
Unsupported File System	本機では使用できませんので、交換または本機でフォーマットしてください。
Media Error	メモリーカードに異常が発生し、修復が必要な状態になりました。
Media(A) ¹⁾ Needs to be Restored	メモリーカードの修復を行ってください。
Media Error	メモリーカードが故障して、記録ができなくなりました。
Cannot Record to Media(A) ¹⁾	再生は可能ですので、コピーをとるなどして、新しいメモリーカードに交換することをお勧めします。
Media Error	メモリーカードが故障して記録も再生もできなくなりました。
Cannot Use Media(A) ¹⁾	本機では扱えませんので、他のカードに交換してください。
Media(A) ¹⁾ Error	メモリーカードに異常が発生したため、記録または再生が停止しました。
Recording Halted	
Playback Halted	頻繁に起きる場合には、メモリーカードを交換してください。
Media Reached Rewriting Limit	メモリーカードの寿命がきました。
Change Media(A) ¹⁾	バックアップをとり、速やかに交換してください。継続して使用すると、正常に記録・再生できない可能性があります。 詳しくは、メモリーカードの取扱説明書を参照してください。
The specified address is invalid.	指定したアドレスが間違っています。 正しく設定しているか確認してください。
Cannot Use Specified Port Number	指定したポート番号が間違っています。 正しく設定しているか確認してください。
Fan Stopped	本体内的のファンが停止しています。 高温下での使用を避け、電源を切ってソニーのサービス担当者に連絡してください。

表示内容	原因と対策
LENS Error	Eマウントレンズ装着時にレンズI/F通信でレンズの不具合が検出されました。 Eマウントレンズとの接続状態を確認してください。
This Multi Term. acc is not supported by the device and cannot be used. Please verify the compatibility.	非対応のアクセサリーが検出されました。 本機が対応するマルチ端子アクセサリーは、付属のグリップリモコンのみです。
Failed.	DHCP Onでアドレスが割り当てられない場合、本エラーが出る可能性があります。 DHCPサーバーの設定を確認してください。
Addition of auto upload job failed.	転送ジョブの数が上限に達しています。 不要なジョブをクリアしてください。また、オリジナルクリップまたはプロキシクリップの自動転送先設定が間違っている可能性があります。正しく設定しているか確認してください。
<SSID>Not found.	指定した<SSID>のネットワーク(アクセスポイント)が見つかりません。 正しく設定しているか確認してください。
<SSID>Authentication Failed	指定した<SSID>のネットワーク(アクセスポイント)の接続認証に失敗しました。 パスワードなどを正しく設定しているか確認してください。
An IP address conflict has occurred. Please check the network settings.	ワイヤレスLANステーションモード、または有線LANがUSBテザリングのネットワークアドレスと衝突しています。 アドレスを手動で変更するか、お使いのネットワークルーターの設定を変更してください。
The IP address of the Wireless LAN Access Point Mode has been changed due to an IP address conflict.	ワイヤレスLANアクセスポイントモードとUSBテザリングのネットワークアドレスが衝突したため、ワイヤレスLANアクセスポイントモードのIPアドレスを変更しました。 IPアドレスを確認してください。

1) スロットBに入れたカードの場合は(B)

ファイルに保存される項目

フルメニューによる設定項目

Yes : ファイルに保存されます

No : ファイルに保存されません

— : ファイルに保存されません(一時的動作メニュー)

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Shooting	ISO/Gain/EI	Mode	Yes	No
		ISO/Gain	Yes	No
		Exposure Index	Yes	No
		Shockless Gain	Yes	No
		Base Sensitivity	Yes	No
		Base ISO	Yes	No
	ND Filter	Display Mode	Yes	No
		Mode	Yes	No
	Shutter	Shutter Speed On/Off	Yes	No
		Shutter Speed	Yes	No
		Shutter Angle	Yes	No
		ECS On/Off	Yes	No
		ECS Frequency	Yes	No
Iris	Bokeh Control	No	—	

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Shooting	Auto Exposure	Level	Yes	No
		Mode	Yes	No
		Speed	Yes	No
		Auto ND Filter	Yes	No
		AGC	Yes	No
		AGC Limit	Yes	No
		AGC Point	Yes	No
		Auto Shutter	Yes	No
		A.SHT Limit	Yes	No
		A.SHT Point	Yes	No
		Auto Iris	Yes	No
		Clip High light	Yes	No
		Detect Window	Yes	No
		Detect Window Indication	Yes	No
		Custom Width	Yes	No
		Custom Height	Yes	No
		Custom H Position	Yes	No
		Custom V Position	Yes	No
White	White	White Select	Yes	No
		Auto White Balance	—	—
		ATW	Yes	No
		Color Temp	Yes	No
		Tint	Yes	No
		R Gain	Yes	No
		B Gain	Yes	No
		Preset White Select	—	—
White Setting	White Setting	Shockless White	Yes	No
		ATW Speed	Yes	No

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Shooting	Focus	AF Transition Speed	Yes	No
		AF Subj. Shift Sens.	Yes	No
		Focus Area	Yes	No
		Subject Recognition AF	Yes	No
		Touch Function in MF	Yes	No
		AF Assist	Yes	No
	S&Q Motion	Setting	Yes	No
		Frame Rate	Yes	No
	LUT On/Off	①SDI/HDMI	Yes	No
		①SDI	Yes	No
		②LCD/Proxy/Stream	Yes	No
		②LCD/HDMI/Px/Stream	Yes	No
Noise Suppression	Setting(Custom)	Setting(Custom)	Yes	No
		Level(Custom)	Yes	No
	Setting(Cine EI)	Setting(Cine EI)	Yes	—
		Level(Cine EI)	Yes	—
Flicker Reduce	Mode	Yes	No	
	Frequency	Yes	No	
Image Stabilization	SteadyShot	Yes	No	
	PL Stabilization	Yes	No	
	Stabilization Adjustment	Yes	No	
	Focal Length	Yes	No	

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Project	Base Setting	Shooting Mode	Yes	—
		Target Display	Yes	—
		Rec Format	Frequency	Yes No
		Imager Scan Mode	Yes	No
		Codec	Yes	No
	Cine EI Setting	Video Format	Yes	No
		Color Gamut	Yes	—
		Embed LUT File	Yes	No
		Simul Rec	Setting	Yes No
		Proxy Rec	Setting	Yes No
Interval Rec	Audio Channel	Setting	Yes	No
		Interval Time	Yes	No
		Number of Frames	Yes	No
		Pre-Lighting	Yes	No
		Setting	Yes	No
Picture Cache Rec	Cache Size	Cache Rec Time	—	—
		Setting	Yes	No
		Cache Rec Time	—	—
SDI/HDMI Rec Control	Assignable Button	Setting	Yes	No
		<1>	Yes	No
		<2>	Yes	No
		<3>	Yes	No
		<4>	Yes	No
		<5>	Yes	No
		<6>	Yes	No
		<7>	Yes	No
		<8>	Yes	No
		<9>	Yes	No
		<10>	Yes	No
		<11>	Yes	No
Focus Hold Button		Yes	No	

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Project	Assignable Dial	Grip/Remote Dial	Yes	No
		Grip Dial Direction	Yes	No
	Multi Function Dial	Default Function	Yes	No
		Load from UTILITY SD	—	—
		Save to UTILITY SD	—	—
		File ID	No	No
		Load Customize Data	Yes	No
		Load White Data	Yes	No
	All File	Load from UTILITY SD	—	—
		Load from Cloud(Private)	—	—
		Load from Cloud(Share)	—	—
		Save to UTILITY SD	—	—
		Save to Cloud(Private)	—	—
		Save to Cloud(Share)	—	—
		File ID	Yes	No
		Load Network Data	No	No
	Paint/Look	Recall	—	—
		Store	—	—
		Delete	—	—
		Preset Recall	—	—
		Select	Yes	Yes
		Delete	—	—
		Delete All	—	—
		Import from Utility SD	—	—
		Import from Cloud(Private)	—	—
		Import from Cloud(Share)	—	—
	Base Look	Input	Yes	—
		Output	Yes	—
		AE Level Offset	Yes	—
		Reset Paint Settings	Reset without Base Look	—
			—	—

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Paint/Look	Black	Master Black	Yes	Yes
		R Black	Yes	Yes
		B Black	Yes	Yes
		Knee	Setting	Yes
		Auto Knee	Yes	Yes
	Detail	Point	Yes	Yes
		Slope	Yes	Yes
		Setting	Yes	Yes
		Level	Yes	Yes
		H/V Ratio	Yes	Yes
Matrix	Matrix	B/W Balance	Yes	Yes
		Limit	Yes	Yes
		Crispening	Yes	Yes
		High Light Detail	Yes	Yes
		User Matrix	Yes	Yes
		User Matrix Level	Yes	Yes
		User Matrix Phase	Yes	Yes
		User Matrix R-G	Yes	Yes
		User Matrix R-B	Yes	Yes
		User Matrix G-R	Yes	Yes
Multi Matrix	Multi Matrix	User Matrix G-B	Yes	Yes
		User Matrix B-R	Yes	Yes
		User Matrix B-G	Yes	Yes
		Setting	Yes	Yes
		Area Indication	No	No
		Area Indication Control	Yes	No
		Reset	—	—
		Axis	No	No
		Hue	Yes	Yes
		Saturation	Yes	Yes

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
TC/Media	Timecode	Mode	Yes	No
		Run	Yes	No
		Setting	No	No
		Reset	—	—
		TC Format	Yes	No
	TC Display	Display Select	Yes	No
		Mode	Yes	No
	Users Bit	Setting	No	No
		HDMI TC Out	Yes	No
	Genlock	Setting	Yes	No
		Reference Lock Type	—	—
		Sync Shift	Yes	—
	Clip Name Format	Sync Shift Value	—	—
		Camera ID	No	No
		Reel Number	No	No
		Camera Position	No	No
	Update Media	XAVC Root Folder Name	Yes	No
		Media(A)	—	—
		Media(B)	—	—
	Format Media	Media(A)	—	—
		Media(B)	—	—
		Utility SD	—	—
Monitoring	Output Format	SDI1	Yes	No
		SDI2	Yes	No
		HDMI	Yes	No
		REF	No	No
	De-Squeeze	Ratio	Yes	No
		SDI (Monitor FHD)	Yes	No
		HDMI (FHD Output)	Yes	No
		LCD Monitor	Yes	No
	Output Display	SDI	Yes	No
		HDMI	Yes	No

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Monitoring	Display On/Off	Focus Mode	Yes	No
		Focus Position	Yes	No
		Network Status	Yes	No
		File Transfer Status	Yes	No
		Rec/Play Status	Yes	No
		SDI/HDMI Rec Control	Yes	No
		Tally	Yes	No
		Battery Remain	Yes	No
		Zoom Position	Yes	No
		Image Stabilization	Yes	No
		Media Status	Yes	No
		Lens Info	Yes	No
		Look Name	Yes	No
		UWP RF Level	Yes	No
		Focus Area Indicator	Yes	No
		Subject Recognition Frame	Yes	No
		Clip Name	Yes	No
		Video Level Warning	Yes	No
		Timecode	Yes	No
		Gamma Display Assist	Yes	No
		Video Signal Monitor	Yes	No
		Imager Scan Mode	Yes	No
		Frame Rate	Yes	No
		Rec Format	Yes	No
		Rec Look	Yes	No
		Level Gauge	Yes	No
		Audio Level Meter	Yes	No
		Auto Exposure Mode	Yes	No
		Auto Exposure Level	Yes	No
		ND Filter	Yes	No
		Iris	Yes	No
		ISO/Gain/EI	Yes	No
		Base ISO/Sensitivity	Yes	No
		Shutter	Yes	No

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Monitoring	Display On/Off	White Balance	Yes	No
		Clip Number	Yes	No
		Notice Message	Yes	No
Marker	Setting	Yes	No	
	Color	Yes	No	
	Center Marker	Yes	No	
	Safety Zone	Yes	No	
	Safety Area	Yes	No	
	Aspect Marker	Yes	No	
	Aspect Mask	Yes	No	
	Aspect Safety Zone	Yes	No	
	Aspect Safety Area	Yes	No	
	Aspect Select	Yes	No	
	Custom Aspect Ratio	Yes	No	
	Guide Frame	Yes	No	
	100% Marker	Yes	No	
	User Box	Yes	No	
	User Box Width	Yes	No	
	User Box Height	Yes	No	
	User Box H Position	Yes	No	
	User Box V Position	Yes	No	
LCD Monitor Setting	Brightness	Yes	No	
	Color Mode	Yes	No	
Gamma Display Assist	Setting	Yes	No	
Peaking	Setting	Yes	No	
	Peaking Level	Yes	No	
	Color	Yes	No	
Zebra	Setting	Yes	No	
	Zebra1 Level	Yes	No	
	Zebra1 Aperture Level	Yes	No	
	Zebra2 Level	Yes	No	
Focus Magnifier	Focus Mag Button Target	Yes	No	

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Audio	Audio Input	CH1 Input Select	Yes	No
		CH2 Input Select	Yes	No
		CH3 Input Select	Yes	No
		CH4 Input Select	Yes	No
		INPUT1 MIC Reference	Yes	No
		INPUT2 MIC Reference	Yes	No
		Line Input Reference	Yes	No
		Reference Level	Yes	No
		CH1 Wind Filter	Yes	No
		CH2 Wind Filter	Yes	No
		CH3 Wind Filter	Yes	No
		CH4 Wind Filter	Yes	No
		CH3 Level Control	Yes	No
		CH4 Level Control	Yes	No
		CH3 Input Level	Yes	No
		CH4 Input Level	Yes	No
		Audio Input Level	Yes	No
		Limiter Mode	Yes	No
		CH1&2 AGC Mode	Yes	No
		CH3&4 AGC Mode	Yes	No
		AGC Spec	Yes	No
		1kHz Tone on Color Bars	Yes	No
		CH1 Level	Yes	No
		CH2 Level	Yes	No
		CH3 Level	Yes	No
		CH4 Level	Yes	No
Audio Output		Monitor CH	Yes	No
		Volume	No	No
		Headphone Out	Yes	No
		Alarm Level	Yes	No
		HDMI Output CH	Yes	No
		SDI Out CH (Monitor FHD)	Yes	No

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Clip Operations	Display Clip Properties		—	—
	Set Clip Flag	Add OK Add NG Add KEEP Delete Clip Flag	— — — —	— — — —
	Lock/Unlock Clip	Select Clip Lock All Clips Unlock All Clips	— — —	— — —
	Transfer Clip	Select Clip All Clips	— —	— —
	Transfer Clip (Proxy)	Select Clip All Clips	— —	— —
	Filter Clips	OK NG KEEP None All	— — — — —	— — — — —
	Customize View	Clips Caption	Yes	—

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Technical	Color Bars	Setting Type	No Yes	No No
	ND Dial	CLEAR with Dial	Yes	No
	Rec/Tally	Rec/Tally Lamp Tally Control Rec Start/Stop Beep	Yes Yes Yes	No No No
	LOCK Switch Settings	with Rec Button with Hand Grip Remote with LCD Monitor	Yes Yes Yes	No No No
	Touch Operation	Setting	Yes	No
	Rec Review	Setting	Yes	No
	Zoom	Zoom Type	Yes	No
	Handle Zoom	Setting High Low	Yes Yes	No No
	Menu Settings	User Menu Only User Menu with Lock	Yes No	No No
	Menu Page On/Off	Project Audio Monitoring Assignable Button Information Media Network File Transfer	Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes	No No No No No No No No
	RCP	CNS Mode	Yes	No
	Fan Control	Setting	Yes	No

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Technical	Lens	PL-Mt Interface Position	Yes	No
		PL-Mt Voltage	Yes	No
		Zoom Ring Direction	Yes	No
		Shading Compensation	Yes	No
		Chroma Aberration Comp.	Yes	No
		Distortion Comp.	Yes	No
		Breathing Compensation	Yes	No
		Distance Display	Yes	No
		Zoom Position Display	Yes	No
		Video Light Set	Yes	No
Camera Battery Alarm	APR	APR	—	—
	Near End:Info Battery	Near End:Info Battery	Yes	No
		End:Info Battery	Yes	No
		Near End:Sony Battery	Yes	No
		End:Sony Battery	Yes	No
		Near End:Other Battery	Yes	No
		End:Other Battery	Yes	No
		Detected Battery	No	No
	Camera DC IN Alarm	DC Low Voltage1	Yes	No
		DC Low Voltage2	Yes	No
Network	Network Setup	Setup for Mobile App	—	—
		User Name	No	No
		Input Password	No	No
		Generate Password	No	No
		Show Authentication	—	—
		LAN Type Select	Yes	No
	Wireless LAN	WPS	—	—
		MAC Address	—	—
	AP Mode Settings	Channel	Yes	No
		Camera SSID & Password	—	—
		Regenerate Password	—	—
		IP Address	—	—
		Subnet Mask	—	—

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Network	ST Mode Settings	Camera Remote Control	Yes	No
		Connected Network	—	—
		SSID	—	—
		Security	—	—
		Password	—	—
		DHCP	—	—
		IP Address	—	—
		Subnet Mask	—	—
		Gateway	—	—
		DNS Auto	—	—
Scan Networks	Primary DNS Server	Primary DNS Server	—	—
		Secondary DNS Server	—	—
		SSID	—	—
		Security	—	—
		Password	No	No
		DHCP	Yes	No
		IP Address	Yes	No
		Subnet Mask	Yes	No
		Gateway	Yes	No
		DNS Auto	Yes	No
Manual Register	Secondary DNS Server	Primary DNS Server	Yes	No
		Secondary DNS Server	Yes	No
		SSID	Yes	No
		Security	Yes	No
		Password	No	No
		DHCP	Yes	No
		IP Address	Yes	No
		Subnet Mask	Yes	No
		Gateway	Yes	No
		DNS Auto	Yes	No

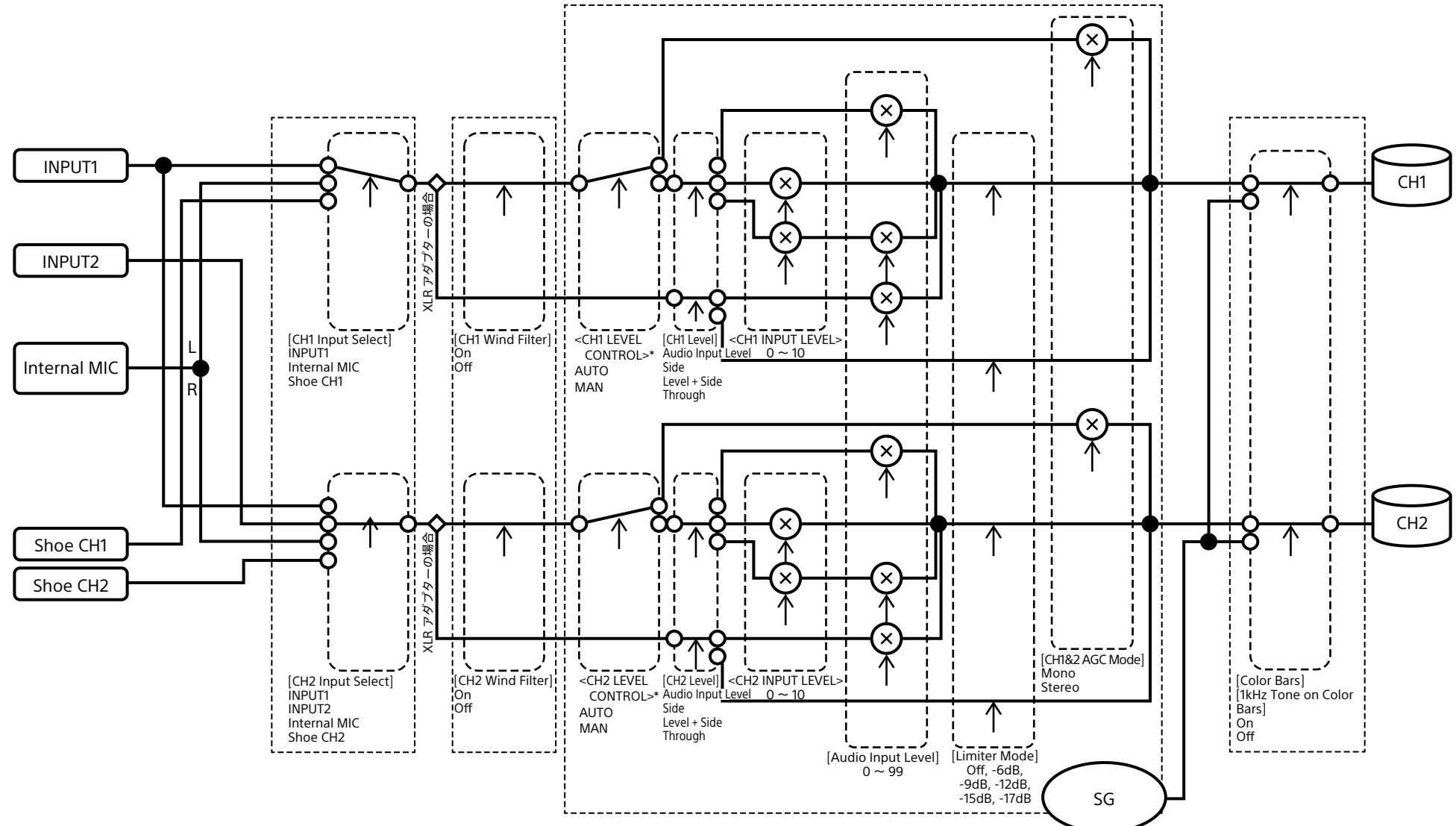
LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Network	Wired LAN	Camera Remote Control	Yes	No
		Detail Settings		
		DHCP	Yes	No
		IP Address	Yes	No
		Subnet Mask	Yes	No
		Gateway	Yes	No
		DNS Auto	Yes	No
		Primary DNS Server	Yes	No
		Secondary DNS Server	Yes	No
		MAC Address	—	—
	USB Tethering	Setting	Yes	No
		Camera Remote Control	Yes	No
		Device Name	—	—
		IP Address	—	—
		Subnet Mask	—	—
	File Transfer	Auto Upload	Yes	No
		Auto Upload (Proxy)	Yes	No
		Default Upload Server	Yes	No
		Clear Completed Jobs	—	—
		Clear All Jobs	—	—
		View Job List	—	—
		Server Settings1/Server Settings2/Server Settings3		
		Display Name	Yes	No
		Service	Yes	No
		Host Name	Yes	No
		Port	Yes	No
		User Name	No	No
		Password	No	No
		Passive Mode	Yes	No
		Destination Directory	Yes	No
		Using Secure Protocol	Yes	No
		Root Certificate	—	—
		Root Certificate Status	—	—
		Reset	—	—

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	All File	Scene File
Network	Network Reset	Reset	—	—
Maintenance	Language	Select	Yes	No
	Clock Set	Time Zone	Yes	No
		Date Mode	Yes	No
		12h/24h	Yes	No
		Date	No	No
		Time	No	No
	All Reset	Reset	—	—
		Reset without Network	—	—
		Reset to Factory Defaults	—	—
	Hours Meter	Hours(System)	—	—
		Hours(Reset)	—	—
		Reset	—	—
	Version	Version Number	—	—
		Version Up	—	—
		Lens Version Number	—	—

ブロックダイヤグラム

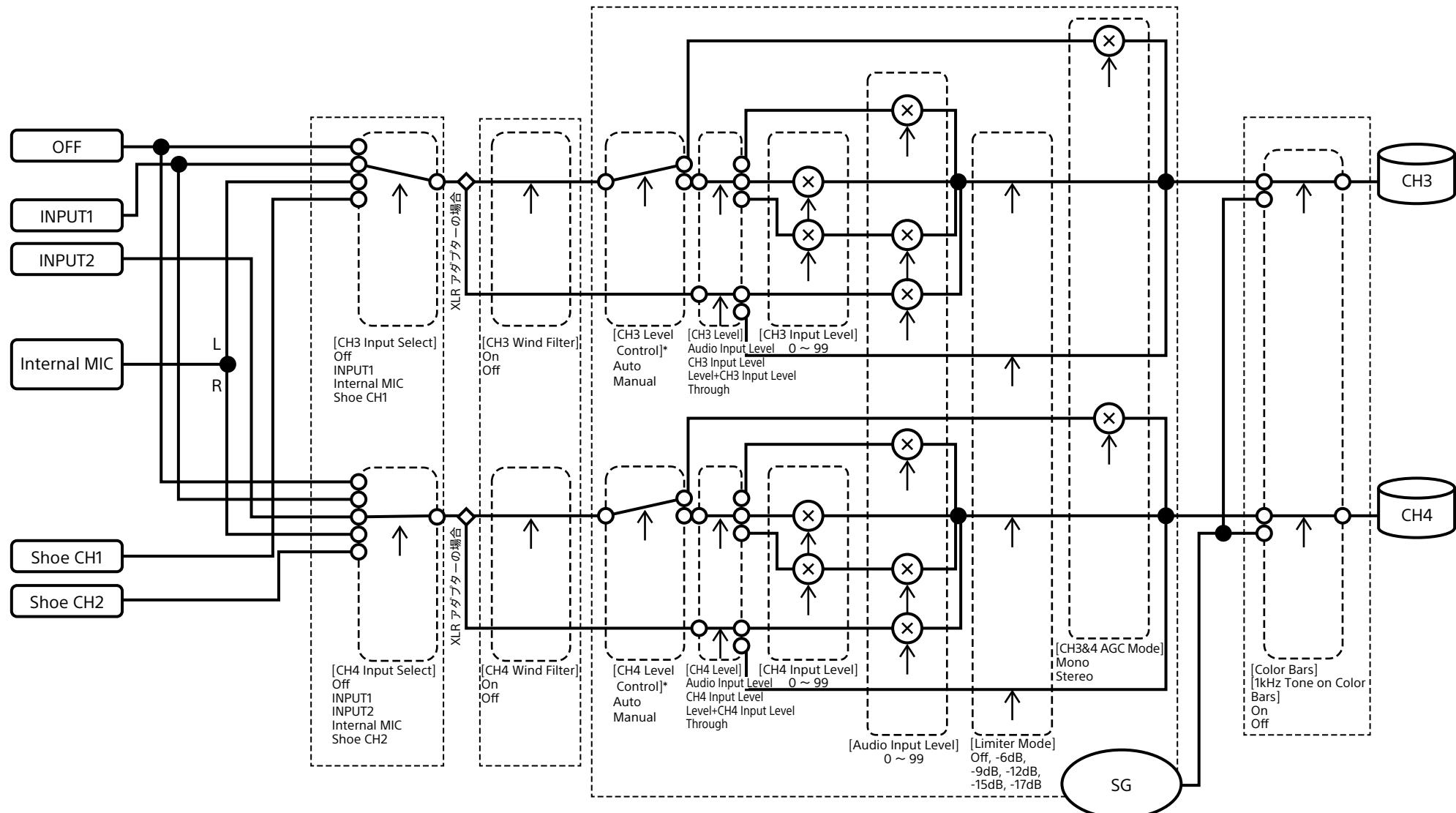
「収録する音声を設定する」(105ページ)と「Userメニュー」(36ページ)の関連項目をあわせてご覧ください。

Audio Input (CH1&CH2)



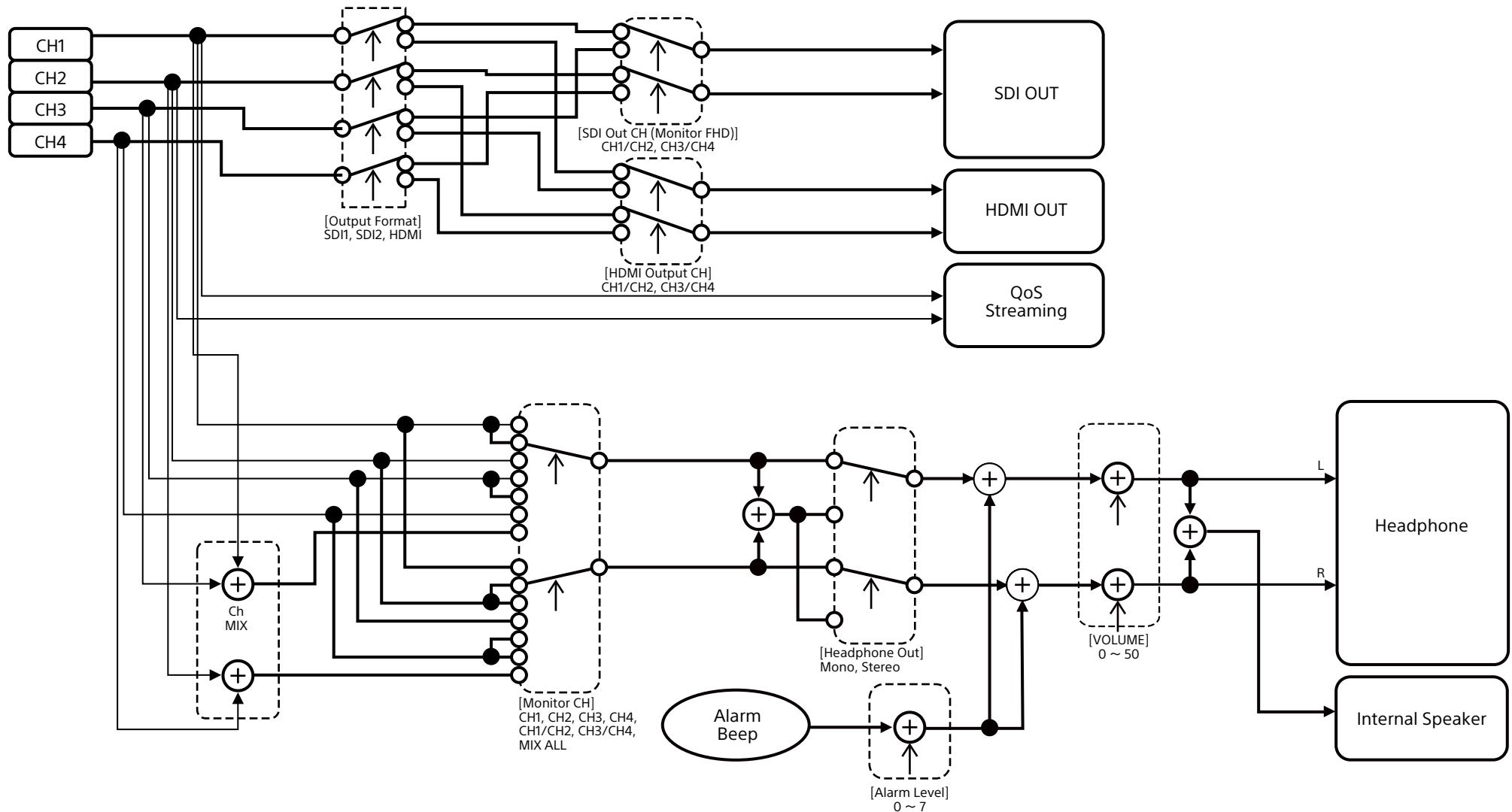
* XLRアダプターからの音声入力があるときはManualになります。

Audio Input (CH3&CH4)

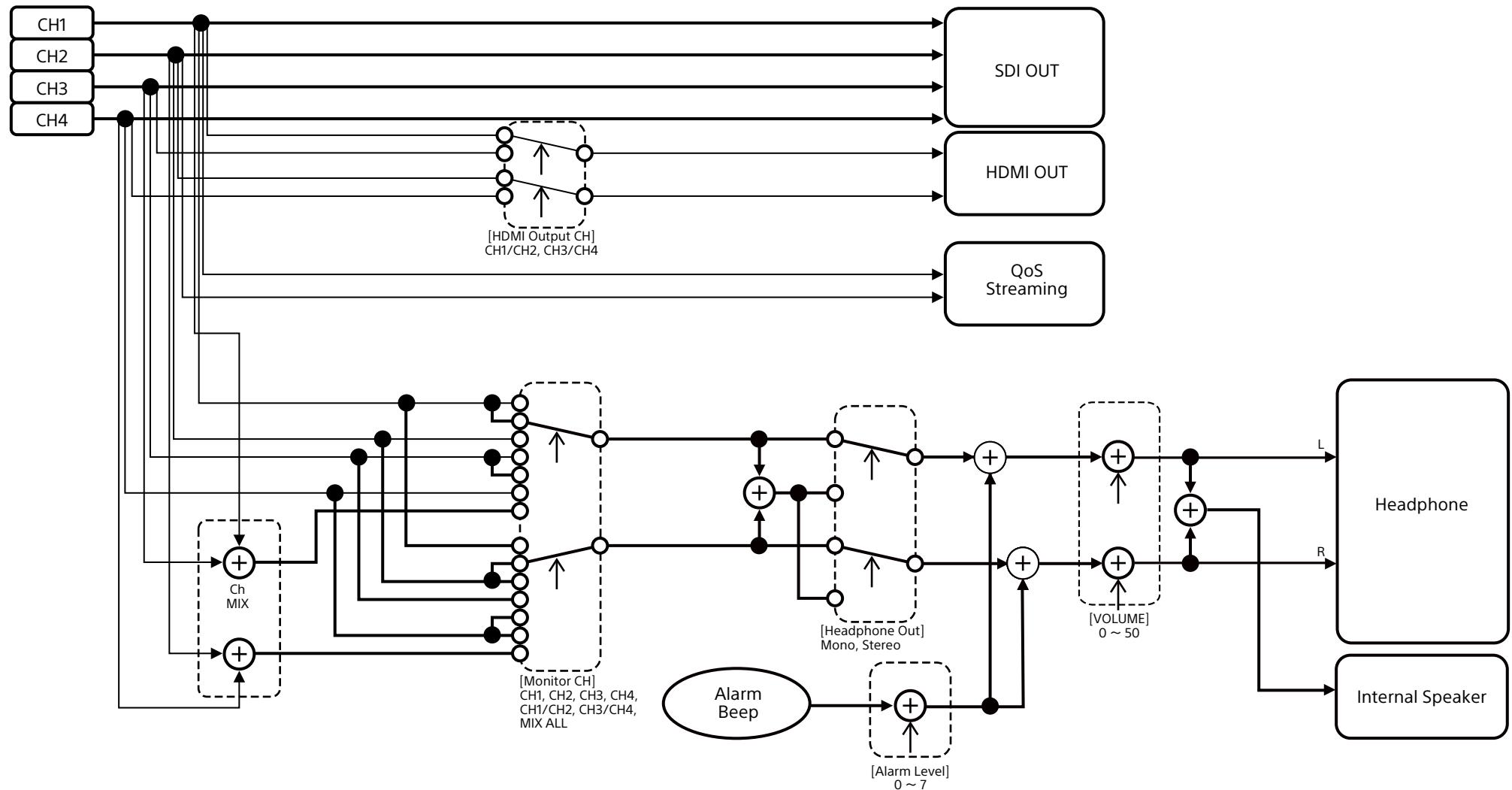


* XLRアダプターからの音声入力があるときはManualになります。

Audio Output (映像出力フォーマットがMonitor FHDのとき)



Audio Output (映像出力フォーマットがMonitor FHD以外のとき)



Eマウントレンズのソフトウェアをアップデートする

本機でEマウントレンズ本体のソフトウェアをアップデートできます。

アップデートできるレンズ本体とそのソフトウェアは、レンズのWebサイトをご覧ください。

バージョンを確認する

- 1 Eマウントレンズを本機に取り付ける(18ページ)。
- 2 フルメニューのMaintenanceメニューのVersionを選択してLens Version Numberを表示する(71ページ)。Eマウントレンズのソフトウェアバージョン番号が横に表示されます。

ソフトウェアをアップデートする

本機をマストレージモードにします(117ページ)。

レンズのソフトウェアに添付された手順書に従ってソフトウェアをアップデートしてください。

ライセンスについて

MPEG-4 AVC Patent Portfolio Licenseについて

本製品は、MPEG LA, LLCがライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：

- (i) 消費者が個人的または他の報酬を受けていない使用目的で、MPEG-4 AVC規格に合致したビデオ信号(以下、AVC VIDEOといいます)にエンコードすること。
- (ii) AVC VIDEO(消費者が個人的または他の報酬を受けていない目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます)をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLCのホームページをご参照ください。

GPL/LGPL適用ソフトウェアの入手について

本製品はGPL/LGPL適用のソフトウェアを使用しており、お客様には、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせします。

これらのソースコードはインターネットのサーバーからダウンロードすることが可能です。以下のURLにアクセスすれば、具体的なダウンロードの方法がわかるようになっています。

<https://oss.sony.net/Products/Linux/>

なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

ライセンス内容(英文)に関しては、本機の内蔵メモリー内に記録されています。

本機とパソコンをマストレージ接続し、「PMHOME」 - 「LICENSE」内にあるファイルをご一読ください。

ライセンス内容(英文)に関しては、本機の内蔵メモリー内に記録されています。

本機とパソコンをマストレージ接続し、「PMHOME」 - 「LICENSE」内にあるファイルをご一読ください。

END USER LICENSE AGREEMENT

お客様による本製品の使用開始をもって、お客様がソフトウェア使用許諾契約書の内容にご同意いただけたものとさせていただきます。

お客様と弊社との間のソフトウェア使用許諾契約書は、弊社ウェブサイト(https://rd1.sony.net/help/di/el23/h_zz/)でご覧いただけます。

オープンソースソフトウェアのライセンスについて

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアが搭載されています。

当該ソフトウェアの著作権者の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーのサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店、またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

仕様

一般

質量	約2.9 kg(本体、PLマウントアダプター) 約2.4 kg(本体のみ、PLマウントアダプターを含まず)
外形寸法	148ページ参照
電源電圧	DC 12 V(11 V ~ 17 V)
消費電力	本体標準消費電力：約50.0 W(レンズ付、 6K 17:9、59.94P、X-OCN LT記録時、ファンオート、グリップリモコンおよび周辺機器を含まない) 本体最大消費電力：約66.0 W(レンズ付、 6K 17:9、59.94P、X-OCN LT記録時、40 °C環境、NDフィルター(1/4)、Proxy RECオン、Wi-Fiオン、ファンオート、グリップリモコンおよび周辺機器を含む)
動作温度	0 °C~ 40 °C
保存温度	-20 °C~ +60 °C
連続操作時間	約100分(BP-GL95B使用時)
記録フォーマット(ビデオ)	X-OCN(LT) XAVC H Intra HQ XAVC H Intra SQ XAVC H Long XAVC Intra
記録フォーマット(オーディオ)	LPCM 24ビット、48 kHz、4チャンネル

記録フレームレート

X-OCN(LT)

FF 8.6K 17:9/FF 8.6K 16:9
29.97P、25P、24P、23.98P
FFc 6K 17:9/FFc 6K 16:9/FFc 3.8K
16:9/S35 5.8K 17:9/S35 5.8K
16:9/S35 4.3K 4:3/S35c 4K 17:9
59.94P、50P、29.97P、25P、
24P、23.98P

XAVC H Intra HQ

8192×4320/29.97P、25P、24P、
23.98P
7680×4320/29.97P、25P、23.98P

XAVC H Intra SQ

8192×4320/29.97P、25P、24P、
23.98P
7680×4320/29.97P、25P、23.98P

XAVC H Long

7680×4320/29.97P、25P、23.98P
XAVC Intra
4096×2160/59.94P、50P、29.97P、
25P、24P、23.98P
3840×2160/1920×1080/59.94P、
50P、29.97P、25P、23.98P

XAVC Long

3840×2160/1920×1080/59.94P、
50P、29.97P、25P、23.98P

記録・再生時間

124ページ参照

カメラ部

撮像素子

35mmフルサイズ相当単板CMOSイメージセンサー

画素数

57.0M(total)

オートフォーカス

検出方式：位相差検出方式／コントラスト検出方式

内蔵NDフィルター

CLEAR : OFF
リニア可変ND : 0.6 (1/4) ~ 2.1 (1/128)

ISO感度

ISO 800/3200(Cine EIモード、Base ISO、
D55 Light source)

レンズマウント

PLマウント(PLマウントアダプター使用)
Eマウント(PLマウントアダプター未使用時)

フランジバック

PLマウント : 52 mm
Eマウント : 18 mm

ラティチュード

16 stops

シャッタースピード

1/8000秒 ~ 64F(23.98P時)

シャッターアングル

5.6° ~ 360°、2 ~ 64frame

ホワイトバランス

2000 K ~ 15000 K

ゲイン

-3 dB ~ +18 dB(1 dB単位)

オーディオ部

サンプリング周波数

48 kHz

量子化特性

24ビット

周波数特性

本体XLR入力MICモード時 : 20 Hz ~ 20 kHz
(±3 dB以内)

本体XLR入力LINEモード時 : 20 Hz ~ 20 kHz
(±3 dB以内)

ダイナミックレンジ

本体XLR入力MICモード時 : 80 dB(Typical)

本体XLR入力LINEモード時 : 90 dB(Typical)

ひずみ率

本体XLR入力MICモード時 : 0.08%以下
(入力レベル-40 dBu時)

本体XLR入力LINEモード時 : 0.08%以下
(入力レベル+14 dBu時)

内蔵スピーカー

モノラル

本体内蔵マイク

モノラル

入出力部

入力

INPUT 1/2:

XLR型、3ピン、凹
LINE / MIC / MIC+48V切り替え可能

MIC : Reference -30 dBu ~ -80 dBu

TC IN:

BNC型

REF IN:

BNC型

出力

SDI OUT 1:

BNC型、12G-SDI、6G-SDI、3G-SDI(Level A/B)、HD-SDI

SDI OUT 2:

BNC型、3G-SDI(Level A/B)、HD-SDI

ヘッドホン(ステレオミニジャック) :

-16 dBu(基準レベル出力、モニターボリューム最大、16 Ω負荷時)

HDMI:

TypeA、19ピン

TC OUT:

BNC型

REF OUT:

BNC型

その他**DC IN:**

XLR型、4ピン凸型(1)、11 V ~ 17 V

REMOTE:

2.5φ3極ミニミニタイプ

グリップリモコン端子:

3.5φ4極ミニジャック

USB-C:

USB3.2 Gen1

VF:

専用40ピン

ネットワーク端子:

RJ45型

ハンドル接続端子:

専用40ピン

表示部**ビューファインダー (LCD)****画面サイズ**

対角8.8 cm(3.5型)

アスペクト比

16:9

画素数

1280(H) × 720(V)

ワイヤレスLAN**対応規格**

IEEE 802.11a/b/g/n/ac

使用周波数帯

2.4 GHz帯／5 GHz帯

セキュリティ

WPA2-PSK (AES) / WPA3-SAE

接続方式Wi-Fi Protected Setup™ (WPS) /
マニュアル**アクセス方式**

インフラストラクチャーモード

付属品

ハンドル(ビューファインダーアームを含む) (1)

ハンドル固定用ネジ(4)

LCDモニター (1)

ビューファインダールーペ(1)

ビューファインダー取り付け台座(1)

シム(円弧型) (1)

シム(1/3円弧型) (15)

Eマウントキャップ(1)

PLマウントキャップ(1)

ご使用になる前に(1)

保証書(1)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

- 必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディアなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 本機内、記録メディア等に記録されたデータの損失、修復、複製の責任は負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

メディアスロット部

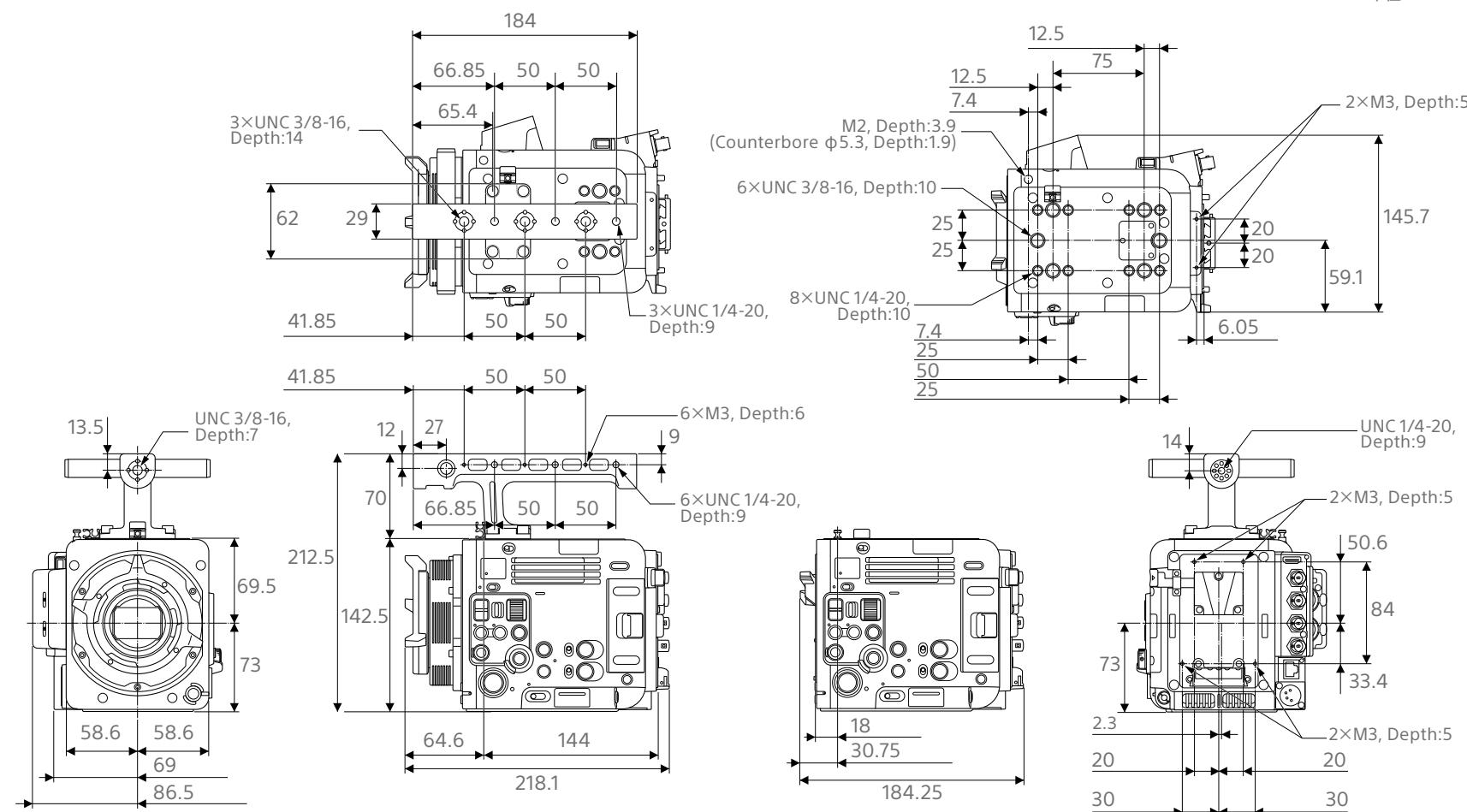
CFexpress Type Bカードスロット(2)

Utility SDカードスロット(1)

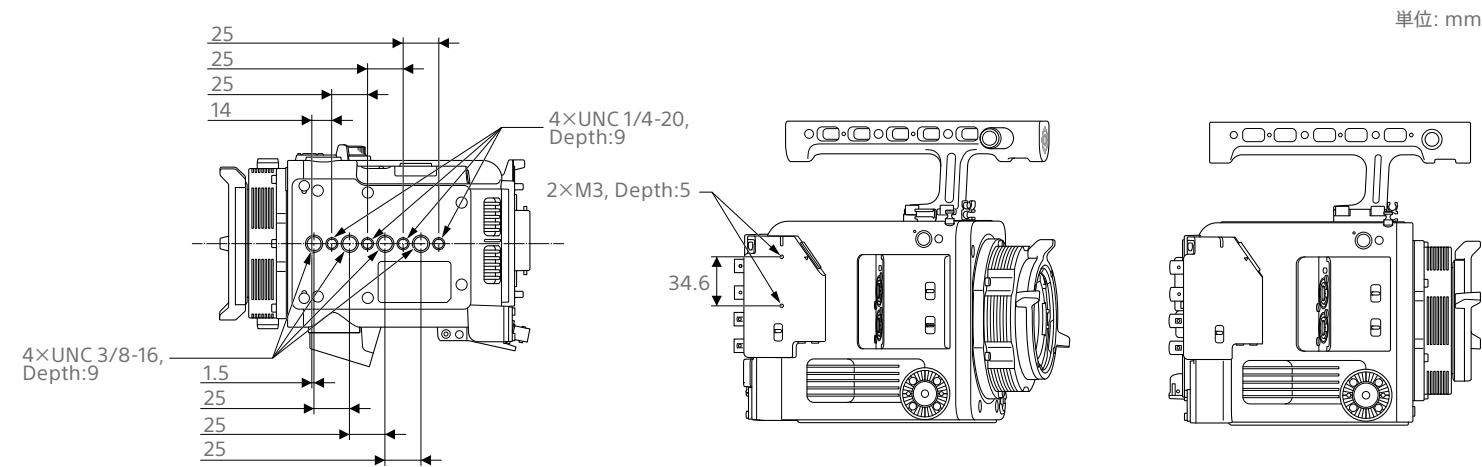
外形寸法

トップ(上面) / フロント(前面) / 操作スイッチ面 / リア(後面)

単位: mm



端子面／ボトム(底面)



商標について

- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または、登録商標です。
- USB Type-C™およびUSB-C™はUSB Implementers Forumの商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中で®、™マークは明記しておりません。